

業績目録集

解剖学第一講座

〈研究業績〉

原著

1. Yamada M, Nakao S, Sakamoto S, Takamori Y, Tamura Y, Mochizuki-Oda N, Kataoka Y, Yamada H and Shingu K (2006) Propofol acts at the sigma-1 receptor and inhibits pentazocine-induced c-Fos expression in the mouse posterior cingulate and retrosplenial cortices. *Acta Anaesthesiol Scand* 50: 875–881
2. Kataoka Y, Tamura Y, Takamori Y, Cui Y and Yamada H (2006) Perineuronal germinal cells in the rat cerebral cortex. *Med Mol Morphol* 39: 28–32
3. Li Q, Hosaka N, Cui W, Wang X, Cui Y, Cui Y, Song C, Li Q, Ryu T, Fan T, Kawamoto K and Ikehara S (2006) Lin-CD34-bone marrow cells from adult mice can differentiate into neural-like cells. *Neurosci Lett* 408: 51–56.
4. Takamido S, Kataoka Y, Tanano A, Cui Y, Ikeura T, Shimatani M, Kubota Y, Okazaki K and Yamada H (2006) Intrapaneuric axonal hyperbranching of dorsal root ganglia neurons in chronic pancreatitis model rats and its relation to pancreatic pain. *Pancreas* 33: 268–279

総説

1. 森 徹自, 若林毅俊, 高森康晴, 山田久夫 (2006) Cre-LoxP 遺伝子改変システムの改良. *脳* 21 9: 479–484

学会発表

1. 高森康晴, 田村泰久, 若林毅俊, 森 徹自, 山田久夫 (2006) ニューロン分化にともなう核ラミンの構成変化. 第15回海馬と高次脳機能学会, 東京
2. 森 徹自, 田中光一, Annalisa B, Wolfgang W, Ralf K, 山田久夫, Magdalena G (2006) CreERT2 システムを用いた astrocyte の in vivo 機能解析

モデル. 第15回海馬と高次脳機能学会, 東京

3. 森 徹自, 田中光一, Annalisa B, Wolfgang W, Ralf K, 山田久夫, Magdalena G (2006) アストロサイトの in vivo 機能解析のための新たなシステム. 第82回日本解剖学会近畿地区学術集会, 吹田
4. 森 徹自, 田中光一, Annalisa B, Wolfgang W, Ralf K, 山田久夫, Magdalena G (2006) CreERT2 ノックインマウスによるアストロサイトの in vivo 機能解析モデル. 第33回日本神経内分泌学会, 横浜
5. 高森康晴, 田村泰久, 片岡洋祐, 崔 翼龍, 山田久夫 (2006) 成獣ラットのニューロン新生領域におけるラミンサブタイプの分布. 第29回日本神経科学大会, 京都
6. 小田-望月紀子, 楠野智幸, 花田経久, 富永真琴, 富永知子, 鈴木 誠, 山田久夫, 山田廣成 (2006) 輻射熱に対する体温制御における TRPV1 および4の関与. 第29回日本神経科学大会, 京都
7. 田村泰久, 片岡洋祐, 崔 翼龍, 高森康晴, 渡辺恭良, 山田久夫 (2006) 成獣ラット新皮質におけるニューロン近傍に存在する2種の NG2 陽性細胞について. 第29回日本神経科学大会, 京都
8. 崔 翼龍, 片岡洋祐, 田村泰久, 渡辺恭良, 山田久夫 (2006) 長時間のラット脳内自己刺激におけるアラキドン酸カスケードの関与. 第29回日本神経科学大会, 京都
9. 棚野晃秀, 浜田吉則, 片岡洋祐, 渡辺 淳, 山田久夫 (2006) 筋層間神経叢における神経ネットワークの構築 ラット胎児腸管における検討. 第43回日本小児外科学会総会, 秋田
10. 棚野晃秀, 濱田吉則, 片岡洋祐, 渡辺 淳, 山田久夫, 上山泰男 (2006) ラット胎児期腸管における筋層間神経叢の共焦点蛍光顕微鏡を用いた免疫組織学的検討. 第106回日本外科学会定期学術集会, 東京

11. 棚野晃秀, 浜田吉則, 片岡洋祐, 渡辺 淳, 山田久夫 (2006) 筋層間神経叢における神経ネットワークの構築—ラット胎児腸管における検討—. 第36回日本小児消化管機能研究会, 新潟
12. 楠野智幸, 小田-望月紀子, 花田経久, 富永真琴, 富永知子, 鈴木 誠, 山田久夫, 山田廣成 (2006) 温度受容体タンパク質TRPVの体温調節への関与. 第19回日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウム, 名古屋
13. 小田-望月紀子, 楠野智幸, 花田経久, 富永真琴, 富永知子, 鈴木 誠, 山田久夫, 山田廣成 (2006) 輻射熱に対する体温調節におけるTRPV4の関与. 第83回日本生理学会大会, 前橋

解剖学第二講座

〈研究概要〉

Laser Microdissection (LMD) 法は特定の細胞のみを正確に採取するのに便利な手段である。免疫組織化学で分類されたニューロン群の性質を調べるため、各細胞の遺伝子発現プロファイリングをする場合、免疫陽性の細胞を選択的に採取する必要がある。LMDを用いて免疫陽性の細胞を採取する試みは今までにいくつか報告されているが、この手法で最大の問題は、切片を抗体とインキュベーションする過程で生じるRNA分解酵素の混入とそれに起因するRNAの品質低下である。これらの問題を避ける工夫がいくつか提案されているが、決定的なものはない。今回私たちは、RNAの品質低下という問題を回避するために、免疫染色した切片から免疫陽性を示した細胞を直接採取せず、隣接した切片にある同じ細胞を同定し、その細胞からRNAを採取した。この方法により免疫染色中のRNA分解酵素による品質低下のない細胞を選択的に採取することが可能になった。

〈研究業績〉

原 著

1. 堤 俊之, 宝谷剛志, 佐久間寛, 加瀬政彦, 杉本哲夫, 山下敏夫 (2006) 脳幹部コリン作動性ニューロンのシナプスの局在と機能. 頭頸自律神 20: 46-47

学会発表

1. Mizushi C, Toida K, Houtani T, Kiyokage E, Suzuki-Yamamoto T, Sugimoto T and Ishimura K (2006) Histochemical localization of nociceptin receptor in the mouse brain. Society for Neuroscience 36th Annual Meeting, Atlanta
2. Mizushi C, Toida K, Kiyokage E, Yamamoto T, Houtani T, Sugimoto T and Ishimura K (2006) Clarification of learning and memory mechanism: Morphological study for localization of nociceptin receptor in the mouse brain. 第233回徳島医学

会, 徳島

3. Houtani T, Sakuma S, Kase M and Sugimoto T (2006) Distribution of voltage-gated calcium channel $\alpha 2\delta$ -4 mRNA in mouse central nervous system. 第29回日本神経科学大会, 京都
4. 水主智佳, 樋田一徳, 清蔭恵美, 山本登志子, 宝谷剛志, 杉本哲夫, 石村和敬 (2006) ノシセプチン受容体のマウス脳内局在に関する形態学的解析. 第111回日本解剖学会総会・全国学術集会, 相模原

著 書

1. 杉本哲夫 (2006) 図説人体解剖学 第1巻 頭部・頸部・上肢 第5版1-447頁, 医学書院, 東京
2. 井出千束, 杉本哲夫, 車田正男 (2006) 臨床神経解剖学 機能的アプローチ 初版1-329頁, 西村書店, 東京

生理学第一講座

〈研究概要〉

1) 内向き整流Kチャンネルの細胞外陰性電荷の役割

膜二回貫通型Kチャンネル結晶のX線解析により, selectivity filterの入口付近にKイオンが結合していることがわかっている. 内向き整流Kチャンネル(Kir2.1)の細胞外ループ(M1とH5, H5とM2の連結部)の陰性電荷の生理的役割を検討するため, 酸性アミノ酸を中性または塩基性アミノ酸に置換した. 変異体遺伝子(D112N, D114N, E125Q, D152N, E153Q, E153K および D112N/D114N)を導入した培養細胞(COS1細胞, HEK293細胞)では内向き整流K電流を記録できたが, D152N/E153QあるいはD152Kを導入した細胞では内向き整流K電流を記録できなかった. D152N1個とD152N/E153Q変異体遺伝子3個を直列に連結した遺伝子(D152N-(D152N/E153Q)3)を導入した細胞では内向き整流K電流を記録できなかったが, E153Q1個とD152N/E153Q変異体遺伝子3個を直列に連結した遺伝子(E153Q-(D152N/E153Q)3)およびD152N2個とD152N/E153Q変異体遺伝子2個を直列に連結した遺伝子((D152N)2-(D152N/E153Q)2)を導入すると, 野生型チャンネルと同様のコンダクタンス, キネティクスをもつ単一チャンネル電流を記録できた. 以上の結果から, D152の場合は1つ, E153の場合は2つ以上の陰性電荷が, チャンネルが機能するために必要であることがわかった.

2) 神経活動の持続的抑制によるK⁺チャンネル発現抑制

中枢神経細胞の内在性興奮性の主要な調節因子であるK⁺チャンネルの発現への, 神経活動の影響を検討するため, レンチウイルスベクターを用いて内向き整流性K⁺チャンネル(Kir2.1)を海馬スライス培養のCA1錐体細胞に持続的に発現させ, 活動を慢性的に抑制した. その結果, Kir2.1過剰発現細胞に, 一過性K⁺チャンネル(I_A)の減少傾向, 及び, 遅延整流性K⁺チャンネル(I_K)の有意な発現減少が認められ, 神経細胞内在性興奮性のホメオスタティックな制御機構が存在することが示唆された.

3) 海馬における抑制性シナプス伝達の修飾

ラット海馬におけるGABA_A受容体電流の特性を, スライス標品を使用し, パッチクランプ法とカルシウムイメージング法を組み合わせることで調べている. まず, 抑制性電流の細胞内Ca²⁺動員による修飾について研究し, GABA_A電流はATPその他のアゴニスト刺激後の細胞内Ca²⁺濃度上昇によっては影響されず, カフェイン投与のみにより抑制されることを見出した. またこのGABA_A電流の抑制が細胞内Ca²⁺濃度上昇に依存しないことを示した. 現在, 抑制系シナプス伝達についてさらに実験を進めている. 中枢神経の抑制性情報伝達については, これまで興奮性のそれに比して知見の蓄積が少なかったが, 近年ようやく研究の対象にされ, 主要な抑制性シナプスであるGABA_Aシナプスも, 興奮性のシナプス同様, 刺激に応じてその伝達効率が変化すると考えられるに至っている. そこで, 電気的あるいは薬理的刺激等を行い, スライス中の細胞の細胞内カルシウム濃度変化をモニターしつつ, 同時に抑制性シナプス電流に変化がみられるか否かを検討している. スライスパッチクランプ法を用いて測定したGABA_A自発電流は, シナプス後細胞の脱分極によっては一貫した増強・抑制を示さなかったが, テタヌス刺激後に増強することを観測し, この機序について, 現在解析中である.

4) 膵臓導管細胞に機能発現する内向き整流性Kチャンネルの同定

膵臓は重炭酸イオンに富む膵液を分泌し, 十二指腸に流入する胃酸を中和する. 膵臓導管細胞のKチャンネルは重炭酸イオン輸送の駆動力の維持に必須であるが, その分子基盤と制御機構は解明されていない. パッチクランプ法を用いてラット膵臓導管細胞の機能解析を試みたところ, 内向き整流性K電流が観察され, その性質はKir2のファミリーと類似していた. RT-PCR法でKir2.1, Kir2.2およびKir2.4の発現を認めた. 膵臓導管細胞ではこれらの分子がホモまたはヘテロで機能的チャンネルを構成し, 重炭酸イオン

輸送に貢献している可能性が示唆された。

5) ミクロゾーム型アルデヒド脱水素酵素の小胞体残留シグナル

C末端アンカー型膜タンパク質のミクロゾーム型アルデヒド脱水素酵素 (ALDH) はC末端側の膜貫通部位 (TMD, 17 アミノ酸残基) と細胞質ドメインに小胞体残留シグナルを有する。Syntaxin 5 はゴルジ体に局在する C-末端アンカー型膜タンパク質であり, その TMD のアミノ酸残基数は ALDH と同じである。今回, 緑色蛍光タンパク質 (GFP) と ALDH および Syntaxin5 の TMD のキメラを用いて, 小胞体残留に関与する ALDH の TMD 内のアミノ酸残基の解析を試みた。GFPSyntaxin 5(17) と GFPALDH(17) は, それぞれ CHO 細胞のゴルジ体と小胞体に局在した。二つの TMD のアミノ酸配列を比較すると, ALDH には比較的疎水性の低いアミノ酸が 5 残基含まれていた。これらのアミノ酸をすべて Leu に置換した GFPALDH(17)5L を CHO 細胞に発現させると, この変異体はゴルジ体に局在した。このことから, ALDH の TMD 内の比較的疎水性の低いアミノ酸残基が小胞体残留に関与することがわかった。

〈研究業績〉

学会発表

1. 岡田誠剛, 松田博子 (2006) 内向き整流性 K^+ チャンネル 2.1 の海馬スライス培養における強制発現。第 29 回日本神経科学大会, 京都
2. 柁木龍一, 山本章嗣 (2006) The cytoplasmic

and C-terminal transmembrane domains of microsomal aldehyde dehydrogenase contain independent signals for retention in the endoplasmic reticulum. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress, Kyoto

生理学第二講座

〈研究業績〉

原著

1. Nakao K, Matsuzaki R, Amaya Y, Kyuhou S and Gemba H (2006) Motor functions of the posterior parietal cortex in monkeys. J Kansai Med Univ 58: 153–162
2. Kyuhou S, Kato N and Gemba H (2006) Emergence of endoplasmic reticulum stress and activated microglia in Purkinje cell degeneration mice. Neurosci Lett 396: 91–96

学会発表

1. Kyuhou S and Gemba H (2006) Electrophysiological features of the endoplasmic reticulum stress associated thalamic neurodegeneration. 36th annual meeting of Society for Neuroscience, Atlanta
2. Gemba H, Nakao K, Matsuzaki R and Amaya Y (2006) Motor programming for somatosensory-initiated and visuo-initiated hand movements differs. 第 29 回日本神経科学学会大会, Kyoto

3. Kyuhou S and Gemba H (2006) Dynamic changes in the thalamo-cortical system associated with thalamic neurodegeneration. 第 29 回日本神経科学学会大会, Kyoto
4. Gemba H, Nakao K, Matsuzaki R, Amaya Y, Kyuhou S and Ichikawa J (2006) Central nervous organization in connection with spatial recognition. The First Symposium on Complex Medical Engineering SCME2006, Kyoto
5. Gemba H, Nakao K, Matsuzaki R and Amaya Y (2006) Central nervous mechanisms in connection with spatial recognition in monkeys. 第 83 会日本生理学会大会, Maebashi
6. Ichikawa J and Gemba H (2006) The mechanism of intracellular Ca^{2+} oscillation during $P2Y_2$ receptor activation in rat bone marrow stromal cells. 第 83 会日本生理学会大会, Maebashi
7. Kyuhou S and Gemba H (2006) Decrease of auditory evoked potentials and appearance of high frequency oscillation in the auditory cortex associated with thalamic neurodegeneration. 第

83会日本生理学会大会, Maebashi

8. 久寶真一, 玄番央恵 (2006) 赤ワイン成分レスベラトロールによるパーキンソン病の予防効果. 第4回日本予防医学会学術総会, さいたま
9. 玄番央恵, 中尾和子, 松崎竜一, 雨夜勇作 (2006) 長期間運動は高次脳機能の向上に役立つ. 第4回日本予防医学会学術総会, さいたま
10. 中尾和子, 玄番央恵, 松崎竜一, 雨夜勇作 (2006) 長期間運動は頭頂葉の活性化に役立つ. 第4回日本予防医学会学術総会, さいたま
11. 久寶真一, 玄番央恵 (2006) ロテノンはパーキンソン病モデルに小胞体ストレス応答を惹起する. 第36回日本日本臨床神経生理学学会・学術大会, 横浜
12. 玄番央恵, 中尾和子, 松崎竜一, 雨夜勇作 (2006) 体性感覚始動性上肢運動の発現機序は視覚始動性の場合と異なる. 第36回日本日本臨床神経生理学学会・学術大会, 横浜
13. 玄番央恵 (2006) 知識過多社会の科学者の責務. 第5回日本女性科学者の会学術大会, 京都
14. 玄番央恵, 中尾和子, 松崎竜一, 雨夜勇作 (2006) 長期間運動は高次脳機能の向上に有効. 第5回日本女性科学者の会学術大会, 京都
15. 玄番央恵 (2006) 認知機能の発現と制御. 奈良神経セミナー, 奈良
16. 松崎竜一, 久寶真一, 中尾和子, 雨夜勇作, 玄番央恵 (2006) サル視床一前頭前野投射について. 第99回近畿生理学談話会, 大阪
17. 中尾和子, 玄番央恵, 松崎竜一, 雨夜勇作 (2006) サルの体性感覚誘発電位 (SEP) とSEPに対する長期間運動の影響. 第99回近畿生理学談話会, 大阪
18. 玄番央恵 (2006) 認知機能と大脳皮質電場電位 (研究現場から鍼灸マッサージ師にエールをこめて). 兵庫県保険鍼灸師会研修会, 尼崎
19. 玄番央恵 (2006) 認知機能と大脳皮質電場電位～研究現場から見える, 鍼灸マッサージの可能性～ (2006年度新医協関西研究集会, 大阪
20. 久寶真一, 玄番央恵 (2006) 小脳失調マウスの神経細胞死への小胞体ストレスの関与. 第122回関西医科大学学内学術集談会, 枚方

医化学講座

〈研究業績〉

原 著

1. Ogawa H, Gomi T, Nishizawa M, Hayakawa Y, Endo S, Hayashi K, Ochiai H, Takusagawa F, Pitot HC, Mori H, Sakurai H, Koizumi K, Saiki I, Oda H, Fujishita T, Miwa T, Maruyama M and Kobayashi M (2006) Enzymatic and biochemical properties of a novel human serine dehydratase isoform. *Biochim Biophys Acta* 1764: 961–971
2. Okuda-Ashitaka E, Minami T, Matsumura S, Takeshima H, Reinscheid RK, Civelli O and Ito S (2006) The opioid peptide nociceptin/orphanin FQ mediates prostaglandin E 2-induced allodynia, tactile pain associated with nerve injury. *Eur J Neurosci* 23: 995–1004
3. Xu L, Matsumura S, Mabuchi T, Takagi K, Abe T and Ito S (2006) In situ measurement of neuronal nitric oxide synthase activity in the spinal cord by NADPH-diaphorase histochemistry. *J Neurosci Methods* 150: 174–184
4. Kaibori M, Yanagida H, Nakanishi H, Ozaki T, Yoshida H, Matsui K, Hijikawa T, Kamiyama Y and Okumura T (2006) Hepatocyte growth factor stimulates the induction of cytokine-induced neutrophil chemoattractant through the activation of NF- κ B in rat hepatocytes. *J Surg Res* 130: 88–93
5. Yanagida H, Kaibori M, Hijikawa T, Kwon AH, Kamiyama Y and Okumura T (2006) Administration of rhHGF-activator via portal vein stimulates the regeneration of cirrhotic liver after partial hepatectomy in rats. *J Surg Res* 130: 38–44
6. Katano T, Mabuchi T, Okuda-Ashitaka E, Inagaki N, Kinumi T and Ito S (2006) Proteomic identification of a novel isoform of collapsin response mediator protein-2 in spinal nerves peripheral to dorsal root ganglia. *Proteomics* 6: 6085–6094
7. Yanagida H, Kaibori M, Yoshida H, Habara K,

Yamada M, Kamiyama Y and Okumura T (2006) Hepatic ischemia/reperfusion upregulates the susceptibility of hepatocytes to confer the induction of inducible nitric oxide synthase gene expression. *Shock* 26: 162–168

8. Qiu Z, Kwon AH, Tsuji K, Kamiyama Y, Okumura T, Hirao Y (2006) Fibronectin prevents D-galactosamine/lipopolysaccharide-induced lethal hepatic failure in mice. *Shock* 25: 80–87

総説

1. 南 敏明, 伊藤誠二 (2006) アロディニアのメカニズムとその制御. *LiSA* 13: 826–828
2. 芦高恵美子, 南 敏明, 伊藤誠二 (2006) 【痛みの研究最前線】脊髄におけるノシセプチン／オーファニンFQを介したプロスタグランジンによる疼痛制御ネットワーク. *ペインクリニック* 27: 547–559
3. 伊藤誠二 (2006) 【RSD (CRPS-type 1) の病態・診断・治療】病態 治療のための疼痛の分子メカニズム. *関節外科* 25: 824–829
4. 伊藤誠二 (2006) 【薬理学における痛み研究の新しい潮流】痛み研究への誘い 脊髄における一酸化窒素 (NO) 産生と痛み. *日薬理誌* 127: 141–146
5. 片野泰代, 伊藤誠二 (2006) 【痛み】痛みの測定・評価法 痛みの生化学的評価 バイオマーカー探索の試み. *理学療法* 23: 135–141

学会発表

1. Ito S (2006) An approach to search and development of new analgesics in traditional Chinese medicines. 漢方薬新薬開発理論と技術新機軸研究討論会, 北京
2. Hijikawa T, Kaibori M, Uchida Y, Matsui K, Okumura T and Kamiyama Y (2006) Effect of Insulin-like Growth Factor-1 on Liver Injury Induced by D-Galactosamine and Lipopolysaccharide in Rats. 20th World congress of International Society for Digestive Surgery, Rome
3. Tanaka H, Kaibori M, Ozaki T, Matsui K, Tokuhara K, Kamiyama Y and Okumura T (2006) Sodium-Hydrogen Exchanger Inhibitor Down-Regulates The Induction of Nitric Oxide Produc-

tion in Hepatocytes. The 35th World Congress of the International College of Surgeons, Pattaya

4. Katano T, Mabuchi T, Tagaya M and Ito S (2006) Proteomic analysis of functional molecules in the spinal cord following inflammation. The 36th Annual Meeting of the Society for Neuroscience, Atlanta
5. Okuda-Ashitaka E, Minami T, Matsumura S, Takeshima H, Reinscheid RK, Civelli O and Ito S (2006) The opioid peptide nociceptin/orphanin FQ mediates prostaglandin E2-induced allodynia, tactile pain associated with nerve injury. The 36th Annual Meeting of the Society for Neuroscience, Atlanta
6. Xu L, Matsumura S, Mabuchi T, Katano T, Lu J, Okuda-Ashitaka E and Ito S (2006) Establishment of in situ analysis system of neuronal nitric oxide synthase activity in the spinal cord. The 36th Annual Meeting of the Society for Neuroscience, Atlanta
7. Furuta K, Maeda M, Suzuki M, Minami T, Ito S and Suzuki M (2006) Design and Synthesis of Novel Acromelic Acid Analogs that Regulate Allodynic Responses. ICOB-5 & ISCNP-25 IUPAC International Conference on Biodiversity and Natural Products, 京都
8. 内田洋一朗, 海堀昌樹, 舩川 健, 石崎守彦, 尾崎 岳, 田中宏典, 権 雅憲, 奥村忠芳, 上山泰男 (2006) ラット劇症肝不全モデルにおける neutrophil elastase inhibitor の生体保護効果の検討. 第61回消化器外科学会, 横浜
9. Kaneko S, Ando A, Okuda-Ashitaka E, Matsumura M and Ito S (2006) Ornithine cytotoxicity for human pigment epithelial cells is mediated by cationic amino acid transporter I (CAT-1). 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FOBMB Congress, 京都
10. Katano T, Mabuchi T, Okuda-Ashitaka E, Inagaki N, Kinumi T and Ito S (2006) Identification of a novel form of collapsin response mediator protein-2 (CRMP-2) in spinal nerves peripheral to dorsal root ganglia by proteomic approach. 20th IUBMB International Congress of Bio-

- chemistry and Molecular Biology and 11th FOBMB Congress, 京都
11. Okuda-Ashitaka E, Yamamoto A, Kumata S, Otsuji T, Ohmiya Y and Ito S (2006) Differential sorting into the constitutive and the regulated secretory pathways of neuropeptide nocistatin. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FOBMB Congress, 京都
 12. Kaibori M, Yanagida H, Hijikawa T, Kwon A-H, Kamiyama Y and Okumura T (2006) Hepatic ischemia-reperfusion upregulates the susceptibility of hepatocytes to confer the induction of iNOS gene expression. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress, Kyoto
 13. Matsui K, Kawaguchi Y, Ozaki T, Tanaka H, Habara K, Yamada M, Tokuhara K, Yoshida H, Kaibori M, Kamiyama Y, Nishizawa M, Ito S and Okumura T (2006) Effects of active hexose correlated compound for induction of nitric oxide production of hepatocytes. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress, Kyoto
 14. Okumura T, Kaibori M, Yanagida H, Yoshida H, Habara K, Yamada M and Kamiyama Y (2006) Hepatic ischemia-reperfusion upregulates the susceptibility of hepatocytes to confer the induction of iNOS gene expression. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress, Kyoto
 15. Ozaki T, Tanaka H, Yamada M, Habara K, Yoshida H, Matsui K, Tokuhara K, Kaibori M, Kamiyama Y, Nishizawa M, Ito S and Okumura T (2006) Effect of cysteamine on the induction of iNOS stimulated by interleukin-1 β in hepatocytes. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress, Kyoto
 16. Tanaka H, Kaibori M, Habara K, Yamada M, Yoshida H, Matsui K, Ozaki T, Tokuhara K, Kamiyama Y, Nishizawa M, Ito S and Okumura T (2006) Effect of Na⁺/H⁺ exchanger inhibitor (FR183998) on the induction of inducible nitric oxide synthase and nitric oxide production of hepatocytes. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress, Kyoto
 17. Tokuhara K, Hamada Y, Habara K, Yamada M, Yoshida H, Ozaki T, Matsui K, Tanaka H, Kaibori M, Kamiyama Y, Ito S and Okumura T (2006) Effect of rebamipide on the induction of inducible nitric oxide synthase stimulated by interleukin-1 β in hepatocytes. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress, Kyoto
 18. Yanagida H, Kaibori M, Hijikawa T, Kwon AH, Kamiyama Y and Okumura T (2006) Administration of rhHGF-activator via portal vein stimulates the generation of cirrhotic liver following partial hepatectomy in rats. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology, 京都
 19. Matsui K, Kawaguchi Y, Ozaki T, Tanaka H, Habara K, Yamada M, Tokuhara K, Yoshida H, Kaibori M, Kamiyama Y, Nishizawa M, Ito S and Okumura T (2006) Effects of active hexose correlated compound for induction of nitric oxide production of hepatocytes. 第79回日本生化学会大会, Kyoto
 20. Okumura T, Kaibori M, Yanagida H, Yoshida H, Habara K, Yamada M and Kamiyama Y (2006) Hepatic ischemia-reperfusion upregulates the susceptibility of hepatocytes to confer the induction of iNOS gene expression. 第79回日本生化学会大会, Kyoto
 21. Ozaki T, Tanaka H, Yamada M, Habara K, Yoshida H, Matsui K, Tokuhara K, Kaibori M, Kamiyama Y, Nishizawa M, Ito S and Okumura T (2006) Effect of cysteamine on the induction of iNOS stimulated by interleukin-1 β in hepatocytes. 第79回日本生化学会大会, Kyoto
 22. Tanaka H, Kaibori M, Habara K, Yamada M, Yoshida H, Matsui K, Ozaki T, Tokuhara K, Kamiyama Y, Nishizawa M, Ito S, Okumura T (2006) Effect Na⁺/H⁺ exchanger inhibitor (FR183998) on the induction of inducible nitric

- oxide synthase and nitric oxide production of hepatocytes. 第79回日本生化学会大会, Kyoto
23. Tokuhara K, Hamada Y, Habara K, Yamada M, Ozaki T, Matsui K, Tanaka H, Kaibori M, Kamiyama Y, Ito S and Okumura T (2006) Effect of rebamipide on the induction of inducible nitric oxide synthase stimulated by interleukin-1b in hepatocytes. 第79回日本生化学会大会, Kyoto
 24. Ito S (2006) Maintenance of neuropathic pain by interaction of nitric oxide synthase and cyclooxygenase pathways. The 14th Takeda Science Foundation Symposium on Bioscience “The 50th Anniversary of Oxygenases—Advances and Reflections—, 京都
 25. 伊藤誠二 (2006) 神経可塑性に伴うシナプス後肥厚部 (PSD) 蛋白の再編成とその機能的意義について. 公開シンポジウム 特定領域研究「統合脳」, 東京
 26. 大西隆之, 芦高恵美子, 松村伸治, 伊藤誠二 (2006) PACAPシグナル伝達を介したnNOSの機能調節の分子機構. 生理研研究会「痛みの分子機構と治療戦略」, 岡崎
 27. 中井宏治, 北川克彦, 羽原弘造, 山田正法, 浜田吉則, 奥村忠芳 (2006) ラット小腸移植におけるEGFの移植腸管に対する糖及び蛋白に関する消化吸収促進効果の検討. 第37回日本消化吸収学会総会, 札幌
 28. Xu Li, 馬淵圭生, 松村伸治, 伊藤誠二 (2006) NADPH ジアホラーゼ組織染色による一酸化窒素合成酵素活性の可視化. 第7回長井長義記念シンポジウム, 徳島
 29. 伊藤誠二 (2006) 神経因性疼痛の発症維持機構の分子メカニズムと治療戦略. 第7回長井長義記念シンポジウム, 徳島
 30. 片野泰代, 芦高恵美子, 伊藤誠二 (2006) 末梢神経傷害の標的分子探索のためのプロテオミクス解析. 第7回長井長義記念シンポジウム, 徳島
 31. 伊藤誠二 (2006) 神経可塑性に伴うNMDA受容体複合体の再編成と活性化に関与する機能分子の探索. 特定領域研究「統合脳」夏のワークショップ合同班会議 統合シンポジウム サテライトシンポジウム, 札幌
 32. 松井康輔, 川口雄才, 尾崎 岳, 田中宏典, 徳原克治, 松井陽一, 海堀昌樹, 西澤幹雄, 上山泰男, 奥村忠芳 (2006) 肝細胞のiNOS誘導とAHCCの阻害効果— α -グルカン糖画分の効果—. 第14回AHCC研究会, 札幌
 33. 羽原弘造, 浜田吉則, 徳原克治, 中井宏治, 北川克彦, 山田正法, 吉田秀行, 海堀昌樹, 奥村忠芳, 上山泰男 (2006) 小腸上皮細胞のiNOS誘導に対するスタチン効果. 第43回日本外科代謝栄養学会, 新潟
 34. 海堀昌樹, 石崎守彦, 内田洋一朗, 舩川 健, 斎藤隆道, 奥村忠芳, 上山泰男 (2006) ラット肝切除後エンドトキシン血症に対するPirfenidoneの生体保護効果. 第43回日本外科代謝栄養学会, 新潟
 35. 徳原克治, 浜田吉則, 中井宏治, 山田正法, 羽原弘造, 吉田秀行, 尾崎 岳, 松井康輔, 田中宏典, 海堀昌樹, 奥村忠芳, 上山泰男 (2006) 肝細胞のiNOS誘導に対するrebamipideの効果. 第43回日本外科代謝栄養学会, 新潟
 36. 伊藤誠二 (2006) CRPSに関する最近の話題 神経因性疼痛はなぜ治るのか. 日本ペインクリニック学会第40回大会, 神戸
 37. 伊藤誠二 (2006) 慢性痛の発生維持機構—治療のための疼痛の分子メカニズム—. 日本ペインクリニック学会第40回大会, 神戸
 38. 羽原弘造, 浜田吉則, 山田正法, 吉田秀行, 尾崎 岳, 松井康輔, 徳原克治, 田中宏典, 海堀昌樹, 上山泰男, 西澤幹雄, 奥村忠芳 (2006) 炎症性サイトカインによる肝細胞iNOS誘導に対するスタチンの効果. 第13回肝細胞研究会, 旭川
 39. 吉田秀行, 権 雅憲, 羽原弘造, 山田正法, 尾崎 岳, 松井康輔, 徳原克治, 田中宏典, 海堀昌樹, 上山泰男, 西澤幹雄, 奥村忠芳 (2006) 肝臓のiNOS誘導に対するedaravoneの抑制メカニズム. 第13回肝細胞研究会, 旭川
 40. 松井康輔, 川口雄才, 尾崎 岳, 山田正法, 羽原弘造, 吉田秀行, 徳原克治, 田中宏典, 海堀昌樹, 上山泰男, 西澤幹雄, 奥村忠芳 (2006) 肝細胞のiNOS誘導とAHCCの保護効果. 第13回肝細胞研究会, 旭川
 41. 田中宏典, 海堀昌樹, 内田洋一朗, 石崎守彦, 羽原弘造, 山田正法, 吉田秀行, 松井康輔, 尾崎 岳, 徳原克治, 権 雅憲, 上山泰男, 西

- 澤幹雄, 奥村忠芳 (2006) 初代培養肝細胞の一酸化窒素の産生誘導に対する Na^+/H^+ exchanger阻害剤の効果. 第13回肝細胞研究会, 旭川
42. 徳原克治, 浜田吉則, 山田正法, 羽原弘造, 吉田秀行, 尾崎 岳, 松井康輔, 田中宏典, 海堀昌樹, 上山泰男, 西澤幹雄, 奥村忠芳 (2006) 肝細胞における炎症性サイトカインのiNOS誘導とrebanipideの効果. 第13回肝細胞研究会, 旭川
43. 尾崎 岳, 田中宏典, 山田正法, 羽原弘造, 吉田秀行, 松井康輔, 徳原克治, 海堀昌樹, 上山泰男, 西澤幹雄, 奥村忠芳 (2006) Cysteamineのラット肝細胞iNOS誘導に与える影響. 第13回肝細胞研究会, 旭川
44. 羽原弘造, 濱田吉則, 吉田秀行, 山田正法, 尾崎 岳, 松井康輔, 徳原克治, 田中宏典, 西澤幹雄, 海堀昌樹, 奥村忠芳, 上山泰男 (2006) IEC-6のiNOS誘導に対するpitavastatinの効果. 第106回日本外科学会定期学術集会, 東京
45. 海堀昌樹, 内田洋一郎, 石崎守彦, 奥村忠芳, 上山泰男 (2006) 障害肝のエネルギー代謝における一酸化窒素(NO)の役割. 第106回日本外科学会定期学術集会, 東京
46. 吉田秀行, 權 雅憲, 海堀昌樹, 辻 勝成, 羽原弘造, 山田正法, 尾崎 岳, 松井康輔, 徳原克治, 田中宏典, 宮宗武史, 奥村忠芳, 上山泰男 (2006) マクロファージのiNOS誘導に対するedaravoneの効果. 第106回日本外科学会定期学術集会, 東京
47. 山田正法, 浜田吉則, 羽原弘造, 松井康輔, 吉田秀行, 尾崎 岳, 徳原克治, 田中宏典, 西澤幹雄, 奥村忠芳, 上山泰男 (2006) 肝細胞のiNOS誘導におけるIL-1R1 isoform発現とその役割. 第106回日本外科学会定期学術集会, 東京
48. 松井康輔, 川口雄才, 尾崎 岳, 山田正法, 羽原弘造, 吉田秀行, 徳原克治, 田中宏典, 海堀昌樹, 西澤幹雄, 奥村忠芳, 上山泰男 (2006) 病態肝のiNOS誘導におけるAHCCの効果. 第106回日本外科学会定期学術集会, 東京
49. 辻 勝成, 權 雅憲, 吉田秀行, 宮宗武史, 邱澤雨, 奥村忠義, 上山泰男 (2006) マウス抗Fas抗体誘発肝障害モデルにおけるedaravoneのアポトーシス抑制効果の検討. 第106回日本外科学会定期学術集会, 東京
50. 尾崎 岳, 田中宏典, 山田正法, 羽原弘造, 吉田秀行, 松井康輔, 徳原克治, 海堀昌樹, 奥村忠芳, 上山泰男 (2006) 肝細胞のiNOS誘導に対するcysteamineの効果. 第106回日本外科学会定期学術集会, 東京
51. 松井康輔, 川口雄才, 上山泰男, 西澤幹雄, 安田勝彦, 奥村忠芳 (2006) 障害肝におけるAHCCの保護作用—iNOSのNO産生に対する効果—. 第122関西医科大学学内学術集談会, 大阪
52. 羽原弘造, 浜田吉則, 北川克彦, 中井宏治, 山田正法, 徳原克治, 奥村忠芳, 上山泰男 (2006) 小腸上皮細胞のiNOS誘導に対するHMG-CoA還元酵素阻害剤pitavastatinの効果. 第18回日本小腸移植研究会, 奈良
53. 羽原弘造, 浜田吉則, 山田正法, 吉田秀行, 尾崎 岳, 松井康輔, 徳原克治, 田中宏典, 海堀昌樹, 西澤幹雄, 奥村忠芳, 上山泰男 (2006) 肝障害に対するpitavastatinの保護効果. 第42回日本腹部救急医学会総会, 東京
54. 伊藤誠二 (2006) 脊髄における一酸化窒素(NO)産生と痛み. シンポジウム「生物新機能と創薬をめざす生体内分子科学」, 岐阜

著 書

1. Ando A, Ito S, Kaneko S, Ueda-Yamada M, Nakauchi T, Matsumura M (2006) Heterogeneity of Retinal Pigment Epithelial Cells in Ornithine Cytotoxicity. *New Developments in Eye Research*: pp. 137–165, Nova Science Publishers, New York

薬理学講座

〈研究業績〉

原著

1. Nakayama Y, Hattori N, Otani H and Inagaki C (2006) γ -Aminobutyric acid (GABA)-C receptor stimulation increases prolactin (PRL) secretion in cultured rat anterior pituitary cells. *Biochem Pharmacol* 71: 1705–1710
2. Yagi Y, Otani H, Ando S, Oshiro A, Kawai K, Nishikawa H, Araki H, Fukuhara S and Inagaki C (2006) Involvement of Rho signaling in PAR2-mediated regulation of neutrophil adhesion to lung epithelial cells. *Eur J Pharmacol* 536: 19–27
3. Hattori N, Nakayama Y, Kitagawa K, Ishihara T, Saiki Y and Inagaki C (2006) Anti-prolactin (PRL) autoantibody-binding sites (epitopes) on PRL molecule in macroprolactinemia. *J Endocrinol* 190: 287–293
4. Shen J, Harada N, Kubo N, Liu B, Mizuno A, Suzuki M and Yamashita T (2006) Functional expression of transient receptor potential vanilloid 4 in the mouse cochlea. *Neuroreport* 17: 135–139
5. Zhang NY, Kitagawa K, Wu B, Xiong ZM, Otani H and Inagaki C (2006) Chloride-dependency of amyloid β protein-induced enhancement of glutamate neurotoxicity in cultured rat hippocampal neurons. *Neurosci Lett* 399: 175–180
6. Wu B, Kitagawa K, Liu B, Zhang NY, Xiong ZM and Inagaki C (2006) Attenuation of amyloid β ($A\beta$)-induced inhibition of phosphatidylinositol 4-kinase activity by $A\beta$ fragments, $A\beta$ 20-29 and $A\beta$ 31-35. *Neurosci Lett* 396: 148–152
7. 稲垣千代子 (2006) 【生物進化の分子マップ】チャンネル クロライドチャンネルの比較生物学. *生体の科学* 57: 474–475
8. 稲垣千代子 (2006) 脳とくすり アミロイド β 蛋白と脳神経細胞内塩素イオン 新しい抗アルツハイマー病薬開発の可能性. *脳* 21 9: 83–87
- 南雁, 稲垣千代子 (2006) Protective effects of $A\beta$ -derived tripeptide, $A\beta$ 32-34, on $A\beta$ 1-42-induced phosphatidylinositol 4-kinase inhibition and cell toxicity. 第110回日本薬理学会近畿部会, 京都
2. 楊 麗, 中山靖久, 服部尚樹, 稲垣千代子 (2006) GABA_A受容体刺激によるAKAP220を介するPKA活性化. 第79回日本薬理学会年会, 横浜
3. 安藤性實, 大谷ひとみ, 矢木泰弘, 河合健蔵, 荒木宏昌, 稲垣千代子 (2006) プロテアーゼ活性化受容体4 (PAR4) 刺激による肺上皮細胞の形態変化. 第110回日本薬理学会近畿部会, 京都
4. 中山靖久, 楊 麗, 服部尚樹, 稲垣千代子 (2006) Vasopressin代謝産物AVP4-9による神経細胞保護作用について. 第109回日本薬理学会近畿部会, 倉敷
5. 李 鉄松, 中山靖久, 北川香織, 服部尚樹, 熊正梅, 稲垣千代子 (2006) Cl⁻ポンプサブユニット (CIP55) 発現抑制海馬神経細胞におけるグルタミン酸神経毒性の増強. 第109回日本薬理学会近畿部会, 倉敷
6. 安藤性實, 大谷ひとみ, 矢木泰弘, 大城明寛, 稲垣千代子, 福原資郎 (2006) マウス肺上皮細胞のプロテアーゼ活性化受容体4刺激による細胞内Ca²⁺シグナル. 第47回日本呼吸器学会学術講演会, 東京
7. 安藤性實, 大谷ひとみ, 矢木泰弘, 大城明寛, 河合健蔵, 荒木宏昌, 稲垣千代子 (2006) マウス肺上皮細胞のPAR-4刺激誘発Ca²⁺シグナルの解析. 第79回日本薬理学会年会, 横浜
8. 住田元信, 服部尚樹, 稲垣千代子 (2006) ヒト白血病性Bリンパ球のLPS刺激によるクロライドチャンネル4の発現変化. 第79回日本薬理学会年会, 横浜
9. 大谷ひとみ, 安藤性實, 矢木泰弘, 河合健蔵, 西川裕之, 荒木宏昌, 稲垣千代子 (2006) プロテアーゼ活性化受容体1刺激による心筋細胞内フォーカルアドヒージョンキナーゼの活性化機構. 第79回日本薬理学会年会, 横浜
10. 中山靖久, 楊 麗, 服部尚樹, 稲垣千代子

学会発表

1. 熊 正梅, 北川香織, 李 鉄松, 呉 波, 張

- (2006) PC12 細胞におけるアミロイド β 25-35 による PI3K/Akt 経路の抑制を介するグルタミン酸興奮毒性の増強. 第79回日本薬理学会年会, 横浜
11. 張 南雁, 北川香織, 熊 正梅, 稲垣千代子 (2006) ヒト変異タウ蛋白 (V337M) 発現マウスにおけるアミロイド β 蛋白神経毒性に対するホスファチジルイノシトールの保護作用. 第79回日本薬理学会年会, 横浜
12. 服部尚樹, 中山靖久, 北川香織, 李 鉄松, 稲垣千代子 (2006) マクロプロラクチン血症におけるプロラクチン自己抗体結合部位の検討. 第79回日本薬理学会年会, 横浜
13. 北川香織, 呉 波, 張 南雁, 熊 正梅, 稲垣千代子 (2006) 低用量アミロイド β 蛋白毒性に対するアミロイド β 蛋白部分ペプチドによる抑制効果. 第79回日本薬理学会年会, 横浜
14. 李 鉄松, 北川香織, 張 南雁, 熊 正梅, 稲垣千代子 (2006) Cl^- ポンプサブユニット (CIP55) 発現抑制海馬神経細胞におけるグルタミン酸神経毒性の増強. 第79回日本薬理学会年会, 横浜
- 著 書
1. 稲垣千代子 (2006) 新しい視点で考えるアルツハイマー病治療薬の開発 アミロイド β 蛋白標的拮抗薬の開発は可能か? PHARMAS-AGE 6, 72-78. 技術情報協会, 日本

病理学第一講座

〈研究概要〉

〈新しい骨髄移植方法を開発するまで〉

骨髄移植は, 1968年, 私のアメリカの先生の故Dr. Good (2006年, 5月に食道癌で死亡) によって, 重症複合免疫不全症 (T細胞もB細胞も欠除) の乳児に姉の骨髄を移植し, 成功したのが世界で最初の例です. その後, シアトルのFred Hutchinson Cancer Research CenterのThomas (1990年に骨髄移植でノーベル賞を受賞) 教授らによって現在の移植方法が確立されました.

骨髄移植は, 白血病や再生不良性貧血などの治療法として目覚ましい治療効果を挙げています.

現在, 骨髄移植の対象となっている疾患は, 主として①白血病や重症の再生不良性貧血等の血液疾患②先天性免疫不全症③先天性代謝疾患④自己免疫疾患などです.

私共は, 厚生労働省指定の難病 (118疾患) の大半が, 病因に自己免疫現象がなんらかの形で関与しており, 同種骨髄移植で治療できることを, 動物実験で明らかにしてきました.

骨髄移植とは, 文字通り骨の髄, すなわち骨の中心部に存在する血液細胞をドナー (提供者) より採取して, 点滴でレシピエント (患者) の静脈内に入れる治療方法です. その際, 移植する細胞が拒絶されないようにレシピエントの免疫担当細胞や造血系の細胞を放射線で死滅させておきます. 移植に必要な細胞は「造血幹細胞」と呼ばれ, これは血液を産生する源となる細胞で, 半永久的に自己再生能力 (自分で自分を作る能力) を有しています.

分裂した幹細胞の片方の細胞は元の幹細胞に戻りますが, もう一方の細胞は多分化能を有しているため, すべての血球系の細胞へと増殖分化します. 従って, 理論的には, 一個の幹細胞を移植すれば良いことになります.

骨髄の中には, このように, 血液系の細胞 (赤血球, 白血球, 血小板など) を造る元になる細胞, すなわち「造血幹細胞」と, 身体の骨格を形成する細胞 (筋肉, 骨, 軟骨, 結合組織など) を造る元になる細胞, すなわち「間葉系幹細胞」が存在します.

「造血幹細胞」は“種”に, 「間葉系幹細胞」は“畑”にたとえられますが, 最近, これらの細胞は, 一部, 相互に変換できることもわかってきました. また, 種が良く育つためには, 種と畑の相性が存在すること, 従って骨髄移植の際, 種だけを移植するのではなくて, 畑もドナー側に置き換えると移植の成功率が高まることが明らかになってきました. さらに, 骨髄の中に存在する種と畑をうまく利用する

と、からだの中の傷害部位（病変部）を修復できる可能性も出てきました。今、盛んに叫ばれている再生医療がそれです。若い時の自分の骨髄細胞（臍帯血でも可）を凍結保存しておけば、病気の際に利用できるのです。

ES細胞や骨髄中に存在する「造血幹細胞」、「間葉系幹細胞」から身体を構成している、あらゆる細胞（神経細胞、心筋細胞、肝細胞等）へとin vitro並びにin vivoで分化誘導が可能であることが証明されつつあります。このES細胞や「造血幹細胞」、「間葉系幹細胞」を用いて、臓器を完全に再生しようとする試みも開始されていますが、傷害された臓器の部分的な再生、修復は可能であっても、心臓や腎臓のような臓器を丸ごと作製することは、無理ではないかと考えます。

一方、血管の新生を目的として、閉塞した動脈の周辺に、自分の骨髄細胞を注射し、側副路を形成し、治療しようとする試みが開始され、かなりの効果が得られています。しかしながら、これも対症治療に過ぎず、例えば、動脈の閉塞の原疾患（動脈硬化症など）を根本的に治療しない限り再発は免れません。

これと同じような発想の治療方法が自己免疫疾患に対する自家骨髄移植または自己末梢血幹細胞の移植です。私達は、24年前、自己免疫疾患が「造血幹細胞」の異常により、発症してくることを種々のモデルマウスを用いて証明し、正常の骨髄を移植することによって治療できることを見出しました¹⁾²⁾。ヒトにおけるアロの骨髄移植は移植片対宿主病（GvHD）等の種々の問題があるため、自分の「造血幹細胞」を移植して、とりあえず一時しのぎをしようという考えです。当然ながら、移植後5年以内に再発する例が報告されて来ております。従って、安全で有効なアロの骨髄移植方法の開発が、長い間、待たれていました。

最近、私達は同種骨髄移植の新しい方法を開発しました。この方法は、従来の骨髄移植の方法を根本的に代えるもので、画期的な方法と自負しています。骨髄細胞は従来、腸骨より100個所以上、骨髄穿刺針を刺して吸引により採取していますが（図1）、私達の開発した方法は、灌流により骨髄細胞を採取するものです（図2）。この新しい方法では、末梢血が混入しないため、骨髄細胞が純粋に採取可能です。この採取した骨髄細胞の中には「造血幹細胞」以外に「間葉系幹細胞」も含まれており、これらの細胞を移植することによって、あらゆる細胞への分化誘導がin vivoで可能となるものと考えられます。また、従来の骨髄移植のように、これらの細胞を静脈内へ注入しますと、図1のように肺にほとんどがtrapされますが、これらの細胞を直接、骨髄内へ注入（文字通りの”骨髄移植”）をしますと、生着率が高まります。この骨髄内骨髄移植は、「造血幹細胞」（種）と骨髄の環境の構成細胞である「間葉系幹細胞」（畑）を効率良く、骨髄内へ戻すことが可能で、従って、造血系の回復も速やかです。

このように“種”（造血幹細胞）も“畑”（間葉系幹細胞）も正常のものと置換する、この新しい骨髄移植方法は、加齢と共に発症してくる骨粗鬆症、肺気腫、糖尿病、動脈硬化症、アルツハイマー病等の根本治療につながる可能性を秘めています。実際、私達は、モデル動物を用いて、肺気腫や骨粗鬆症が

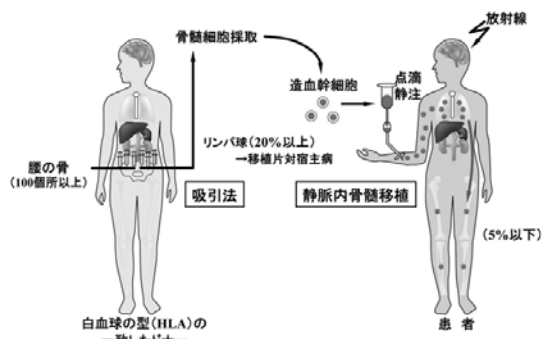


図1. 従来の骨髄移植の方法
(吸引法+静脈内骨髄移植)

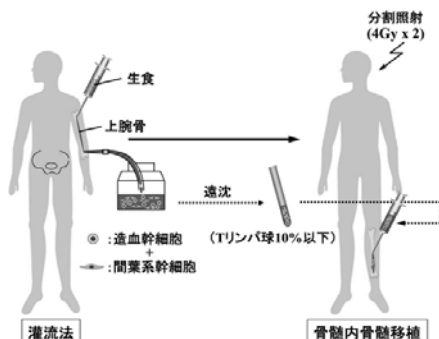


図2. 新しい骨髄移植の方法
(灌流法+骨髄内骨髄移植)

治療できることを明らかにしています。さらにこの新しい骨髄移植方法を臓器移植と併用すると、免疫抑制剤を使用しなくても拒絶反応が予防できます。現在、ヒトへの応用を視野に入れ、実験用カニクイザルを用いて安全性と有効性を確認しています。この方法がヒトへ応用されるようになれば、骨髄移植、臓器移植、再生治療、遺伝子治療の上に革命をもたらすものと確信しています。この方法がヒトへ応用され、難病という言葉がこの世から消え去る日が一日も早く来ることを願っています。

〈研究業績〉

原著

1. Takamiya M, Okigaki M, Jin D, Takai S, Nozawa Y, Adachi Y, Urao N, Tateishi K, Nomura T, Zen K, Ashihara E, Miyazaki M, Tatsumi T, Takahashi T and Matsubara H (2006) Granulocyte Colony-Stimulating Factor-Mobilized Circulating c-Kit⁺/Flk-1⁺ Progenitor Cells Regenerate Endothelium and Inhibit Neointimal Hyperplasia After Vascular Injury. *Arterioscler Thromb Vasc Biol.* 26: 751-757
2. Ikebukuro K, Adachi Y, Suzuki Y, Iwasaki M, Nakano K, Koike Y, Mukaide H, Yamada Y, Fujimoto S, Seino Y, Oyaizu H, Shigematsu A, Kiriya N, Hamada Y, Kamiyama Y and Ikehara S (2006) Synergistic effects of injection of bone marrow cells into both portal vein and bone marrow on tolerance induction in transplantation of allogeneic pancreatic islets. *Bone Marrow Transplant* 38: 657-664
3. Baba S, Iwai H, Inaba M, Kawamoto K, Omae M, Yamashita T and Ikehara S. (2006) Transfer of accelerated presbycusis by transplantation of bone marrow cells from senescence-accelerated mice. *Brain Res* 1120: 93-99
4. Urao N, Okigaki M, Yamada H, Adachi Y, Matsuno K, Matsui A, Matsunaga S, Tateishi K, Nomura T, Takahashi T, Tatsumi T and Matsubara H (2006) Erythropoietin-mobilized endothelial progenitors enhance reendothelialization via Akt-endothelial nitric oxide synthase activation and prevent neointimal hyperplasia. *Circ Res* 98: 1405-1413
5. Tanabe A, Ogawa Y, Takemoto T, Wang Y, Furukawa T, Kono H, Adachi Y and Kusumoto K (2006) Interleukin 6 induces the hair follicle growth phase (anagen). *J Dermatol Sci* 43: 210-213
6. Andoh Y, Mizutani A, Ohashi T, Kojo S, Ishii T, Adachi Y, Ikehara S and Taketani S (2006) The antioxidant role of a reagent, 2',7'-dichlorodihydrofluorescein diacetate, detecting reactive-oxygen species and blocking the induction of heme oxygenase-1 and preventing cytotoxicity. *J Biochem* 140: 483-489
7. Hosaka N, Ryu T, Cui W, Li Q, Nishida A, Miyake T, Takaki T, Inaba M and Ikehara S (2006) Relationship of p53, Bcl-2, Ki-67 index and E-cadherin expression in early invasive breast cancers with comedonecrosis as an accelerated apoptosis. *J Clin Pathol* 59: 692-698
8. Zen K, Okigaki M, Hosokawa Y, Adachi Y, Nozawa Y, Takamiya M, Tatsumi T, Urao N, Tateishi K, Takahashi T, and Matsubara H (2006) Myocardium-targeted delivery of endothelial progenitor cells by ultrasound-mediated microbubble destruction improves cardiac function via an angiogenic response. *J Mol Cell Cardiol* 40: 799-809
9. Li Q, Hosaka N, Cui W, Wang X, Cui Y, Cui Y, Song C, Li Q, Ryu T, Fan T, Kawamoto K and Ikehara S (2006) Lin⁻CD34⁺ bone marrow cells from adult mice can differentiate into neural-like cells. *Neurosci Lett* 408: 51-56
10. Zhang Y, Adachi Y, Suzuki Y, Minamino K, Iwasaki M, Nakano K, Koike Y, Mukaide H, Shigematsu A, Kiriya N, Li C and Ikehara S (2006) Synergistic effects of granulocyte-colony stimulating factor and macrophage-colony stimulating factor on recovery of donor hematopoietic cells in allogeneic bone marrow transplantation. *Oncol Rep* 16: 367-371
11. Zhang Y, Adachi Y, Iwasaki M, Minamino K, Suzuki Y, Nakano K, Koike Y, Mukaide H, Shigematsu A, Kiriya N, Li C and Ikehara S (2006) G-CSF and/or M-CSF accelerate differen-

- tiation of bone marrow cells into endothelial progenitor cells in vitro. *Oncol Rep* 15: 1523–1527
12. Sakaguchi Y, Inaba M, Kusafuka K, Okazaki K and Ikehara S (2006) Establishment of animal models for three types of pancreatitis and analyses of regeneration mechanisms. *Pancreas* 33: 371–381
 13. Adachi Y, Oyaizu H, Taketani S, Minamino K, Yamaguchi K, Shultz LD, Iwasaki M, Tomita M, Suzuki Y, Nakano K, Koike Y, Yasumizu R, Sata M, Hirama N, Kubota I, Fukuhara S, Ikehara S (2006) Treatment and transfer of emphysema by a new bone marrow transplantation method from normal mice to Tsk mice and vice versa. *Stem Cells* 24: 2071–2077
 14. Nakano K, Adachi Y, Minamino K, Iwasaki M, Shigematsu A, Kiriya N, Suzuki Y, Koike Y, Mukaide H, Taniuchi S, Kobayashi Y, Kaneko K and Ikehara S (2006) Mechanisms underlying acceleration of blood flow recovery in ischemic limbs by macrophage colony-stimulating factor. *Stem Cells* 24: 1274–1279
 15. Wang X, Hisha H, Taketani S, Adachi Y, Li Q, Cui W, Cui Y, Wang J, Song C, Mizokami T, Okazaki S, Li Q, Fan T, Fan H, Lian Z, Gershwin ME and Ikehara S (2006) Characterization of mesenchymal stem cells isolated from mouse fetal bone marrow. *Stem Cells* 24: 482–493
 16. Takada K, Inaba M, Ichioka N, Ueda Y, Taira M, Baba S, Mizokami T, Wang X, Hisha H, Iida H and Ikehara S (2006) Treatment of senile osteoporosis in SAMP6 mice by intra-bone marrow injection of allogeneic bone marrow cells. *Stem Cells* 24: 399–405
 17. Wijewardana V, Sugiura K, Oichi T, Fujimoto M, Akazawa T, Hatoya S, Inaba M, Ikehara S, Jayaweera TS and Inaba T (2006) Generation of canine dendritic cells from peripheral blood monocytes without using purified cytokines. *Vet Immunol Immunopathol* 114: 37–48
 18. 池原 進 (2006) 【免疫寛容最前線】新しい骨髄移植法 ヒトへの応用を目指して. *移植* 41: 95–100
 19. 串田剛俊, 飯田寛和, 池原 進 (2006) 新しい医療技術 IBM-BMT (骨髄内骨髄移植) による難病治療. *整・災外* 49: 1321–1326
 20. 馬場 奨, 岩井 大, 稲葉宗夫, 河本光平, 池原 進, 山下敏夫 (2006) 骨髄移植による老人性難聴の発現. *頭頸自律神* 20: 38–39
 21. 池原 進 (2006) 体性 (胚性) 幹細胞と再生医療 現状と将来展望 難病の革新的治療法移植と再生を利用して. *臨血* 47: 439–444
- ### 総 説
1. 岩崎真佳, 足立 靖, 池原 進 (2006) マイクロバブルを用いた Drug Delivery System 非虚血性心筋症の新しい治療戦略. *Biophilia* 2: 32–37
 2. 稲葉宗夫, 池原 進 (2006) 【ベッドサイドの免疫学 免疫疾患に強くなるために】臓器・細胞移植の進歩 拒絶反応と GVH 反応の制御. *Medicina* 43: 980–983
- ### 症例報告
1. Ikuta A, Saito J, Mizokami T, Asano M, Nakamoto T, Nakajima T, Matsunami M, Yasuda K, Adachi Y and Kanzaki H (2006) Primary relapse of acute lymphoblastic leukemia in a cervical smear: A case report. *Diagn Cytopathol* 34: 499–502
 2. 三宅 岳, 足立 靖, 金森千春, 保坂直樹, 新宅雅幸, 溝上友美, 神崎秀陽, 上山泰男, 池原 進 (2006) ヒトパルボウイルス B19 による胎児水腫の1剖検例. *診断病理* 23: 318–322
 3. 南野桂三, 足立 靖, 植村芳子, 坂井田紀子, 草深公秀, 長岡三穂, 鈴木康弘, 岩崎真佳, 松村美代, 池原 進 (2006) 食道粘膜下腺腫の1症例. *診断病理* 23: 46–48
- ### 学会発表
1. Cui W, Hosaka N, Miyake T, Nishida A, Wang X, Cui Y, Guo K, Song C, Li M, Feng W, Li Q, Inaba M and Ikehara S (2006) Tolerance Induction in Triple Chimeric Mice Transplanted with Fully MHC-Incompatible Bone Marrow Cells and Thymus. 第36回日本免疫学界総会・学術集会, 大阪
 2. Feng W, Cui Y, Song C, Wang X, Li Q, Cui W,

- Guo K, Li M and Ikehara S (2006) Advantages of ovarian allografts in conjunction. 第36回日本免疫学界総会・学術集会, 大阪
3. Fukui J, Inaba M, Ueda Y, Sakaguchi Y, Tsuda M, Miyake T, Guo K, Li M and Ikehara S (2006) Prevention of graft-versus-host diseases by intra-bone marrow injection of donor T cells. 第36回日本免疫学界総会・学術集会, 大阪
 4. Guo K, Inaba M, Li M, Song C, Cui W, Wang X, Ueda Y, Fukui J, Tsuda M, Sakaguchi Y, Omae M and Ikehara S (2006) Long-term donor-specific tolerance to rat cardiac allografts by intra-bone marrow injection of donor bone marrow cells. 第36回日本免疫学界総会・学術集会, 大阪
 5. Hosaka N, Miyake T, Cui W, Nishida A, Takagi T, Inaba M, Ikuta K and Ikehara S (2006) Bone marrow transplantation with newborn thymus grafts can rescue superlethally irradiated mice: possible role of IL-7-dependent mechanism. 第36回日本免疫学界総会・学術集会, 大阪
 6. Miyake T, Hosaka N, Nishida A, Cui W, Inaba M and Ikehara S (2006) Allogeneic intra-bone marrow-bone marrow transplantation (IBM-BMT) with thymus graft from same donor induces GVT effect but mild GVH reaction. 第36回日本免疫学界総会・学術集会, 大阪
 7. Tsuda M, Inaba M, Sakaguchi Y, Fukui J, Ueda Y, Omae M, Miang L, Kequan G and Ikehara S (2006) Analyses of Mechanism Underlying Granulocyte Activation by Dendritic Cells. 第36回日本免疫学界総会・学術集会, 大阪
 8. Sakaguchi Y, Inaba M, Tsuda M, Fukui J, Ueda Y, Omae M, Ando Y, Li M, Guo K, Okazaki K and Ikehara S (2006) Prevention of autoimmune chronic pancreatitis in WBN/kob rats by intra bone marrow-bone marrow transplantation. 第36回日本免疫学界総会・学術集会, 大阪
 9. Qiang Li, Ryu T, Ikehara S and Kawamoto K (2006) Hematopoietic stem cells can differentiate into neural-like cells. 第24回日本ヒト細胞学会大会, 東京
 10. Iwasaki M, Adachi Y, Nishiue T, Yuasa F, Ikehara S and Iwasaka T (2006) Hepatocyte Growth Factor Delivery Using Ultrasound Induces Proliferation of Cardiomyocytes, and Amelioration of Left Ventricular Contractile Function in Doxorubicin-Induced Cardiomyopathy. 70th Anniversary Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Nagoya
 11. 重松明男, 足立 靖, 松本憲明, 小柳津治樹, 桐山直子, 向出裕美, 今村雅寛, 福原資郎, 池原 進 (2006) 同種骨髄移植後に急性腎不全を発症した一剖検例. 第35回日本病理学会近畿支部学術集会, 京都
 12. Nakano K, Adachi Y, Hisha H, Koike Y, Mukaide H, Kiriya N and Ikehara S (2006) 移植と免疫抑制 (NZW x BXSb) F1 マウスからのドナー由来未熟B細胞白血病細胞株の確立 (Establishment of a Donor-Derived Immature B Cell Leukemia Cell Line from (NZW x BXSb) F1 Mice after BMT from C3H Mice). 第36回日本免疫学会・学術集会, 大阪
 13. Shigematsu A, Adachi Y, Kiriya N, Mukaide H, Koike Y, Nakano K and Ikehara S (2006) 腫瘍抗原とそれを用いた抗腫瘍免疫制御法 ヒト正常組織におけるサイトグロブリンの発現相違 (Different expression of Cytoglobin in human normal tissues). 第36回日本免疫学会総会・学術集会, 大阪
 14. Ueda Y, Inaba M, Miang L, Fukui J, Tsuda M, Sakaguchi Y, Kequan G, Omae M, Ando Y, Iida H and Ikehara S (2006) Th1/Th2 Induction of Senile Osteoporosis in Normal Mice by IBM-BMT from SAMP6. 第36回日本免疫学会総会・学術集会, 大阪
 15. 溝上友美, 比舎弘子, 岡崎 智, 加藤順子, 王曉麗, 宋 昌曄, 李 清, 神崎秀陽, 池原進 (2006) 移植と免疫抑制 ヒト羊膜由来付着性細胞同時移植による臍帯血移植法の改良. 第36回日本免疫学会総会・学術集会, 大阪
 16. Mukaide H, Adachi Y, Nakano K, Koike Y, Kiriya N, Shigematsu A and Ikehara S (2006) Immunotherapy for malignant tumors using combination of IBM-BMI, DLI and dendritic cells. 第36回日本免疫学会総会学術集会, 大阪
 17. 王 曉麗, 比舎弘子, 崔 文昊, 崔 雲澤, 宋昌曄, 郭 可泉, 溝上友美, 岡崎 智, 李清, 馬 偉, 加藤順子, 池原 進 (2006) 全

身性自己免疫疾患 病因病態と治療 神経細胞接着分子はMRL/lpr マウス造血幹細胞の異常増殖に関与している. 第36回日本免疫学会総会・学術集会, 大阪

18. 宋 昌曄, 比舍弘子, 王 曉麗, 李 清, 崔文昊, 郭 可泉, 李 銘, 馬 偉, 溝上友美, 岡崎 智, 稲葉宗夫, 池原 進 (2006) 移植と免疫抑制 ドナー骨同時移植による骨髄内骨髄移植の生着促進効果. 第36回日本免疫学会総会・学術集会, 大阪
19. 李 清, 比舍弘子, 加藤順子, 王 曉麗, 宋昌曄, 岡崎 智, 溝上友美, 崔 文昊, 郭可泉, 李 銘, 馬 偉, 池原 進 (2006) 腫瘍抗原とそれを用いた抗腫瘍免疫制御法 マウス由来間葉系幹細胞は免疫不全マウスにおいて線維性組織球腫を形成する. 第36回日本免疫学会総会・学術集会, 大阪
20. 池原 進 (2006) 難病の革新的治療法 移植と再生を利用して. 第47回日本肺癌学会総会, 京都
21. Kiriya N, Adachi Y, Nakano K, Koike Y, Mukaize H, Shigematsu A and Ikehara S (2006) Human cord blood cells can differentiate into retinal nerve cells. 第36回日本免疫学会・学術集会, 大阪
22. 上田祐輔, 稲葉宗夫, 高田敬蔵, 李 銘, 池原 進, 飯田寛和 (2006) 骨髄内骨髄移植により老人性骨粗鬆症を発症した動物モデルの検討. 第21回日本整形外科学会基礎学術集会, 長崎
23. 池原 進 (2006) ヒトとマウスの免疫応答の相違点 造血幹細胞と間葉系幹細胞 マウスからヒトへ. 第34回日本臨床免疫学会総会, 東京
24. 福井淳一, 稲葉宗夫, 三宅 岳, 權 雅憲, 上山泰男, 池原 進 (2006) 骨髄内骨髄移植法による移植片対宿主病の抑制. 第44回日本癌治療学会総会, 東京
25. 李 強, 龍 堯志, 池原 進, 河本圭司 (2006) 成体骨髄由来造血幹細胞の神経系細胞へ分化誘導の研究. 第65回日本脳神経外科学会総会, 京都
26. 龍 堯志, 吉村晋一, 我妻敬一, 李 強, 保坂直樹, 久米利明, 赤池昭紀, 池原 進, 河本圭司 (2006) 急性期脊髄損傷に対する新しい神経保護薬の治療—ラットモデルを用いて—. 第65回日本脳神経外科学会総会, 京都
27. 三宅 岳, 足立 靖, 金森千春, 保坂直樹, 新宅雅幸, 神崎秀陽, 上山泰男, 池原 進 (2006) 胎児水腫の1剖検例. 第34回日本病理学会近畿支部学術集会, 神戸
28. 串田剛俊, AbrahamNader G, 池原 進, 飯田寛和 (2006) 血管内皮細胞へ遺伝子導入した Human heme oxygenase-1 gene のapoptosis抑制効果. 第42回日本移植学会総会, 千葉
29. 向出裕美, 足立 靖, 桐山直子, 鈴木康弘, 岩崎真佳, 南野桂三, 中野景司, 小池保志, 重松明男, 上山泰男, 池原 進 (2006) 骨髄内骨髄移植 (IBM-BMT) に donor lymphocyte infusion (DLI) とドナー骨髄由来樹状細胞のバルス療法を併用した悪性腫瘍の治療法. 第44回日本癌治療学会総会, 東京
30. 福井淳一, 稲葉宗夫, 保坂直樹, 坂口雄沢, 津田雅庸, 上田祐輔, 郭 可泉, 李 銘, 上山泰男, 池原 進 (2006) 骨髄内骨髄移植法における移植片対宿主病抑制効果の検討. 第44回日本癌治療学会総会, 東京
31. 三宅 岳, 保坂直樹, 上山泰男, 池原 進 (2006) 胸腺移植を併用したアロ骨髄移植 (骨髄内骨髄移植法) による GVT 効果及び GVHR の検討. 第65回日本癌学会学術総会, 横浜
32. 福井淳一, 稲葉宗夫, 池原 進 (2006) 骨髄内ドナーリンパ球輸注法による移植片対宿主病の抑制. 第16回日本サイトメトリー学会学術集会, 長崎
33. 大前麻理子, 稲葉宗夫, 池原 進 (2006) 異系骨髄内骨髄移植法を用いたマウス造血前駆細胞の解析. 第16回日本サイトメトリー学術集会, 長崎
34. 上田祐輔, 稲葉宗夫, 高田敬蔵, 飯田寛和, 池原 進 (2006) 老化促進マウスからの骨髄内骨髄移植により骨髄環境の老化を誘導させた動物モデルの検討. 第29回日本基礎老化学会, 長崎
35. 坂口雄沢, 稲葉宗夫, 岡崎和一, 池原 進 (2006) WBN/kob ラットの肺炎・耳下腺炎における自己免疫性機序の関与. 第37回日本脾臓学会大会, 横浜

36. 岡崎 智, 比舎弘子, 溝上友美, 王 曉麗, 宋昌曄, 李 清, 上山泰男, 池原 進 (2006) 静脈内骨髓移植 (IV-BMT) あるいは骨髓内骨髄移植 (IBM-BMT) 併用による同種肝移植効果の比較検討 (II). 第95回日本病理学会総会, 東京
37. 桐山直子, 足立 靖, 南野桂三, 岩崎真佳, 中野景司, 小池保志, 鈴木康弘, 向出裕美, 重松明男, 松村美代, 池原 進 (2006) SCID/huマウスを用いたヒト臍帯血からの網膜神経細胞への分化の検討. 第95回日本病理学会総会, 東京
38. 向出裕美, 足立 靖, 鈴木康弘, 岩崎真佳, 小池保志, 南野桂三, 中野景司, 重松明男, 桐山直子, 上山泰男, 池原 進 (2006) IBM-BMTにDLIとドナー骨髄由来樹状細胞を併用した悪性腫瘍の治療法. 第95回日本病理学会総会, 東京
39. 溝上友美, 比舎弘子, 岡崎 智, 王 曉麗, 宋昌曄, 季 清, 神崎秀陽, 池原 進 (2006) ヒト子宮内膜細胞からの間葉系幹細胞の分離とその性状の検討 (II). 第95回日本病理学会総会, 東京都
40. 坂口雄沢, 稲葉宗夫, 津田雅庸, 福井淳一, 上田祐輔, 大前麻理子, 李 銘, 郭 可泉, 岡崎和, 池原 進 (2006) WBN/kob ラットの肺炎・耳下腺炎における自己免疫性機序の関与及び調節性T細胞の免疫応答. 第95回日本病理学会総会, 東京
41. 三宅 岳, 保坂直樹, 龍 堯志, 西田晃久, 崔文旻, 稲葉宗夫, 上山泰男, 池原 進 (2006) 胸腺移植を併用したアロ骨髄移植 (骨髄内骨髄移植法) によるGVT及びGVHRの比較. 第95回日本病理学会総会, 東京
42. 重松明男, 足立 靖, 桐山直子, 岩崎真佳, 小池保志, 中野景司, 向出裕美, 今村雅寛, 池原 進 (2006) 低線量放射線照射が樹状細胞の活性化に及ぼす影響. 第95回日本病理学会総会, 東京
43. 小池保志, 足立 靖, 鈴木康弘, 南野桂三, 岩崎真佳, 向出裕美, 重松明男, 桐山直子, 上山泰男, 池原 進 (2006) ラット同種間骨髄内骨髄移植 (IBM-BMT) とドナーリンパ球注入療法 (DLI) による抗腫瘍効果の検討. 第95回日本病理学会総会, 東京
44. 上田祐輔, 稲葉宗夫, 高田敬蔵, 李 銘, 福井淳一, 郭 可泉, 津田雅庸, 坂口雄沢, 大前麻理子, 飯田寛和, 池原 進 (2006) 骨髄内骨髄移植による老人性骨粗鬆症の誘導 骨粗鬆症のモデルマウスの骨髄細胞を正常マウスに移植して. 第95回日本病理学会総会, 東京
45. 大前麻理子, 稲葉宗夫, 上田祐輔, 坂口雄沢, 津田雅庸, 福井淳一, 李 銘, 郭 可泉, 岩井 大, 山下敏夫, 池原 進 (2006) 異系骨髄内骨髄移植法を用いたマウス造血前駆細胞および樹状細胞サブセットの解析. 第95回日本病理学会総会, 東京
46. 中野景司, 足立 靖, 南野桂三, 鈴木康弘, 岩崎真佳, 小池保志, 向出裕美, 重松明男, 桐山直子, 池原 進 (2006) M-CSFによるendothelial progenitor cell (EPC) のmobilizationメカニズム. 第95回日本病理学会総会, 東京
47. 王 曉麗, 比舎弘子, 崔 文旻, 崔 雲澤, 宋昌曄, 郭 可泉, 溝上友美, 岡崎 智, 李清, 馮 偉, 池原 進 (2006) NCAMが自己免疫マウスの造血幹細胞の異常増殖に重要な役割を果たしている. 第95回日本病理学会総会, 東京
48. 郭 可泉, 稲葉宗夫, 李 銘, 李 清, 宋昌曄, 崔 文旻, 王 曉麗, 崔 雲澤, 馮偉, 上田祐輔, 福井淳一, 津田雅庸, 坂口雄沢, 池原 進 (2006) 骨髄内骨髄移植を用いたドナー特異的長期トレランスの誘導と心臓移植. 第95回日本病理学会総会, 東京
49. 宋昌曄, 比舎弘子, 王 曉麗, 李 清, 崔文旻, 郭 可泉, 李 銘, 馮 偉, 溝上友美, 岡崎 智, 稲葉宗夫, 池原 進 (2006) 骨髄内骨髄移植と骨の同時移植は造血系の回復を促進する. 第95回日本病理学会総会, 東京
50. 比舎弘子, 王 曉麗, 李 清, 宋昌曄, 岡崎 智, 溝上友美, 加藤順子, 池原 進 (2006) 神経細胞接着分子 (NCAM) を高発現するサル骨髄由来付着性細胞の性状の解析. 第95回日本病理学会総会, 東京
51. 保坂直樹, 龍 堯志, 崔 文旻, 三宅 岳, 西田晃久, 高木孝士, 稲葉宗夫, 池原 進 (2006) 胸腺移植を併用した骨髄移植法 Chimeric resistanceを示すMRL/lprマウスを用いて. 第

- 95回日本病理学会総会, 東京
52. 榎 政彦, 保坂直樹, 池原 進 (2006) 電子顕微鏡で脂肪芽細胞が認められ Myxoid liposarcoma の診断のついた一例. 第95回日本病理学会総会, 東京
53. 李 清, 比舎弘子, 王 曉麗, 宋 昌曄, 岡崎 智, 溝上友美, 崔 文旻, 郭 可泉, 李 銘, 馮 偉, 池原 進 (2006) サルの間葉系幹細胞に対するモノクローナル抗体の作成. 第95回日本病理学会総会, 東京
54. 李 銘, 稲葉宗夫, 郭 可泉, 上田祐輔, 福井淳一, 津田雅庸, 坂口雄沢, 大前麻理子, 宋昌曄, 崔 文旻, 李 強, 池原 進 (2006) In Vitro における骨髄間葉系細胞から臍島細胞への分化誘導. 第95回日本病理学会総会, 東京
55. 龍 堯志, 保坂直樹, 崔 文旻, 西田晃久, 三宅 岳, 稲葉宗夫, 池原 進 (2006) 胸腺移植を併用した新しい骨髄移植法の開発 過致死量放射線照射したマウスを用いて. 第95回日本病理学会総会, 東京
56. 崔 文旻, 保坂直樹, 龍 堯志, 三宅 岳, 西田晃久, 崔 雲澤, 王 曉麗, 宋 昌曄, 郭可泉, 李 銘, 李 清, 稲葉宗夫, 池原進 (2006) トリプルキメラの作製及びその免疫寛容誘導の解析. 第95回日本病理学会総会, 東京
57. 馮 偉, 崔 雲澤, 池原 進 (2006) 骨髄内骨髄移植を用いた卵巣移植の有用性. 第95回日本病理学会総会, 東京
58. 辰巳貴美子, 大谷 肇, 谷内昇一郎, 足立靖, 榎木千春, 池原 進, 今村洋二, 金子一成 (2006) Intra-bone Marrow Transplantation of Bone Marrow Does Not Repair Cardiomyopathic Heart with Targeted Mutation of delta-sarcoglycan Gene. 第5回日本再生医療学会, 名古屋
59. 桐山直子, 足立 靖, 南野桂三, 岩崎真佳, 中野景司, 小池保志, 鈴木康弘, 向出裕美, 重松明男, 松村美代, 池原 進 (2006) SCID/huマウスを用いたヒト臍帯血有核細胞の網膜神経細胞への分化の検討. 第5回日本再生医療学会総会, 岡山
60. 酒井康裕, 足立 靖, 保坂直樹, 池原 進 (2006) ある原疾患が隠された大動脈弁狭窄症, 胸部大動脈瘤の1例. 第32回日本病理学会近畿支部学術集会, 大阪
61. Mizokami T, Hisha H, Okazaki S, Xiaoli W, Song Chang-ye, Qing L, Kanzaki H and Ikehara S (2006) Establishment and characterization of human amnion-derived adherent cells that facilitated engraftment of umbilical cord blood-derived hematopoietic stem cells into SCID mice. 第36回日本免疫学会学術集会, 大阪市

病理学第二講座

〈研究概要〉

I. 妊娠による乳癌抑制機序の分子病理学的解析

MacMahon ら (1970) による広範な疫学的研究によると, 初回満期妊娠が若年齢であると乳癌発症リスクを減少させ, 20未満で満期妊娠を経験した女性は, 未産婦に比して乳癌の発症は1/2である. この現象はラットにおいてもくり返し証明されており, その機序に関せば経産による乳腺の分化説や体内ホルモンレベルの改変説など種々の仮説が提唱されているが, 未だ詳細は不明である. そこで, Lewis ラット経産後乳腺と同週齢未経産乳腺, ならびにそれらに化学発癌剤 (*N*-methyl-*N*-nitrosourea; MNU) 処置を施した乳腺を加え, 遺伝子発現変異をマイクロアレイ解析により網羅的に検索した. その結果, 経産後乳腺は, 未経産乳腺と比較して, 乳腺分化関連遺伝子群の発現上昇と, 乳腺増関連遺伝子群の発現低下をみると, 特に MNU 処置後の経産乳腺においては乳腺分化関連遺伝子群 (Wap, Csn2, Csn1, Lbp, GlyCAM1) の発現上昇と増殖関連遺伝子群 (Areg, Reg3a, Msln, Cdc2a, Igf2, Igfbp4, Stmn1, Msx1) の発現低下をみた. また, Proliferating cell nuclear antigen (PCNA) 陽性細胞数は, MNU 投与後の経産乳腺は, MNU 投与前の経産・未経産乳腺のそれと変化はみなかったが, MNU 投与後の未経産乳腺において顕著な増加をみた. なお, 経産乳腺の形態は未産のそれに比して複雑な分岐がみられ分化を呈していた. よっ

て、経産乳腺は形態的ならびに機能的にも分化を呈しており、MNU刺激後の増殖関連遺伝子群の発現抑制ならびに乳腺上皮細胞の発癌刺激に対する増殖抑制が乳腺発癌抑制機序に重要であることが判明した^{原著-15}。

II. 妊娠環境を模倣したエストロゲン/プロゲステロン投与による乳癌抑制におけるホルモン投与期間の同定

ラットにおいて短期(ラットの妊娠期間に相応の3週間前後)のエストロゲンとプロゲステロン(E/P)投与により乳癌抑制が妊娠と同様に可能なことは古くHugginsら(1962)の報告に始まり、Russo, Medina, Nanndi らによっても実証されている。しかし、エストロゲンを始めとした種々のホルモンは、乳腺上皮あるいは乳癌細胞の増殖促進因子であり、事実、エストロゲン作用を有するZeranolはある用量域においてエストロゲン受容体陽性ヒト乳癌細胞株に増殖活性をきたす^{原著-11}。また、E/Pの長期暴露ではむしろ乳癌の増殖を促進することも知られており、どの期間までが増殖抑制に働き、どの期間からは増殖促進に働くのか、その詳細は不明である。そこで、4週齢雌LewisラットにMNUを投与して6週齢時に対照群、短期E/P投与群、長期E/P投与群の3群を作製して、 ≥ 1 cm乳癌発生個体は敵意屠殺し、MNU投与後25週まで乳癌発生率を観察した。その結果、対照群、短期E/P群、長期E/P群の ≥ 1 cm乳癌発生率は95%、36%、21%、であったが、 ≤ 1 cm乳癌も含めた全乳癌発生率でみると長期E/P群ではMNU投与後23週を過ぎると急激に発癌率が増し、実験終了時では対照群と差をみなかった。なお、短期E/P群では有意な抑制をみた。よって、乳癌抑制を得るにはE/Pの連続投与期間の限界は20週以内と結論できる^{原著-5}。

III. MNU誘発網膜変性症ならびに白内障の検討

7週齢ラットにおける60 mg/kg・MNUの単回腹腔内投与により1週間の経過で視細胞アポトーシスによる消失をみる(Nakajima et al., 1996)。このモデルはヒト網膜色素変性症のモデルとして有用であるが、我々はニコチン酸アミドをMNUと同時に皮下投与することにより視細胞のアポトーシスを完全に抑制することを見出した(Kiuchi et al., 2002)。そこで、ニコチン酸アミドのアポトーシス抑制機序を解析したところ、poly(ADP-ribose) polymerase (PARP)の活性化ならびにJun N-terminal kinase (JNK) / activator protein-1 (AP-1) シグナル伝達経路の阻害であることを見出した^{原著-4}。MNUは網膜のみならず水晶体上皮にも標的をもつ。MNU誘発眼病変の長期観察を雌雄のラットならびに卵巣摘出、精巣摘出ラットを加えて試みた^{原著-7}。50 mg/kg・MNUを7週齢ラットに腹腔内投与して長期(260週齢)飼育すると全群に網膜症のみならず白内障の出現をみた。なお、健丈雌ラットにおいて他群に比して高度の網膜傷害ならびに白内障をみた。但し傷害の程度と血清エストロゲンならびにプロゲステロン値との相関はみなかった。白内障は性差をみる疾患であるが、血清ホルモンとこれら眼病変との関連にはさらなる検討を要する。

〈研究業績〉

原 著

1. Kiyozuka Y, Yamamoto M, Matsuyama T, Miki K, Tsukamoto R, Shimano N and Tsubura A (2006) Synchronous granular cell tumor of the bladder, endometrial carcinoma and endometrial stromal sarcoma. *Asia Pacific J Clin Oncol* 2: 64-67
2. Hamaguchi T, Matsuoka Y, Bechberger J, Ohnishi T, Fujita KI, Naus CC, Kusunoki M, Tsubura A and Tsuda H (2006) Establishment of an apoptosis-sensitive rat mammary carcinoma cell line with a mutation in the DNA-binding region of p53. *Cancer Lett* 232: 279-288
3. Ueda S, Fukamachi K, Matsuoka Y, Takasuka N, Takeshita F, Naito A, Iigo M, Alexander DB, Moore MA, Saito I, Ochiya T and Tsuda H (2006) Ductal origin of pancreatic adenocarcinomas induced by conditional activation of a human *H-ras* oncogene in rat pancreas. *Carcinogenesis* 27: 2497-2510
4. Uehara N, Miki K, Tsukamoto R, Matsuoka Y and Tsubura A (2006) Nicotinamide blocks N-methyl-N-nitrosourea-induced photoreceptor cell

- apoptosis in rats through poly (ADP-ribose) polymerase activity and Jun N-terminal kinase/activator protein-1 pathway inhibition. *Exp Eye Res* 82: 488–495
5. Yuri T, Tsukamoto R, Uehara N, Matsuoka Y and Tsubura A (2006) Effects of different durations of estrogen and progesterone treatment on development of N-methyl-N-nitrosourea-induced mammary carcinomas in female Lewis rats. *In Vivo* 20: 829–836
 6. Kurokawa I, Senba Y, Nishimura K, Habe K, Hakamada A, Isoda KI, Yanamaka KI, Mizutani H and Tsubura A (2006) Cytokeratin expression in trichilemmal carcinoma suggests differentiation towards follicular infundibulum. *In Vivo* 20: 583–585
 7. Miki K, Yoshizawa K, Shikata N, Yuri T, Matsuoka Y and Tsubura A (2006) Effects of gender and gonad status on N-methyl-N-nitrosourea-induced cataractogenesis and retinopathy in Lewis rats. *In Vivo* 20: 5–10
 8. Manabe M, Kanda S, Fukunaga K, Tsubura A and Nishiyama T (2006) Evaluation of the estrogenic activities of some pesticides and their combinations using MtT/Se cell proliferation assay. *Int J Hyg Environ Health* 209: 413–421
 9. Kurokawa I, Senba Y, Kakeda M, Nishimura K, Hakamada A, Isoda K, Yamanaka K, Mizutani H and Tsubura A (2006) Cytokeratin expression in subungual squamous cell carcinoma. *J Int Med Res* 34: 441–443
 10. Yuri T, Shimano N, Ohashi Y, Miki K, Tsukamoto R and Tsubura A (2006) An autopsy case of primary mixed choriocarcinoma and mature teratoma located in the thymic region associated with elevated human chorionic gonadotropin levels and characteristic testicular changes. *Med Mol Morphol* 39: 49–53
 11. Yuri T, Tsukamoto R, Miki K, Uehara N, Matsuoka Y and Tsubura A (2006) Biphasic effects of zeranol on the growth of estrogen receptor-positive human breast carcinoma cells. *Oncol Rep* 16: 1307–1312
 12. Baden T, Yamamichi K, Michiura T, Tsubura A and Hioki K (2006) Sequential endoscopic findings and histological changes of N-nitrosomethylbenzylamine-induced esophageal carcinogenesis in rats. *Oncol Rep* 16: 965–970
 13. Kurokawa I, Urakawa Y, Senba Y, Kawabata E, Nishimura K, Omoto Y, Tokime K, Mizutani H and Tsubura A (2006) Keratin profiles may differ between intraepidermal and interdermal invasive porocarcinoma. *Oncol Rep* 16: 473–477
 14. Kurokawa I, Nishimura K, Hakamada A, Isoda K, Yamanaka K, Mizutani H and Tsubura A. (2006) Cutaneous dermoid cyst: cytokeratin and filaggrin expression suggesting differentiation towards follicular infundibulum and mature sebaceous gland. *Oncol Rep* 16: 295–299
 15. Uehara N, Unami A, Kiyozuka Y, Shikata N, Oishi Y and Tsubura A (2006) Parous mammary glands exhibit distinct alterations in gene expression and proliferation responsiveness to carcinogenic stimuli in Lewis rats. *Oncol Rep* 15: 903–911
 16. Kurokawa I, Mizutani H, Kusumoto K, Nishijima S, Tsujita-Kyutoku M, Shikata N and Tsubura A (2006) Cytokeratin, filaggrin, and p63 expression in reepithelialization during human cutaneous wound healing. *Wound Repair Regen* 14: 38–45
 17. 松岡洋一郎, 塚本麗子, 高取 聡, 堀伸二郎, 螺良愛郎 (2006) 大豆イソフラボンの乳癌抑制作用に関する基礎的研究. *乳癌基礎研* 15: 27–31
- 学会発表
1. Tsubura A, Uehara N, Kiyozuka Y, Yuri T and Matsuoka Y (2006) Alterations in gene expression before and after carcinogenic stimuli on parous mammary glands in Lewis rats. The 25th Congress of IABCR. Montreal, Canada
 2. 伊藤芳幸, 西村啓介, 山中恵一, 袴田 新, 磯田憲一, 黒川一郎, 水谷 仁, 螺良愛郎 (2006) ケラトアカントーマにおけるケラチン, フィラグリン発現. 第57回日本皮膚科学会中部支部会, 名古屋
 3. 松岡洋一郎, 上原範久, 津田洋幸, 螺良愛郎 (2006) ラット乳腺発癌の分子生物学的解析—

発癌研究から癌予防への展開—第38回日臨分形学会, 宇部

4. 螺良愛郎, 上原範久, 垠 貴司, 松岡洋一郎 (2006) マウス乳腺前癌病変とその進展—ヒト乳癌への外挿—. 第38回日臨分形学会, 宇部
5. 上原範久, 清塚康彦, 松岡洋一郎, 螺良愛郎 (2006) 経産乳腺特異的遺伝子の単離とヒト乳癌細胞株増殖に及ぼす影響. 第65回日本癌学会, 横浜
6. 津田洋幸, 深町勝巳, アレキサンダー デビット, 徐 結苟, 大嶋 浩, 森田陽子, 田中創始, 林 香月, 上田しのぶ, 落谷孝広, 松岡洋一郎 (2006) トランジェニックライトを用いたヒト膀胱がんモデル—細胞発生と進展について—. 第65回日本癌学会, 横浜
7. 松岡洋一郎, 上原範久, 垠 貴司, 塚本麗子, 螺良愛郎 (2006) 経産乳腺の発癌刺激低感受性に関する研究. 第16回乳癌基礎研究会, 鴨川
8. 黒川一郎, 中井康雄, 西村啓介, 袴田 新, 磯田憲一, 水谷 仁, 螺良愛郎 (2006) 面皰母斑におけるケラチン, フィラグリンの発現. 第105回日本皮膚科学会, 京都
9. 黒川一郎, 西村啓介, 袴田 新, 磯田憲一, 山中恵一, 水谷 仁, 螺良愛郎 (2006) 脂腺母斑におけるケラチン発現の免疫組織化学的研究. 第31回日本研究皮膚科学会, 京都
10. 高橋雅也, 松岡洋一郎, 津田洋幸, 螺良愛郎 (2006) p53 変異を有する特異なアポトーシス高感受性乳癌細胞株の樹立. 第95回日本病理学会, 東京
11. 三木克朗, 上原範久, 塚本麗子, 松岡洋一郎, 螺良愛郎 (2006) MNU誘発視細胞傷害を抑制する 3-aminobenzamide の投与量ならびに投与時期. 第95回日本病理学会, 東京
12. 上原範久, 清塚康彦, 松岡洋一郎, 螺良愛郎 (2006) 経産乳腺における発癌抑制機序解明に向けた特異的制御遺伝子の単離とその機能解析. 第95回日本病理学会, 東京
13. 塚本麗子, 垠 貴司, 三木克朗, 松岡洋一郎, 螺良愛郎 (2006) 低用量MNUと短期妊娠レベルのエストロゲン/プロゲステロン暴露の乳腺発癌に対する影響. 第95回日本病理学会, 東京
14. 垠 貴司, 塚本麗子, 三木克朗, 上原範久, 清塚康彦, 松岡洋一郎, 四方伸明, 螺良愛郎 (2006) 妊娠期を模倣したエストロゲンおよびプロゲステロン投与期間のMNU誘発ラット乳腺発癌への影響. 第95回日本病理学会, 東京
15. 三木克朗, 義澤克彦, 螺良愛郎 (2006) 3-aminobenzamide による MNU 誘発ラット網膜変性の抑制効果. 第22回日本毒性病理学会, 鹿児島

病理解剖

〈研究業績〉

原 著

1. Takamiya M, Okigaki M, Jin D, Takai S, Nozawa Y, Adachi Y, Urao N, Tateishi K, Nomura T, Zen K, Ashihara E, Miyazaki M, Tatsumi T, Takahashi T and Matsubara H (2006) Granulocyte Colony-Stimulating Factor—Mobilized Circulating c-Kit+/Flk-1+ Progenitor Cells Regenerate Endothelium and Inhibit Neointimal Hyperplasia After Vascular Injury. *Arterioscler Thromb Vasc Biol.* 26: 751–757
2. Ikebukuro K, Adachi Y, Suzuki Y, Iwasaki M, Nakano K, Koike Y, Mukaide H, Yamada Y, Fujimoto S, Seino Y, Oyaizu H, Shigematsu A,

Kiriyama N, Hamada Y, Kamiyama Y and Ikehara S (2006) Synergistic effects of injection of bone marrow cells into both portal vein and bone marrow on tolerance induction in transplantation of allogeneic pancreatic islets. *Bone Marrow Transplant* 38: 657–664

3. Urao N, Okigaki M, Yamada H, Adachi Y, Matsuno K, Matsui A, Matsunaga S, Tateishi K, Nomura T, Takahashi T, Tatsumi T and Matsubara H (2006) Erythropoietin-mobilized endothelial progenitors enhance reendothelialization via Akt-endothelial nitric oxide synthase activation and prevent neointimal hyperplasia. *Circ Res* 98: 1405–1413

4. Andoh Y, Mizutani A, Ohashi T, Kojo S, Ishii T, Adachi Y, Ikehara S and Taketani S (2006) The antioxidant role of a reagent, 2',7'-dichlorodihydrofluorescein diacetate, detecting reactive-oxygen species and blocking the induction of heme oxygenase-1 and preventing cytotoxicity. *J Biochem* 140: 483–489
5. Zen K, Okigaki M, Hosokawa Y, Adachi Y, Nozawa Y, Takamiya M, Tatsumi T, Urao N, Tateishi K, Takahashi T and Matsubara H (2006) Myocardium-targeted delivery of endothelial progenitor cells by ultrasound-mediated micro-bubble destruction improves cardiac function via an angiogenic response. *J Mol Cell Cardiol* 40: 799–809
6. Adachi Y, Oyaizu H, Taketani S, Minamino K, Yamaguchi K, Shultz LD, Iwasaki M, Tomita M, Suzuki Y, Nakano K, Koike Y, Yasumizu R, Sata M, Hirama N, Kubota I, Fukuhara S and Ikehara S (2006) Treatment and transfer of emphysema by a new bone marrow transplantation method from normal mice to Tsk mice and vice versa. *Stem Cells* 24: 2071–2077
7. Nakano K, Adachi Y, Minamino K, Iwasaki M, Shigematsu A, Kiriya N, Suzuki Y, Koike Y, Mukaide H, Taniuchi S, Kobayashi Y, Kaneko K and Ikehara S (2006) Mechanisms underlying acceleration of blood flow recovery in ischemic limbs by macrophage colony-stimulating factor. *Stem Cells* 24: 1274–1279

総説

1. 岩崎真佳, 足立 靖, 池原 進 (2006) マイクロバブルを用いたDrug Delivery System 非虚血性心筋症の新しい治療戦略. *Biophilia* 2: 32–37

症例報告

1. 三宅 岳, 足立 靖, 金森千春, 保坂直樹, 新宅雅幸, 溝上友美, 神崎秀陽, 上山泰男, 池原 進 (2006) ヒトパルボウイルスB19による胎児水腫の1剖検例. *診断病理* 23: 318–322
2. 南野桂三, 足立 靖, 植村芳子, 坂井田紀子, 草深公秀, 長岡三穂, 鈴木康弘, 岩崎真佳, 松

村美代, 池原 進 (2006) 食道粘膜下腺腫の1症例. *診断病理* 23: 46–48

学会発表

1. 重松明男, 足立 靖, 松本憲明, 小柳津治樹, 桐山直子, 向出裕美, 今村雅寛, 福原資郎, 池原 進 (2006) 同種骨髄移植後に急性腎不全を発症した1剖検例. 第35回日本病理学会近畿支部学術集会, 京都
2. Mukaide H, Adachi Y, Nakano K, Koike Y, Kiriya N, Shigematsu A, and Ikehara S (2006) Immunotherapy for malignant tumors using combination of IBM-BMI, DLI and dendritic cells. 第36回日本免疫学会総会学術集会, 大阪
3. 三宅 岳, 足立 靖, 金森千春, 保坂直樹, 新宅雅幸, 神崎秀陽, 上山泰男, 池原 進 (2006) 胎児水腫の1剖検例. 第34回日本病理学会近畿支部学術集会, 神戸
4. 桐山直子, 足立 靖, 南野桂三, 岩崎真佳, 中野景司, 小池保志, 鈴木康弘, 向出裕美, 重松明男, 松村美代, 池原 進 (2006) SCID/huマウスを用いたヒト臍帯血からの網膜神経細胞への分化の検討. 第95回日本病理学会総会, 東京
5. 向出裕美, 足立 靖, 鈴木康弘, 岩崎真佳, 小池保志, 南野桂三, 中野景司, 重松明男, 桐山直子, 上山泰男, 池原 進 (2006) IBM-BMTにDLIとドナー骨髄由来樹状細胞を併用した悪性腫瘍の治療法. 第95回日本病理学会総会, 東京
6. 重松明男, 足立 靖, 桐山直子, 岩崎真佳, 小池保志, 中野景司, 向出裕美, 今村雅寛, 池原 進 (2006) 低線量放射線照射が樹状細胞の活性化に及ぼす影響. 第95回日本病理学会総会, 東京
7. 小池保志, 足立 靖, 鈴木康弘, 南野桂三, 岩崎真佳, 向出裕美, 重松明男, 桐山直子, 上山泰男, 池原 進 (2006) ラット同種間骨髄内骨髄移植 (IBM-BMT) とドナーリンパ球注入療法 (DLI) による抗腫瘍効果の検討. 第95回日本病理学会総会, 東京
8. 中野景司, 足立 靖, 南野桂三, 鈴木康弘, 岩崎真佳, 小池保志, 向出裕美, 重松明男, 桐山直子, 池原 進 (2006) M-CSFによる endot-

helial progenitor cell (EPC) のmobilizationメカニズム. 第95回日本病理学会総会, 東京

9. 酒井康裕, 足立 靖, 保坂直樹, 池原 進

(2006) ある原疾患が隠された大動脈弁狭窄症, 胸部大動脈瘤の1例. 第32回日本病理学会近畿支部学術集会, 大阪

微生物学講座

〈研究業績〉

原著

1. Sun P, Watanabe H, Takano K, Yokoyama T, Fujisawa JI and Endo T (2006) Sustained activation of M-Ras induced by nerve growth factor is essential for neuronal differentiation of PC12 cells. *Genes Cells* 11: 1097–1113
2. Okamoto K, Fujisawa JI, Reth M and Yonehara S (2006) Human T-cell leukemia virus type-I oncoprotein Tax inhibits Fas-mediated apoptosis by inducing cellular FLIP through activation of NF- κ B. *Genes Cells* 11: 177–191
3. Furuta RA, Nishikawa M and Fujisawa J (2006) Real-time analysis of human immunodeficiency virus type 1 Env-mediated membrane fusion by fluorescence resonance energy transfer. *Microbes Infect* 8: 520–532

学会発表

1. 小西智子, 田中正和, 川津祐介, 塩川くみ, 巽理恵, 藤澤順一, 三輪正直 (2006) HTLV-1感染マウスにおける感染細胞のクローン増殖性について. 第54回日本ウイルス学会学術集会, 名古屋
2. 川津祐介, 田中正和, 小西智子, 塩川くみ, 八神健一, 梶村春彦, 巽理恵, 藤澤順一, 三輪正直 (2006) HTLV-1感染マウスでの放射線照射における腫瘍発生のメカニズムについて.

て. 第54回日本ウイルス学会学術集会, 名古屋

3. 巽理恵, 齊藤峰輝, 大原義朗, 藤澤順一 (2006) 高いHAM発症率を示すイラン型HTLV-1 Tax/Rexの機能. 第54回日本ウイルス学会学術集会, 名古屋
4. 木村富紀, 橋本岩雄, 藤澤順一 (2006) HIV-1 Revによるインターフェロン- α mRNA核外輸送阻害に関与するRNA結合因子のクローニング. 第54回日本ウイルス学会学術集会, 名古屋
5. 関本 剛, 松崎恒一, 吉田勝紀, 森 茂生, 山縣英生, 松井裕史, 藤澤順一, 岡崎和一 (2006) H-RAS V12導入癌細胞のSmad依存性癌化シグナルはリンカー部リン酸化を阻害すると細胞増殖抑制シグナルに回帰する. 第65回日本癌学会学術総会, 横浜
6. 田中正和, 小西智子, 川津祐介, 藤澤順一, 三輪正直 (2006) HTLV-1感染マウスにおける腫瘍発生. 第65回日本癌学会学術総会, 横浜
7. 西川正雄, 高島勝典, 西 俊哉, 古田里佳, 神崎直之, 山本善雄, 藤澤順一 (2006) 新規抗HIV-1剤TAK-220の感染阻害機構. 大阪感染症流行予測調査会, 大阪
8. 伊藤道恭, 芳賀 泉, 藤澤順一 (2006) Sam68による細胞内mRNA分子の発現調節. 第8回RNAミーティング, 淡路
9. 古田里佳, 西川正雄, 藤澤順一 (2006) FRETを用いた HIV-1 細胞侵入過程のリアルタイム解析. 第20回近畿エイズ研究会学術集会, 大阪

衛生学講座

〈研究概要〉

衛生学講座は大学院医学研究科で幹細胞生物学を担当している. このため幹細胞生物学に基づいて, 主としてヒトの骨髄あるいは臍帯血に由来する組織幹細胞を用いるトランスレーショナルリサーチの展開を目指している. さらに, これらの基礎的研究成果を近い将来に細胞治療・再生医療に応用することで予防医学に貢献したいと考えている.

1) ヒト臍帯血由来CD34抗原陰性造血幹細胞の同定とその幹細胞特性の解明

最近、私達の研究グループは、独自に開発した骨髓腔内直接移植 (IBMI) 法を応用することにより、非常に効率的なヒト未分化造血幹細胞 (HSC) の同定法である SCID-repopulating cell (SRC) 測定系を開発した。本法を用いることにより、ヒト臍帯血中に極めて少数存在する CD34 抗原陰性造血幹細胞 (CD34⁻HSC) の確実な同定に世界に先駆けて成功した (Blood 101: 2924-2931, 2003)。さらに、この CD34⁻SRC が、*in vivo* における高い自己複製能と増殖能・遊走能を保持していることを明らかにしている (Int J Hematol 79: 328-333, 2004)。重要な発見は、従来、未分化な HSC に作用すると報告されていた stem cell factor, flt3 ligand のチロシンキナーゼ受容体である c-kit, flt3 が、われわれが同定した CD34⁻SRC には発現していないことを明らかにしたことである (Blood 106(11): 235a, 2005)。以上の研究により、現時点でヒトの最も未分化な HSC の免疫特性は、Lin⁻CD45^{low}CD34⁻c-kit⁻flt3⁻と考えられた (Stem cells 25: 1348-1355, 2007)。

その後の研究で、従来未分化 HSC とされていた CD34⁺CD38⁻HSC と CD34⁻HSC の未分化性について NOG マウスを用いる長期骨髓再構築実験系で検討した。その結果、われわれが同定した CD34⁻HSC がより未分化な HSC であることが明らかにされた (投稿中)。

2) ヒト骨髓あるいは臍帯血に由来する組織幹細胞 (TCSC) の同定とその機能解析

ヒト骨髓あるいは臍帯血中には、HSC だけでなく間葉系幹細胞 (MSC)、あるいは多能性をもつ既知、未知の TCSC が存在している。われわれは、磁気ビーズ法や FACS を駆使することにより、ヒトの骨髓や臍帯血中に存在する多能性の TCSC の同定・純化法の開発・確立に取り組んできた。その過程で、ヒト臍帯血由来単核細胞を type I コラーゲン処理した培養皿中で EGM2 培地を加えて 1~2 週間培養し、cobblestone 様の late EPC (OEC) のコロニーを同定した。本細胞は、CD31, KDR, CD34 抗原陽性で LDL-uptake, lectin 結合能を示したことから OEC と確認された。現在、VEGF, IL-8 等に対する migration 能の解析や、matrigel 中での tube formation 等の機能解析を行っている (投稿準備中)。

3) 骨髓腔内直接移植法による新規マウス造血幹細胞の探索

ヒト臍帯血 Lin⁻CD34⁻細胞 (CD34⁻SRC) は、強い SCID-repopulating cell (SRC) 活性を有し CD34⁺SRC を産生することから、今後の移植・再生医療の素材として有望である。CD34⁻SRC は CD34⁺SRC と異なり、経静脈的移植 (Tail vein injection: TVI) 法ではなく、骨髓腔内直接移植 (Intra-bone marrow injection: IBMI) 法によってのみマウス骨髓に生着する。このような特性を持つマウス造血幹細胞 (HSC) の存在は過去に報告されていない。われわれは、IBMI 法によってマウス骨髓に生着する HSC の存在を探索するとともに、その特性を明らかにすることにより、希少な集団であるヒト CD34⁻SRC の特性解明に役立てることを目指している。具体的には、ヒト SRC の経静脈的骨髓生着の責任因子として SDF-1 や SCF などが考えられ、これらの因子による直接的影響の及ばない HSC を、IBMI 法を用いることによって見出すことが出来るかどうか検討している。

4) 内分泌攪乱化学物質に関する研究

環境中に存在するエストロゲンと類似の作用を持つ化学物質の活性測定およびエストロゲン受容体を介した内分泌攪乱作用について研究を行った。特に、我々が日常的に摂取している食品に含まれる植物エストロゲンの内分泌攪乱作用の可能性およびその影響を明らかにするために、ホルモン応答性配列を含むレポータープラスミドを導入した動物細胞および酵母を用いた転写活性測定系を併用して、種々の植物由来食品に含まれる天然化学物質 (植物エストロゲン) のエストロゲン活性の検索を試みた。この目的に最適な試料として、種々のハーブを単独あるいは混合で含む、市販ハーブティーに着目し、ハーブティー抽出液中のエストロゲン活性について分析を行った。その結果、ハーブティーのエタノール抽出液中に含まれる植物エストロゲンとして甘草を同定したが、通常のハーブティー摂取法である熱水抽

出液中には甘草由来のエストロゲン活性は認められず、熱水抽出液中に含まれる植物エストロゲンとしてはペパーミントが最大のエストロゲン活性を示すことを見出し、Eur Food Research & Technol (225: 913-920, 2007) に発表した。

〈研究業績〉

原 著

1. Kouda K, Nakamura H, Kohno H, Okuda T, Higashine Y, Hisamori K, Ishihara H, Tokunaga R and Sonoda Y (2006) Metabolic response to short-term 4-day energy restriction in a controlled study. Environ Health Prevent Med 11(2): 89-92
2. Tanabe A, Ogawa Y, Takemoto T, Wang Y, Furukawa T, Kono H, Adachi Y and Kusumoto K (2006) Interleukin 6 induces the hair follicle growth phase (anagen). J Dermatol Sci 43(3): 210-213

学会発表

1. Sonoda Y, Kimura T, Asada R, Kimura T, Moriooka M, Sasaki Y and Ikehara S (2006) Different proliferative potential and redistribution kinetics of human cord blood-derived CD34⁺ SCID-repopulating cells (SRCs) in comparison with CD34⁺CD38⁺ SRCs using intra-bone marrow injection. The 48th Annual Meeting of American Society of Hematology, Orland

2. 藺田精昭 (2006) 再生医療における幹細胞. 第68回日本血液学会総会, 福岡
3. 木村貴文, 浅田留美子, 木村 卓, 森岡美帆, 佐々木豊, 藺田精昭 (2006) ヒトCD34陰性造血幹細胞の in vivo 増殖分化動態の解析. 第68回日本血液学会総会, 福岡
4. 藺田精昭 (2006) 再生医学. バイオ・ソサエティ平成18年度医学入門講座, 京都
5. 藺田精昭, 浅田留美子, 木村 卓, 佐々木豊, 木村貴文 (2006) ヒト未分化造血幹細胞の免疫特性: FLT3発現とその幹細胞特性. 第16回日本サイトメトリー学会総会, 長崎
6. 藺田精昭 (2006) 骨髓内造血幹細胞移植について. 第6回さい帯血移植セミナー, 大阪
7. 甲田勝康, 石原敬康, 河野比良夫, 中村晴信, 西尾信宏, 藺田精昭 (2006) エネルギー制限: 短期絶食がアレルギー性皮膚炎におよぼす影響. 第76回日本衛生学会総会, 宇部
8. 兼子裕人, 木村貴文, 野村憲一, 堀池重夫, 谷脇雅史, 藺田精昭, 大川原康夫 (2006) 高齢 (70歳以上) 多発性骨髄腫患者に対する自己末梢血幹細胞移植. 第28回日本造血細胞移植学会総会, 東京

公衆衛生学講座

〈研究業績〉

原 著

1. Manabe M, Kanda S, Fukunaga K, Tsubura A and Nishiyama T (2006) Evaluation of the estrogenic activities of some pesticides and their combinations using MtT/Se cell proliferation assay. Int J Hyg Environ Health 209(5): 413-421
2. Koyanagi M, Shino K, Yoshimoto Y, Inoue S, Sato M and Nakata K (2006) Effects of changes in sitting posture on the kinetics of the knee joint. Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc 14: 89-93
3. Tagami T, Kajimura K, Satsuki Y, Nakamura A, Okihashi M, Kitagawa Y, Takatori S and Kita-

- gawa M (2006) Simultaneous analysis of 10 Pyrethroid Pesticides in Natural Medicines by GC/MS with Negative Chemical Ionization. Yakugaku Zasshi 126(10): 991-995
4. Ishida T, Yamamoto K, Amano H, Nishiyama T and Fukunaga K (2006) Study on the Character of Mebendazole Tablets Available in IndoChina Peninsula. Clin Parasitol 17(1): 117-121
5. 伊藤健一, 木村 穰, 田近亜蘭, 三宅眞理, 淵岡 聡, 岩坂壽二, 西山利正 (2006) Relationship between ultrasonography of knee cartilage and BMI, leg alignment and muscle strength in middle-aged and elderly women. 日健医会誌

15(1): 3-11

6. 田近亜蘭, 柳生隆視, 織田裕行, 木下利彦, 西山利正 (2006) 修正型 ECT によるうつ病患者の処方内容の変化について. 最新精神医 11(2): 173-179

総 説

1. 三宅眞理 (2006) 「こころとからだの健康長寿」ダイバーシナルセラピー (2). E.E.O.A. Topics 26: 11-12
2. 三宅眞理 (2006) 「こころとからだの健康長寿」ダイバーシナルセラピー (1). E.E.O.A. Topics 25: 7-8
3. 西山利正, 眞鍋眞理, 仁木 稔 (2006) 【消化器疾患 state of arts II. 肝・胆・脾】主要疾患現況・病態・診断・治療 肝に病変をきたす感染症 (ウイルスによるものを除く). 医のあゆみ 別冊 (消化器疾患 Ver. 3) : 651-656
4. 小西良昌, 田中之雄, 堀伸二郎, 多田 裕 (2006) ダイオキシン類による母乳汚染の経年推移—「ダイオキシン類対策特別措置法」の効果—. 環境化学 16: 667-689
5. 三宅眞理 (2006) こころとからだの健康長寿「ダイバーシナルセラピー」. 身体運動文化フォーラム (創刊号) : 171-184
6. 小柳磨毅, 境 隆弘, 中江徳彦, 淵岡 聡, 田中則子, 林 好子 (2006) 【痛み】有痛性疾患の理学療法プログラム 膝部のスポーツ傷害. 理学療法 23(1): 357-361
7. 吉本陽二, 佐藤睦美, 林 剛彦 (2006) 反射性交感性神経性ジストロフィー. 理学療法 23(1): 298-302

学会発表

1. 起橋雅浩, 北川陽子, 尾花裕孝, 田中之雄, 山岸陽子, 杉立久仁代, 齋藤香織, 窪田雅之, 金井みち子, 植田泰輔, 原田修一, 木村良夫 (2006) Multiresidue Method for the Determination of Pesticide Residues in Food by GC/MS, GC/FPD and LC/MS/MS. 11th IUPAC International Congress of Pesticide Chemistry, 神戸
2. Koga T (2006) A survey of immunization strategies for Japanese workers abroad by their companies. 6th Asia-Pacific Travel Health

(APTH) Conference, Bangkok

3. Koga T, Okuzawa E, Fukushima S, Nishiyama T and Hamada A (2006) The characteristics of Japanese company which had the employees MARARIA infectin abroad. 第47回日本熱帯医学会・第21回日本国際保健医療学会合同大会, 長崎
4. Lamaningao P, Sugiura Y, Akkhavong S, Bilakoun S and Douangtaphak B (2006) Health seeking behavior at villages using Health Notebook in Lao PDR. 第47回日本熱帯医学会・第21回日本国際保健医療学会合同大会, Nagasaki
5. Yoshida M, Sano K, Ishiyuki E, Fukunaga K and Nishiyama T (2006) Bioavailability of Selenium in Selenium-enriched Radish Sprouts and Pumpkin. International Union of Food Science and Technology (IUFOST) XIIIth World Congress, Nantes
6. Kanda S, Tamada Y, Mishima K, Saito I and Nishiyama T (2006) Characters of Pituitary Stem cells: Preparation and characterizatio of side population cells. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress, Kyoto
7. Tajika A, Niki M, Tsukui K, Nishikawa T and Nishiyama T (2006) How to predict whether Japanese people transferred to foreign countries feel inconvenient or not? Northeern European Conference on Travel Medicine, Edinburgh, Scotland
8. Niki M, Tajika A and Nishiyama T (2006) Psychosomatics study of overseas Japanese. Northeern European Conference on Travel Medicine, Edinburgh
9. 起橋雅浩, 北川陽子, 尾花裕孝, 田中之雄, 山岸陽子, 杉立久仁代, 齋藤香織, 窪田雅之, 金井みち子, 植田泰輔, 原田修一, 木村良夫 (2006) Rapid Multiresidue Method for the Determination of Pesticide Residues in Food by GC/MS, GC/FPD and LC/MS/MS. European Pesticide Residue Workshop, Corfu Island
10. 柴田清児, 大隈泰則, 神田靖士, 八木正夫, 河本光平, 朝子幹也, 栗山博道, 西山利正, 山下敏夫 (2006) 聴覚路における加齢性難聴に

ともなう遺伝子発現の変化. 日本分子生物学会2006フォーラム, 名古屋

11. 起橋雅浩, 高取 聡, 北川陽子, 田中之雄 (2006) GC/MS/MSを用いて同時一斉測定の限界に挑む. 第29回農薬残留分析研究会, 大阪
12. 高取 聡, 起橋雅浩, 北川陽子, 岡本 葉, 柿本幸子, 村田 弘, 住本建夫, 田中之雄 (2006) QuEChERS法を活用した残留農薬分析法の検討. 第29回農薬残留分析研究会, 大阪
13. 津久井要, 古賀才博, 本多瑞枝 (2006) 海外勤務者のメンタルヘルスに影響を及ぼす要因の検討. 第54回日本職業・災害医学会学術大会, 横浜
14. 椎木創一, 富成伸次郎, 上平朝子, 白阪琢磨, 野村香織, 井上信正, 後藤哲志, 西山利正 (2006) リンパ節腫脹をきたし診断に苦慮した三日熱マラリアの一例. 第62回日本寄生虫学会西日本支部大会, 名古屋
15. 北川陽子, 高取 聡, 田中之雄, 西川淳一, 西原 力, 堀伸二郎, 西山利正 (2006) 化学物質の酵母細胞壁に対する透過性の比較. 第9回環境ホルモン学会研究発表会, 東京
16. Yamamoto K, Amano H, Shinohara K, Banovong V, Phanmanivong V, Phounsavath S and Nishiyama T (2006) Study on the efficacy of mebendazole against intestinal parasites in luangprabang province, LAO P.D.R
第47回日本熱帯医学会・第21回日本国際保健医療学会合同大会, 長崎
17. 上田照子, 荒井由美子, 西山利正 (2006) 在宅要介護高齢者における家族による虐待・殺人一息子を中心として. 第65回日本公衆衛生学会総会, 富山
18. 田中園代, 佐藤登志み, 田近亜蘭, 西山利正, 一居 誠 (2006) 大企業とその周辺産業でなりたつ街での「働く人のメンタルヘルス対策」. 第65回日本公衆衛生学会総会, 富山
19. 田近亜蘭, 西山利正, 石田高明, 水野真木子, 堀 朋子 (2006) 的確な医療通訳を目指した試み. 第13回びわ湖国際医療フォーラム, 大津
20. 吉田宗弘, 佐野菊江, 石幸恵理, 福永健治, 西山利正 (2006) セレン強化スプラウトおよびセレン強化カボチャに含まれるセレンの栄養有効性. 第17回日本微量栄養素学会, 静岡
21. Ishida T, Yamamoto K, Amano H, Nishiyama T, Fukunaga K (2006) Study on the Character of Mebendazole Tablets Available in IndoChina Peninsula. 第17回日本臨床寄生虫学会, 東京
22. 濱田篤郎, 古賀才博, 奥沢英一 (2006) 海外派遣企業での対応—熱帯アフリカに長期滞在する日本人の予防内服の現状—. 第17回日本臨床寄生虫学会, 東京
23. 西田圭一郎, 吉田常孝, 入澤 聡, 吉村匡史, 織田裕行, 松田郷美, 田近亜蘭, 片山裕美, 南智久, 鈴木美佐, 河相 吉, 延原健二, 齊藤朱実, 木下利彦 (2006) SSRIが効果を示した semantic dementia (SD) の一症例. 第21回日本老年精神医学会, 東京
24. 伊藤健一, 木村 稔, 田近亜蘭, 長野 聖, 淵岡 聡, 岩坂壽二, 西山利正 (2006) 超音波でみた膝関節軟骨像とBMI・下肢アライメント・下肢筋力の関係. 健康増進施設に通う中年女性と高齢女性間の比較. 第41回日本理学療法学会学術大会, 前橋
25. 吉田宗弘, 服部浩之, 太田祥江, 吉原花織, 児玉直子, 吉武 裕, 西牟田守 (2006) 日本人成人女性を対象にしたモリブデン出納試験の解析. 第60回日本栄養・食糧学会大会, 静岡
26. 今木雅英, 林 義孝, 淵岡 聡, 奥田邦晴, 小川由紀子, 吉田幸恵 (2006) 身体障害者の健康管理に関する疫学研究 (第1報) 下肢切断者の喫煙状況. 第60回日本栄養・食糧学会大会, 静岡
27. 福永健治, 吉田宗弘, 西山利正, 新井博文 (2006) ラット大腸癌発症に及ぼす魚肉タンパク質摂取期間の影響. 第60回日本栄養・食糧学会大会, 静岡
28. 古賀才博, 濱田篤郎, 西山利正 (2006) 海外派遣者に対する予防接種に関する全国調査. 第79回日本産業衛生学会, 仙台
29. 伊藤健一, 木村 稔, 上田加奈子, 田近亜蘭, 淵岡 聡, 岩坂壽二, 西山利正 (2006) 膝関節軟骨エコー像の6ヵ月間の推移とBMI・下肢筋力の関係. 第24回臨床運動療法研究会, 大阪
30. 三宅眞理, 伊藤健一, 保津真一郎, 田近亜蘭, 西山利正 (2006) オーストラリアの介護: ダイバーショナルセラピーと運動療法. 第24回臨床運動療法研究会, 大阪

31. 濱田篤郎, 古賀才博, 日谷明裕, 奥沢英一 (2006) 海外勤務健康管理センターでの腸チフスワクチンの接種状況. 第80回日本感染症学会, 東京
32. 岩田真美子, 石田明生, 松浦大典, 木村明博, 竹西亜古, 真鍋眞理, 辰巳香麻理, 吉田 香, 梅澤真樹子 (2006) 「給食経営管理実習」における献立の満足度—アンケート調査の分析—, 第4回日本栄養改善学会近畿支部学術総会, 大津
33. 神田靖士, 美島健二, 斎藤一郎, 西山利正 (2006) 下垂体幹細胞の同定: Side population細胞の分離と特徴付け. 第5回日本再生医療学会総会, 岡山
34. 吉野真紀, 中平暁子, 織田裕行, 田近 文, 有木永子, 堀内麻美, 山田圭造, 守田 稔, 鈴木美佐, 山田妃沙子, 田近亜蘭, 木下利彦 (2006) 関西医科大学附属病院における性同一

性障害患者の心理的特性. 第98回近畿精神神経学会, 京都

著 書

1. 濱田篤郎, 田近亜蘭 (2006) 精神疾患をもつ旅行者. テキストブック トラベルメディスン (日本渡航医学会監修) 22-27 頁, ヘルスツーリズム研究所, 東京
2. 西山利正 (2006) マラリア. テキストブック トラベルメディスン (日本渡航医学会監修) 73-76 頁, ヘルスツーリズム研究所, 東京
3. 西山利正, 石田高明, 田近亜蘭 (2006) 一般産業医における海外渡航者への予防接種に関する啓発と実態調査に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金, 新興・再興感染症研究事業. 海外渡航者に対する予防接種のあり方に関する研究平成17年度総括・分担研究報告書 (尾内一信編) 58-68 頁, 川崎医科大学, 倉敷

法医学講座

〈研究概要〉

(1) 温度勾配ゲル電気泳動法の法科学的DNA鑑定への応用

温度勾配ゲル電気泳動法を用いて個人差が大きいミトコンドリアDNAのHV1領域の簡便な個人識別法の確立を検討した. 個人差の識別は容易であるが, 塩基置換が多い場合はパターンの相違が複雑となり, シークエンス解析での確認は不可欠であった.

(2) 父権肯定確率計算ソフトウェアの開発と実例への応用

親子鑑定で計算が必要となる父権肯定確率について, Web ページ上で簡便に利用できるソフトウェアをJavaScriptを用いて開発し, 当事者が不在(死亡)の事例に応用して詳細な解析を行った.

(3) 電気化学検出器—高速液体クロマトグラフを用いたプラゾシンの分析

高血圧の治療に使用されるプラゾシンは当教室で開発した NaCl-アセトニトリル抽出法で簡便かつ効率的に抽出可能だった. 検出器は, 紫外吸光度検出器よりも電気化学検出器の方が高感度(検出限界 10 ng/ml)で, 加電圧は1,000 mVが定量に最適であった.

(4) 臓器固定に消費されるホルマリン量の検討

解剖等で採取した臓器の固定にホルマリンを使用する場合, 環境汚染が社会問題となる. そこで使用量軽減のための基礎実験として, 固定時のホルマリン消費量を簡易ホルマリン測定キットを用いて調査した. その結果, 臓器重量とホルマリン濃度の変化に相関が認められ, ホルマリンの最小使用量の計算に応用可能と考えられた. ホルマリンの再利用や小型容器の使用もホルマリン廃棄量の軽減につながるかと期待できた. また, 市販のパックテストを改良し, 肉眼的に2~12%のホルマリン濃度が測定できる標準表を2種類作成した. これにより臓器固定液中のホルマリン濃度の補正や使用済み溶液の再利用が容

易となった。

(5) ベルリン青反応を用いたシアン化合物検出の再検討

シアンの予備試験法であるベルリン青反応の分析条件と反応式について検討した。最適条件は、検体 4 ml (pH 8.4～10.6に調整) に 1% FeSO_4 25 μl (2.5分反応), 1% FeCl_3 25 μl (1.5分反応), 1% KOH 75 μl , 10% 硫酸 125 μl を順次添加し, 10～30分後に判定する方法だった。検出限界は 25 $\mu\text{g/ml}$ で, pH調整が重要だった。実際の中毒例での検査にも応用できた。発色成分の検討では, 定説となっている反応式とは別の反応が起こっている事実が示唆され, 呈色反応に疎水性成分と親水性成分の2つが関与していると考えられた。

(6) 脳死判定における脳波解析用ソフトウェアの実用性の検討

脳死判定の実用化に向け, 平坦脳波を確認する目的で脳波の等価電位解析を行ってきたが, 従来から使用している脳波自動解析システムと, 市販のソフトウェア「ATAMAP II for Windows」とで解析結果を比較検討した。平坦脳波における等価電位はいずれのシステムでも全部位の各周波数領域で 1 μV 以下で, ほぼ同様の成績が得られた。このソフトウェアを用いれば, 等価電位解析による脳死補助診断が可能ならに, 今まで蓄積してきたデータを参考資料として活用できるものと考えられた。

(7) 膀胱壁を用いた凝集素解離試験による ABO 式血液型判定

ヒト由来ポリクローナル抗体が市販されていないために従来行われてきた毛髪からの血液型判定が困難となり, 動物由来のポリクローナル抗体を用いて爪および脳硬膜で ABO 式血液型判定を実施している。それらに加えて脳硬膜と同様に比較的腐敗しにくい膀胱壁が ABO 式血液型判定の試料として使用可能か否か, 実際の剖検試料を用いて検討した。

(8) 溺死診断のためのプランクトン検査法の検討

水死体の臓器からプランクトンを検出することにより溺死の診断をしているが, 薬品の組合せや手順について検討を加えてより簡便な検査法を開発し, 実務に応用可能であることを確認した。

(9) 医学部学士編入学を想定した総合試験問題の試作と検討

大学入試センター研究開発部との共同研究で, 医学部への学士編入学を想定し, 記憶に頼る学力試験と異なり受験者の資質を総合的に判断するための総合試験問題を試作し, 実際に関西医科大学において本学学生を含む近隣大学(医学部以外を含む)の学生を被験者として受験させ, 問題の適否の検討を行った。その結果, 問題文に誤解を生じる表現がある場合は設問として不適当で, 学部系統により解答傾向に差異があることも判明した。これらの成果を学術論文として発表した。

〈研究業績〉

原 著

1. Yoshida M, Akane A, Nishikawa M and Tsuchihashi H (2006) Triage test and HPLC assay for analysis of vegetamin, an antipsychotic agent, using gastric contents and blood specimens. *Leg Med (Tokyo)* 8(3): 172–176
2. 沖井 裕, 河本圭司, 赤根 敦, 岩瀬正顕, 大石哲也 (2006) 脳死判定における脳波解析用ソフトウェア (ATAMAP II for Windows) の簡

便な実用化. *Neurosurg Emerg* 11(2): 181–185

3. 沖井 裕, 河本圭司, 赤根 敦, 岩瀬正顕, 岡正太郎, 大石哲也, 中谷壽男 (2006) 32 例の平坦脳波の自動解析. *Neurosurg Emerg* 11(1): 70–74
4. 林 篤裕, 石井秀宗, 伊藤 圭, 椎名久美子, 柳井晴夫, 赤根 敦, 麻生武志, 岩堀淳一郎, 内田千代子, 川崎 勝, 齋藤彦彦, 武田龍司 (2006) メディカルスクール構想と入学者選抜方法. *医教育* 37(5): 285–291

5. 伊藤 圭, 林 篤裕, 椎名久美子, 大澤公一, 石井秀宗, 柳井晴夫, 田栗正章, 岩坪秀一, 赤根 敦, 麻生武志, 岩堀淳一郎, 内田千代子, 川崎 勝, 齋藤宣彦, 武田龍司 (2006) 医学部学士編入学者選抜のための総合試験の開発とその評価. 大学入試センター研究紀要 (35): 49-108
6. 赤根 敦, 伊藤 圭, 林 篤裕, 椎名久美子, 大澤公一, 柳井晴夫, 田栗正章 (2006) 識別指数による総合試験問題の項目分析. 大学入試センター研究紀要 (35): 19-47

総 説

1. 赤根 敦 (2006) 法医学の遺伝子検査 法医学領域の遺伝子検査法の変遷. 臨検 50(1): 99-105
2. 赤根 敦 (2006) 法医学の遺伝子検査 法医学試料の問題点と抽出・精製法. 臨検 50(2): 225-230
3. 赤根 敦 (2006) 法医学の遺伝子検査 遺伝子検査による性別判定. 臨検 50(8): 916-922
4. 湯浅 勲, 梅津和夫, 赤根 敦 (2006) 法医学の遺伝子検査 遺伝子検査による親子鑑定. 臨検 50(10): 1179-1189

学会発表

1. Yanai H, Hayashi A, Ito K, Shiina K, Taguri M, Ishii H, Osawa K, Akane A, Asou T, Iwahori J, Uchida C, Kawasaki K, Saito N and Takeda R (2006) 日本における医学部入試の現状. International Workshop on Entrance Examinations for Medical Universities, Tokyo
2. 沖井 裕, 赤根 敦, 吉村澄孝, 時安太久磨, 小林哲哉, 三谷友亮, 吉田 学 (2006) 凝集素解離試験による膀胱粘膜からの ABO 式血液型判定. 第53回日本法医学会近畿地方会, 大阪
3. 三谷友亮, 赤根 敦 (2006) 温度勾配電気泳動法による mtDNA HV1 領域の同一性比較法. 日本 DNA 多型学会第15回学術集会, 福山

4. 吉田 学, 赤根 敦, 西川真弓, 片木宗弘, 土橋 均 (2006) 電気化学検出器および紫外吸収検出器—HPLC によるミノサイクリンの分析. 日本法科学技術学会第12回学術集会, 東京
5. 赤根 敦 (2006) 法医遺伝学. 日本人類遺伝学会第16回遺伝医学セミナー, 吹田
6. 田栗正章, 赤根 敦, 伊藤 圭, 林 篤裕, 椎名久美子, 大澤公一, 柳井晴夫 (2006) 統計的指標に基づく総合試験の問題内容分析. 全国大学入学者選抜研究連絡協議会第1回大会, 静岡
7. 吉村澄孝, 赤根 敦, 吉田 学, 沖井 裕, 時安太久磨, 三谷友亮, 小林哲哉 (2006) 溺死判定のための簡便な化学的壊機処理条件の検討. 第90次日本法医学会総会, 福岡
8. 吉田 学, 赤根 敦, 西川真弓, 三谷友亮, 沖井 裕, 吉村澄孝, 時安太久磨, 土橋 均 (2006) NaCl—アセトニトリル抽出法を用いたプラゾシンの HPLC 分析. 第90次日本法医学会総会, 福岡
9. 赤根 敦 (2006) 当事者不在家系の父権肯定確率計算 Web ページ. 第90次日本法医学会総会, 福岡
10. 沖井 裕, 河本圭司, 赤根 敦, 岩瀬正顕, 大石哲也 (2006) 脳死・臓器移植における現実脳死判定における脳波解析用ソフトウェア (ATAMAP II for Windows) の簡便な実用化. 第11回日本脳神経外科救急学会, 大阪

著 書

1. 赤根 敦, 三谷友亮 (2006) 擬父, 擬母不在家系の親子鑑定における肯定確率の意義. DNA 多型 Vol. 14 (日本 DNA 多型学会編) 237-240 頁, 東洋書店, 東京
2. 三谷友亮, 小林哲哉, 赤根 敦 (2006) 温度勾配電気泳動法による ABO 遺伝子の SNP 解析. DNA 多型 Vol. 14 (日本 DNA 多型学会編) 55-57 頁, 東洋書店, 東京

分子遺伝学部門

〈研究概要〉

接着分子インテグリンは免疫細胞の血管内皮, 抗原提示細胞, 細胞外マトリックス等への接着を媒介し, リンパ球のホーミング, 抗原認識, 細胞移動に重要な役割を果たしている. リンパ球インテグリンは刺激に応じてダイナミックに接着性が変化することが特徴である. この接着制御には低分子量 G タンパク質 Rap1 とそのエフェクター分子 RAPL が関与していることを明らかにしてきた. このシグナル伝達には細胞極性と連動して, LFA-1 の空間的制御を行っている点が特徴として挙げられる. Rap1-RAPL シグナルによるインテグリン接着の分子機構の解明と, このシグナル改変によって免疫細胞の動態, 増殖, 分化, 機能がどのような影響をうけるか, また, 炎症アレルギー, 自己免疫疾患などの免疫病との関連を調べるのが主要なテーマである.

最近の研究成果:

Rap1 とそのエフェクター分子 RAPL によるインテグリン制御機構を明らかにするために, RAPL 会合分子を酵母 two-hybrid 法を用いて, Ste20-like キナーゼに属する Mst1 を同定した. Mst1 は RAPL の coiled-coil 領域に結合し, キナーゼ活性が増強する. 会合とキナーゼ活性は活性化型 Rap1 によって亢進し, また, T リンパ球をケモカイン, 抗原架橋刺激すると, Mst1 が活性化するのに対して, RAPL 欠損 T リンパ球では活性化が著しく減少することから, Mst1 は RAPL 依存的に活性化することが判明した. Mst1 を過剰発現させると先端膜と uropod が生じ, LFA-1 が先端膜に集積し, 接着がキナーゼ活性依存的に亢進する. リンパ球の Mst1 を knockdown するとこれらの効果が阻害された. Rap1-RAPL シグナルによる LFA-1 接着と細胞極性に Mst1 が重要であることが明らかになった.

RAPL 欠損マウスはリンパ球ホーミング機能障害によって, リンパ節の T, B リンパ球数が低下している. リンパ球接着カスケードにおける Rap1-RAPL の機能を灌流下血管内皮接着系, 生体内顕微鏡を用いて調べた. Rap1 はケモカインによって誘導される LFA-1, $\alpha 4 \beta 7$ を介する停止接着に重要であり, RAPL は停止接着以降におこる強固な接着に必要であった. LFA-1 の $\beta 2$ 細胞内領域が停止接着を制御し, αL 鎖が強固な接着に必要であった. Rap1-RAPL シグナルはこれらの領域を介して, リンパ球の血管内皮接着を制御している. さらに 2 光子レーザー顕微鏡を用いて, リンパ節組織内のリンパ球移動を解析したところ, RAPL 欠損 T, B リンパ球は移動速度が遅く, 移動距離が低下していたことから, 組織内移動に RAPL が重要であることがわかった (投稿中). 以上の研究により, Rap1-RAPL シグナルは Mst1 を介して, リンパ球の細胞極性と LFA-1 の局在を調節し, 血管内皮接着と組織内移動に重要な役割を果たしていることが明らかになった. 現在, RAPL, Mst1 の遺伝子改変マウスを用いて, リンパ球の増殖, 分化への影響, 自己免疫との関連を解析しており, インテグリン制御と細胞増殖・分化との協調的制御のメカニズムや自己免疫, リンホーマ発症に関与することを明らかにしつつある.

〈研究業績〉

原 著

1. Yamada T, Hikida M and Kurosaki T (2006) Regulation of cytokinesis by mGAP in B lymphocytes is independent of GAP activity. *Exp Cell Res* 312: 3517-3525
2. Kinashi T (2006) Adhere Upright: A Switchblade-like Extension of $\beta 2$ Integrins. *Immunity* 25: 521-522
3. Umemoto E, Tanaka T, Kanda H, Jin S, Tohya K, Otani K, Matsutani T, Matsumoto M, Ebisuno Y, Jang MH, Fukuda M, Hirata T and Miyasaka M (2006) Nepmucin, a novel HEV sialomucin, mediates L-selectin-dependent lymphocyte rolling and promotes lymphocyte adhesion under flow. *J Exp Med* 203: 1603-1614
4. Jang MH, Sougawa N, Tanaka T, Hirata T, Hiroi T, Tohya K, Guo Z, Umemoto E, Ebisuno Y,

Yang BG, Seoh JY, Lipp M, Kiyono H and Miyasaka M (2006) CCR7 is critically important for migration of dendritic cells in intestinal lamina propria to mesenteric lymph node J Immunol 176: 803–810

5. Katagiri K, Imamura M and Kinashi T (2006) Spatiotemporal regulation of the kinase Mst1 by binding protein RAPL is critical for lymphocyte polarity and adhesion. Nat Immunol 7: 919–928
6. Araki-Sasaki K, Tanaka T, Ebisuno Y, Kanda H, Umemoto E, Hayashi K and Miyasaka M (2006) Dynamic expression of chemokines and the infiltration of inflammatory cells in the HSV-infected cornea and its associated tissues. Ocul Immunol Inflamm 14: 257–266

総説

1. 片桐晃子 (2006) Rap1/RAPL 相互作用の生物学的意義. 臨免疫・アレルギー科 46: 509–514

学会発表

1. Kinashi T and Katagiri K (2006) Roles of Rap1-RAPL signaling in immune cell trafficking. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology, 京都
2. Kinashi T (2006) Roles of Rap1-RAPL in Chemokine-Mediated Immune Cell Migration. Keystone Symposia, Utah
3. Katagiri K, Imamura M and Kinashi T (2006) Spatiotemporal regulation of STK by RAPL is critical for lymphocyte polarity and adhesion. 第36回日本免疫学会, 大阪
4. 木梨達雄, 片桐晃子, 戎野幸彦 (2006) Regulation of integrin-dependent immune cell trafficking by RAPL signaling. 日本分子生物学会 2006 フォーラム, 名古屋
5. 戎野幸彦, 片桐晃子, 田中稔之, 宮坂昌之, 木梨達雄 (2006) 白血球動態の制御機構 細胞接着分子を中心に リンパ球接着カスケード制御シグナルの解析. 第36回日本免疫学会, 大阪

内科学第一講座

〈研究概要〉

樹状細胞は生体に広く分布し、抗原特異的に T 細胞を活性化、免疫応答を誘導する抗原提示細胞であり、近年免疫ネットワークを多方面から統御する細胞として注目を浴びている。樹状細胞は、自然免疫賦活剤として、抗腫瘍免疫療法の臨床試験も開始されてるが、臨床疾患における樹状細胞の側面からの免疫学的アプローチは HIV 感染症等ごく限られた疾患においてのみなされており、樹状細胞と各臨床疾患との関わり、特に免疫異常を来す病態においての樹状細胞の関わりは未解明のままである。

樹状細胞は、その単離が難しいこと、生体内各組織における分布細胞密度が必ずしも高くもないことなどにより、ヒトにおいては正常状態での解析も十分になされていなかった。しかしながら、我々が確立した方法により末梢血を循環する樹状細胞をそのままの状態で解析することが可能になり、これらを用いて、我々は、免疫異常を呈する難治性疾患の病態を、樹状細胞の性状と機能の面から解析することにより、これまで不明とされていた疾患の病態を把握し、さらには治療に役立つ戦略の確立を目的とし現在研究を行っている。

血液部門：

同種造血幹細胞移植は、血液疾患の治療のみならず他の固形癌に対する治療戦略の一つとなりうることが示されつつあり、今後ますます重要な治療法になると考えられる。同種造血幹細胞移植の中心理念はアロ抗原や腫瘍抗原に対する免疫反応による腫瘍根絶 (graft-versus-tumor effect) であるが、この免疫

反応は両刃の剣であり host の組織障害性に作用し、しばしば致死性的となる GVHD (graft-versus-host disease) が依然大きな問題となっている。当教室では同種造血幹細胞移植に関連して生じるこれらのダイナミックな免疫系の動態を多角的に解析することにより、graft-versus-tumor effect と GVHD の発生機序およびその相違を明らかにし、より効果的に前者を誘導し同時に後者を抑制する新しい治療戦略の開発を目的として検討を行っている。同種造血幹細胞移植を受けた造血器腫瘍患者では急性 GVHD 発症時にはミエロイド系樹状細胞とリンパ系樹状細胞の双方が末梢血において著しく減少していることを明らかにした。GVHD 組織の免疫染色により、この減少は組織への能動的な動員によることが示された。これはドナーの樹状細胞がアロ抗原を提示することにより急性 GVHD を惹起する可能性を示唆している。一方、慢性 GVHD 発症時には急性 GVHD でみられたような末梢血樹状細胞の減少は認めなかった。しかしながら移植後慢性期にある患者では慢性 GVHD の発症の有無に関わらず IFN- γ および TNF- α 産生性のエフェクター T 細胞の増加を認めた。これらの患者では腫瘍の再発を認めていないことより、これらのエフェクター T 細胞が graft-versus-tumor effect を担っている可能性がある。また興味深いことに慢性 GVHD の発症時には IL-4 産生性の CD8+T 細胞が必ず出現することが明らかとなった。すなわちこの IL-4 産生性の CD8+T 細胞は慢性 GVHD の発症病態に深く関わっていることが示唆される。

呼吸器部門：

肺結核は高齢者のみならず、多くの若年者にも発症者が報告されており、現在最も重要視されている感染症のひとつである。結核菌に対する感染防御機構については、現在までに多くの研究がなされているが、当教室では抗原提示細胞として感染防御に重要である樹状細胞に焦点を当て検討を行っている。私たちはこれまで、肺結核患者では末梢血のミエロイド系樹状細胞が減少し選択的に結核組織に移行し Th1 応答を誘導していることを見いだした。また私たちは、結核と同様の肉芽腫性疾患に属するサルコイドーシスに注目し、その発症・疾患の進展の機序を、樹状細胞を含めた免疫応答のシステムの観点から解析することを試みている。サルコイドーシス患者ではミエロイド系樹状細胞のみならずリンパ系樹状細胞も末梢血において著しく減少していることを突き止めている。すなわち、同じ肉芽腫性疾患でも結核とサルコイドーシスでは樹状細胞の動態が異なることが明らかにされた。

免疫部門：

近年における免疫学の進展は著しく、その中でも当科が注目し研究対象としている樹状細胞は、生体免疫応答の要に位置する極めて重要な細胞といえ、各種感染症に対する防御免疫を担う中心的な存在として位置づけられる一方で、炎症性アレルギー性疾患、自己免疫疾患、悪性腫瘍等の発症・進展のメカニズムにおいても重要な意味をもつことが明らかにされつつある。また樹状細胞によって制御されているエフェクター T 細胞も Th1, Th2, regulatory T などの亜群により様々な疾患病態に関与すると考えられている。我々はヒト樹状細胞亜群ならびに制御性 T 細胞を含むエフェクター T 細胞亜群の解析を行っており、ヒトにおける免疫制御機構のデータを蓄積している。これらの結果から我々は免疫異常を呈する難治性疾患の病態解明、さらには治療に役立つ戦略の確立を目的とし日々、研究を行っている。

〈研究業績〉

原 著

1. Kanazawa S, Yamaguchi K, Kinoshita Y, Muramatsu M, Komiyama Y and Nomura S (2006) Aspirin reduces adverse effects of gefitinib. *Anticancer Drugs* 17(4): 423-427
2. Ogata N, Nomura S, Shouzu A, Imaizumi M,

- Arichi M and Matsumura M (2006) Elevation of monocyte-derived microparticles in patients with diabetic retinopathy. *Diabetes Res Clin Pract* 73(3): 241-248
3. Yagi Y, Otani H, Ando S, Oshiro A, Kawai K, Nishikawa H, Araki H, Fukuhara S and Inagaki C (2006) Involvement of Rho signaling in PAR2-

- mediated regulation of neutrophil adhesion to lung epithelial cells. *Eur J Pharmacol* 536(1-2): 19–27
4. Son Y, Ito T, Ozaki Y, Tanijiri T, Yokoi T, Nakamura K, Takebayashi M, Amakawa R and Fukuhara S (2006) Prostaglandin E2 is a negative regulator on human plasmacytoid dendritic cells. *Immunology* 119(1): 36–42
 5. Mizoroki F, Hirose Y, Sano M, Fukuda H, Tobinai K, Nakata M, Taniwaki M, Kawano F, Uozumi K, Sawada K, Fukuhara S, Nasu K, Ohno Y, Toki H, Togawa A, Kikuchi M, Hotta T and Shimoyama M (2006) A phase II study of VEPA/FEPP chemotherapy for aggressive lymphoma in elderly patients: Japan Clinical Oncology Group study JCOG9203. *Int J Hematol* 83(1): 55–62
 6. Nomura S, Shouzu A, Omoto S, Matsuzaki T, Yamaoka M, Abe M, Hosokawa M, Nishikawa M, Iwasaka T and Fukuhara S (2006) Genetic analysis of HLA, NA and HPA typing in type 2 diabetes and ASO. *Int J Immunogenet* 33(2): 117–122
 7. Kanazawa S, Yamaguchi K, Kinoshita Y, Komiyama Y, Muramatsu M and Nomura S (2006) Elevation of soluble interleukin-2 receptor in patients with non-small cell lung cancer treated with gefitinib. *J Cancer Res Clin Oncol* 132(11): 719–725
 8. Kuwana M, Kurata Y, Fujimura K, Fujisawa K, Wada H, Nagasawa T, Nomura S, Kojima T, Yagi H and Ikeda Y (2006) Preliminary laboratory based diagnostic criteria for immune thrombocytopenic purpura: Evaluation by multi-center prospective study. *J Thromb Haemost* 4(9): 1936–1943
 9. Kimura H, Morii E, Ikeda JI, Ezoe S, Xu JX, Nakamichi N, Tomita Y, Shibayama H, Kanakura Y and Aozasa K (2006) Role of DNA methylation for expression of novel stem cell marker CDCP1 in hematopoietic cells. *Leukemia* 20(9): 1551–1556
 10. Shin-Nakai N, Ishida H, Yoshihara T, Imamura T, Yokoi K, Kasubuchi Y, Nomura S, Morimoto A and Imashuku S (2006) Control of hepatic veno-occlusive disease with an antithrombin-III concentrate-based therapy. *Pediatr Int* 48(1): 85–87
 11. Kanazawa S, Yamaguchi K, Kinoshita Y, Muramatsu M and Nomura S (2006) Fiberoptic bronchoscopy induces platelet activation. *Platelets* 17(3): 207–208
 12. Adachi Y, Oyaizu H, Taketani S, Minamino K, Yamaguchi K, Shultz LD, Iwasaki M, Tomita M, Suzuki Y, Nakano K, Koike Y, Yasumizu R, Sata M, Hiramata N, Kubota I, Fukuhara S and Ikehara S (2006) Treatment and transfer of emphysema by a new bone marrow transplantation method from normal mice to Tsk mice and vice versa. *Stem Cells* 24(9): 2071–2077
 13. Nomura S, Shouzu A, Omoto S, Nishikawa M, Fukuhara S and Iwasaka T (2006) Effect of valsartan on monocyte/endothelial cell activation markers and adiponectin in hypertensive patients with type 2 diabetes mellitus. *Thromb Res* 117(4): 385–392
 14. 福原資郎 (2006) 私のこの一枚 14q32転座型腫瘍 (14q+marker-positive cancer) の疾患概念. *血液フロンティア* 16(5): 685–690
 15. 中道尚人, 中井邦久, 福原資郎 (2006) 【多様化する造血幹細胞移植の適応と方法】個々の疾患の移植適応 骨髓異形成症候群. *内科* 98(2): 258–262
- 総説
1. 竹林匡史, 尼川龍一 (2006) 【樹状細胞の基本】自己免疫疾患における樹状細胞. *病理と臨床* 24(5): 497–503
- 学会発表
1. Komiyama Y, Yoshika M, Amakawa R, Shima M, Masaki H and Takahashi H (2006) Acquired Hemophilia A without Specified Underlying Diseases. *Asian Society of Clinical Pathology and Laboratory Medicine*, 神戸
 2. 尼川龍一 (2006) Functional alteration of TSLP-stimulated dendritic cells by BCG. 第68回日本血液学会・第48回日本臨床血液学会合同総会, 福岡
 3. Yokoi T, Amakawa R, Ito T, Tanijiri T, Son Y,

- Nakamura K, Shimizu T and Fukuhara S (2006) Functional alteration of TSLP-stimulated dendritic cells by BCG. 第17回樹状細胞研究会, 福岡
4. 重松明男, 足立 靖, 松本憲明, 小柳津治樹, 桐山直子, 向出裕美, 今村雅寛, 福原資郎, 池原 進 (2006) 同種骨髄移植後に急性腎不全を発症した一剖検例. 第35回日本病理学会近畿支部学術集会, 京都
 5. 横井 崇, 尼川龍一, 伊藤量基, 谷尻 力, 孫瑛洙, 杉本博是, 清水俊樹, 福原資郎 (2006) 樹状細胞の機能 トランスと機能偏向を中心にBCGによる樹状細胞の機能変換. 第36回日本免疫学会総会, 大阪
 6. 鳥居芳太郎, 清水俊樹, 伊藤量基, 尼川龍一, 福原資郎 (2006) 制御性T細胞と免疫寛容 ヒトCD25陽性制御性T細胞に対するフローサイトメーターによる細胞内リン酸化タンパク質の複合解析. 第36回日本免疫学会総会, 大阪
 7. 玉置岳史, 上平和孝, 金田浩由紀, 齋藤幸人, 中村 宏, 平本久子, 馬庭知弘, 矢木泰弘, 米津精文, 福原資郎 (2006) 化学療法が奏効し, 外科的切除を行った縦隔原発胚細胞性腫瘍の一例. 第47回日本肺癌学会総会, 京都
 8. 寺西節子, 岸本裕司, 山本茉美, 寺嶋由香利, 有元美代子, 細川美香, 市邊明美, 岡前文子, 福原資郎 (2006) 院内LANを利用した血液製剤保冷庫温度管理システム. 第50回日本輸血学会近畿支部総会, 大阪
 9. 中西孝尚, 森真一郎, 藤田真也, 松本憲明, 尼川龍一, 福原資郎 (2006) 悪性リンパ腫による傍腫瘍症候群と考えられた一例. 第86回近畿血液学会地方会, 和歌山
 10. 藤原通恵, 小宮山豊, 宗像真智子, 吉賀正亨, 榊田 緑, 正木浩哉, 香川英生, 尼川龍一, 内田陽子, 安田勝彦, 嶋 緑倫, 高橋伯夫 (2006) 後天性血友病患者の帝王切開による出産と凝固検査. 第53回日本臨床検査医学会総会, 弘前
 11. 谷岡理恵, 松本憲明, 藤田真也, 森真一郎, 尼川龍一, 福原資郎 (2006) 再発・治療抵抗性B細胞性非ホジキンリンパ腫に対するRituximab+ESHAP併用療法. 第48回日本臨床血液学会, 福岡
 12. 森真一郎, 中村謙吾, 田嶋健一郎, 松本憲明, 山本義尚, 尼川龍一, 岸本裕司, 藤本正博, 福原資郎 (2006) 濾胞性リンパ腫に対するリツキシマブ維持療法. 第68回日本血液学会・第48回日本臨床血液学会合同総会, 福岡
 13. 谷尻 力, 清水俊樹, 安室秀樹, 杉本博是, 鳥居芳太郎, 孫瑛洙, 横井崇, 尼川龍一, 福原資郎 (2006) ホジキンリンパ腫細胞株KM-H2による制御型T細胞様細胞の誘導. 第68回日本血液学会・第48回日本臨床血液学会合同総会, 福岡
 14. 藤田真也, 森真一郎, 谷岡理恵, 松本憲明, 尼川龍一, 福原資郎 (2006) 局所放射線療法およびRituximab維持療法が奏効した膵胸関連リンパ腫の1例. 第68回日本血液学会・第48回日本臨床血液学会合同総会, 福岡
 15. 平本展大, 岸本裕司, 田嶋健一郎, 山本義尚, 藤本正博, 福原資郎 (2006) 著しいリンパ球減少にて発症し malignant lymphoma を合併したMDS. 第68回日本血液学会・第48回日本臨床血液学会合同総会, 福岡
 16. 伊藤量基, LiuYong, Jun, 尼川龍一, 福原資郎 (2006) OX40 ligand shuts down IL-10-producing regulatory T cells. 日本血液学会 臨床血液学会 合同総会, 福岡
 17. 寺岡安津子, 小宮山豊, 寺内里恵, 宗像真智子, 尼川龍一, 嶋 緑倫, 松本智子, 吉賀正亨, 正木浩哉, 高橋伯夫 (2006) 基礎疾患不明の後天性血友病Aによる出血を認めた30代男性. 第7回日本検査血液学会学術集会, 東京
 18. 杉本博是, 森真一郎, 横井 崇, 尾崎吉郎, 伊藤量基, 植村芳子, 尼川龍一, 福原資郎 (2006) 唾液腺 MALT リンパ腫における樹状細胞の動態解析. 第46回日本リンパ網内系学会, 名古屋
 19. 安藤性實, 大谷ひとみ, 矢木泰弘, 大城明寛, 稲垣千代子, 福原資郎 (2006) マウス肺上皮細胞のプロテアーゼ活性化受容体4刺激による細胞内Ca²⁺シグナル. 第47回日本呼吸器学会学術講演会, 東京
 20. 岸本裕司, 寺嶋由香利, 有元美代子, 細川美香, 阿部 操, 岡前文子, 山岡 学, 大谷哲司, 大西修司, 寺西節子, 福原資郎 (2006) 輸血関連急性肺障害 (TRALI) を契機にALIにて死亡した骨髄異形成症候群. 第54回日本輸血学会総会, 大阪

21. 大谷哲司, 岸本裕司, 寺嶋由香利, 有元美代子, 細川美香, 阿部 操, 岡前文子, 山岡学, 大西修司, 寺西節子, 福原資郎 (2006) 細胞療法のオーダーリング化と管理システムの導入. 第54回日本輸血学会総会, 大阪
22. 大谷哲司, 岸本裕司, 寺嶋由香利, 有元美代子, 細川美香, 阿部 操, 岡前文子, 山岡学, 大西修司, 寺西節子, 福原資郎 (2006) 細胞療法のオーダーリング化と管理システムの導入. 第54回日本輸血学会総会, 大阪
23. 中矢桂子, 大西修司, 鈴木 敏, 森眞一郎 (2006) 抗Cおよび抗e抗体が原因と思われる遅延性溶血性輸血副作用 (DHTR) の1症例. 第54回日本輸血学会総会, 大阪
24. 岸本裕司, 寺嶋由香利, 有元美代子, 細川美香, 阿部 操, 岡前文子, 山岡 学, 大谷哲司, 大西修司, 寺西節子, 福原資郎 (2006) 輸血関連急性肺障害 (TRALI) を契機にALIにて死亡した骨髓異形性症候群. 第54回日本輸血学会総会号, 大阪
25. 吉賀正亨, 小宮山豊, 安田勝彦, 尼川龍一, 高橋伯夫 (2006) 迅速に診断が求められた異常フィブリノゲン (Fbg) 症の2例. 第103回日本内科学総会講演会, 東京
26. 中谷晃之, 和田孝彦, 濱田 彰, 宮島茂夫, 尾崎吉郎, 市川宜弘 (2006) 関節リウマチに対するインフリキシマブ (レミケード) の治療成績. 第50回日本リウマチ学会総会, 長崎
27. 安室秀樹, 孫瑛洙, 竹林匡史, 永濱美紀, 尾崎吉郎, 福原資郎 (2006) 汎発型モルフィア様の皮膚硬化を認めた Bruton 型無ガンマグロブリン血症の一例. 第50回日本リウマチ学会総会・学術集会, 長崎
28. 安藤性實, 大谷ひとみ, 矢木泰弘, 大城明寛, 河合建蔵, 荒木宏昌, 稲垣千代子 (2006) マウス肺上皮細胞の PAR-4 刺激誘発 Ca^{2+} シグナルの解析 Protease-activated receptor 4-mediated increase in $[Ca^{2+}]_i$ in cultured mouse lung epithelial cells. 第79回日本薬理学会年会, 横浜
29. 大谷ひとみ, 安藤性實, 矢木泰弘, 河合建蔵, 西川裕之, 荒木宏昌, 稲垣千代子 (2006) プロテアーゼ活性化受容体1刺激による心筋細胞内フォーカルアドヒージョンキナーゼの活性化機構 Protease activated receptor-1-mediated activation of focal adhesion kinase in rat cardiomyocytes. 第79回日本薬理学会年会, 横浜

著 書

1. 森眞一郎 (2006) 【検査計画法】NK/T リンパ腫. 血液疾患ハンドブック 下巻, 92-98 頁, 医薬ジャーナル社, 東京

内科学第二講座

〈研究業績〉

原 著

1. Abhayaratna WP, Barnes ME, O'Rourke MF, Gersh BJ, Seward JB, Miyasaka Y, Bailey KR and Tsang TS (2006) Relation of arterial stiffness to left ventricular diastolic function and cardiovascular risk prediction in patients > or =65 years of age. *Am J Cardiol* 98(10): 1387-1392
2. Tsang TS, Barnes ME, Abhayaratna WP, Cha SS, Gersh BJ, Langins AP, Green TD, Bailey KR, Miyasaka Y and Seward JB (2006) Effects of quinapril on left atrial structural remodeling and arterial stiffness. *Am J Cardiol* 97(6): 916-920
3. Kyoi S, Otani H, Matsuhisa S, Akita Y, Enoki C, Tatsumi K, Hattori R, Imamura H, Kamihata H and Iwasaka T (2006) Role of oxidative/nitrosative stress in the tolerance to ischemia/reperfusion injury in cardiomyopathic hamster heart. *Antioxid Redox Signal* 8(7-8): 1351-1361
4. Takamiya M, Okigaki M, Jin D, Takai S, Nozawa Y, Adachi Y, Urao N, Tateishi K, Nomura T, Zen K, Ashihara E, Miyazaki M, Tatsumi T, Takahashi T and Matsubara H (2006) Granulocyte Colony-Stimulating Factor? Mobilized Circulating c-Kit+/Flk-1+ Progenitor Cells Regenerate Endothelium and Inhibit Neointimal Hyperplasia

After Vascular Injury *Arterioscler Thromb Vasc Biol* 26(4): 751–757

5. Ikebukuro K, Adachi Y, Suzuki Y, Iwasaki M, Nakano K, Koike Y, Mukaide H, Yamada Y, Fujimoto S, Seino Y, Oyaizu H, Shigematsu A, Kiriya N, Hamada Y, Kamiyama Y and Ikehara S (2006) Synergistic effects of injection of bone marrow cells into both portal vein and bone marrow on tolerance induction in transplantation of allogeneic pancreatic islets. *Bone Marrow Transplant* 38(10): 657–664
6. Kyo S, Otani H, Hamano A, Matsuhisa S, Akita Y, Fujiwara H, Hattori R, Imamura H, Kamihata H and Iwasaka T (2006) Dystrophin is a possible end-target of ischemic preconditioning against cardiomyocyte oncosis during the early phase of reperfusion. *Cardiovasc Res* 70(2): 354–363.
7. Kyo S, Otani H, Matsuhisa S, Akita Y, Tatsumi K, Enoki C, Fujiwara H, Imamura H, Kamihata H and Iwasaka T (2006) Opposing effect of p38 MAP kinase and JNK inhibitors on the development of heart failure in the cardiomyopathic hamster. *Cardiovasc Res* 69(4): 888–898
8. Miyasaka Y, Barnes ME, Gersh BJ, Cha SS, Bailey KR, Abhayaratna WP, Seward JB and Tsang TS (2006) Secular trends in incidence of atrial fibrillation in Olmsted County, Minnesota, 1980 to 2000, and implications on the projections for future prevalence. *Circulation* 114(2): 119–125
9. Otani H, Matsuhisa S, Akita Y, Kyo S, Enoki C, Tatsumi K, Fujiwara H, Hattori R, Imamura H and Iwasaka T. (2006) Role of mechanical stress in the form of cardiomyocyte death during the early phase of reperfusion. *Circ J* 70(10): 1344–1355
10. Yamamoto S, Kamihata H, Sutani Y, Akita Y, Otani H and Iwasaka T (2006) Effects of intravenous administration of tissue plasminogen activator before thrombectomy in patients with acute myocardial infarction. *Circ J* 70(3): 243–247
11. Kishimoto N, Mori Y, Yamahara H, Kijima Y, Nose A, Uchiyama-Tanaka Y, Tokoro T, Nagata T, Umeda Y, Takahashi N, Yoshida H and Matsubara H (2006) Cytoplasmic antineutrophil cytoplasmic antibody positive pauci-immune glomerulonephritis associated with infectious endocarditis. *Clin Nephrol* 66(6): 447–454
12. Ogata N, Nomura S, Shouzu A, Imaizumi M, Arichi M and Matsumura M (2006) Elevation of monocyte-derived microparticles in patients with diabetic retinopathy. *Diabetes Res Clin Pract* 73(3): 241–248
13. Miyasaka Y, Barnes ME, Gersh BJ, Cha SS, Bailey KR, Abhayaratna W, Seward JB, Iwasaka T and Tsang TSM (2006) Incidence and mortality risk of congestive heart failure in atrial fibrillation patients: A community-based study over two decades. *Eur Heart J* 27(8): 936–941
14. Hasegawa T, Kosaki A, Shimizu K, Matsubara H, Mori Y, Masaki H, Toyoda N, Inoue-Shibata M, Nishikawa M and Iwasaka T (2006) Amelioration of diabetic peripheral neuropathy by implantation of hematopoietic mononuclear cells in streptozotocin-induced diabetic rats. *Exp Neurol* 199(2): 274–280
15. Morimoto S, Yano Y, Maki K and Sawada K (2006) Renal and vascular protective effects of telmisartan in patients with essential hypertension. *Hypertens Res* 29(8): 567–572
16. Sonoyama K, Ninomiya H, Igawa O, Kaetsu Y, Furuse Y, Hamada T, Miake J, Li P, Yamamoto Y, Ogino K, Yoshida A, Taniguchi S I, Kurata Y, Matsuoka S, Narahashi T, Shiota G, Nozawa Y, Matsubara H, Horiuchi M, Shirayoshi Y and Hisatome I (2006) Inhibition of inward rectifier K⁺ currents by angiotensin II in rat atrial myocytes: Lack of effects in cells from spontaneously hypertensive rats. *Hypertens Res* 29(11): 923–934
17. Yamada K, Tsuji H, Tokunaga S, Kurimoto K, Maeba H, Matsuhisa S, Inami N and Iwasaka T (2006) Effect of beta-blockers on the mortality of Japanese patients with myocardial infarction. *Int J Cardiol* 108(3): 309–313
18. Nomura S, Shouzu A, Omoto S, Matsuzaki T, Yamaoka M, Abe M, Hosokawa M, Nishikawa

- M, Iwasaka T and Fukuhara S (2006) Genetic analysis of HLA, NA and HPA typing in type 2 diabetes and ASO. *Int J Immunogenet* 33(2): 117–122
19. Das S, Otani H, Maulik N and Das DK (2006) Redox regulation of angiotensin II preconditioning of the myocardium requires MAP kinase signaling. *J Mol Cell Cardiol* 41(2): 248–255
20. Zen K, Okigaki M, Hosokawa Y, Adachi Y, Nozawa Y, Takamiya M, Tatsumi T, Urao N, Tateishi K, Takahashi T and Matsubara H (2006) Myocardium-targeted delivery of endothelial progenitor cells by ultrasound-mediated microbubble destruction improves cardiac function via an angiogenic response. *J Mol Cell Cardiol* 40(6): 799–809
21. Hatada K, Ruiz M, Riou LM, Lima RL, Goode AR, Watson DD, Beller GA and Glover DK (2006) Organ biodistribution and myocardial uptake, washout, and redistribution kinetics of Tc-99m N-DBODC5 when injected during vasodilator stress in canine models of coronary stenoses. *J Nucl Cardiol* 13(6): 779–790
22. Tsang TS, Abhayaratna WP, Barnes ME, Miyasaka Y, Gersh BJ, Bailey KR, Cha SS and Seward JB (2006) Prediction of cardiovascular outcomes with left atrial size: is volume superior to area or diameter? *J Am Coll Cardiol* 47(5): 1018–1023
23. Umemura S, Nakamura S, Sugiura T, Tsuka Y, Fujitaka K, Yoshida S, Baden M and Iwasaka T (2006) The effect of verapamil on the restoration of myocardial perfusion and functional recovery in patients with angiographic no-reflow after primary percutaneous coronary intervention. *Nucl Med Commun* 27(3): 247–254
24. Zhang Y, Adachi Y, Suzuki Y, Minamino K, Iwasaki M, Nakano K, Koike Y, Mukaide H, Shigematsu A, Kiriya N, Li C and Ikehara S (2006) Synergistic effects of granulocyte-colony stimulating factor and macrophage-colony stimulating factor on recovery of donor hematopoietic cells in allogeneic bone marrow transplantation. *Oncol Rep* 16(2): 367–371
25. Zhang Y, Adachi Y, Iwasaki M, Minamino K, Suzuki Y, Nakano K, Koike Y, Mukaide H, Shigematsu A, Kiriya N, Li C and Ikehara S (2006) G-CSF and/or M-CSF accelerate differentiation of bone marrow cells into endothelial progenitor cells in vitro. *Oncol Rep* 15(6): 1523–1527
26. Inami N, Nomura S, Manabe K, Kimura Y and Iwasaka T (2006) Platelet-derived chemokine RANTES may be a sign of restenosis after percutaneous coronary intervention in patients with stable angina pectoris. *Platelets* 17(8): 565–570
27. Adachi Y, Oyaizu H, Taketani S, Minamino K, Yamaguchi K, Shultz LD, Iwasaki M, Tomita M, Suzuki Y, Nakano K, Koike Y, Yasumizu R, Sata M, Hiramata N, Kubota I, Fukuhara S and Ikehara S (2006) Treatment and transfer of emphysema by a new bone marrow transplantation method from normal mice to Tsk mice and vice versa. *Stem Cells* 24(9): 2071–2077
28. Nakano K, Adachi Y, Minamino K, Iwasaki M, Shigematsu A, Kiriya N, Suzuki Y, Koike Y, Mukaide H, Taniuchi S, Kobayashi Y, Kaneko K and Ikehara S (2006) Mechanisms underlying acceleration of blood flow recovery in ischemic limbs by macrophage colony-stimulating factor. *Stem Cells* 24(5): 1274–1279
29. Fukui M, Mori Y, Tsujimoto S, Takehana K, Sakamoto N, Kishimoto N, Imada T, Maeba H, Nose A, Yamahara H, Kijima Y, Kitamura T, Ueyama T, Kikuchi S, Tokoro T, Masaki H, Nishikawa M and Iwasaka T (2006) Takotsubo' cardiomyopathy in a maintenance hemodialysis patient. *Ther Apher Dial* 10(1): 94–100
30. Nomura S, Shouzu A, Omoto S, Nishikawa M, Fukuhara S and Iwasaka T (2006) Effect of valsartan on monocyte/endothelial cell activation markers and adiponectin in hypertensive patients with type 2 diabetes mellitus. *Thromb Res* 117(4): 385–392
31. 伊藤健一, 木村 稯, 田近亜蘭, 三宅眞理, 淵岡 聡, 岩坂壽二, 西山利正 (2006) Relationship between ultrasonography of knee cartilage and BMI, leg alignment and muscle strength in mid-

- dle-aged and elderly women. 日健医学会誌 15(1): 3-11
32. 森田 寛 (2006) 【経橈骨動脈冠動脈インターベンション 総論】経橈骨動脈冠動脈造影…当院ではこのようにしている (2). *Coronary Intervent* 2(2): 49-55
 33. 岩坂壽二, 宮坂陽子, 拝殿未央, 辻 久子 (2006) 【プライマリー不整脈疾患 その病態理解から治療へ】診る 健診と Brugada 症候群. *Heart View* 10(5): 544-547
 34. 元廣将之, 神島 宏, 酢谷保夫, 森田 寛, 栗本晃二, 五十野剛, 岩坂壽二 (2006) 冠動脈瘤内血栓が関与したと考えられる若年発症の急性心筋梗塞の1症例. *Jpn J Cardiovasc Catheter Ther* 6(1): 87-91
 35. 岩坂壽二, 高橋延行, 五十野剛, 朴 幸男, 上山敬直 (2006) 【生活習慣病の实地診療 最新の病期・病態別診療指針】生活習慣病の病期・病態別診療指針と薬の選択法 虚血性心疾患 一次予防, 二次予防からの観点. *Med Pract* 23(9): 1533-1537
 36. 西川光重, 豊田長興, 野村恵巳子 (2006) 【Common Disease インストラクションマニュアル 患者に何をどう説明するか】内分泌疾患 甲状腺機能亢進症. *Medicina* 43(12): 404-408
 37. 長谷川隆正 (2006) 【神経障害】難治性に対する最新治療は? 肥満と糖尿 5(6): 954-956
 38. 木村 穰 (2006) 【専門職能を活かす地域事業とネットワーク】医療機関とフィットネス施設を結ぶネットワーク メディカルパーソナルトレーナー (MPT) 制度について. *Sportsmed* 18(7): 6-12
 39. 森本 聡, 矢野 豊, 榎 系 (2006) 高脂血症治療における低用量アトルバスタチンの有用性について. *Ther Res* 27: 269-273
 40. 西川光重, 豊田長興, 天野佐織, 野村恵巳子 (2006) 【臨床に役立つ内分泌疾患診療マニュアル 2006】甲状腺疾患 甲状腺炎. ホルモンと臨 54 (春季増刊): 86-92
 41. 拝殿未央 (2006) Fundamental Lesson Ebstein 病はどのように診断して何に注意すればよいのか. *心エコー* 7(5): 346-352
 42. 高山康夫 (2006) 【心筋のねじれ】Fundamental Lesson 読み方 心臓の筋層の配置配列. *心エコー* 7(10): 762-771
 43. 楊培慧, 湯浅文雄, 湯山令輔, 杉浦哲朗, 岩坂壽二 (2006) 慢性心不全例におけるNOとブラディキニンの関係. *心臓* 38(Suppl. 2): 24-27
 44. 岩坂壽二 (2006) CCUから心リハ胸痛センターから健康科学センターその試みは正しいか? *心臓リハ* 11(1): 11-13
 45. 谷 康宏, 柴崎泰延, 吉田龍太郎, 田頭竜太, 高須由樹子, 植山華乃子, 密山加奈, 村瀬有紀, 徳田美智子, 新川康子, 野田裕幸, 佐藤利行, 西川光重 (2006) 当院における長期透析患者のQuality of Life (QOL). *大阪透析研究会誌* 24(2): 175-179
 46. 今田崇裕, 正木浩哉, 菊池早苗, 山原英樹, 河野啓子, 西川光重, 岩坂壽二 (2006) 腹膜再生 今後の課題と展望について. *大阪透析研究会誌* 24(2): 157-159
 47. 中嶋章貴, 坂口正博, 北村哲也, 岡 博史, 山原英樹, 福井政慶, 井庭理, 森本 聡, 正木浩哉, 柴原伸久, 井上 徹, 東 治人, 上田陽彦, 勝岡洋治 (2006) 透析患者のHelicobacter pylori感染診断 (抗体法と生検法の比較). *日透析医学会誌* 39: 193-195
 48. 豊田長興, 野村恵巳子, 西川光重 (2006) 【内分泌症候群 その他の内分泌疾患を含めて】甲状腺 Low T3 症候群, Low T4 症候群 (euthyroid sick syndrome). *日臨 別冊 (内分泌症候群)* : 504-507
 49. 西川光重, 豊田長興, 野村恵巳子 (2006) 【内分泌症候群 その他の内分泌疾患を含めて】甲状腺 単純性甲状腺腫 ヨード誘発性甲状腺腫. *日臨 別冊 (内分泌症候群)* : 451-455
 50. 野村恵巳子, 豊田長興, 西川光重 (2006) 【内分泌症候群 その他の内分泌疾患を含めて】甲状腺 甲状腺機能低下症 特発性粘液水腫・萎縮性甲状腺炎. *日臨 別冊 (内分泌症候群)* : 333-336
 51. 木村 穰, 馬場天信 (2006) 【アダプテッド・スポーツ その人に合ったスポーツ】肥満運動療法と心理的サポート. *保健の科学* 48(8): 565-569
 52. 木村 穰 (2006) 【高血圧に対する運動療法の

【実際】各論 高血圧の運動療法の実際. 臨ス
ポーツ医 23(12): 1479-1488

総説

1. Vidavalur R, Otani H, Singal PK and Maulik N (2006) Significance of wine and resveratrol in cardiovascular disease: French paradox revisited. *Exp Clin Cardiol* 11(3): 217-225
2. 森本 聡, 青田泰子, 佐久間孝雄, 岩坂壽二 (2006) 頭側延髄腹外側野への動脈による圧迫と高血圧の関連. *日臨生理会誌* 36(4): 167-170
3. 長谷川隆正, 小崎篤志 (2006) 糖尿病患者の高血圧治療について 大規模臨床試験をもとに. *日臨生理会誌* 36(1): 3-9
4. 森本 聡 (2006) Ca拮抗薬の役割 —作用機序を踏まえた薬剤選択—. *循環plus* 6: 7-9
5. 岩崎真佳, 足立 靖, 池原 進 (2006) マイクロバブルを用いたDrug Delivery System非虚血性心筋症の新しい治療戦略. *Biophilia* 2(1): 32-37

症例報告

1. 菊池早苗, 正木浩哉, 山原英樹, 今田崇裕, 早川 敬, 所 敏子, 森本 聡, 西川光重, 岩坂壽二 (2006) 交通性陰嚢水腫を来した腹膜透析患者の一例. *大阪 CAPD 研究会誌* 19: 32-35

学会発表

1. Imada T, Masaki H, Kikuchi S, Yamahara H, Hayakawa T, Tokoro T, Morimoto S, Nishikawa M and Iwasaka T (2006) Peritoneal regeneration by intraperitoneal infusion of autologous bone marrow mononucle (mesodermal precursor cells) in peritoneal dialysis rats. *ASN's 39th Annual Renal Week Meeting, San Diego*
2. Miyasaka Y, Barnes ME, Cha SS, Bailey KR, Abhayaratna W and Tsang TSM (2006) Natural history of first atrial fibrillation complicating acute myocardial infarction. *American Heart Association, Chicago*
3. Miyasaka Y, Barnes ME, Cha SS, Bailey KR, Abhayaratna W and Tsang TSM. (2006) First

atrial fibrillation following cardiac surgery: Risk for permanent atrial fibrillation and prognosis. *American Heart Association, Chicago*

4. Miyasaka Y, Barnes ME, Gersh BJ, Cha SS, Bailey KR, Abhayaratna W, Seward JB and Tsang TSM (2006) Gender differences in the incremental risk of coronary ischemic events following first atrial fibrillation. *American Heart Association, Chicago*
5. Miyasaka Y, Barnes ME, Gersh BJ, Cha SS, Leibson CL, Bailey KR, Abhayaratna W, Seward JB and Tsang TSM (2006) Changing trends in obesity and its impact on incidence of atrial fibrillation in Olmsted County, Minnesota 1980-2000. *American Heart Association, Chicago*
6. Yamamoto S, Kamihata H, Kurimoto K, Iharada Y, Manabe K, Yoshida S, Sakuma T, Senoo T, Moriguchi A, Yokoe H, Yurugi T and Iwasaka T (2006) A case of inferior AMI with long tubular thrombus formation extending to the distal end of the artery. 第6回日本心臓血管カテーテル治療学会学術集会, 広島
7. Manabe K, Inami N, Senoo T, Kimura Y, Nomura S and Iwasaka T (2006) Elevated levels of sP-selectin and MCP-1 in patients with restenosis after PCI. 第6回日本心臓血管カテーテル治療学会学術集会, 広島
8. Morimoto S (2006) Neurovascular compression of the rostral ventrolateral medulla as a cause of essential hypertension. *The 12th International Symposium on SHR, Kyoto*
9. Morimoto S, Tokoro T, Kikuchi S, Yamahara H, Imada T, Kohno K, Masaki H, Takahashi N, Nishikawa M and Iwasaka T (2006) Vascular protective Effects of Combined Therapy of Angiotensin Receptor Blocker and Angiotensin-converting Enzyme Inhibitor in Essential Hypertension. *The 21st Scientific Meeting of the International Society of Hypertension, Fukuoka*
10. Morimoto S, Tokoro T, Kikuchi S, Yamahara H, Imada T, Kohno K, Masaki H, Takahashi N, Nishikawa M and Iwasaka T (2006) Renal and Vascular Protective Effects of Telmisartan in Patients with Essential Hypertension. *The 21st*

Scientific Meeting of the International Society of Hypertension, Fukuoka

11. Morimoto S, Tokoro T, Kikuchi T, Yamahara H, Imada T, Kohno K, Masaki H, Takahashi N, Nishikawa M and Iwasaka T (2006) Effects of Efonidipine Hydrochloride on Heart Rate and Circulatory Changes due to Stress. The 21st Scientific Meeting of the International Society of Hypertension, Fukuoka
12. Miyasaka Y, Cha YM, Packer D, Kalmes PA, Barnes ME, Abhayaratna WP, Carlson LA, Bailey KR, Seward JB and Tsang TSM (2006) Comparison of left atrial volume by electrophysiology endocardial mapping and two dimensional echocardiography. American Society of Echocardiography, Baltimore
13. Imada T, Masaki H, Kikuchi S, Yamahara H, Hayakawa T, Tokoro T, Morimoto S, Takahashi N, Nishikawa M, Takahashi H and Iwasaka T (2006) Improvement of peritoneal membrane used autologous bone marrow mononuclear cells induced recovery of Peritoneal function: the relation of number of blood vessels. 第51回日本透析医学会学術集会・総会, 横浜
14. Akita Y, Otani H, Matsuhisa S, Kyoi S, Enoki C, Imamura H, Kamihata H, Kimura Y and Iwasaka T (2006) Regular Exercise Promotes Chronic Ischemic Tolerance via Activation of Cardiac Sympathetic Nerve, Oxidative Stress and Upregulation of iNOS. 70th Anniversary Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Nagoya
15. Iharada Y, Kamihata H, Morita Y, Yamamoto S, Kurimoto K, Kimura Y and Iwasaka T (2006) The Increase of Body Weight after Coronary Stent Implantation Affects Coronary Restenosis in None Diabetic Patients. 70th Anniversary Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Nagoya
16. Inami N, Nomura S, Shouzu A, Shouda Y, Takahashi N, Kimura Y, Tanaka A, Nanba M, Omoto S, Yamada K, Kajiura T and Iwasaka T (2006) Pitavastatin Increases Circulating Adiponectin in Hyperlipemic Patients. 70th Anniversary Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Nagoya
17. Iwasaki M, Adachi Y, Nishiue T, Yuasa F, Ikehara S and Iwasaka T (2006) Hepatocyte Growth Factor Delivery Using Ultrasound Induces Proliferation of Cardiomyocytes, and Amelioration of Left Ventricular Contractile Function in Doxorubicin-Induced Cardiomyopathy. 70th Anniversary Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Nagoya
18. Kyoi S, Ohtani H, Matsuhisa S, Akita Y, Enoki C, Imamura H, Kamihata H and Iwasaka T (2006) Phosphorylation of Dystrophin is a Molecular Link between Mitochondrial Protection and Prevention of Oncosis Mediated by Ischemic Preconditioning. 70th Anniversary Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Nagoya
19. Matsuhisa S, Ohtani H, Akita Y, Kyoi S, Enoki C, Imamura H, Kamihata H, Kimura Y and Iwasaka T (2006) Angiotensin II Type-1 Receptor Blocker Preserves Ischemic Tolerance in Hypertensive Rat Heart by Converting Cardioprotective Effect from iNOS- to eNOS-dependent Mechanism. 70th Anniversary Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Nagoya
20. Ohtani H, Manabe K, Matsuhisa S, Akita Y, Kyoi S, Enoki C, Fujiwara H, Imamura H and Iwasaka T (2006) Activation of Mitochondrial KATP Channels and Inhibition of Glycogen Synthase Kinase-3 β Independently Contribute to Cardioprotection Mediated by Ischemic Preconditioning. 70th Anniversary Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Nagoya
21. Ohtani H, Matsuhisa S, Akita Y, Kyoi S, Enoki C, Tatsumi K, Imamura H and Iwasaka T (2006) Aged Heart is Tolerant to Ischemia/Reperfusion Injury by Exposure to Oxidative-Nitrosative Stress and Resistant to Ischemic Preconditioning. 70th Anniversary Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Nagoya
22. Ohtani H, Matsuhisa S, Akita Y, Kyoi S, Enoki C, Tatsumi K, Imamura H and Iwasaka T (2006) Is

- Myocardial Hibernation a Self-defense Mechanism Against Contractile Force-induced Oncosis in Energy-depleted Myocyte? 70th Anniversary Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Nagoya
23. Ohtani H, Okada T, Enoki C, Wu Y, Tatsumi K, Matsuhisa S, Akita Y, Kyoi S, Iwasaka T and Imamura H (2006) Role of Phosphatidylinositol 3-kinase-mTOR Cascade in Self-renewal and Myogenic Differentiation of Bone Marrow-derived Mesenchymal Stem Cells. 70th Anniversary Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Nagoya
 24. Toyota E, Yoshida K and William C (2006) Not Sphingosine-1-phosphate but Endogenous Vascular Endothelial Growth Factor is Essential for Natural Growth of Coronary Collaterals in Rats. 70th Anniversary Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Nagoya
 25. Yoh M, Yuasa F and Iwasaka T (2006) Effect of Atrial Natriuretic Peptide on Cardiovascular Autonomic Modulation in Patients with Heart Failure. 70th Anniversary Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Nagoya
 26. Yoh M, Yuasa F and Iwasaka T (2006) Effect of Milrinone on Autonomic Nervous System in Patients with Heart Failure. 70th Anniversary Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Nagoya
 27. Enoki C, Otani H, Wu Y, Matsuhisa S, Akita Y, Kyoi S, Tatsumi K, Okada T, Hattori R and Imamura H (2006) IGF-1 Increases Engraftment of Transplanted Mesenchymal Stem Cells and Improves Cardiac Function without Differentiation in Rats with Myocardial Infarction. 70th Anniversary Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Nagoya
 28. Miyasaka Y, Barnes ME, Gersh BJ, Cha SS, Bailey KR, Abhayaratna W, Seward JB and Tsang TSM (2006) Trends in incidence of atrial fibrillation 1980-2000 and implications on projected prevalence for 2050. American College of Cardiology, Atlanta
 29. Miyasaka Y, Barnes ME, Cha SS, Bailey KR, Abhayaratna W, Carlson LA, Seward JB and Tsang TSM (2006) Predictors of death in patients with atrial fibrillation: the role of echocardiography. American College of Cardiology, Atlanta
 30. Kimura Y, Senoo T, Yamamoto S, Iharada Y, Akita Y, Manabe K and Iwasaka T (2006) Evaluation of Central and other Factors that Improve Ventilation Efficacy after Exercise Therapy for the Patients with Myocardial Infarction. 日本循環器学会, 名古屋
 31. Takehana K, Maeba H, Ueyama T, Yoshida M, Yoshida S, Hatada K and Iwasaka T (2006) Correlation between Regional Systolic Function and Regional Washout Rate of ^{99m}Tc -sestamibi in Patients with Idiopathic Dilated Cardiomyopathy. 日本循環器学会, 名古屋
 32. Ueyama T, Takehana K, Yoshida S, Yoshida M, Maeba H and Iwasaka T (2006) Clinical Significance of Ischemic ST Segment Depression During Dipyridamole Stress Myocardial Perfusion Imaging (MPI). 日本循環器学会, 名古屋
 33. Isono T, Motohiro M, Kamihata H, Seno T, Manabe K, Ueyama T and Iwasaka T (2006) Effect of Sodium Bicarbonate on the Prevention of Contrast Induced Nephropathy in Patients Undergoing Coronary Angiography. 日本循環器学会, 名古屋
 34. Isono T, Motohiro M, Kamihata H, Senoo T, Manabe K, Ueyama T and Iwasaka T (2006) Effect of Sodium Bicarbonate on the Prevention of Contrast Induced Nephropathy in Patients Undergoing Coronary Angiography. 日本循環器学会, 名古屋
 35. Senoo T, Kimura Y, Yamamoto S, Iharada Y, Akita Y, Inami N, Manabe K and Iwasaka T (2006) How autonomic nervous system improved with an effective CPAP treatment for OSAS? 日本循環器学会, 名古屋
 36. Senoo T, Motohiro M, Kamihata H, Sutani Y, Morita Y, Yamamoto S, Iharada Y, Kurimoto K, Park HN, Ueyama T, Matsuhisa S, Manabe K, Katoh S and Iwasaka T (2006) Contrast-induced

Nephropathy in Patients Undergoing Emergency Coronary Angiography for Acute Coronary Syndrome. 日本循環器学会, 名古屋

37. 原 克子, 朴 幸男, 正木浩哉, 高橋伯夫 (2006) シスタチンCの臨床的有用性. 第17回日本臨床化学会近畿支部総会, 大阪
38. 坪田 優, 高橋延行, 森本 聡, 所 敏子, 梅田幸久, 永田登志子, 河野啓子, 富山 尚, 岩坂壽二 (2006) 著明な低蛋白血症を呈した成人発症Henoch-Schoenlein紫斑病の1例. 第181回日本内科学会近畿地方会, 大阪
39. 豊嶋敦彦, 豊田長興, 野村恵巳子, 片瀬香織, 小崎篤志, 西川光重, 岩坂壽二 (2006) 甲状腺機能亢進症を呈した肋骨転移を伴った甲状腺癌の1例. 第181回日本内科学会近畿地方会, 大阪
40. 所 敏子, 菊池早苗, 山原英樹, 今田崇裕, 河野啓子, 正木浩哉, 高橋延行, 森本 聡, 西川光重, 岩坂壽二 (2006) 脳出血における腎不全治療としてCAPD療法を選択した1例. 2006年12月9日; 大阪市. 第20回大阪CAPD研究会, 大阪
41. 藤川美絵, 野村恵巳子, 豊田長興, 城ひろみ, 城 聡一, 片瀬香織, 井上 恵, 長谷川隆正, 小崎篤志, 森本 聡, 谷川 昇, 金森千春, 澤田 敏, 神崎秀陽, 松田公志, 高橋伯夫, 西川光重, 岩坂壽二 (2006) 原発性アルドステロン症に妊娠の合併をみた一症例. 第29回近畿内分泌と高血圧研究会, 大阪
42. 佐久間孝雄, 森本 聡, 青田泰子, 所 敏子, 岩坂壽二 (2006) うっ血性心不全をきたした多発性脳梗塞, 脳出血を伴う若年性高血圧症1症例. 第43回日本臨床生理学会, 福岡
43. 野村恵巳子, 豊田長興, 岩坂壽二, 西川光重 (2006) 動脈硬化の進展に及ぼす甲状腺ホルモンの影響—ApoEノックアウトマウスを用いた検討. 第49回日本甲状腺学会, 香川
44. 森本 聡, 青田泰子, 居原田善司, 山原英樹, 所 敏子, 正木浩哉, 高橋延行, 大村直人, 池田耕士, 澤田 敏, 岩坂壽二 (2006) クロニジンが著効を示した慢性腎不全を伴う難治性高血圧の一例. 第49回日本腎臓学会, 東京
45. 原 克子, 朴 幸男, 森田 寛, 正木浩哉, 高橋伯夫 (2006) 虚血性心疾患におけるレムナ

ントリポ蛋白コレステロール測定と有用性. 第53回日本臨床検査医学会学術集会, 弘前

46. 原 克子, 朴 幸男, 森田 寛, 正木浩哉, 高橋伯夫 (2006) 急性冠症候群 (ACS) における small dense LDL (sdLDL) の臨床的有用性. 第53回日本臨床検査医学会学術集会, 弘前
47. 正木浩哉, 今田崇裕, 菊池早苗, 徳野桂子, 宗像真智子, 高橋伯夫 (2006) 「骨髓細胞移植による血管新生療法」の効果判定における経皮組織酸素分圧の有用性の検討. 第53回日本臨床検査医学会学術集会, 弘前
48. 高尾奈那, 木村 稯, 上田加奈子, 田嶋佐和子, 斉藤 瞳, 佐藤 豪, 岩坂壽二 (2006) 肥満介入時の経時的体重変化による減量機序の検討. 第27回日本肥満学会, 神戸
49. 田嶋佐和子, 木村 稯, 福田正子, 浦上昌也, 岩坂壽二 (2006) 肥満患者における食品群別摂取量と体脂肪分布の関係. 第27回日本肥満学会, 神戸
50. 近藤八重子, 豊田長興, 野村恵巳子, 城 聡一, 城ひろみ, 片瀬香織, 井上 恵, 長谷川隆正, 小崎篤志, 岩坂壽二, 西川光重 (2006) Preclinical Cushing 症候群を呈したACTH非依存性大結節性副腎皮質過形成 (AIMAH) の1症例. 第7回日本内分泌学会近畿支部学術集会, 大阪
51. 森田龍頼, 豊田長興, 野村恵巳子, 城 聡一, 城ひろみ, 片瀬香織, 井上 恵, 長谷川隆正, 小崎篤志, 岩坂壽二, 西川光重 (2006) 精神発達遅延を伴い低Na血症を契機に診断された続発性副腎皮質機能不全の一症例. 第7回日本内分泌学会近畿支部学術集会, 大阪
52. 豊田長興 (2006) 甲状腺ホルモンの作用と代謝に関する最近の知見. 第7回日本内分泌学会近畿支部学術集会, 大阪
53. 小糸仁史, 森島景子, 森田 哲, 豊 紘, 岩坂壽二 (2006) 持続性・永続性心房細動における睡眠時無呼吸の有病率とその急性期治療効果. 54th Annual Scientific Session of the Japanese College of Cardiology, 鹿児島
54. 小糸仁史, 森島景子, 森田 哲, 豊 紘, 岩坂壽二 (2006) 安定うっ血性心不全における3年間在宅Bilevel NPPVの治療効果および予後. 54th Annual Scientific Session of the Japanese

College of Cardiology, 鹿児島

55. 野田佳織, 菊池早苗, 山原英樹, 今田崇裕, 正木浩哉, 西川光重, 岩坂壽二 (2006) 結核性心膜炎を併発した急性腎不全の一例. 大阪透析研究会, 大阪
56. 所 敏子, 菊池早苗, 山原英樹, 今田崇裕, 河野啓子, 森本 聡, 高橋延行, 正木浩哉, 宮地邦彦, 松本憲明, 永田登志子, 梅田幸久, 岩坂壽二 (2006) ネフローゼ症候群を呈する原発性アミロイドーシスに対して自己末梢血幹細胞移植を行なった一例. 第36回日本腎臓学会西部学術大会, 熊本
57. 森本 聡, 菊池早苗, 山原英樹, 今田崇裕, 所敏子, 河野啓子, 正木浩哉, 高橋延行, 西川光重, 岩坂壽二 (2006) イコデキストリン腹膜透析が有用であった難治性糖尿病性ネフローゼ症候群の一例. 第36回日本腎臓学会西部学術大会, 熊本
58. 藤川美絵, 森本 聡, 山原英樹, 所 敏子, 河野啓子, 高橋延行, 永田登志子, 梅田幸久, 岩坂壽二 (2006) 蛋白尿にて若年発症した軽鎖沈着症の一例. 第36回日本腎臓学会西部学術大会, 熊本
59. 真鍋憲市, 稲見則仁, 野村昌作, 木村 稔, 岩坂壽二 (2006) 経皮的冠動脈形成術後における液性因子の長期的な動向. 第54回心臓病学会学術集会, 鹿児島
60. 妹尾 健, 木村 稔, 真鍋憲市, 居原田善司, 山本哲史, 岩坂壽二 (2006) 心拍数パワースペクトル分析による閉塞性睡眠時無呼吸症候群に対するCPAPの影響. 第54回日本心臓病学会学術集会, 鹿児島
61. 高尾奈那, 木村 稔, 上田加奈子, 堤 博美, 中山英恵, 是枝ちづ, 岩坂壽二 (2006) NASH (非アルコール性脂肪性肝炎) における運動療法の検討. 第61回日本体力医学会大会, 神戸
62. 堤 博美, 上田加奈子, 高尾奈那, 木村 稔 (2006) 若年者の筋力, 運動耐容能と冠動脈危険因子の検討. 第61回日本体力医学会大会, 神戸
63. 堤 博美, 木村 稔, 上田加奈子, 高尾奈那, 高橋英幸 (2006) 若年者の体力評価とインスリン抵抗性の検討. 第61回日本体力医学会大会, 神戸
64. 所 敏子, 西本幸世, 嶋村邦宏, 高橋延行, 森本 聡, 西川光重, 岩坂壽二 (2006) 脳出血を発症した末期腎不全に対し腹膜透析治療の導入を行った一例. 第67回大阪透析研究会, 大阪
65. 森本 聡, 菊池早苗, 山原英樹, 今田崇裕, 所敏子, 河野啓子, 正木浩哉, 高橋延行, 西川光重, 岩坂壽二 (2006) 維持血液透析患者の予後推定における血流依存性血管拡張反応 (FMD) と脈波伝播速度 (PWV) 測定の意義. 第67回大阪透析研究会, 大阪
66. 大石千尋, 拝殿未央, 藤川美絵, 佐藤大祐, 岩坂潤二, 岩坂壽二 (2006) 急性期から慢性期まにかけて3D及びcolor kinesisで壁運動の改善を観察しえたたこつぼ型心筋症の1例. 第32回日本超音波医学会関西地方会学術集会, 大阪
67. 榎木千春, 佐藤大祐, 服部玲治, 今村洋二 (2006) 虚血性心筋症に対する骨髄間葉系幹細胞移植の検討ー冠動脈内注入と心筋内注入法. 第10回心筋・血管新生療法研究会, 福岡
68. 佐久間孝雄, 森本 聡, 青田泰子, 佐々木享, 岩坂壽二 (2006) 延髄血管運動中枢への動脈性圧迫を認める難治性高血圧患者における圧迫解除術の効果および機序について. 第4回交感神経とアンジオテンシンII研究会, 東京
69. 藤川美絵, 所 敏子, 菊池早苗, 山原英樹, 今田崇裕, 高橋延行, 森本 聡, 正木浩哉, 岩坂壽二 (2006) 慢性関節リウマチの経過中にアミロイド腎とANCA関連腎炎を合併した一例. 第179回日本内科学会近畿地方会, 大阪
70. 吉村 健, 寺口正之, 竹花一哉, 池田耕土, 澤田 敏, 金子一成 (2006) 川崎病冠動脈病変に対するマルチスライスCTの有用性. 第42回日本小児放射線学会, 東京
71. 森本 聡, 菊池早苗, 山原英樹, 今田崇裕, 所敏子, 河野啓子, 正木浩哉, 高橋延行, 岩坂壽二, Curt Sigmund (2006) ニューロン由来レニンとアンジオテンシノーゲンの発現亢進は高血圧, 飲水量および食塩嗜好の亢進を惹起する. 第49回日本腎臓学会学術総会, 東京
72. 森本 聡, 青田泰子, 居原田善司, 山原英樹, 所 敏子, 正木浩哉, 高橋延行, 大村直人, 池田耕土, 澤田 敏, 岩坂壽二 (2006) クロニ

- ジンは著効を示した慢性腎不全を伴う難治性高血圧の一例. 第49回日本腎臓学会学術総会, 東京
73. 福井政慶, 森 泰清, 北村哲也, 阪本憲彦, 竹花一哉, 正木浩哉, 中村誠志, 馬殿正人, 西川光重, 松原弘明, 岩坂壽二 (2006) 維持血液透析患者における虚血性心疾患の診断と予後: トレッドミル運動負荷後血圧反応の有用性. 第49回日本腎臓学会学術総会, 東京
74. 矢野 豊, 森本 聡, 玉垣圭一, 楨 系, 細川洋平 (2006) 診断に苦慮した Castleman disease の1例. 第49回日本腎臓学会総会, 東京
75. 菊池早苗, 正木浩哉, 山原英樹, 今田崇裕, 早川 敬, 所 敏子, 森本 聡, 西川光重, 岩坂壽二 (2006) debridementにより壊死性筋膜炎から救命しえた維持透析患者の一例. 第51回日本透析医学会学術集会・総会, 横浜
76. 山原英樹, 森 泰清, 岸本典子, 内山葉子, 菊池早苗, 今田崇裕, 能勢敦子, 早川 敬, 所敏子, 森本 聡, 高橋延行, 正木浩哉, 西川光重, 向山正志, 岩坂壽二 (2006) 腹膜中皮細胞及び腹膜由来線維芽細胞における CTGF 発現. 第51回日本透析医学会学術集会・総会, 横浜
77. 所 敏子, 菊池早苗, 山原英樹, 今田崇裕 (2006) azelnidipine 投与により排液混濁を呈した腹膜透析患者の2例. 第51回日本透析医学会学術集会・総会, 横浜
78. 森本 聡, 澤田克徳, 菊池早苗, 山原英樹, 今田崇裕, 所 敏子, 正木浩哉, 高橋延行, 西川光重, 岩坂壽二 (2006) 維持血液透析患者の予後推定における血流依存性血管拡張反応と脈波伝播速度測定の意義. 第51回日本透析医学会学術総会, 横浜
79. 福井政慶, 森 泰清, 中村誠志, 馬殿正人, 西川光重, 松原弘明, 岩坂壽二 (2006) 維持透析患者における虚血性心疾患のスクリーニング 心臓超音波検査による左室局所性壁運動異常の有用性. 第51回日本透析医学会学術総会, 横浜
80. 前原 稔, 稲見則仁, 野村昌作, 池田耕士, 大村直人, 黒川弘晶, 岩坂壽二, 澤田 敏 (2006) 非イオン性ヨード造影剤 (イオメプロール) による生体内での血小板活性化及び内皮機能障害についての検討. 第68回日本血液学会・第48回日本臨床血液学会合同総会, 福岡
81. 宮崎浩彰, 北村 臣, 里井壯平, 馬庭知弘, 湯浅文雄 (2006) 当院における電子クリティカルパスの導入. 第8回日本医療マネジメント学会学術総会, 横浜
82. 伊藤健一, 木村 稯, 田近亜蘭, 長野 聖, 淵岡聡, 岩坂壽二, 西山利正 (2006) 超音波でみた膝関節軟骨像と BMI・下肢アライメント・下肢筋力の関係 健康増進施設に通う中年女性と高齢女性間の比較. 第41回日本理学療法学会学術大会, 前橋
83. 近藤八重子, 豊田長興, 野村恵巳子, 城 聡一, 城ひろみ, 片瀬香織, 四馬田恵, 長谷川隆正, 小崎篤志, 木村 稯, 岩坂壽二, 西川光重 (2006) 冠攣縮性の急性冠症候群 (ACS) を発症した睡眠時無呼吸症候群 (SAS) を合併した2型糖尿病の一例. 第49回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京
84. 豊田長興, 野村恵巳子, 城 聡一, 城ひろみ, 片瀬香織, 四馬田恵, 長谷川隆正, 小崎篤志, 岩坂壽二, 西川光重 (2006) Liddle 症候群様の病態を呈した2型糖尿病の1例. 第49回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京
85. 野村恵巳子, 豊田長興, 城ひろみ, 城 聡一, 片瀬香織, 四馬田恵, 長谷川隆正, 小崎篤志, 岩坂壽二, 西川光重 (2006) ラット褐色脂肪に発現する Type 2 Iodothyronine Deiodinase (D2) 発現に及ぼす PPAR γ Agonist の影響. 第49回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京
86. 四馬田恵, 小崎篤志, 馬場天信, 佐藤 豪, 田嶋佐和子, 長谷川隆正, 豊田長興, 木村 譲, 城 聡一, 城ひろみ, 片瀬香織, 野村恵巳子, 西川光重, 岩坂壽二 (2006) 2型糖尿病患者における血糖コントロールと心理特性との関連性について2年後の検討. 第49回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京
87. 城ひろみ, 高山康夫, 小崎篤志, 吉田衣江, 長谷川隆正, 四馬田恵, 城 聡一, 片瀬香織, 野村恵巳子, 豊田長興, 西川光重, 岩坂壽二 (2006) 糖尿病症例での高血圧合併による心機能への影響. 第49回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京
88. 長谷川隆正, 小崎篤志, 松原弘明, 四馬田恵,

- 城 聡一, 城ひろみ, 片瀬香織, 森 泰清, 野村恵巳子, 豊田長興, 正木浩哉, 西川光重, 岩坂壽二 (2006) 骨髄および末梢血単核球細胞移植による糖尿病性末梢神経障害の改善機序の検討. 第49回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京
89. 片瀬香織, 小崎篤志, 浦上昌也, 森 泰清, 四馬田恵, 長谷川隆正, 城 聡一, 城ひろみ, 野村恵巳子, 豊田長興, 西川光重, 岩坂壽二 (2006) 血中S100A12 (EN-RAGE) タンパク質濃度への寄与因子の検討. 第49回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京
90. 狩谷秀治, 谷川 昇, 小島博之, 米虫 敦, 庄村裕三, 澤田 敏, 白石友邦, 渡邊美博, 江崎和芳, 山越恭雄, 川中俊明, 坂口典子 (2006) 中心静脈狭窄によるシャント不全に対する経皮的血管形成術の成績. 第66回大阪透析研究会, 大阪
91. 湯山令輔, 高山康夫, 吉田衣江, 松原恵子, 岩坂壽二 (2006) 急性心筋梗塞におけるステント内再狭窄と血管内皮機能の検討. 第79回日本超音波医学会学術集会, 大阪
92. 丸山勝也, 浮田千津子, 豊田長興 (2006) 巨大副腎皮質癌の肝転移により生じた難治性低血糖発作の一例. 第79回日本内分泌学会学術総会, 神戸
93. 近藤八重子, 豊田長興, 野村恵巳子, 城 聡一, 城ひろみ, 片瀬香織, 井上 恵, 長谷川隆正, 小崎篤志, 岩坂壽二, 西川光重 (2006) TSH 抵抗性の存在が疑われた偽性副甲状腺機能低下症Ib型の一例. 第79回日本内分泌学会学術総会, 神戸
94. 豊田長興, 天野佐織, 野村恵巳子, 岩坂壽二, 西川光重 (2006) 血管に発現するType 2 iodothyronine deiodinaseの調節機序と生理作用に関する検討. 第79回日本内分泌学会学術総会, 神戸
95. 野村恵巳子, 豊田長興, 藤川美絵, 城ひろみ, 城 聡一, 片瀬香織, 井上 恵, 長谷川隆正, 小崎篤志, 谷川 昇, 米虫 敦, 金森千春, 神崎秀陽, 岩坂壽二, 西川光重 (2006) 妊娠経過中に血漿レニン活性高値を示した原発性アルドステロン症の1症例. 第79回日本内分泌学会学術総会, 神戸
96. 野村恵巳子, 豊田長興, 岩坂壽二, 西川光重 (2006) 培養ラット大動脈平滑筋細胞 Type 2 iodothyronine deiodinase の発現に及ぼす glucocorticoid の影響. 第79回日本内分泌学会学術総会, 神戸
97. 伊藤健一, 木村 稔, 上田加奈子, 田近亜蘭, 淵岡 聡, 岩坂壽二, 西山利正 (2006) 膝関節軟骨エコー像の6ヵ月間の推移とBMI・下肢筋力の関係. 第24回臨床運動療法研究会, 大阪
98. 中村夏子, 田嶋佐和子, 木村 稔 (2006) Webカメラを用いた対面式栄養指導の試み 狭心症患者に対する在宅栄養管理の一症例. 第24回臨床運動療法研究会, 大阪
99. 狩谷秀治, 谷川 昇, 小島博之, 米虫 敦, 庄村裕三, 澤田 敏, 白石友邦, 山越恭雄, 渡邊美博, 江崎和芳, 川中俊明, 坂口典子 (2006) 側副流出静脈の経皮的コイル塞栓術による透析内シャントに起因するスチール症候群の治療. 第51回日本透析医学会学術集会/総会, 横浜
100. 狩谷秀治, 谷川 昇, 小島博之, 米虫 敦, 庄村裕三, 澤田 敏, 白石友邦, 山越恭雄, 渡邊美博, 江崎和芳, 川中俊明, 坂口典子 (2006) 流入動脈狭窄によるシャント不全に対する経皮的血管形成術の成績. 第51回日本透析医学会学術集会/総会, 横浜
101. 榎木千春, 大谷 肇, 服部玲治, 今村洋二 (2006) Insulin-like-growth factor-1 は心筋内に移植した骨髄間葉系幹細胞の生着を促進し, 心筋梗塞後の心機能を改善する. 第5回再生心臓血管外科治療研究会, 盛岡
102. 前原 稔, 稲見則仁, 野村昌作, 池田耕士, 大村直人, 黒川弘晶, 木村 稔, 岩坂壽二, 澤田 敏 (2006) 非イオン性ヨード造影剤(イオメブロール)による生体内での抗血栓性及び内皮障害についての検討. 第65回日本医学放射線学会, 横浜
103. 桐山直子, 足立 靖, 南野桂三, 岩崎真佳, 中野景司, 小池保志, 鈴木康弘, 向出裕美, 重松明男, 松村美代, 池原 進 (2006) SCID/huマウスを用いたヒト臍帯血からの網膜神経細胞への分化の検討. 第95回日本病理学会総会, 東京
104. 向出裕美, 足立 靖, 鈴木康弘, 岩崎真佳, 小池保志, 南野桂三, 中野景司, 重松明男, 桐

- 山直子, 上山泰男, 池原 進 (2006) IBM-BMTにDLIとドナー骨髄由来樹状細胞を併用した悪性腫瘍の治療法. 第95回日本病理学会総会, 東京
105. 重松明男, 足立 靖, 桐山直子, 岩崎真佳, 小池保志, 中野景司, 向出裕美, 今村雅寛, 池原 進 (2006) 低線量放射線照射が樹状細胞の活性化に及ぼす影響. 第95回日本病理学会総会, 東京
106. 小池保志, 足立 靖, 鈴木康弘, 南野桂三, 岩崎真佳, 向出裕美, 重松明男, 桐山直子, 上山泰男, 池原 進 (2006) ラット同種間骨髄内骨髄移植 (IBM-BMT) とドナーリンパ球注入療法 (DLI) による抗腫瘍効果の検討. 第95回日本病理学会総会, 東京
107. 中野景司, 足立 靖, 南野桂三, 鈴木康弘, 岩崎真佳, 小池保志, 向出裕美, 重松明男, 桐山直子, 池原 進 (2006) M-CSFによるendothelial progenitor cell (EPC) のmobilizationメカニズム. 第95回日本病理学会総会, 東京
108. 真鍋憲市, 稲見則仁, 野村昌作, 稲見 修, 木村 稔, 岩坂壽二 (2006) プロアスリートにおける肥満とインスリン抵抗性について. 臨床運動療法研究会, 大阪
109. Yoshida K, Takayama Y, Yuyama R, Jo H, Takashima H, Matsubara K and Iwasaka T (2006) Relations of Left Ventricular Geometric Patterns to Left Ventricular Systolic and Diastolic Function in Patients with Systemic Hypertension. 70th Anniversary Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Nagoya
110. Morimoto S, Aota Y, Iharada Y, Kikuchi S, Imada T, Masaki H and Iwasaka T (2006) Effects of Combined Therapy of Angiotensin Receptor Blocker and Angiotensin-converting Enzyme Inhibitor on Vascular Endothelial Dysfunction in Essential Hypertension. The 70th Anniversary Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 名古屋
111. 菊池早苗, 山原英樹, 山北哲也, 今田崇裕, 早川 敬, 所 敏子, 中嶋章貴, 森本 聡, 正木浩哉, 西川光重, 岩坂壽二 (2006) ワーファリンのみによる抗凝固療法にて血液維持透析が可能であったSLE, 抗リン脂質抗体症候群患者の一例. 大阪透析研究会, 大阪
112. 狩谷秀治, 谷川 昇, 小島博之, 米虫 敦, 庄村裕三, 澤田 敏, 白石友邦, 山越恭雄, 渡邊美博, 江崎和芳, 川中俊明, 坂口典子 (2006) 流入動脈狭窄によるシャント不全に対するバルーンPTA. 第11回バスキュラーアクセスインターベンション治療研究会, 東京
113. 稲見則仁, 野村昌作, 真鍋憲市, 木村 稔, 岩坂壽二 (2006) 亜急性血栓性閉塞 (SAT) 例での経皮的冠動脈形成術前後の全血凝集能 (WBA) の経時的变化の検討. 第33回日本集中治療医学会学術集会, 大阪
114. 岩坂壽二 (2006) 心臓救急への試みCCUから胸痛センターへ. 第33回日本集中治療医学会学術集会, 大阪
115. 真鍋憲市, 稲見則仁, 野村昌作, 木村 稔, 岩坂壽二 (2006) 経皮的冠動脈形成術後1ヵ月におけるmonocyte chemotactic peptide (MCP)-1, P, E-selectinの再狭窄群との比較. 第33回日本集中治療医学会学術集会, 大阪
116. 川上依理, 松元志穂, 松本有香子, 堂前景子, 中瀬有紀, 正木茂美, 木崎和美, 安本マリ (2006) 集中治療室における患者の家族の援助看護介入後の再評価. 第33回日本集中治療医学会学術集会, 大阪
117. 大北沙由利, 豊嶋理恵, 田嶋佐和子, 木崎和美, 安本マリ, 木村 稔 (2006) 循環器疾患における代謝変化とNSTの特徴. 第33回日本集中治療医学会学術集会, 大阪
118. 田嶋佐和子, 大北さゆり, 木村 稔, 安田由美, 木崎和美, 安本マリ, 岩坂壽二 (2006) 集中治療チーム全体で考えよう『集中治療での栄養サポートチーム』CCUにおける栄養アセスメントおよびNST活動の試み. 第33回日本集中治療医学会学術集会, 大阪
119. 福田真子, 安田由美, 川上依理, 橋岡由香里, 松岡佳代子, 百々由季, 木崎和美, 安本マリ, 木村 稔, 岩坂壽二 (2006) 虚血性心疾患患者の安静療法におけるストレス調査. 第33回日本集中治療医学会学術集会, 大阪
120. 平野智美, 中山由紀, 野波 章, 藤田享子, 正木茂美, 木崎和美, 安本マリ, 木村 稔, 岩坂壽二 (2006) CCU入室患者をとりまく環境

- の実際 せん妄発症予防を目指して. 第33回日本集中治療医学会学術集会, 大阪
121. 木村 稔 (2006) 集中治療に必要な全人医療としてのリハビリテーション. 第33回日本集中治療医学会学術集会, 大阪
122. 辰巳貴美子, 大谷 肇, 谷内昇一郎, 足立靖, 榎木千春, 池原 進, 今村洋二, 金子一成 (2006) Intra-bone Marrow Transplantation of Bone Marrow Does Not Repair Cardiomyopathic Heart with Targeted Mutation of delta-sarcoglycan Gene. 第5回日本再生医療学会, 名古屋
123. 森本 聡, 澤田克徳, 菊池早苗, 山原英樹, 今田崇裕, 所 敏子, 正木浩哉, 高橋延行, 西川光重, 岩坂壽二 (2006) Toe-brachial index 低値と各種背景因子の関連についての検討. 第66回大阪透析研究会, 大阪市
124. Imada T, Masaki H, Kikuchi S, Inami N, Kimura M, Takahashi H, Iwasaka T (2006) Effect of Antiplatelet Drugs at Angiogenic Cell Therapy. 第70回記念日本循環器学会学術集会, 名古屋
125. 高尾奈那, 木村 稔, 秋山由佳, 中山英恵, 宮内拓史, 上田加奈子, 田嶋佐和子, 海堀昌樹, 上山泰男, 廣原淳子, 岩坂壽二 (2006) 脂肪肝を伴う肝臓移植ドナー運動療法の1例. 第24回臨床運動療法研究会, 大阪
126. 中山英恵, 木村 稔, 高尾奈那, 宮内拓史, 上田加奈子, 岩坂壽二 (2006) アスリートにおける運動負荷後の心拍数減衰率に及ぼす因子の検討. 第24回臨床運動療法研究会, 大阪
127. 木村 稔 (2006) 医療機関での生活習慣病運動療法施設の現状と今後 新しい医療サービスとしての運動療法. 第24回臨床運動療法研究会, 大阪
128. 木村 稔, 居原田善司, 妹尾 健, 真鍋憲市, 稲見則仁, 山本哲史, 秋田雄三, 岩坂壽二 (2006) 健診後の. 遠隔 (IT) 介入による生活習慣病管理システムの開発 第34回日本総合健診医学会大会, 別府
129. 廣瀬遼子, 黒川あかね, 東森佳子, 森本 聡, 福井富穂 (2006) 腎不全 (代償期・非代償期を含む) における栄養管理とQOL. 第9回日本病態栄養学会年次学術集会, 和歌山
130. Park H, Morita Y, Kamihata H, Kimura Y, Iwasaka T, Yamamoto Y, Sakuma T, Mizumoto T, Adachi K, Morita Y, Kamihata H, Kimura Y, Iwasaka T and Sakuma T (2006) The Management of Acute Limb Ischemia: Fluoroscopically Assisted Hybrid Thrombectomy. The 5th Korea-Japan Joint Symposium on Critical Care Medicine, Seoul
131. 榎木千春, 大谷 肇, 呉 越, 辰巳貴美子, 服部玲治, 今村洋二 (2006) IGF-1 increases engraftment of transplanted mesenchymal stem cells and improves cardiac function without differentiation in rats with myocardial infarction. 第5回日本再生医療学会, 盛岡

内科学第三講座

〈研究業績〉

原著

1. Yoshimura M, Pearson S, Kadota Y and Gonzalez CE (2006) Identification of ethanol responsive domains of adenylyl cyclase. *Alcohol Clin Exp Res* 30(11): 1824-1832
2. Iwano M, Watanabe N, Matsushima Y, Seno H, Oki K, Sakurai T, Inagaki H, Okazaki K and Chiba T (2006) Rapid development of diffuse large B-cell lymphoma after successful eradication of *Helicobacter pylori* for gastric MALT lymphoma. *Am J Gastroenterol* 101(12): 2878-2883
3. Ohashi S, Nishio A, Nakamura H, Kido M, Ueno S, Uza N, Inoue S, Kitamura H, Kiriya K, Asada M, Tamaki H, Matsuura M, Kawasaki K, Fukui T, Watanabe N, Nakase H, Yodoi J, Okazaki K and Chiba T (2006) Protective roles of redox-active protein thioredoxin-1 for severe acute pancreatitis. *Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol* 290(4): G772-G781
4. Kiyozuka Y, Yamamoto M, Matsuyama T, Miki K, Tsukamoto R, Shimano N and Tsubura A (2006) Synchronous granular cell tumor of the bladder, endometrial carcinoma and endometrial

- stromal sarcoma. *Asia Pacific J Clin Oncol* 2(1): 64–67
5. Kaibori M, Ha-Kawa S K, Uchida Y, Ishizaki M, Hijikawa T, Saito T, Imamura A, Hirohara J, Uemura Y, Tanaka K and Kamiyama Y (2006) Recurrent Hepatitis C After Living Donor liver Transplantation Detected by Tc-99m GSA Liver Scintigraphy. *Dig Dis Sci* 51(11): 2013–2017
 6. Matsushita M, Uchida K, Tahashi Y and Okazaki K (2006) Management of gastric variceal bleeding. *Endoscopy* 38(10): 1054
 7. Tamaki H, Nakamura H, Nishio A, Nakase H, Ueno S, Uza N, Kido M, Inoue S, Asada M, Kiriya K, Kitamura H, Ohashi S, Fukui T, Kawasaki K, Matsuura M, Ishii Y, Okazaki K, Yodoi J and Chiba T (2006) Human Thioredoxin-1 Ameliorates Experimental Murine Colitis in Association with Suppressed MIF Production. *Gastroenterology* 131(4): 1110–1121
 8. Fukui T, Nishio A, Okazaki K, Uza N, Ueno S, Kido M, Inoue S, Kitamura H, Kiriya K, Ohashi S, Asada M, Tamaki H, Matsuura M, Kawasaki K, Suzuki K, Uchida K, Fukui H, Nakase H, Watanabe N and Chiba T (2006) Gastric mucosal hyperplasia via upregulation of gastrin induced by persistent activation of gastric innate immunity in major histocompatibility complex class II deficient mice. *Gut* 55(5): 607–615
 9. Chung H, Kudo M, Haji S, Osaki Y, Oka H, Seki T, Kasugai H and Sasaki Y (2006) A proposal of the modified liver damage classification for hepatocellular carcinoma. *Hepatol Res* 34(2): 124–129
 10. Yuri T, Tsukamoto R, Uehara N, Matsuoka Y and Tsubura A (2006) Effects of different durations of estrogen and progesterone treatment on development of N-methyl-N-nitrosourea-induced mammary carcinomas in female Lewis rats. *In Vivo* 20(6B): 829–836
 11. Nakase H, Nishio A, Tamaki H, Matsuura M, Asada M, Chiba T and Okazaki K (2006) Specific antibodies against recombinant protein of insertion element 900 of *Mycobacterium avium* subspecies paratuberculosis in Japanese patients with Crohn's disease. *Inflamm Bowel Dis* 12(1): 62–69
 12. Okazaki K (2006) Is outcome of autoimmune pancreatitis similar to conventional types of chronic pancreatitis? *Intern Med* 45(9): 571–572
 13. Zou Y, Yang Y, Li J, Li W and Wu Q (2006) Prevention of hepatic injury by a traditional Chinese formulation, BJ-JN, in mice treated with Bacille-Calmette-Guérin and lipopolysaccharide. *J Ethnopharmacol* 107(3): 442–448
 14. Okazaki K, Kawa S, Kamisawa T, Naruse S, Tanaka S, Nishimori I, Ohara H, Ito T, Kiriya S, Inui K, Shimosegawa T, Koizumi M, Suda K, Shiratori K, Yamaguchi K, Yamaguchi T, Sugiyama M and Otsuki M (2006) Clinical diagnostic criteria of autoimmune pancreatitis: Revised proposal. *J Gastroenterol* 41(7): 626–631
 15. Seno H, Konishi Y, Wada M, Fukui H, Okazaki K and Chiba T (2006) Endoscopic ultrasonograph evaluation of vascular structures in the gastric cardia predicts esophageal variceal recurrence following endoscopic treatment. *J Gastroenterol Hepatol* 21(1 Pt.2): 227–231
 16. Yuri T, Tsukamoto R, Miki K, Uehara N, Matsuoka Y and Tsubura A (2006) Biphasic effects of zeranol on the growth of estrogen receptor-positive human breast carcinoma cells. *Oncol Rep* 16(6): 1307–1312
 17. Sakaguchi Y, Inaba M, Kusafuka K, Okazaki K and Ikehara S (2006) Establishment of animal models for three types of pancreatitis and analyses of regeneration mechanisms. *Pancreas* 33(4): 371–381
 18. Takamido S, Kataoka Y, Tanano A, Cui Y, Ikeura T, Shimatani M, Kubota Y, Okazaki K and Yamada H (2006) Intrapancreatic axonal hyperbranching of dorsal root ganglia neurons in chronic pancreatitis model rats and its relation to pancreatic pain. *Pancreas* 33(3): 268–279
 19. Asada M, Nishio A, Uchida K, Kido M, Ueno S, Uza N, Kiriya K, Inoue S, Kitamura H, Ohashi S, Tamaki H, Fukui T, Matsuura M, Kawasaki K, Nishi T, Watanabe N, Nakase H, Chiba T and Okazaki K (2006) Identification of a novel auto-antibody against pancreatic secretory trypsin

- inhibitor in patients with autoimmune pancreatitis. *Pancreas* 33(1): 20–26
20. Ohashi S, Nishio A, Nakamura H, Kido M, Kiriya K, Asada M, Tamaki H, Fukui T, Kawasaki K, Watanabe N, Yodoi J, Okazaki K and Chiba T (2006) Clinical significance of serum thioredoxin 1 levels in patients with acute pancreatitis. *Pancreas* 32(3): 264–270
 21. 岡崎和一, 鉢嶺大作, 三好秀明, 内田一茂 (2006) 【一般医, 消化器科医が知っておきたい肝胆膵疾患診療のエビデンス】膵疾患の診断と治療 自己免疫性膵炎の診断と治療. *EBMジャーナル* 8(1): 84–89
 22. 森 茂生, 岡崎和一 (2006) 胃潰瘍 *Medicament News* (1863): 1–4
 23. 岡崎和一, 安藤祐吾, 内田一茂, 藤井寿仁, 松下光伸 (2006) 【炎症性腸疾患 病態に基づいた治療戦略】潰瘍性大腸炎の病態と治療 潰瘍性大腸炎の病態. *カレントセラピー* 24(6): 512–515
 24. 岡崎和一, 内田一茂 (2006) 【消化器疾患 state of arts II. 肝・胆・膵】主要疾患 現況・病態・診断・治療 最近の概念に基づく自己免疫性膵炎の診療. *医のあゆみ 別冊 (消化器疾患 Ver. 3)* : 703–708
 25. 森 茂生, 田橋賢也, 岡崎和一 (2006) 【ER・ICU での薬の使い方 Q&A プロの実践と秘訣に学ぶ】消化器疾患の緊急治療 逆流性食道炎/胃十二指腸潰瘍/ストレス潰瘍. *救急集中治療* 18(7-8): 1027–1035
 26. 岡崎和一, 池浦 司, 内田一茂, 島谷昌明, 松下光伸, 高岡 亮 (2006) 【自己免疫性消化器疾患】自己免疫性膵炎の最近の概念と診断. *細胞* 38(1): 16–18
 27. 岡崎和一, 内田一茂, 島谷昌明, 鉢嶺大作, 松下光伸, 高岡 亮 (2006) 【膵炎 進む病態解明と治療の進歩】自己免疫性膵炎 自己免疫性膵炎の診断基準. *治療学* 40(10): 1103–1106
 28. 松下光伸, 高嶺 博, 内田一茂, 岡崎和一 (2006) 潰瘍性大腸炎における虫垂粘膜リンパ球サブセット・サイトカインプロファイルの解析. *消と免疫* (42): 94–97
 29. 高岡 亮, 藤井寿仁, 大宮美香, 吉田勝紀, 岡崎和一, 久保田佳嗣 (2006) 【非切除肝門部悪性胆管閉塞における胆道ドレナージ up-to-date】肝門部悪性胆管閉塞に対する内視鏡的肝両葉ドレナージ SMARTstent と JOstent の比較. *胆と膵* 27(6): 383–387
 30. 関 寿人 (2006) 肝細胞癌の診断と治療: 最近の動向. *都島医師会誌* 101: 14–16
 31. 岡崎和一, 内田一茂, 森 茂生 (2006) *Helicobacter pylori* と胃 MALT リンパ腫. *日検血会誌* 7(1): 1–9
 32. 岡崎和一 (2006) 【膵炎の発症と修復機構】膵炎と遺伝子異常. *日消誌* 103(8): 911–917
 33. 松崎恒一, 関 寿人, 岡崎和一 (2006) 【消化器疾患における線維化の関与を探る】TGF- β をトリガーとした肝線維化機構とは? *分子消化器病* 3(3): 221–226
 34. 中山新士, 松下光伸, 山科雅央, 川村梨那子, 池浦 司, 島谷昌明, 内田一茂, 山本 伸, 久保田佳嗣, 岡崎和一 (2006) ステロイド内服で軽快しなかった自己免疫性膵炎に伴う胆管狭窄に対してステロイド・ミニパルス療法が有効であった一例. *膵臓* 21(5): 446–452
 35. 岡崎和一, 川茂 幸, 神澤輝実, 成瀬 達, 田中滋城, 西森 功, 大原弘隆, 伊藤鉄英, 桐山勢生, 乾 和郎, 下瀬川徹, 小泉 勝, 須田耕一, 大槻 真, 厚生労働省難治性膵疾患調査研究班 (2006) 自己免疫性膵炎臨床診断基準2006. *膵臓* 21(5): 395–397
- 総 説
1. Matsuzaki K (2006) Smad3 phosphoisoform-mediated signaling during sporadic human colorectal carcinogenesis. *Histol Histopathol* 21(4-6): 645–662
 2. Matsuzaki K, Seki T and Okazaki K (2006) TGF- β during human colorectal carcinogenesis: The shift from epithelial to mesenchymal signaling. *Inflammopharmacology* 14(5-6): 198–203
 3. Matsuzaki K and Okazaki K (2006) Transforming growth factor- β during carcinogenesis: The shift from epithelial to mesenchymal signaling. *J Gastroenterol* 41(4): 295–303
 4. Chiba T, Seno H, Marusawa H, Wakatsuki Y and Okazaki K (2006) Host factors are important in determining clinical outcomes of *Helicobacter*

pylori infection. *J Gastroenterol* 41(1): 1-9

5. Otsuki M, Hirota M, Arata S, Koizumi M, Kawa S, Kamisawa T, Takeda K, Mayumi T, Kitagawa M, Ito T, Inui K, Shimosegawa T, Tanaka S, Kataoka K, Saisho H, Okazaki K, Kuroda Y, Sawabu N and Takeyama Y (2006) Consensus of primary care in acute pancreatitis in Japan. *World J Gastroenterol* 12(21): 3314-3323
6. 岡崎和一 (2006) (データ解説 5) ヒト直腸結腸癌の発癌における smad2, smad3 のリンカー部リン酸化の意義について. *Fronti Gastroenterol* 別冊: 64-65
7. 岡崎和一 (2006) (データ解説 4) 可溶性抗原を輸入リンパ管からリンパ節 T 細胞領域のレジデント樹状細胞へ輸送するシステム. *Fronti Gastroenterol* 別冊: 62-63
8. 岡崎和一 (2006) (データ解説 3) 炎症性腸疾患患者における消化管外病変. *Fronti Gastroenterol* 別冊: 60-61
9. 岡崎和一, 内田一茂 (2006) (データ解説 1) 炎症性腸疾患患者と樹状細胞. *Fronti Gastroenterol* 別冊: 56-57
10. 岡崎和一 (2006) 最新科学療法で結腸がん患者の転帰改善へ. *MMJ* 2(5): 402-403
11. 内田一茂, 三好秀明, 池浦 司, 島谷昌明, 松下光伸, 高岡 亮, 岡崎和一 (2006) 病気のはなし 自己免疫性膵炎. *検査と技術* 34(5): 410-413
12. 内田一茂, 三好秀明, 池浦 司, 島谷昌明, 松下光伸, 高岡 亮, 岡崎和一 (2006) 【生活習慣病としての消化器疾患 生活習慣の改善で予防は可能か】生活習慣と膵炎. *成人病と生活習慣病* 36(6): 656-659
13. 関 寿人 (2006) 【肝細胞がん患者にどう対応するか】非切除治療の適応と, その進め方 経皮的マイクロ波凝固治療 (PMCT) を選択するとき. *臨腫瘍プラクティス* 2(4): 373-375

症例報告

1. Yuri T, Shimano N, Ohashi Y, Miki K, Tsukamoto R and Tsubura A (2006) An autopsy case of primary mixed choriocarcinoma and mature teratoma located in the thymic region associated with elevated human chorionic gonadotropin

levels and characteristic testicular changes. *Med Mol Morphol* 39(1): 49-53

2. 藤井寿仁, 高岡 亮, 田川善啓, 吉田勝紀, 大宮美香, 岡崎和一 (2006) 特発性血小板減少性紫斑病に合併し, 血腫の経過観察を行った出血性腸炎の 1 例. *Gastroenterol Endosc* 48(3): 322-328

学会発表

1. Sakaguchi Y, Inaba M, Tsuda M, Fukui J, Ueda Y, Omae M, Ando Y, Li M, Guo K, Okazaki K and Ikehara S (2006) Prevention of Autoimmune Chronic Pancreatitis in WBN/kob Rats by Intra Bone Marrow-Bone Marrow Transplantation. 第 36 回日本免疫学会総会・学術集会, 大阪
2. Okazaki K (2006) Symposium: Autoimmune Chronic Pancreatitis. American Pancreatic Association & International Association of Pancreatology, Chicago
3. Matsushita M, Uchida K and Okazaki K (2006) Appendix is a priming site in the development of ulcerative colitis. 12th International Conference on Ulcer Research, Osaka
4. Uchida K, Fukui T, Ohana M, Nishio A and Okazaki K (2006) Analysis of lymphfollicular formation in *Helicobacter pylori* associated gastritis using neonatal thymectomized mice. The 12th ICUR & Satellite of IUPHAR, Osaka
5. Uchida K, Miyoshi H, Ikeura T, Shimatani M, Matsushita M, Takaoka M and Okazaki K (2006) Clinical aspects of extra-pancreatic complications with autoimmune pancreatitis. Digestive Disease Week 2006, Los Angeles, USA
6. 岡崎 敬, 大宮美香, 塩見圭佑, 段原直行, 島谷昌明, 内田一茂, 池田広記, 廣原淳子, 関寿人, 岡崎和一 (2006) 原因不明の腹水に対して, 抗結核療法が奏功した 1 例. 第 181 回日本内科学会近畿地方会, 大阪
7. 松下光伸 (2006) 潰瘍性大腸炎との付き合い方. 大阪府保険所東ブロック管内潰瘍性大腸炎医療相談会・学習会, 大阪
8. 関 寿人, 池田耕造, 梅原秀人 (2006) 肝癌に対するマイクロ波凝固治療. 第 27 回日本レーザー医学会総会, 幕張

9. 関 寿人 (2006) 肝細胞癌に対する局所治療の展望 マイクロ波とラジオ波. 第5回愛媛肝癌局所治療研究会, 松山
10. 宮崎浩彰, 松下光伸, 大宮美香, 内田一茂, 松本隆之, 森 茂生, 島谷昌明, 段原直行, 北村 臣, 岡崎和一 (2006) 大腸ポリペクトミーパスの変更. 第7回日本クリニカルパス学会学術集会, 熊本
11. 北村 臣, 勝谷茂樹, 西野典宏, 西村泰典, 仲野俊成, 埴本 慎, 宮崎浩彰 (2006) データウェアハウス (DWH) からパスデータ抽出の試み —PDCAへの資料提示—. 第7回日本クリニカルパス学会学術集会, 熊本
12. 里井壯平, 宮崎浩章, 豊川秀吉, 柳本泰明, 松井陽一, 寺川直良, 高井惣一郎, 上山泰男 (2006) 膵頭十二指腸切除術に対するクリニカルパスの導入. 第7回日本クリニカルパス学会学術集会, 熊本
13. 島谷昌明, 松下光伸, 内田一茂, 田橋賢也, 大宮美香, 松本隆之, 段原直行, 若松隆宏, 福井由理, 坂尾将幸, 高橋 悠, 山科雅央, 岡崎和一 (2006) リメタゾン (リポ化ステロイド) の静注が奏功した単純性潰瘍の1例. 2006年日本消化器関連学会週間 (DDW-Japan 2006), 北海道
14. 廣原淳子, 仲野俊成, 大西三朗 (2006) ワークショップ15他臓器疾患と肝臓 原発性胆汁性肝硬変 (PBC) の全国調査からみた他臓器疾患との関連. 2006年日本消化器関連学会週間 (DDW-Japan 2006) 第10回日本肝臓学会大会, 札幌
15. 坂尾将幸, 高橋 悠, 福井由理, 山科雅央, 梅原秀人, 池田耕造, 島谷昌明, 池田広記, 宮崎浩彰, 中橋佳嗣, 海堀昌樹, 廣原淳子, 上山泰男, 関 寿人, 岡崎和一 (2006) Hemobiliaを来した胆管細胞癌の1例. 2006年日本消化器関連学会週間 (DDW-Japan2006) 第48回日本消化器病学会総会, 札幌
16. 住本貴美, 松下光伸, 岡崎 敬, 若松隆宏, 段原直行, 島谷昌明, 松本隆之, 内田一茂, 大宮美香, 岡崎和一 (2006) 化膿性椎間板炎を合併したクローン病の1例. 第13回北河内炎症性腸疾患カンファレンス, 大阪
17. 内田一茂, 松下光伸, 岡崎和一 (2006) 自己免疫性膵炎の膵外病変に関する検討. 第14回日本消化器関連学会週間, 札幌
18. 関本 剛, 松崎恒一, 吉田勝紀, 森 茂生, 山縣英生, 松井裕史, 藤澤順一, 岡崎和一 (2006) H-RAS V12導入癌細胞のSmad依存性癌化シグナルはリンカー部リン酸化を阻害すると細胞増殖抑制シグナルに回帰する. 第65回日本癌学会学術総会, 横浜
19. 藤井壽仁, 関 寿人, 岡崎和一 (2006) 当院における内視鏡的治療に際しての抗凝固剤, 抗血小板剤服用者への対策. 第72回日本消化器内視鏡学会総会, 札幌
20. 内田一茂, 三好秀明, 池浦 司, 島谷昌明, 高岡亮, 岡崎和一 (2006) 当院におけるびまん性膵腫大を呈した若年者膵炎症例の検討. 日本臨床免疫学会, 東京
21. 廣原淳子 (2006) 原発性胆汁性肝硬変 (PBC) の病態と治療について. 八尾保健所原発性胆汁性肝硬変学習会, 大阪
22. 田橋賢也, 若松隆宏, 森 茂生, 竹内幸俊, 河島祥彦, 岡崎和一 (2006) 内視鏡的食道静脈瘤硬化療法後に生じた巨大食道血腫の1例. 第13回日本門脈圧亢進症学会総会, 東京
23. 藤井壽仁, 松下光伸, 岡崎和一 (2006) 潰瘍性大腸炎の内視鏡的所見よりみた治療選択. 第24回日本大腸検査学会総会, 大阪
24. 梅原秀人, 関 寿人, 池田耕造, 中橋佳嗣, 池田広記, 高橋 悠, 坂尾将幸, 玉井 徹, 岡崎和一 (2006) 肝細胞癌に対する改良型マイクロ波電極を用いたPMCTの有用性の検討. 第25回Microwave Surgery研究会, 京都
25. 海堀昌樹, 河相 吉, 内田洋一郎, 石崎守彦, 肱川 健, 斎藤隆道, 廣原淳子, 上山泰男 (2006) 肝アジアロシンチによる生体肝移植後再発C型肝炎の検討. 第42回日本移植学会総会, 千葉
26. 橋本可成, 笠原 宏, 藤井壽仁 (2006) 現病歴からMPSと診断した内視鏡的にAPC止血を要した多発性直腸潰瘍の1例. 第61回日本大腸肛門病学会総会, 青森
27. 橋本可成, 藤井壽仁, 笠原 宏 (2006) ジオン注による内視鏡的痔核硬化療法の手技と有用性. 第61回日本大腸肛門病学会総会, 青森
28. 藤井壽仁, 橋本可成 (2006) 一時出血性ショッ

- クを呈したクローン病にレミケードが著効した1例. 第61回日本大腸肛門病学会総会, 青森
29. 住本貴美, 高岡 亮, 島谷昌明, 山科雅央, 松本隆之, 大宮美香, 深田憲将, 鈴木 亮, 武尾真宏, 福井由理, 内田一茂, 松下光伸, 関寿人, 岡崎和一, 豊川秀吉, 松井陽一, 上山泰男 (2006) 内視鏡下に結石排石が認められた胆嚢十二指腸瘻の1例. 第77回日本消化器内視鏡学会近畿地方会, 京都
30. 藤井壽仁, 関 寿人, 岡崎和一 (2006) 当院の大腸内視鏡検査におけるリスクマネージメントに対する取り組みについて. 第77回日本消化器内視鏡学会近畿地方会, 京都
31. 鈴木 亮, 田橋賢也, 若松隆宏, 島谷昌明, 森茂生, 竹内幸俊, 河島祥彦, 岡崎和一 (2006) 内視鏡的食道静脈瘤硬化療法後に形成された巨大食道粘膜下血腫の一例. 第77回日本消化器内視鏡学会近畿地方会, 京都
32. 光山俊行, 鈴木 亮, 武尾真宏, 松本隆之, 池田広記, 宮崎浩彰, 中橋佳嗣, 廣原淳子, 関寿人, 岡崎和一, 植村芳子 (2006) 急性重症肝障害で発症したステロイドパルス療法が奏功した自己免疫性肝炎の1例. 第85回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪
33. 高岡 亮, 島谷昌明, 岡崎和一 (2006) シンポジウム2 膵・胆道癌の診断・治療における新しい展開. 悪性肝門部胆管閉塞に対する2本のメタリックステントを用いた肝両葉ドレナージ. 第85回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪
34. 住本貴美, 高岡 亮, 島谷昌明, 松下光伸, 深田憲将, 内田一茂, 武尾真宏, 鈴木 亮, 光山俊行, 関 寿人, 岡崎和一, 里井壮平, 高井惣一郎, 上山泰男 (2006) 胆管十二指腸吻合術後40年して胆管炎, 閉塞性黄疸を発症し診断された胆管癌の一例. 第85回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪
35. 武尾真宏, 松本隆之, 森 茂生, 田橋賢也, 島谷昌明, 高橋 悠, 鈴木亮, 住本貴美, 高岡亮, 岡崎和一, 井上健太郎, 中根恭司, 坂井田紀子, 植村芳子 (2006) 急速に進展発育し通過障害を来した十二指腸神経内分泌腫瘍の一例. 第85回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪
36. 岡崎和一 (2006) 自己免疫性膵炎の最近の話題. 第6回大東消化器病わからん会, 大阪
37. 島谷昌明, 松下光伸, 岡崎和一 (2006) シンポジウムⅡ 下部消化管に対する内視鏡治療の進歩と工夫: 当科におけるダブルバルーン内視鏡を用いた内視鏡検査・処置の有用性と問題点. 日本消化器内視鏡学会近畿地方会, 京都
38. 是枝ちづ (2006) 肝シンチグラフィによるNASHの診断と経過観察. OSAKA CITY LIVER CLUB 2006, 大阪
39. 廣原淳子 (2006) 原発性胆汁性肝硬変全国調査第27報. 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業) 難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究平成18年度第1回総会, 東京
40. 内田一茂, 三好秀明, 池浦 司, 島谷昌明, 松下光伸, 高岡 亮, 岡崎和一 (2006) 自験自己免疫性膵炎の膵外病変に関する検討. 日本消化器免疫学会, 弘前
41. 佐藤正博, 是枝ちづ, 武田聖子, 村田美樹, 井上肇一, 関 寿人, 岡崎和一 (2006) 隆起性病変を形成した胆嚢アミロイドーシスの1例. 日本調音波医学会第32回関西地方会学術集会, 大阪
42. 武田聖子, 是枝ちづ, 村田美樹, 井上肇一, 梅原秀人, 池田耕造, 関寿人, 岡崎和一, 河相吉 (2006) 造影エコーおよび核医学的検討によるNASHの経時的変化. 日本調音波医学会第32回関西地方会学術集会, 大阪
43. 門田洋一, 明石夕香, 是枝ちづ, 関 寿人, 岡崎和一 (2006) カラードプラが有用であった膀胱憩室の1例. 日本超音波医学会第32回関西地方会, 大阪
44. 松下光伸, 岡崎和一, 深田憲将, 内田一茂, 安藤祐吾, 川股聖二, 大宮美香, 藤井壽仁, 廣田育彦, 田畑泰彦 (2006) ポリ乳酸マイクロカプセルを用いたステロイド封入カプセルによる難治性潰瘍性大腸炎治療の臨床研究. 厚生労働科学研究難治性疾患克服研究事業「炎症性腸疾患の画期的治療法に関する臨床研究」平成18年度第1回総会, 東京
45. 川村梨那子, 古川富紀子, 関 寿人, 梅原秀人, 池田耕造, 是枝ちづ, 岡崎和一, 上山泰男, 海堀昌樹, 谷川 昇, 坂井田紀子 (2006)

- FNHにより Budd-Chiari症候群様の血流異常を認めた一例. 第42回日本肝癌研究会, 東京
46. 大崎往夫, 工藤正俊, 松永 隆, 春日井博志, 岡 博子, 関 寿人 (2006) Child-Pugh C肝硬変に合併した肝癌の治療は? その是非と治療法選択に関する Retrospective 多施設共同研究. 第42回日本肝癌研究会, 東京
 47. 岡崎和一 (2006) 自己免疫性膵炎の最近の話題. 第45回奈良県消化器内視鏡学会, 奈良
 48. 島谷昌明 (2006) 小腸内視鏡検査? ダブルバルーン内視鏡(DBE)を中心に?. 関西消化器懇話会, 大阪
 49. 内田洋一朗, 阪本靖介, 小川晃平, 笠原群生, 瓜生原健嗣, 小倉靖弘, 江川裕人, 高田泰次, 上本伸二 (2006) 小児生体肝移植後の動脈血栓症に対する治療戦略および長期成績. 第24回日本肝移植研究会, 長野
 50. 坂口雄沢, 稲葉宗夫, 岡崎和一, 池原 進 (2006) WBN/kob ラットの膵炎・耳下腺炎における自己免疫性機序の関与. 第37回日本膵臓学会大会, 横浜
 51. 松下光伸, 内田一茂, 岡崎和一 (2006) ステロイド・ミニパルス療法が有効であった自己免疫性膵炎の2例. 第37回日本膵臓学会大会, 横浜
 52. 内田一茂, 池浦司, 島谷昌昭, 松下光伸, 高岡亮, 里井壯平, 高井惣一郎, 上山泰男, 岡崎和一 (2006) 肝・膵臓に認められた炎症性偽腫瘍の一例. 第37回日本膵臓学会大会, 東京
 53. 安藤裕吾 (2006) 出血性ショックを起こしたクローン病にレミケードが著効した一例. 第3回肝・消化器・代謝・栄養 研究会, 大阪
 54. 是枝ちづ (2006) NASHにおける造影超音波と核医学的検査併用による定量的診断. 第3回肝・消化器・代謝・栄養 研究会, 大阪
 55. 宮崎浩彰, 並木みどり, 西本英充, 前田利治, 神崎秀陽 (2006) インシデント事例収集における電子報告システムの導入. 第8回日本医療マネジメント学会学術集会, 横浜
 56. 宮崎浩彰, 北村 臣, 里井壯平, 馬庭知弘, 湯浅文雄 (2006) 当院における電子クリティカルパスの導入. 第8回日本医療マネジメント学会学術総会, 横浜
 57. 内田一茂, 池浦 司, 島谷昌明, 松下光伸, 高岡 亮, 里井壯平, 高井惣一郎, 上山泰雄, 岡崎和一 (2006) 肝・膵臓に認められた炎症性偽腫瘍の一例. 日本膵臓学会, 福岡
 58. 武田聖子, 是枝ちづ, 関 寿人, 河相 吉, 岡崎和一 (2006) NASH 診断における Kupffer 細胞機能評価の有用性. JSUM2006 日本超音波医学会第79回学術集会, 大阪
 59. 田上修司, 柳本泰明, 高井惣一郎, 里井壯平, 豊川秀吉, 辻 勝成, 権 雅憲, 内田一茂, 岡崎和一, 上山泰男 (2006) 術前に膵癌との鑑別が困難であった自己免疫性膵炎の1例. 第18回日本肝胆膵外科関連会議・東京, 東京
 60. 藤井寿仁, 高岡 亮, 大宮美香, 吉田勝紀, 岡崎和一 (2006) 内視鏡的大腸ポリープ切除術における後出血の検討. 第71回日本内視鏡学会総会, 東京
 61. 梅原秀人, 関 寿人, 池田耕造 (2006) 安全快適な Interventional Sonography 肝がんエタノール注入治療およびマイクロ波治療. 第79回日本超音波医学会 学術大会, 大阪
 62. 武田聖子, 是枝ちづ, 関 寿人, 河相吉, 岡崎和一 (2006) 肝臓機能評価における新しい展開 NASH 診断における Kupffer 細胞機能評価の有用性. 第79回日本超音波医学会学術集会, 大阪
 63. 廣原淳子 (2006) 生体肝移植の最近の話題. 第3回北河内肝臓疾患懇話会, 大阪
 64. 三木克朗, 上原範久, 塚本麗子, 松岡洋一郎, 螺良愛郎 (2006) MNU誘発視細胞傷害を抑制する 3-aminobenzamide の投与量ならびに投与時期. 第95回日本病理学会, 東京
 65. 塚本麗子, 垠 貴司, 三木克朗, 松岡洋一郎, 螺良愛郎 (2006) 低用量MNUと短期妊娠レベルのエストロゲン/プロゲステロン暴露の乳腺発癌に対する影響. 第95回日本病理学会, 東京
 66. 垠 貴司, 塚本麗子, 三木克朗, 上原範久, 清塚康彦, 松岡洋一郎, 四方伸明, 螺良愛郎 (2006) 妊娠期を模倣したエストロゲンおよびプロゲステロン投与期間のMNU誘発ラット乳腺発癌への影響. 第95回日本病理学会, 東京
 67. 坂口雄沢, 稲葉宗夫, 津田雅庸, 福井淳一, 上田祐輔, 大前麻理子, 李 銘, 郭可 泉, 岡崎和一, 池原 進 (2006) WBN/kob ラットの膵炎・耳下腺炎における自己免疫性機序の関

与及び調節性T細胞の免疫応答. 第95回日本病理学会総会, 東京

68. 岡崎和一 (2006) 自己免疫性膵炎—日本からの発信—(4) 診断 (診断基準&病型分類). 日本消化器病学会 特別企画, 小倉
69. 松下光伸, 内田一茂, 岡崎和一 (2006) 潰瘍性大腸炎患における虫垂粘膜リンパ球サブセット・サイトカインプロファイルの検討. Bay Area Digestive Club, 兵庫
70. 田橋賢也 (2006) 関西医大枚方病院開院後の緊急内視鏡検査の現況. 第4回関西消化器・肝疾患研究会, 大阪
71. 松下光伸, 内田一茂, 岡崎和一 (2006) 潰瘍性大腸炎患者虫垂粘膜におけるサイトカインプロファイルの検討. 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成17年度第2回総会, 東京
72. 高橋 悠, 門田洋一, 福島慎太郎, 坂尾将幸, 中橋佳嗣, 宮崎浩彰, 廣原淳子, 松崎恒一, 高橋延行, 高岡 亮, 関 寿人, 岡崎和一 (2006) ゾニサミド (エクセグランR) により急性肝障害を生じた一例. 第84回日本消化器病学会近畿支部例会, 神戸
73. 藤井寿仁, 高岡 亮, 大宮美香, 吉田勝紀, 上田創平, 小倉徳裕, 高田秀穂, 岡崎和一 (2006) 下痢, 腹痛を契機として発見された原発性大腸悪性リンパ腫の一例. 第84回日本消化器病学会近畿支部例会, 神戸
74. 岡崎和一 (2006) 自己免疫性膵炎の最近の話題. 第84回姫路消化器病研究会, 姫路
75. 門田洋一, 高橋 悠, 佐藤行永, 田橋賢也, 玉井 徹, 福島慎太郎, 宮崎浩彰, 是枝ちづ, 関寿人, 岡崎和一 (2006) 薬剤性過敏症候群 (DIHS) および薬物性肝障害における脾腫の検討. 日本超音波医学会第31回関西地方会, 京都
76. 廣原淳子 (2006) 原発性胆汁性肝硬変全国調査第26報. 厚生労働科学研究費補助金 (難治性疾患克服研究事業) 難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究平成17年度第2回総会, 東京
77. 藤井寿仁, 関 寿人, 岡崎和一 (2006) 内視鏡治療を受ける抗凝固薬・抗血小板薬服用者への対応の標準化 当院における内視鏡治療に際しての抗凝固剤, 抗血小板剤服用者への対

策.

78. 岡崎和一 (2006) 自己免疫性膵炎とは? 平成18年度 (第30回) 大阪府医師会医学会総会および第38回医療近代シンポジウム, 大阪

著 書

1. Okazaki K (2006) Autoimmune pancreatitis—recent concept. Toxicology of the pancreas (Target organ toxicology series) (Parviz M. Pour ed) pp. 459–473, Taylor & Francis, Boca Raton
2. 廣原淳子, 仲野俊成, 関 寿人, 岡崎和一 (2006) 原発性胆汁性肝硬変全国調査 (第26報). 厚生労働科学研究費補助金 (難治性疾患克服研究事業) 難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究平成17年度総括・分担研究報告書 (大西三朗編) 31–34頁, 難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究班, 東京
3. 岡崎和一, 西森 功, 下瀬川徹, 神澤輝実, 川茂 幸, 大原弘隆, 田中滋城, 成瀬 達, 伊藤鉄英, 乾 和郎, 小泉 勝, 須田耕一, 大槻 眞 (2006) 自己免疫性膵炎診断基準の改定と自己免疫性膵炎の活動評価方法の検討. 厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 難治性膵疾患に関する調査研究平成17年度分担研究報告書 105–109頁, 難治性膵疾患に関する調査研究班, 福岡
4. 西森 功, 伊藤鉄英, 乾 和郎, 大原弘隆, 岡崎和一, 神澤輝実, 川茂幸, 小泉 勝, 下瀬川耕一, 田中滋城, 成瀬 達, 大槻 眞 (2006) 黄疸合併例の初期治療の実態. 厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 難治性膵疾患に関する調査研究 平成17年度分担研究報告書 110–119頁, 難治性膵疾患に関する調査研究班, 福岡
5. 岡崎和一, 高御堂祥一郎, 池浦 司, 松下光伸, 内田一茂, 片岡洋祐, 山田久夫 (2006) 慢性膵炎における膵内神経の支配様式. 厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 難治性膵疾患に関する調査研究 平成17年度分担研究報告書 193–195頁, 難治性膵疾患に関する調査研究班, 福岡
6. 関 寿人, 池田耕造, 梅原秀人 (2006) マイクロ波凝固治療. 治療シリーズ1 肝臓病の最新治療 (戸田剛太郎, 沖田極, 門田守人編)

- 237-240頁, 先端医療技術研究所, 東京
7. 岡崎和一, 森 茂生, 田橋賢也 (2006) プロトンポンプ阻害薬の有害事象と薬物間相互作用の対応をみる. 実地診療のためのプロトンポンプ阻害薬ハンドブック (浅香正博, 千葉勉編) 275-283頁, 先端医学社, 東京
 8. 松下光伸, 岡崎和一 (2006) カルチノイド腫瘍. 図解消化器内科学テキスト (井廻道夫, 日比紀文編) 248-250頁, 中外医学社, 日本
 9. 岡崎和一, 内田一茂, 高岡 亮 (2006) 自己免疫性膵炎の診断基準. 臨床に役立つ消化器疾患の診断基準・病型分類・重症度の使い方 343-348頁, (株)日本メディカルセンター, 東京

心療内科学講座

〈研究業績〉

原 著

1. Mitani Y, Fukunaga M, Kanbara K, Takebayashi N, Ishino S and Nakai Y (2006) Evaluation of psychophysiological asymmetry in patients with fibromyalgia syndrome. Appl Psychophysiol Biofeedback 31: 217-225
2. Xu L, Matsumura S, Mabuchi T, Takagi K, Abe T and Ito S (2006) In situ measurement of neuronal nitric oxide synthase activity in the spinal cord by NADPH-diaphorase histochemistry. J Neurosci Methods 150: 174-184
3. 荒井弘和, 平井 啓, 所 昭宏, 中 宣敬 (2006) 肺がん患者を対象とした外来化学療法に関する意思決定のバランス尺度の開発. 行動医研 12: 1-7
4. 福永幹彦, 阿部哲也, 水野泰行, 永岡三穂, 中井吉英 (2006) 卒前・卒後教育に果たす心身医学の役割 全人的医療の教育を目指して チュートリアルにおける全人医療教育 心療内科の存在が与える影響について. 心身医 46: 745-751
5. 三谷有子, 神原憲治, 福永幹彦, 中井吉英 (2006) 自己爽快ペース Walking の継続が心身に及ぼす影響について 中高齢者における検討. 心身医 46: 949-957
6. 塩崎麻里子, 平井 啓, 所 昭宏, 荒井弘和, 中 宣敬 (2006) 肺癌患者におけるサポートネットワークサイズとその予測要因. 心身医 46: 884-890
7. 阿部哲也, 福永幹彦, 四宮敏章, 中井吉英 (2006) プライマリケアでみる消化器心身症の診断と治療 上部消化管ビデオ透視検査の機

能性胃腸症への応用の試み. 日心療内誌 10: 152-156

総 説

1. 中井吉英 (2006) 「サロン談義」コメント 睡眠障害の問題と睡眠薬. 環境と健康 19: 207-210
2. 北村香奈, 関 則雄 (2006) 心身症患者に対するグループアートセラピーの試み (解説). 集団精療 21: 135-139
3. 中井吉英 (2006) 私の全人的医療学. 心身医 46: 119-126
4. 神原憲治, 福永幹彦, 六浦裕美, 三谷有子, 竹内寛治, 中井吉英 (2006) 心身医学の研究手法の開発を目指して 要素還元主義による研究を乗り越えて 心身相関をいかにとらえるか. 心身医 46: 809-817
5. 福永幹彦 (2006) 【消化器心身症 update】機能性胃腸症. 心療内科 10: 233-240
6. 有城幸男, 四宮敏章, 六浦裕美, 竹林直紀, 福永幹彦, 中井吉英 (2006) 心療内科の集団自律訓練で食道アカラシアの症状が改善した症例. 心療内科 10: 273-278
7. 松田能宣, 神原憲治, 堀 裕典, 阿部哲也, 北村香奈, 福永幹彦, 中井吉英 (2006) ポータブル筋電図計によるバイオフィードバックを用いた筋弛緩法が有用であった慢性疼痛の症例. 心療内科 10: 257-261
8. 中井吉英 (2006) 診断の指針 治療の指針 男性更年期障害は存在するか. 総合臨 55: 344-345
9. 中井吉英 (2006) 【臨床医学の展望2006—診断および治療上の進歩】 心身医学. 医事新報

(4270): 43-48

10. 竹内寛治, 福永幹彦 (2006) ここまで知っておきたい痛みへのアプローチ うつと痛み 診断から治療まで うつを伴う痛みへの初期対応の実際. 痛みと臨 6: 218-221
11. 阿部哲也, 中井吉英 (2006) 【痛み】痛みとは痛みの臨床心理学. 理学療法 23: 23-27
12. 阿部哲也, 福永幹彦, 中井吉英 (2006) 【「うつ」をめぐる精神科と内科のネットワーク】消化器内科と「うつ」. 臨精医 35: 951-956
13. 神原憲治, 福永幹彦, 中井吉英 (2006) 【現代社会とストレス疾患】ストレス関連疾患 心身症. 臨と研 83: 337-342

症例報告

1. Nishida S, Kishida Y, Inoue T and Yoshikawa H (2006) Treatment of both mother and child with liver-inhibiting powder. KAIM 1: 26-29
2. 北村香奈, 福永幹彦, 中井吉英 (2006) グループアートセラピーを導入した心療内科外来患者の1症例. 心身医 46: 1043-1051
3. 橋爪 誠 (2006) 健康生成論の観点からみた心身症治療. 心身医 46: 985-991
4. 須田道雄, 神原憲治, 阿部哲也, 水野泰行, 山本和美, 竹林直紀, 福永幹彦, 中井吉英 (2006) 診断確定をきっかけに感情の表出につながり改善に至ったびまん性食道痙攣の1症例. 心療内科 10: 279-285
5. 南野桂三, 足立 靖, 植村芳子, 坂井田紀子, 草深公秀, 長岡三穂, 鈴木康弘, 岩崎真佳, 松村美代, 池原 進 (2006) 食道粘膜下腺腫の1症例. 診断病理 23: 46-48
6. 橋爪 誠 (2006) 心療内科医に求められる呼吸器系疾患患者への対応. 日心療内誌 10: 233-236

学会発表

1. Arai H, Hirai K, Harada K and Tokoro A (2006) Physical Activity and Psychological adjustment in Japanese Advanced Lung Cancer Patients During Chemotherapy. 8th World Congress of Psycho-Oncology, Venice
2. Hirai K, Arai H, Tokoro A, Sawabata N and Okumura M (2006) Physical Activity and Psychologi-

cal adjustment in Japanese Early-stage Malignant Pulmonary and Mediastinal Disease Patients after Surgery. 8th World Congress of Psycho-Oncology, Venice

3. Komura K, Hirai K, Tokoro A, Kuromaru T, Ohshima A, Hyodo I and Sumiyoshi Y (2006) The Application of the Theory of Planned Behavior and the Trans-theoretical Model to the Use of Complementary and Alternative Medicine in Japanese Cancer Patients. 8th World Congress of Psycho-Oncology, Venice
4. Koyama A, Inui H, Hirai K, Shiozaki M and Tokoro A (2006) Prevalence and Need for Psycho-social Intervention in Japanese Breast Cancer patients. 8th World Congress of Psycho-Oncology, Venice
5. Tokoro A, Hirai K, Komura K, Kuromaru T, Ohshima A, Hyodo I and Sumiyoshi Y (2006) The Survey of Complementary and Alternative Medicine Use Behaviour in Japanese Cancer Patients. 8th World Congress of Psycho-Oncology, Venice
6. Origasa H, Tokoro A, Tazaki M, Yotsutani N, Goto T and Kawahara M (2006) The concepts of spirituality for Japanese patients with terminal lung cancer. ISOQOL, Lisbon
7. Tajika A, Niki M, Tsukui K, Nishikawa T and Nishiyama T (2006) How to predict whether Japanese people transferred to foreign countries feel inconvenient or not? Northern European Conference on Travel Medicine, Edinburgh
8. Niki M, Tajika A and Nishiyama T (2006) Psychosomatics study of overseas Japanese. Northern European Conference on Travel Medicine, Edinburgh, Scotland
9. Kanbara K, Fukunaga M, Mitani Y, Mutuura H and Nakai Y (2006) Psychophysiological Stress Profiling and Subjective Bodily Feelings in Patients with Functional Somatic Syndrome. 10th International Biofeedback Conference, Biofeedback Foundation of Europe, Wien
10. 山本和美, 竹内寛治, 永岡三穂, 山本玉雄, 福永幹彦, 中井吉英 (2006) 絶食療法における心理的介入のための心理アセスメント. 絶食療法学会, 大阪

11. 水野泰行, 福永幹彦, 中井吉英 (2006) 自覚症状の「強さー苦痛ギャップ」にもとづく患者分類の試み. 第11回日本心療内科学会, 大阪
12. 阿部哲也, 福永幹彦, 中井吉英 (2006) 胃運動機能への自律訓練法の短期的効果について. 第11回日本心療内科学会学術大会, 大阪
13. 村上典子 (2006) 中高年女性の心身医学的問題:『喪失体験』という視点から. 第11回日本心療内科学会総会, 大阪
14. 福永幹彦, 水野泰行 (2006) 心身症の実践的認知行動療法. 第11回日本心療内科学会総会, 大阪
15. 神原憲治, 伴 郁美, 福永幹彦, 六浦裕美, 中井吉英 (2006) 心身症患者における身体感覚の逸脱についての検討. 第11回日本心療内科学会総会・学術大会, 大阪
16. 所 昭宏, 平井 啓, 古村和恵, 黒丸尊治 (2006) がん患者における補完代替療法の受療行動に関する行動科学的研究. 平成18年度厚生労働省がん助成金17-14「がんの代替療法の科学的検証と臨床応用に関する研究」班 第2回班会議, 大阪
17. 所 昭宏 (2006) 家族として乳癌とどのように向き合うか. 2006年ピンクリボン キッズ・ファミリープログラム 家族で話そう ピンクリボン, 大阪
18. 所 昭宏 (2006) がん患者における精神症状とその対策. 大阪府訪問看護ステーション協議会 堺ブロック研修会, 堺
19. 所 昭宏 (2006) 肺癌診療におけるサイコオンコロジー. 大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター講演会, 大阪
20. 村上典子, 小笹裕美子, 村松知子, 他 (2006) 災害におけるグリーフケア〜JR 尼崎脱線事故遺族ケアの経験から〜. 第42回日本赤十字社医学会総会, 京都
21. 所 昭宏 (2006) 癌診療におけるサイコオンコロジー. 第5回明日の緩和医療を考える会, 大阪
22. 水野泰行 (2006) 催眠にて軽快したコリン性蕁麻疹の一症例. 第8回日本臨床催眠学会, 東京
23. 相原由花, 竹林直紀 (2006) 緩和ケアにおけるホリスティックアロマセラピー 患者中心の全人的チーム医療としての統合医療の提言. 第9回日本アロマセラピー学会学術総会, さいたま
24. 西田慎二 (2006) 漢方医学の基礎知識一病院薬剤師のかたへーその1. 第40回ファーマシューティカル・ケア研究会, 大阪
25. 所 昭宏, 日保ヒサ, 高田 實 (2006) 自己決定のプロセスの支援に苦労した進行期小細胞肺癌の一事例. 第7回泉州緩和医療懇話会「こころ」, 堺
26. 西田慎二, 岸田友紀, 井上隆弥, 吉川秀樹 (2006) 漢方薬によって改善した, 遷延性・難治性過敏性腸症候群の1例. 漢方治療研究会, 東京
27. 所 昭宏 (2006) シンポジウムがん医療におけるサイコオンコロジー的アプローチ リハビリテーション関連職種の役割シンポジスト「がん医療における全人的な多職種チーム医療の可能性と課題〜サイコオンコロジストの立場より〜」. 第60回国立病院総合医学会, 京都
28. 西田慎二, 岸田友紀, 井上隆弥, 吉川秀樹 (2006) 乾燥と裂紋を伴い, 手術適応とされた舌痛症に清心蓮子飲が有効であった症例. 第19回日本疼痛漢方研究会, 東京
29. 福永幹彦, 阿部哲也, 水野泰行, 神原憲治, 中井吉英, 入澤 聡, 木下 洋, 飯田寛和, 松田公志 (2006) OSCEの医療面接評価とクラークシップ時のコミュニケーション能力評価との関係. 第38回医学教育学会, 奈良
30. 有城幸男, 松田能宣, 竹林直紀, 福永幹彦, 中井吉英 (2006) 心療内科での「集団自律訓練」の健康関連QOLに対する効果の検討(第1報). 第42回日本心身医学会近畿地方会, 京都
31. 塩崎麻里子, 平井 啓, 所 昭宏, 小山敦子, 乾 浩己 (2006) 乳がん患者から否定的な評価を受ける傾向のある親しい他者のサポート態度構造の探索. 第19回日本サイコオンコロジー学会総会, 京都
32. 古村和恵, 平井 啓, 所 昭宏, 黒丸尊治, 兵頭一之介, 住吉義光 (2006) がん患者のコントロール感と心理的苦痛の関係性. 第19回日本サイコオンコロジー学会総会, 京都
33. 平井 啓, 塩崎麻里子, 所 昭宏, 小山敦子,

- 乾 浩己, 内富庸介 (2006) 乳がん患者の心配評価尺度作成に関する研究. 第19回日本サイコオンコロジー学会総会, 京都
34. 西田慎二, 岸田友紀, 西本 隆 (2006) 自閉症児の衝動性に桃核承気湯と甘麦大棗湯が著効を示した一例. 第57回日本東洋医学会学術総会, 大阪
35. 橋爪誠 (2006) 食物アレルギー症例の心身医学的検討. 第18回日本アレルギー学会春季臨床大会, 東京
36. 神原憲治, 福永幹彦, 石野振一郎, 三谷有子, 六浦裕美, 竹内寛治, 有田清三郎, 中井吉英 (2006) 心身症における生体カオスと全人的医療. 第45回生体医工学会, 福岡
37. 阿部哲也, 中井吉英 (2006) 慢性疼痛への脊髄NMDA受容体の関与. 第47回日本心身医学会総会, 東京
38. 橋爪 誠 (2006) 健康生成論の観点からみた心身症 (第2報) —健康生成論とナラティブ—. 第47回日本心身医学会総会, 東京
39. 三谷有子, 神原憲治, 福永幹彦, 中井吉英 (2006) 自己爽快ペース Walking の継続が心身に及ぼす影響について 中高齢者における検討. 第47回日本心身医学会総会, 東京
40. 所 昭宏, 小山敦子, 福永幹彦, 中井吉英 (2006) チュートリアル教育・全人的医療学コースにおける「がんの心身医学的教育」. 第47回日本心身医学会総会, 東京
41. 神原憲治, 福永幹彦, 中井吉英 (2006) 心身症患者群における病態の共通性と不均一性についての検討. 第47回日本心身医学会総会, 東京
42. 水野泰行, 福永幹彦, 中井吉英 (2006) 「心身症の改善」と「心理的要因の気づき」との相関関係に関する前向き研究. 第47回日本心身医学会総会, 東京
43. 西田慎二, 松岡弘道, 小山敦子 (2006) 腸嚢胞状気腫症と門脈内ガス血症を伴う出血性壊死性腸炎により死亡した, 神経性食思不振症の1剖検例. 第47回日本心身医学会総会, 東京
44. 村上典子, 小笹裕美子, 村松知子 (2006) 災害における心療内科医の役割〜JR 尼崎脱線事故との関わりを通して〜. 第47回日本心身医学会総会, 東京
45. 北村香奈, 計屋典子, 福永幹彦, 中井吉英 (2006) 心療内科外来患者へのグループ療法の可能性. 第47回日本心身医学会総会, 東京
46. 所 昭宏 (2006) 肺癌患者の外来化学療法移行に関する行動科学的研究. 第6回SAKAI Lung Cancer Conference, 堺
47. 山本和美 (2006) 絶食療法による心理的变化のロールシャッハ・テストによる検討. 包括システムによる日本ロールシャッハ学会, 静岡
48. 有城幸男 (2006) 心療内科での「集団自律訓練」参加者の包括的QOLの検討. 第19回神戸心身医学会, 神戸
49. 楊 震傑, 有城幸男 (2006) 摂食障害患者とその支援者に対する内気功の効果 (摂食障害フェスティバルでの内気功教室の意義). 第19回神戸心身医学会, 神戸
50. 所 昭宏 (2006) 「がん患者の心をサポートする「サイコオンコロジー」入門. 第334回近中CC, 堺
51. 阿部哲也, 福永幹彦, 中井吉英 (2006) 自律訓練法による胃運動機能の変化. 第66回消化器心身医学研究会, 小倉
52. 所 昭宏 (2006) がん患者の精神的サポート〜サイコオンコロジーの立場より〜. 第3回頭頸部癌の緩和医療を考える会, 大阪
53. 村上典子 (2006) 心療内科医の立場からの遺族支援. 第5回日本トラウマティック・ストレス学会, 神戸
54. 村上典子, 小笹裕美子, 村松知子, 他 (2006) 心身医学的観点から見た阪神淡路大震災被災住民の健康問題. 第11回日本集団災害医学会, 仙台
55. 村上典子, 小笹裕美子, 村松知子, 他 (2006) 尼崎列車事故との関わりを通しての, 心療内科医から災害救急医への提言. 第11回日本集団災害医学会, 仙台
56. 水野泰行, 福永幹彦, 中井吉英 (2006) コミュニケーションとしての慢性疼痛症候群 (心身症) —多重コミュニケーションと治療的ダブルバインド—. 第35回日本慢性疼痛学会, 東京
57. 所 昭宏 (2006) サイコオンコロジーの現場から」シンポジスト「肺癌診療におけるサイコオンコロジー. 第41回日本心身医学会近畿

地方会, 大阪

58. 村上典子, 小笹裕美子, 村松知子 (2006) がん患者の家族ケア・遺族ケア (グリーンケア). 第41回日本心身医学会近畿地方会, 大阪
59. 有城幸男, 四宮敏章, 六浦裕美, 竹林直紀, 中井吉英 (2006) 心療内科の「自律訓練法」で「食道アカシア」の症状が改善した症例. 第41回日本心身医学会近畿地方会, 大阪
60. 水野泰行, 中井吉英 (2006) 抑肝散が有効であった慢性疼痛の1例. 第42回東洋心身医学研究会, 東京
61. 西田慎二, 岸田友紀, 松岡弘道, 小山敦子 (2006) 抑肝散 (加陳皮半夏) が有効な心療内科患者についての検討. 第42回日本東洋心身医学研究会, 東京
62. 山本和美 (2006) ヨーガ—現代人のための完全健康法—. JACT心身医学研究会, 大阪
63. 所 昭宏 (2006) がん医療における心身医療の実践—サイコオンコロジーの立場より—. ホスピスケア研究会関西分会, 大阪
64. 橋爪 誠 (2006) シンポジウム「プライマリケアでみる呼吸器心身症の診断と治療」心療内科医に求められる呼吸器系疾患患者への対応. 第10回日本心療内科学会, 東京
65. 阿部哲也, 四宮敏章, 福永幹彦, 中井吉英 (2006) 上部消化管ビデオ透視検査の機能性胃腸症 (FD) への応用の試み. 第10回日本心療内科学会学術大会, 東京
66. 所 昭宏, 大家晃子, 井上義一, 前田優華, 深水玲子, 新井 徹, 林 清二, 坂谷光則, 平井 啓 (2006) リンパ脈管筋腫症 (LAM; Lymphangioleiomyomatosis) に関する心身医学的研究. 第10回日本心療内科学会総会, 東京
67. 水野泰行, 福永幹彦, 中井吉英 (2006) 慢性疼痛に対するストラテジー療法. 第10回日本心療内科学会総会, 東京
68. 村上典子, 小笹裕美子 (2006) 高度文明社会における『グリーンケア』の問題点. 第10回日本心療内科学会総会, 東京
69. 神原憲治, 福永幹彦, 中井吉英 (2006) 心身症患者における身体感覚の逸脱についての予備的検討. 第10回日本心療内科学会総会・学術大会, 東京
70. 水野泰行 (2006) 催眠. 日本代替・相補・伝統医療連合会議阪奈和支部会第1回心身医療研究会, 大阪
71. 土井麻里 (2006) 瞑想法. 日本代替相補・伝統医療連合会議 (JACT) 第1回心身医学研究会, 大阪
72. 土井麻里 (2006) “瞑想 (メディテーション) の心身へ及ぼす効果と体験実習: 心身相関への気づき” の理論と実践”. 日本代替相補・伝統医療連合会議 (JACT) 第3回心身医学研究会, 大阪
73. 土井麻里 (2006) “瞑想法”. 第3回日本代替相補・伝統医療連合会議 (JACT) 阪奈支部大会, 大阪

神経内科学講座

〈研究概要〉

運動ニューロンなど神経細胞変性に関する研究

2006年度は筋萎縮性側索硬化症 (ALS) model mouse の脊髄前角細胞において, 核-細胞質間蛋白輸送システムによって輸送される蛋白の分布異常が生じていることを免疫組織化学的に明らかにし, ALS においてこのシステムの機能異常が生じている可能性を示した. その結果は国際学会と論文で発表した. さらに, この model mouse における細胞変性過程に小胞体ストレスが関与していることを示し, 国際学会で発表した. 一方, 遺伝性脊髄小脳変性症8型 (SCA8) の世界初の神経病理所見を国際学会で発表するとともに論文発表した.

筋細胞の変性・再生に関する研究

2006年度は, 封入体筋炎の筋細胞において核の障害が疑われることから, 主な核膜, 核内蛋白の分布

を免疫組織化学的に検討したところ, histone H1が封入体筋炎の病理学的特徴である縁取りのある空胞を縁取りしている像が得られた. このことにより空胞のかかなりの部分は核の変性したものと推定した. この結果を日本神経学会総会で口演発表し, 論文として掲載予定である. また特異な筋萎縮の分布を示すミオパチー例において, 筋中間径フィラメント蛋白desminの遺伝子変異を証明し, その病的機序に関し免疫組織学的検討を行った. この結果を日本神経学会総会で発表し, これも論文として掲載予定である.

〈研究業績〉

原 著

1. Zhang J, Ito H, Wate R, Ohnishi S, Nakano S and Kusaka H (2006) Altered distributions of nucleocytoplasmic transport-related proteins in the spinal cord of a mouse model of amyotrophic lateral sclerosis. *Acta Neuropathol (Berl)* 112: 673–680
2. Ito H, Kawakami H, Wate R, Matsumoto S, Imai T, Hirano A and Kusaka H (2006) Clinicopathologic investigation of a family with expanded SCA8 CTA/CTG repeats. *Neurology* 67: 1479–1481

総 説

1. 日下博文 (2006) 【内科疾患と神経障害】その他の内科疾患に関連した神経障害 サルコイドーシス. *Clin Neurosci* 24: 94–95
2. 新出明代, 日下博文 (2006) 【内科医のための関節痛, 筋肉痛の診かた】原因が分からない時の対応法 神経・筋疾患とその鑑別を中心に. *診断と治療* 94: 1207–1211

症例報告

1. 三宅浩介, 土手絹子, 新出明代, 國枝武伸, 中野 智, 伊東秀文, 日下博文 (2006) 白質病変が先行した後に腫瘍形成を認めた中枢神経原発(悪性)リンパ腫の一例. *CI研* 28: 89–94
2. 伊藤 恒, 伊東秀文, 日下博文 (2006) 神経疾患におけるリセドロネートのステロイド骨粗鬆症予防効果. *骨粗鬆症治療* 5: 76–77
3. 伊藤 恒, 守田純一, 八木彩香, 中野 智, 伊東秀文, 日下博文 (2006) 全身性炎症反応症候群に伴う急性肺障害に対して, 好中球エラスターゼ阻害薬 sivelestat sodium hydrate が有効であったShy-Drager症候群の1例. *新薬と臨* 55: 252–255
4. 伊藤 恒, 伊東秀文, 田中伸子, 朝山真哉, 中野 智, 日下博文 (2006) 左被殻出血により

両側性味覚障害をきたした1例. *臨神経* 46: 288–290

学会発表

1. Kinoshita Y, Ito H, Zhang J, Wate R, Ohnishi S, Fujita K, Shinde A, Nakano S and Kusaka H (2006) Nucleocytoplasmic Transport Involvement in the Spinal Cord of a Mouse Model of Amyotrophic Lateral Sclerosis. 17th International Symposium on ALS/MND, Yokohama
2. Ito H, Kawakami H, Wate R, Shinde A, Nakano S, Matsumoto S, Imai T, Hirano A and Kusaka H (2006) Clinical and neuropathologic investigation of a family with the CTA/CTG expansions on SCA8 allele. 16th International Congress of Neuropathology, San Francisco
3. Wate R, Ito H, Zhang J, Ohnishi S, Shinde A, Nakano S, Hirano A and Kusaka H (2006) Involvement of Endoplasmic Reticulum-Related Proteins, GRP78, CALNEXIN, and SREBPS in the Spinal Cord of ALS Model Mouse. 16th International Congress of Neuropathology, San Francisco
4. 西井 誠, 新出明代, 中野 智, 和手麗香, 伊東秀文, 日下博文 (2006) GSS型の遺伝子変異を有する家族性プリオン病の母子例. 日本神経学会第85回近畿地方会, 京都
5. 大西静生, 高島 望, 今井輝國, 田辺英紀, 松本 充, 伊東秀文, 日下博文 (2006) 脳梁膨大部に可逆性病変を認めた急性辺縁系脳炎の成人例. 日本神経学会第85回近畿地方会, 京都
6. 木下芳美, 伊東秀文, 藤田賢吾, 和手麗香, 新出明代, 中野 智, 日下博文 (2006) 成人発症核内封入体病の1剖検例. 第34回臨床神経病理懇話会, 大津
7. 中野 智, 新出明代, 日下博文 (2006) Apoptotic nucleiとネマリン小体を認めたミオパチー. 第38回日本臨床分子形態学会総会, 宇部

8. 伊藤 恒, 八木彩香, 中野 智, 伊東秀文, 日下博文 (2006) Sjoegren症候群に伴う中枢神経症状に副腎皮質ホルモンと cyclophosphamide の併用が奏効した1例. 第24回日本神経治療学会総会, 横浜
9. 西井 誠, 三宅浩介, 高島 望, 新出明代, 中野 智, 伊東秀文, 日下博文 (2006) 急性期に両側眼瞼下垂をきたした右中大脳動脈領域脳梗塞の1例. 日本神経学会第84回近畿地方会, 大阪
10. 金田浩由紀, 齊藤幸人, 馬庭知弘, 南健一郎, 今村洋二, 日下博文 (2006) 重症筋無力症に対する拡大胸腺摘除術 術前ステロイドコントロール後の成績に関して. 第23回日本呼吸器外科学会総会, 東京
11. 伊藤 恒, 伊東秀文, 中野 智, 日下博文 (2006) Hu抗体陽性の傍腫瘍性感覚運動ニューロパシーに対する γ グロブリン大量静注療法. 第47回日本神経学会総会, 東京
12. 新出明代, 中野 智, 伊東秀文, 日下博文 (2006) Myofibrillar myopathyにおけるcaveolin-3とlipid raftsの分布. 第47回日本神経学会総会, 東京
13. 中野 智, 新出明代, 伊藤 恒, 伊東秀文, 日下博文 (2006) 封入体筋炎とDMRVにおける縁取り空胞は核由来である. 第47回日本神経学会総会, 東京
14. 新出明代, 中村聖香, 齋藤朱実, 大西静生, 張建華, 和手麗香, 中野 智, 伊東秀文, 日下博文 (2006) 進行する自律神経障害を伴った硬膜移植後クロイツフェルトヤコブ病の1剖検例 (A case of Creutzfeldt-Jakob disease with autonomic disturbance). 第47回日本神経病理学会総会, 岡山
15. 中野 智, 新出明代, 日下博文, 川本未知, 幸原伸夫 (2006) Cytoplasmic body, rimmed vacuoleを有するミオパチーと拡張型心筋症の合併を認めた同胞例 (Familial myopathy with cytoplasmic bodies and rimmed vacuoles combined with cardiomyopathy). 第47回日本神経病理学会総会, 岡山
16. 藤田賢吾, 伊東秀文, 木下芳美, 新出明代, 伊藤 恒, 中野 智, 日下博文 (2006) 成人期発症の好塩基性封入体を伴う運動ニューロン病の脳における好塩基性封入体の分布 (Distribution of basophilic inclusions in the brain from a case with adult-onset motor neuron disease with basophilic inclusions). 第47回日本神経病理学会総会, 岡山
17. 三宅浩介, 新出明代, 國枝武伸, 中野 智, 伊東秀文, 日下博文 (2006) 白質脳症が先行した中枢神経原発性リンパ腫の一例. 第29回日本脳神経CI学会総会, 東京

著 書

1. 平野朝雄, 松井孝嘉, 岩田 誠, 加藤丈夫, 水澤英洋, 飯田真岐, 和手麗香 (2006) カラーアトラス神経病理 第3版 (平野朝雄編) 1-248頁, 医学書院, 東京

精神神経科学講座

〈研究業績〉

原 著

1. Ha-Kawa SK, Yoshida T, Yague T, Tani M, Suzuki T, Sawada S (2006) Acupuncture-induced cerebral blood flow responses in dystonia. *Annals of Nuclear Medicine* 20(1): 83-87
2. Nobuhara K, Okugawa G, Sugimoto T, Minami T, Tamagaki C, Takase K, Saito Y, Sawada S, Kinoshita T (2006) Frontal white matter anisotropy and symptom severity of late-life depression: a magnetic resonance diffusion tensor imaging study. *J Neurol Neurosurg Psychiatry* 77(1): 120-122
3. Irisawa S, Isotani T, Yagyu T, Morita S, Nishida K, Yamada K, Yoshimura M, Okugawa G, Nobuhara K, Kinoshita T (2006) Increased Omega Complexity and Decreased Microstate Duration in Nonmedicated Schizophrenic Patients. *Neuropsychobiology* 54(2): 134-139
4. Kato M, Fukuda T, Wakeno M, Fukuda K,

- Okugawa G, Ikenaga Y, Yamashita M, Takekita Y, Nobuhara K, Azuma J, Kinoshita T (2006) Effects of the Serotonin Type 2A, 3A and 3B Receptor and the Serotonin Transporter Genes on Paroxetine and Fluvoxamine Efficacy and Adverse Drug Reactions in Depressed Japanese Patients. *Neuropsychobiology* 53(4): 186–195
5. Okugawa G, Nobuhara K, Minami T, Takase K, Sugimoto T, Saito Y, Yoshimura M, Kinoshita T (2006) Neural disorganization in the superior cerebellar peduncle and cognitive abnormality in patients with schizophrenia: A diffusion tensor imaging study. *Progress in Neuro-Psychopharmacology & Biol Psychiatry* 30(8): 1408–1412
 6. Serretti A, Kato M, De Ronchi D, Kinoshita T (2006) Meta-analysis of serotonin Transporter gene promoter polymorphism (5-HTTLPR) association with selective Serotonin reuptake inhibitor efficacy in depressed patients. *Molecular Psychiatry* 12(3): 247–257
 7. 板東宏樹, 入澤 聡, 奥川 学, 片山裕美, 堀内麻美, 木下利彦 (2006) 薬剤性のrapid cycluserに対する治療の工夫. *Bipolar disorder* 4: 41–46
 8. 田近亜蘭, 柳生隆視, 織田裕行, 木下利彦, 西山利正 (2006) 修正型ECTによるうつ病患者の処方内容の変化について. *最新精神医学* 11(2): 173–179
 9. 鈴木朋子, 田村直良 (2006) 表現と認知の相違から検討した感情音声の特徴. *心理学研究* 77(2): 149–156
 10. 安齋順子, 鈴木朋子, 中谷陽二 (2006) 第二次世界大戦後の日本臨床心理学の萌芽—鈴木清を中心に—. *心理学史・心理学論* 7-8: 25–37
 11. 北代麻美 (2006) 支配することと支配されることの葛藤. *精神分析研究* 50(2): 71–72
 12. 織田裕行, 守田 稔, 堀内麻美, 山田圭造, 吉野真紀, 中平暁子, 鈴木朋子, 鈴木美佐, 山田妃沙子, 木下利彦 (2006) FTMにおけるMMPIとテストステロン値に対する検討. *日本性科学会雑誌* 24(1): 17–22
 13. 西田圭一郎, 磯谷俊明, 入澤 聡, 山田圭造, 森田紗千, 木下利彦, 吉村匡史, 菊知 充, Koenig Thomas (2006) 健常者における抗精神病薬がMicrostateにおよぼす影響. *日本薬物脳波学会雑誌* 8(1): 36–38
 14. 木下利彦, 工藤義雄, 三浦貞則, 川北幸男, 堺俊明, 齋藤正己, 西村 健, 中嶋照夫 (2006) 統合失調症に対する aripiprazole の初期臨床第II相試験 関西地区多施設共同オープン試験. *臨床精神薬理* 9(1): 95–112
- 総説・著書
1. 木下利彦 (2006) 大学・精神科紹介 関西医科大学精神神経科. *最新精神医学* 11(3): 279–286
 2. 木下利彦 (2006) 薬物脳波学の発展とその意義. *臨床神経生理学* 34(5): 289
 3. 延原健二 (2006) 【非定型抗精神病薬の大規模臨床試験】統合失調症のファーストライン治療における費用対効果試験. *Schizophrenia Frontier* 7(2): 111–115
 4. 高瀬勝教, 奥川 学, 吉村匡史, 分野正貴, 齊藤幸子, 木下利彦 (2006) 【ベンゾジアゼピン系薬物の功罪】ベンゾジアゼピンが認知・運動機能に及ぼす影響. *臨床精神医学* 35(12): 1653–1658
 5. 岡村宏美 (2006) 宗教と自然観. *宗教心理学概論*, ナカニシヤ出版
- 学会発表
1. Nishida K, Yoshida T, Yoshimura M, Saito A, Kinoshita T (2006) Three cases of paroxetine responsive fronto-temporal lobar degeneration (FTLD). IGGP, Hiroshima
 2. Yoshimura M, Koenig T, Saito Y, Nobuhara K, Isotani T, Kikuchi M, Okugawa G, Irisawa S, Yamada K, Kinoshita T, Strik W, Dierks T (2006) An EEG symptom provocation study in patients with obsessive disorder. 14th Biennial Meeting of International Pharmacology-EEG Society, Awaji Island
 3. Ueno C, Tajika A, Okugawa G, Saito Y, Yoshida T, Suzuki M, Kinoshita T (2006) Siblings' relationship in children and adolescents with OCD. 17th World Congress of the International Association for Child and Adolescent Psychiatry and Allied Professions, Australia

4. Okugawa G, Takase K, Nobuhara K, Takekita Y, Kinoshita T (2006) Treatment with olanzapine increased grey and white matter volume of the caudate nucleus in patients with schizophrenia. 14th European Congress of Psychiatry, Nice
5. Saito Y, Nobuhara K, Okugawa G, Takase K, Sugimoto T, Kurokawa H, Ikeda K, Sawada S, Kinoshita T (2006) White Matter Abnormalities in Obsessive Compulsive Disorder: A diffusion tensor imaging study. 14th European Congress of Psychiatry, Nice
6. Yoshimura M, Koenig T, Saito Y, Nobuhara K, Isotani T, Kikuchi M, Okugawa G, Irisawa S, Yamada K, Kinoshita T, Strik W, Dierks T (2006) EEG microstate analysis in obsessive compulsive disorder. 26th Annual Meeting of the Swiss society of Biological Psychiatry, Lausanne
7. Yoshimura M, Koenig T, Saito Y, Nobuhara K, Isotani T, Kikuchi M, Okugawa G, Irisawa S, Yamada K, Kinoshita T, Strik W, Dierks T (2006) An EEG symptom provocation study in obsessive compulsive disorder. A Joint Annual Meeting of the Swiss Society for Neuroscience and Swiss Society for Neuroradiology, Basel
8. Okugawa G, Nobuhara K, Saito Y, Kinoshita T (2006) A diffusion tensor imaging Study of the superior cerebellar peduncle in schizophrenia. Human Brain Mapping, Florence, Italy
9. Yoshimura M, Koenig T, Isotani T, Yagyu T, Nobuhara K, Yoshida T, Kikuchi M, Irisawa S, Sugimoto T, Minami T, Nakadaira A, Suzuki M, Kinoshita T (2006) EEG Microstates in mild Alzheimer's disease. 17th Meeting of International Society for Brain Electromagnetic Topography, Chieti
10. Saito Y, Nobuhara K, Okugawa G, Takase K, Sugimoto T, Ikeda K, Sawada S, Kinoshita T (2006) The Corpus Callosum in Obsessive-Compulsive Disorder a Diffusion Tensor Imaging Study. Best Poster Prize of 14th European Congress of Psychiatry, Nice
11. 嶽北佳輝 (2006) 「精神障害者が、地域で自立した生活を送る為に寄り添い支えるボランティア講座」「こころの病」. 精神保健福祉ボランティア講座. 大阪
12. 吉田常孝, 鈴木美佐, 南 智久, 吉村匡史, 西田圭一郎, 杉本達哉, 片山裕美, 松田郷美, 松本一生, 木下利彦 (2006) 大学病院における認知症 当事者・家族の会の役割について. 第19回日本総合病院精神医学会, 宇都宮
13. 杉本達哉, 三井 浩, 織田裕行, 吉田常孝, 藤原弘佳, 磯谷利明, 中谷壽男, 木下利彦 (2006) 間歇型一酸化炭素中毒に対する高圧酸素療法の有効性についての検討. 第19回日本総合病院精神医学会, 宇都宮
14. 上野千穂 (2006) ひきこもりについて. 八尾保健所 理解促進事業 ひきこもりの家族への講演, 大阪
15. 上野千穂 (2006) しんどいよといえなくて. 文部科学省助成3回シリーズ① 思春期理解についての講演, 大阪
16. 田近亜蘭 (2006) 家族教室 2回シリーズ. 守口保健所主催 家族教室, 大阪
17. 片上哲也, 織田裕行, 奥川 学, 木下利彦 (2006) 識字教育を行なうことにより改善がみられた適応障害の1例. 第14回日本精神障害者リハビリテーション学会, 富山
18. 片上哲也, 織田裕行, 入澤 聡, 奥川 学, 木下利彦 (2006) 夫への家族療法導入により夫婦間の理解が深まり改善がみられた双極II型障害の一例 “主人在宅ストレス症候群” に関連して. 第16回日本ブリーフサイコセラピー学会, 横浜
19. 鈴木朋子 (2006) 日本における臨床心理学の導入と受容過程3. 日本心理学会, 福岡
20. 織田裕行, 守田 稔, 山田圭造, 堀内麻美, 吉野真紀, 中平暁子, 鈴木朋子, 山田妃沙子, 鈴木美佐, 木下利彦 (2006) 初診時にホルモン剤を使用していたMTFに対する検討. 第26回日本性科学会学術集会, 仙台
21. 鈴木美佐 (2006) 葉の会 (当事者と家族の会) を設立して. 認知症の人と家族への援助をすすめる. 第22回全国研究集会, 甲府
22. 西田圭一郎, 吉田常孝, 吉村匡史, 嶽北佳輝, 入澤 聡, 木下利彦 (2006) 前頭側頭型認知症 (FTD) 患者の行動・心理症 (BPSD) にオランザピン口腔内崩壊錠が有効であった1例. 北河内ジブレキサフォーラム, 大阪

23. 三井 浩 (2006) 精神障害の成り立ちとリハビリについて. 門真市精神障害者理解促進事業, 大阪
24. 田近亜蘭 (2006) 「ストレスと上手に付き合おう」「海外で気分が落ち込まないようにするには」. 外務省主催 ウズベキスタン・タシケント在留邦人対象の講演会, 大阪
25. 田近亜蘭 (2006) 海外で気分が落ち込まないようにするには. 外務省主催 カザフスタン・アルマティ在留邦人対象の講演会, 大阪
26. 上野千穂 (2006) ひきこもりの理解と家族への援助. 四条畷保健所 理解促進事業 関係者向け講演, 大阪
27. 村上貴栄 (2006) 精神障害者と家族の役割. 四条畷保健所家族教室, 大阪
28. 田近亜蘭 (2006) 家族教室. 四条畷保健所主催 家族教室, 大阪
29. 田近亜蘭 (2006) 家族教室2回シリーズ. 寝屋川保健所主催 家族教室, 大阪
30. 上野千穂, 織田裕行, 井上雅晴, 有木永子, 柳場美穂, 木下利彦 (2006) 高機能広汎性発達障害に小児性愛を伴った2症例. 第47回日本児童青年精神医学会総会, 千葉
31. 岡村宏美, 西峰貴子, 中平暁子, 西村美登利, 福永千佳子, 坂口博保, 兵頭紀子, 太田由子, 木下利彦 (2006) 治験推進のために必要なことを考える～治験責任・分担医師経験者のアンケートより～. 第6回CRCと臨床試験のあり方を考える会議, 埼玉
32. 田近亜蘭 (2006) あなたはストレスとどう付き合ってますか?. 働く人のメンタルヘルス講座, 大阪
33. 嶽北佳輝 (2006) こころの病. 広島県三原市市民講座, 広島
34. 鈴木美佐 (2006) 認知症予防について. 守口市地域包括支援センター介護予防講座, 守口
35. 村上貴栄 (2006) 精神保健福祉と医療ソーシャルワーク. 大阪医療ソーシャルワーカー協会初任者研修, 大阪
36. 吉野真紀 (2006) 娘の不登校を機に來談した分離できない母子の心理面接. 第25回日本心理臨床学会, 大阪
37. 杉本達哉 (2006) 精神科救急医療. 第45回北河内救急研究会, 大阪
38. 上野千穂 (2006) 高機能広汎性発達障害に性嗜好異常を伴った2症例. 第6回日本外来精神医療学会, 大阪
39. 三井 浩, 上野千穂, 塚本紗千, 分野正貴, 木下利彦 (2006) 間歇型一酸化炭素中毒を呈し, 受傷後約2ヵ月目から高圧酸素療法を開始した症例. 第99回近畿精神神経学会, 大阪
40. 奥川 学, 高瀬勝教, 延原健二, 玉垣千春, 齊藤幸子, 木下利彦 (2006) 統合失調症患者におけるオランザピンの尾状核体積に及ぼす効果. 日本生物学的精神医学会, 名古屋
41. 上野千穂 (2006) 「統合失調症の理解」「精神科リハビリテーション」. 守口保健所 理解促進事業 当事者向け講演, 大阪
42. 上野千穂 (2006) 「病気のことを正しく知ろう～統合失調症を中心に～」. 精神障害者当事者学習会, 大阪
43. 上野千穂 (2006) 治療とリハビリテーションについて～統合失調症を中心に～. 精神障害者当事者学習会, 大阪
44. 織田裕行 (2006) 関西医科大学の取組み. 第1回関西GIDネットワーク, 大阪
45. 吉村匡史, KoenigThomas, 磯谷俊明, 柳生隆視, 延原健二, 吉田常孝, 菊知 充, 入澤聡, 杉本達哉, 南智久, 中平暁子, 鈴木美佐, 木下利彦, Strik Werner, K. Dierks Thomas (2006) 軽症アルツハイマー病患者の微細脳電場構造 (microstates). 第21回日本老年精神医学会大会, 東京
46. 福永幹彦, 阿部哲也, 水野泰行, 神原憲治, 中井吉英, 入澤 聡, 木下 洋, 飯田寛和, 松田公志 (2006) OSCEの医療面接評価とクラックシップ時のコミュニケーション能力評価との関係. 第38回医学教育学会, 奈良
47. 鈴木美佐 (2006) 大阪府守口市における平成16・17年度の介護予防講座の取り組みについて. 第3回日本高齢者虐待防止学会, 大阪
48. 杉本達哉, 織田裕行, 吉田常孝, 波柴尉充, 三宅建作, 平川昭彦, 村尾佳則, 磯谷俊明, 木下利彦, 中谷壽男 (2006) 精神科救急ネットワーク構築の試み. 第94回近畿救急医学研究会, 高槻
49. 片山裕美, 加藤正樹, 吉田常孝, 吉村匡史, 高瀬勝教, 西田圭一郎, 木下利彦 (2006) 若年

で前頭葉症状を呈した一症例. 第99回近畿精神神経学会, 大阪

50. 上野千穂 (2006) 広汎性発達障害の理解のために. 藤井寺保健所 理解促進事業 関係者向け講演, 大阪
51. 西田圭一郎, 吉田常孝, 入澤 聡, 吉村匡史, 織田裕行, 松田郷美, 田近亜蘭, 片山裕美, 南智久, 鈴木美佐, 河 相吉, 延原健二, 齊藤朱実, 木下利彦 (2006) SSRI が効果を示した semantic dementia (SD) の一症例. 第21回日本老年精神医学会, 東京
52. 吉村匡史, Koenig T, 齊藤幸子, 延原健二, 磯谷俊明, 菊知 充, 奥川 学, 入澤 聡, 山田圭造, 木下利彦, Strik W, Dierk T (2006) 強迫性障害患者に対する不安誘発に伴う脳電場の変化. 第23回日本脳電磁図トポグラフィ研究会, 釧路
53. 村上貴栄 (2006) 多機関が参加して行なうピアサポーター養成講座の取り組みと課題. 第43回日本精神保健福祉協会全国大会, 宮崎
54. 栗山康弘, 藤田直子, 片上哲也, 木下利彦 (2006) 精神科作業療法の実際一ひらがな習得に向けての援助一. 第8回二大学フォーラム, 大阪
55. 西田圭一郎, 吉田常孝, 吉村匡史, 入澤 聡, 鈴木美佐, 村田 章, 木下利彦 (2006) 選択的セロトニン再取り込み阻害薬 (selective serotonin reuptake inhibitor: SSRI) が効果を示した Semantic Dementia (SD) の一例. 第9回北大阪物忘れ研究会, 大阪
56. 鈴木美佐 (2006) いち, に, のさんで認知症予防! 今自分にできることを一緒に探してみよう. 守口地域包括支援センター介護予防講座, 守口
57. 杉本達哉, 織田裕行, 加藤正樹, 吉田常孝, 南智久, 磯谷俊明, 北澤康秀, 南 良武, 木下利彦, 中谷壽男 (2006) 精神科救急の取り組み 常駐精神科医を中心とした精神科救急ネットワーク構築の試み. 第9回日本臨床救急医学会, 盛岡
58. 田近亜蘭 (2006) ストレスと上手に付き合おう. シルバー運動会講演会, 大阪
59. 杉山祐夫 (2006) 精神障害について一病気の成り立ちとリハビリについて. 守口市精神障害者理解促進事業, 大阪
60. 田近亜蘭 (2006) アンケートのうまいとり方とその分析法について. 守口保健所主催, 大阪
61. 田近亜蘭 (2006) 精神障害とは. 守口門真保健所主催 精神障害者理解促進事業, 大阪
62. 上野千穂 (2006) 発達障害の理解と対応. 大阪施設心理ネットワーク会議, 大阪
63. 杉本達哉 (2006) 新システムについてのアンケート調査. 第2回北河内精神科救急研究会, 大阪
64. 織田裕行 (2006) クリティカルケア領域での患者家族のニーズの充実を目指して リエゾン医の視点から. 第33回日本集中治療医学会, 大阪
65. 上野千穂 (2006) 発達障害の理解と対応. 東大阪子ども家庭センター主催 関係者向け講演, 大阪
66. 吉田常孝 (2006) こころの健康相談. 保健所相談事業, 大阪
67. 板東宏樹 (2006) こころの健康相談. 保健所相談事業, 大阪
68. 上野千穂 (2006) セカンドオピニオンについて. 守口門真精神障害者地域家族会講演, 大阪
69. 杉本達哉 (2006) 「リエゾン」って何かわかりますか? 第3回リエゾン研究会, 大阪
70. 吉野真紀, 中平暁子, 織田裕行, 田近 文, 有木永子, 堀内麻美, 山田圭造, 守田 稔, 鈴木美佐, 山田妃沙子, 田近亜蘭, 木下利彦 (2006) 関西医科大学附属病院における性同一性障害患者の心理的特性. 第98回近畿精神神経学会, 京都
71. 三井 浩 (2006) 「社会的引きこもり」について. 四条畷保健所地域ネットワーク, 大阪
72. 吉村匡史, Korng T, 磯谷俊明, 柳生隆視, 延原健二, 吉田常孝, 菊知 充, 入澤 聡, 杉本達哉, 南 智久, 中平暁子, 鈴木美佐, 木下利彦 (2006) 軽症アルツハイマー病患者の微細脳電場構造. 第36回日本臨床神経生理学会学術集会, 横浜
73. 吉村匡史 (2006) 精神障害とは～疾病およびリハビリについて～. 門真市精神障害者理解促進事業・小地域ネットワーク活動推進事業研修会. 門真
74. 鈴木朋子 (2006) 母へのアンビバレンツを持

ち母親になった女性との心理療法. 第52回日本精神分析学会, 名古屋

75. 齊藤幸子, 延原健二, 奥川 学, 高瀬勝教, 杉本達也, 澤田 敏, 木下利彦 (2006) 強迫性障害における白質異常. 日本生物学精神医学会, 日本
76. 織田裕行, 守田 稔, 山田圭造, 北代麻美, 吉野真紀, 中平暁子, 鈴木朋子, 鈴木美佐, 山田妃沙子, 磯谷俊明, 木下利彦 (2006) 性同

一性障害患者の通院に伴う負担. 第19回日本総合病院精神医学会, 宇都宮

77. 鈴木朋子, 伊東純太 (2006) 感情を感じる身体部位の検討, 福岡
78. 鈴木朋子 (2006) 知能検査の本邦導入 日本心理学会 (ワークショップ「日本における臨床心理学の導入と受容過程3」. 話題提供), 福岡

小児科学講座

〈研究概要〉

小児科は総合診療科としての特性を活かし, 小児の様々な疾患の診断, 治療に関する研究を分野別に研究班を組織して行っている. 以下に2006年の主な研究成果を研究班別に述べる.

- 1) 腎臓病研究班: ネフローゼ症候群の蛋白尿惹起因子としての一酸化窒素の関与に関する検討やラットの腸管灌流実験から経口補水療法の生理的根拠の検証を行った.
- 2) 免疫・アレルギー研究班: 好中球の機能異常をきたす WHIM 症候群の CXCR4 遺伝子の変異の検討や自己免疫性好中球減少症の診断法確立に関する研究を行った.
- 3) 内分泌・代謝研究班: 低出生体重児の細胞内マグネシウム動態を検討し, 胎児期からすでに成人期の代謝性疾患, とくにメタボリックシンドロームの発症基盤が形成されているとする Barker 学説を支持する結果を得た.
- 4) 精神・神経疾患研究班: 長期臥床の小児の自律神経機能に及ぼす影響に関する研究や小児の反復性腹痛に関する心身医学的考察を行った.
- 5) 循環器研究班: 川崎病の冠動脈病変の診断にマルチスライスCTが有用であることを報告した.
- 6) 新生児研究班: 重篤な羊水吸引症候群に対するフロランの有用性や難治性低血糖例の管理方法などに関する報告を行った. また新生児の好中球の活性酸素や一酸化窒素産生能を測定し, 新生児の易感染性の原因の一端を明らかにした.
- 7) その他: 潰瘍性大腸炎を伴う Turner 症候群, SYBR green PCRを用いた Adenovirus 扁桃炎の診断法や HHV6 脳症における MRI 拡散強調画像の特徴, といった多くの症例報告を行った.

〈研究業績〉

原 著

1. Kyoi S, Otani H, Matsuhisa S, Akita Y, Enoki C, Tatsumi K, Hattori R, Imamura H, Kamihata H and Iwasaka T (2006) Role of oxidative/nitrosative stress in the tolerance to ischemia/reperfusion injury in cardiomyopathic hamster heart. *Antioxid Redox Signal* 8: 1351-1361
2. Fujinaga S, Kaneko K, Muto T, Ohtomo Y, Murakami H and Yamashiro Y (2006) Independent risk factors for chronic cyclosporine induced nephropathy in children with nephrotic syn-

drome. *Arch Dis Child* 91: 666-670

3. Ikebukuro K, Adachi Y, Suzuki Y, Iwasaki M, Nakano K, Koike Y, Mukaide H, Yamada Y, Fujimoto S, Seino Y, Oyaizu H, Shigematsu A, Kiriya N, Hamada Y, Kamiyama Y and Ikehara S (2006) Synergistic effects of injection of bone marrow cells into both portal vein and bone marrow on tolerance induction in transplantation of allogeneic pancreatic islets. *Bone Marrow Transplant* 38: 657-664
4. Morimoto A, Ikushima S, Kinugawa N, Ishii E, Kohdera U, Sako M, Fujimoto J, Bessho F,

- Horibe K, Tsunematsu Y, Imashuku S, for the Japan Langerhans Cell Histiocytosis Study Group (2006) Improved outcome in the treatment of pediatric multifocal langerhans cell histiocytosis. *Cancer* 107: 613–619
5. Otani H, Matsuhisa S, Akita Y, Kyo S, Enoki C, Tatsumi K, Fujiwara H, Hattori R, Imamura H and Iwasaka T (2006) Role of mechanical stress in the form of cardiomyocyte death during the early phase of reperfusion. *Circ J* 70: 1344–55
 6. Takaya J, Teraguchi M, Ikemoto Y, Yoshimura K, Yamato F, Higashino H, Kobayashi Y and Kaneko K (2006) Turner syndrome associated with ulcerative colitis. *Clin Pediatr Endocrinol* 15: 97–100
 7. Taneichi H, Kanegane H, Futatani T, Otsubo K, Nomura K, Sato Y, Hama A, Kojima S, Kohdera U, Nakano T, Hori H, Kawashima H, Inoh Y, Kamizono J, Adachi N, Osugi Y, Mizuno H, Hotta N, Yoneyama H, Nakashima E, Ikegawa S and Miyawaki T (2006) Clinical and genetic analyses of presumed Shwachman-Diamond syndrome in Japan. *Int J Hematol* 84: 60–62
 8. Ueda I, Kohdera U, Hibi S, Inaba T, Yamamoto K, Sugimoto T, Morimoto A, Ishii E and Imasyuku S (2006) A novel perforin gene mutation in a Japanese Family with hemophagocytic lymphohistiocytosis. *Int J Hematol* 83: 51–54
 9. Kohdera U, Kino M and Ito M (2006) Detection of Adenovirus DNA in Throat Swabs and Blood by SYBR Green Real-Time PCR Assay in Patients with Adenovirus-Associated Tonsillitis. *Jpn J Infect Dis* 59: 394–396
 10. Ishizaki Y, Fukuoka F, Tanaka H, Taniuchi S and Kaneko K (2006) Does a 16-Day Bed-rest cause a deterioration of executive function? *J Gravit Physiol* 13: 21–22
 11. Hijikata Y, Yasuhara A, Yoshida Y and Sento S (2006) Traditional Chinese medicine treatment of epilepsy. *J Altern Complement Med* 12: 673–677
 12. Mori N, Motegi Y, Shimamura Y, Ezaki T, Natsumeda T, Yonekawa T, Ota Y, Notomi T and Nakayama T (2006) Development of a new method for diagnosis of rubella virus infection by reverse transcription-loop-mediated isothermal amplification. *J Clin Microbiol* 44: 3268–3273
 13. Kaida A, Iritani N, Kubo H, Shiomi M, Kohdera U and Murakami T (2006) Seasonal distribution and phylogenetic analysis of human metapneumovirus among children in Osaka City, Japan. *J Clin Virol* 35: 394–399
 14. Xing Y, Ichida F, Matsuoka T, Isobe T, Ikemoto Y, Higaki T, Tsuji T, Haneda N, Kuwabara A, Chen R, Futatani T, Tsubata S, Watanabe S, Watanabe K, Hirono K, Uese K, Miyawaki T, Bowles KR, Bowles NE and Towbin JA (2006) Genetic analysis in patients with left ventricular noncompaction and evidence for genetic heterogeneity. *Mol Genet Metab* 88: 71–77
 15. Zhang Y, Adachi Y, Suzuki Y, Minamino K, Iwasaki M, Nakano K, Koike Y, Mukaide H, Shigematsu A, Kiriya N, Li C and Ikehara S (2006) Synergistic effects of granulocyte-colony stimulating factor and macrophage-colony stimulating factor on recovery of donor hematopoietic cells in allogeneic bone marrow transplantation. *Oncol Rep* 16: 367–371
 16. Zhang Y, Adachi Y, Iwasaki M, Minamino K, Suzuki Y, Nakano K, Koike Y, Mukaide H, Shigematsu A, Kiriya N, Li C and Ikehara S (2006) G-CSF and/or M-CSF accelerate differentiation of bone marrow cells into endothelial progenitor cells in vitro. *Oncol Rep* 15: 1523–1527
 17. Fujinaga S, Ohtomo Y, Murakami H, Takemoto M, Yamashiro Y and Kaneko K (2006) Recurrence of Henoch-Schönlein purpura nephritis after long-term remission in a 15-year-old girl. *Pediatr Nephrol* 21: 1215–1216
 18. Fujinaga S, Kaneko K, Ohtomo Y and Yamashiro Y (2006) Acute renal failure induced by an angiotensin II receptor antagonist in a 14-year-old boy with reflux nephropathy. *Pediatr Nephrol* 21: 601–602
 19. Fujinaga S, Kaneko K, Ohtomo Y, Murakami H, Takemoto M, Takada M, Shimizu T and Yamashiro Y (2006) Thin basement membrane nephropathy associated with minimal change disease in

- a 15-year-old boy. *Pediatr Nephrol* 21: 277-280
20. Fukuda S, Ikeda M, Chiba M and Kaneko K (2006) Clinical diagnostic indicators of renal and bone damage in rats intramuscularly injected with depleted uranium. *Radiat Prot Dosimetry* 118: 307-314
 21. Adachi Y, Oyaizu H, Taketani S, Minamino K, Yamaguchi K, Shultz LD, Iwasaki M, Tomita M, Suzuki Y, Nakano K, Koike Y, Yasumizu R, Sata M, Hirama N, Kubota I, Fukuhara S and Ikehara S (2006) Treatment and transfer of emphysema by a new bone marrow transplantation method from normal mice to Tsk mice and vice versa. *Stem Cells* 24: 2071-2077
 22. Nakano K, Adachi Y, Minamino K, Iwasaki M, Shigematsu A, Kiriya N, Suzuki Y, Koike Y, Mukaide H, Taniuchi S, Kobayashi Y, Kaneko K and Ikehara S (2006) Mechanisms underlying acceleration of blood flow recovery in ischemic limbs by macrophage colony-stimulating factor. *Stem Cells* 24: 1274-1279
 23. 寺口正之, 吉村 健, 金子一成, 津田悦子, 東将浩, 内藤博昭 (2006) 【川崎病 第30回近畿川崎病研究会】川崎病の冠動脈病変評価におけるマルチスライスCTの有用性 超巨大冠動脈瘤を合併した小児例における検討. *Prog Med* 26: 1563-1567
 24. 池本裕実子, 大橋 敦, 北村直行, 辻 章志, 黒柳裕一, 寺西顕司, 木下 洋, 金子一成 (2006) 大量羊水吸引症候群に合併した新生児遷延性肺高血圧症に対するフローランの使用経験. *Prog Med* 26: 295-299
 25. 原田佳明, 卯西 元, 小野 厚, 木野 稔, 園田典明, 辻美代子, 原 統子, 松井哲雄 (2006) 抗生物質使用に関する小児科患者保護者への意識調査. *外来小児* 9: 57-59
 26. 森 伸生 (2006) 感染症実地疫学 宮崎県での麻疹アウトブレイク調査. *公衆衛生* 70: 882-886
 27. 橋本裕一郎, 古林万木夫, 宮澤いずみ, 高畑能久, 田辺創一, 谷内昇一郎 (2006) 淡口醤油醸造における米タンパク質の分解・除去機構の検討. *醤油の研と技* 32: 233-236
 28. 藤永周一郎, 海野大輔, 染谷朋之介, 大友義之, 清水俊明, 山城雄一郎, 金子一成 (2006) 小児の重症ループス腎炎における少量シクロホスファミドパルス療法メチルプレドニゾロンパルス療法およびミゾリビンの3剤併用療法. *日小児腎臓病会誌* 19: 70-77
 29. 藤永周一郎, 大友義之, 高田 大, 竹本満也子, 清水俊明, 山城雄一郎, 金子一成 (2006) 小児のステロイド依存性ネフローゼ症候群におけるミゾリビン大量療法. *日小児腎臓病会誌* 18: 17-20
 30. 石崎優子, 宮島 祐, 大澤真木子, 林 北見, 深井善光, 宮地泰士, 田中英高 (2006) 小児神経, 小児心身および小児精神神経学会会員の向精神薬の適正使用に関する意識調査. *日小児臨薬理会誌* 19: 104-107
- 総 説
1. 金子一成 (2006) EXCELLENT DOCTOR. *PEDIATRIC APIS* 8: 8-9
 2. 村上貴孝 (2006) 学校での健康管理 (下). *みんなのねがい* 472: 34-36
 3. 村上貴孝 (2006) 学校での健康管理 (上). *みんなのねがい* 471: 30-32
 4. 石崎優子 (2006) ストレスとトラウマと…? *チャイルドヘルス* 9: 2
 5. 石崎優子 (2006) 【幼児期にみられるこころのトラブル】反復性腹痛・周期性嘔吐. *チャイルドヘルス* 9: 230-231
 6. 谷内昇一郎 (2006) 【先天性免疫不全症の最近の話題】WHIM症候群におけるCXCR4遺伝子変異. *血液フロンティア* 16: 593-599
 7. 金子一成 (2006) 小児の維持輸液療法: 最近の考え方. *高知県小児科医会報* 20: 27-31
 8. 藤井由里, 石崎優子 (2006) 【プライマリ・ケア医のための心療内科のテクニック】さまざまな立場における心療内科テクニックを考える 小児科医の立場から 成人をみる医師が小児の心身症をみる際の留意点. *治療* 88: 2201-2205
 9. 木下 洋, 北島博之, 金太 章, 西原正人, 南宏尚, 白石 淳, 北村直行, 根岸宏邦, 北田文則, 清水郁也, 松尾重樹, 末原則幸 (2006) シナリオに基づく新生児蘇生講習会 産科医・小児科医・助産師・看護師への講習会開

催報告. 周産期医 36: 258-262

10. 木下 洋, 大橋 敦 (2006) 【周産期医学必修知識】新生児 アデノウイルス感染症. 周産期医 36 (増刊): 569-570
11. 木下 洋, 黒柳裕一 (2006) 【周産期医学必修知識】新生児 コクサッキーウイルス感染症. 周産期医 36 (増刊): 566-568
12. 木下 洋, 寺西顕司 (2006) 【周産期医学必修知識】新生児 エンテロウイルス感染症. 周産期医 36 (増刊): 563-565
13. 金子一成 (2006) 書評: こどもの腹部エコー. 週刊 医学界新聞 2699: 613-619
14. 蓮井正史, 金子一成 (2006) 【小児の治療指針】腎・尿路 間質性腎炎. 小児診療 69 (増刊): 702-705
15. 木下 洋 (2006) 【小児の治療指針】新生児敗血症. 小児診療 69 (増刊): 875-879
16. 原田佳明 (2006) 【小児の治療指針】アデノウイルス感染症, エンテロウイルス感染症. 小児診療 69 (増刊): 198-201
17. 伊藤太一, 木下 洋 (2006) 低出生体重児・新生児の血糖維持機構, 低血糖の病態, 原因. 小児診療 68: 1813-1817
18. 黒柳裕一, 金子一成 (2006) 【子どもが「痛い」と言ったとき】さまざまな状況での対応「お腹が痛い」と言ったとき 内科医の立場から. 小児看護 29: 1223-1227
19. 金子一成 (2006) 経口補水療法の最近の考え方. 小児臨 59: 2269(1)-2269(7)
20. 木下 洋, 金子一成 (2006) 【小児科の魅力】子どもの総合診療「小児の診療」の基本とその教育. 小児内科 38: 704-709
21. 村上貴孝 (2006) 【必携! けいれん, 意識障害 その時どうする】けいれんの治療と管理 けいれん重積への対応 入院の適応は何を目安にするか. 小児内科 38: 189-191
22. 金子一成 (2006) 【小児疾患の診断治療基準】水・電解質・酸塩基平衡 血清電解質異常 (K 異常症). 小児内科 38 (増刊): 116-117
23. 金子一成 (2006) 【輸液療法 新しい知見】小児への維持輸液製剤のNa濃度は35 mEq/Lより濃くすべきである 賛成. 小児内科 38: 995-999
24. 東野博彦, 石崎優子, 荒木 敦, 竹村 司, 多和昭雄, 岡田義昭 (2006) 小児期発症の慢性疾患患児の長期支援について 小児一思春期—成人医療のギャップを埋める「移行プログラム」の作成をめざして. 小児内科 38: 962-968
25. 藤井喜充 (2006) 【自分でやってみたくなる超音波検査】川崎病の超音波検査 胆嚢腫大. 小児内科 38: 1859-1862
26. 藤井喜充, 木野 稔 (2006) 【自分でやってみたくなる超音波検査】流行性耳下腺炎と反復性耳下腺炎. 小児内科 38: 1715-1719
27. 藤井喜充 (2006) 啼泣児の腹部触診. 大阪救急 73: 37-38
28. 金子一成 (2006) 大学の窓 医学生教育の変革とその反省. 大阪小児科医学会会報 139: 3-4
29. 金子一成 (2006) 〈うぶ声〉Barker仮説: 発育不全の胎児と成人期のメタボリックシンドローム. 大阪小児科医学会会報 139: 1-2
30. 須藤博明 (2006) 子育て通信「アデノウイルス感染症」. 大阪小児科医学会会報 138: 46
31. 金子一成 (2006) 病院紹介記 関西医科大学附属枚方病院. 大阪小児科医学会会報 138: 39-41
32. 金子一成 (2006) 第132回学術集会 小児の特発性ネフローゼ症候群の病因. 大阪小児科医学会会報 138: 14-15
33. 金子一成 (2006) 〈うぶ声〉尿路感染症予防: その歴史と新しい治療戦略. 大阪小児科医学会会報 138: 1-3
34. 卯西 元 (2006) 小児科外来での禁煙支援に使えるトリビア. 大阪小児科医学会会報 139: 13-17
35. 東野博彦 (2006) 小児科定点へのアンケート調査 迅速検査使用状況と感染症発生動向調査事業に対する評価. 大阪小児科医学会会報 138: 24-32
36. 原田佳明 (2006) 小児科勤務医の労働環境. 大阪保険医雑誌 34: 18-23
37. 金子一成 (2006) 尿路感染症予防: その新しい治療戦略. 第14回日本逆流性腎症フォーラム記録集 12-13
38. 石崎優子, 小林正夫, 沖 潤一, 和賀 忍, 星加明德, 関 秀俊, 西間三馨, 橋本俊顕, 渡辺久子, 太田孝男, 小泉晶一 (2006) 入院中

の患児と家族を支援するシステムに関する調査 平成17年度アンケート結果報告. 日小児会誌 110: 1450-1467

39. 谷内昇一郎, 金子一成 (2006) 乳児好中球減少症の鑑別診断と最近の話題. 第48回日本小児血液学会講演集 45-52
40. 石崎優子 (2006) 臨床必修研修の現場に必要な小児医薬品の基礎知識 有効で安全な薬の使い方から相互作用・副作用まで 向精神薬の特徴と使用上の留意点. 日小児臨薬理会誌 19: 87-90
41. 金子一成 (2006) 小児の急性胃腸炎に「ORT」. 日経メディカル 107: 34-35
42. 原田佳明 (2006) 咽頭結膜熱(プール熱)の診断と治療. 医事新報 (4289): 57-61
43. 東野博彦 (2006) キャリーオーバー・イズ・オーバー. 日小医会報 32: 182
44. 石崎優子 (2006) 【「親子関係からみたこども環境」学】子どもの心の問題と母子関係. 保健の科学 48: 897-900
45. 石崎優子 (2006) 知っておくと必ず役立つアラカルト 児童虐待を疑ったら? 臨研プラクティス 4: 108-110

症例報告

1. 野田幸弘, 居原田安奈, 中野崇秀, 金子一成 (2006) 目で見る小児科 好酸球性肉芽腫症における3次元CTの有用性. 小児科 47: 1291-1292
2. 森 喜造, 高屋淳二, 荒木 敦, 金子一成 (2006) 目で見る小児科 MRI拡散強調画像でのみ病変を認めたHHV6脳症. 小児科 47: 141-142
3. 徳原克治, 浜田吉則, 棚野晃秀, 高田晃平, 上山泰男, 野田幸弘, 中野崇秀, 藤井喜充, 罔府寺美 (2006) 腫瘍破裂, 大量腹水貯留を伴った卵巣若年性顆粒膜細胞腫の1幼児例. 小児がん 43: 18-21
4. 村上貴孝, 大橋鈴子, 喜多俊二, 藤井喜充, 奥田晃司, 目黒敬章, 罔府寺美, 木野 稔, 中野博光 (2006) 夜驚様症状に対しClobazamが有効であった潜因性部分てんかんの1例. 小児臨 59: 53-55
5. 高田晃平, 浜田吉則, 徳原克治, 棚野晃秀, 辰

巳貴美子, 野田幸弘, 中野崇秀, 上山泰男 (2006) 新生児破裂肝芽腫の1例. 日小外会誌 42: 222-228

6. 三宅 岳, 浜田吉則, 渡邊健太郎, 棚野晃秀, 徳原克治, 高田晃平, 上山泰男, 中野崇秀 (2006) Opsoclonus-mycoclonus-ataxia を契機に発見された神経芽腫の1例. 日小外会誌 42: 28-34

学会発表

1. Ishizaki Y, Kitamura K, Nagahama T, Ohashi A, Tsuji S, Kinoshita Y, Fujii Y, Hattori Y, Nakamura M and Kaneko K (2006) The long-term observation of salivary cortisol levels of very low birth weight infants by using Saliva Sampler TM. 2nd Congress of Asian Society for Pediatric Research, Yokohama
2. Teraguchi M, Ogino H, Yoshimura K, Taniuchi1 S, Kino M, Okazaki H and Kaneko K (2006) Steriod pulse therapy for immune globulin-resistant Kawasaki disease. 2nd Congress of Asian Society for Pediatric Research, Yokohama
3. Yamato F, Takaya J, Tsuji S and Kaneko K (2006) Angiotensin II suppresses the radical production from polymorphonuclear neutrophils after phagocytosis. 2nd Congress of Asian Society for Pediatric Research, Yokohama
4. Kawasaki H, Imai Y, Kuroyanagi Y, Noda Y, Nakano T and Kaneko K (2006) Disappearance of Minimal Residual DEK-CAN Fusion Transcript after Allogenic Hematopoietic Stem Cell Transplantation in a Child with t(6;9) Acute Myeloid Leukemia. The 48th Annual meeting of the American Society of Hematology, Orlando, Florida
5. Tatsumi K, Tsuji S, Sugiura I, Orihara M, Nakao K, Okano H and Yasui M (2006) Functional analysis of Drosophila big brain (bib) that is a homolog of mammalian Aquaporin-4 (AQP4). Keio Aquaporin Mini Symposium, Tokyo
6. Takaya J, Yamato F and Kaneko K (2006) Intracellular magnesium and adipokines in umbilical cord plasma and infant birth size. 第11回国際マグネシウムシンポジウム, Mie

7. Ishizaki Y, Taniuchi S and Kaneko K (2006) Does a 16-Day Bed-rest cause a deterioration of executive function? 27th Annual International Gravitational Physiology Meeting, Osaka
8. Enoki C, Otani H, Wu Y, Matsuhisa S, Akita Y, Kyo S, Tatsumi K, Okada T, Hattori R and Imamura H (2006) IGF-1 Increases Engraftment of Transplanted Mesenchymal Stem Cells and Improves Cardiac Function without Differentiation in Rats with Myocardial Infarction. 70th Anniversary Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Nagoya
9. 金子一成 (2006) Barker 仮説 (成人病胎児起因説) と Mg の関係. ノボノルディスクファーマ主催特別講演会, 大阪
10. 木野 稔, 関府寺美 (2006) 「一般診療におけるインフルエンザ感染症」総論的考察. 大阪府内科医会第16回医学会, 大阪
11. 関府寺美, 木野 稔 (2006) 「一般診療におけるインフルエンザ感染症」小児インフルエンザの話題. 大阪府内科医会第16回医学会, 大阪
12. 石崎優子 (2006) 成人科から心身症として小児科心身症外来に紹介された軽度発達障害児の3例. 第11回日本心療内科学会, 大阪
13. 谷内昇一郎, 蓮井正史, 今井雄一郎, 金子一成 (2006) 診断時に好中球付着性IgM抗体のみの陽性となった自己免疫性好中球減少症の3例. 第14回食細胞機能異常症研究会, 東京
14. 田中香織, 田中晴樹, 鶴和美穂, 森田耕輔, 宋大光, 杉峰啓憲, 坂本晴子, 葭井操雄, 森本武志, 住本真一, 金岡裕夫, 新居正甫, 後藤薫, 峰 研治 (2006) 重症化したヒトメタニューモウイルス肺炎の1例. 第172回大阪小児科学学会, 大阪
15. 須藤京子, 寺口正之, 蓮井正史, 野田幸弘, 吉村 健, 金子一成 (2006) 腸重積との鑑別が困難であった腸管出血性大腸菌感染症の一例. 第172回大阪小児科学会, 大阪
16. 箕浦貴則, 谷内昇一郎, 金子一成 (2006) 当院で施行した食物負荷試験についての検討. 第173回大阪小児科学会, 大阪
17. 卯西元 (2006) 大阪小児科医会における禁煙支援の取組み. 第1回日本禁煙科学会学術総会, 京都
18. Nakano K, Adachi Y, Hisha H, Koike Y, Mukaide H, Kiriya N and Ikehara S (2006) 移植と免疫抑制 (NZW x BXSb) F1 マウスからのドナー由来未熟 B 細胞白血病細胞株の確立 (Establishment of a Donor-Derived Immature B Cell Leukemia Cell Line from (NZW x BXSb) F1 Mice after BMT from C3H Mice). 第36回日本免疫学会・学術集会, 大阪
19. Shigematsu A, Adachi Y, Kiriya N, Mukaide H, Koike Y, Nakano K and Ikehara S (2006) 腫瘍抗原とそれを用いた抗腫瘍免疫制御法 ヒト正常組織におけるサイトグロブリンの発現相違 (Different expression of Cytoglobin in human normal tissues). 第36回日本免疫学会総会・学術集会, 大阪
20. Mukaide H, Adachi Y, Nakano K, Koike Y, Kiriya N, Shigematsu A and Ikehara S (2006) Immunotherapy for malignant tumors using combination of IBM-BMI, DLI and dendritic cells. 第36回日本免疫学会総会学術集会, 大阪
21. 木下 洋 (2006) シナリオに基づく新生児蘇生の実践—Neonatal Resuscitation Program に基づく講習—. 兵庫県周産期医療研修会, 特別講演, 神戸
22. 木下 洋 (2006) 新生児蘇生のアルゴリズム. 平成18年度大阪府医師会第3回新生児蘇生講習会, 大阪
23. 須藤博明 (2006) 冬場の小児疾患の治療 小児救急診療研究会, 三重
24. 寺口正之 (2006) 「学校現場における心疾患管理の問題点」—川崎病を中心として—. 大阪府医師会学校医部会 平成18年度学校保健研修会, 大阪
25. 金子一成 (2006) 小児の維持輸液療法における最近の話題. 第11回近畿外来小児科学研究会, 兵庫
26. 須藤京子, 金子一成, 谷内昇一郎, 箕浦貴則, 小島崇嗣, 青木孝夫 (2006) 卵抗体陽性例の検討. 第11回近畿外来小児科学研究会, 兵庫
27. 森 喜造 (2006) 糖尿病患児のトータルケア—中野こども病院における医療チーム支援—. 第1回中野こども医療学会, 大阪
28. 高田晃平, 棚野晃秀, 徳原克治, 浜田吉則, 野田幸弘, 中野崇秀, 河崎裕英, 金子一成 (2006)

肝間葉性過誤腫の1例. 第22回日本小児がん学会, 大阪

29. 豆板律子, 関府寺美, 石田也寸志, 久川浩章, 平松英文, 堀 浩樹, 本郷輝明, 山口悦子, 工藤 亨 (2006) 急性リンパ性白血病患児のQOLアンケート自由記述の分析 第1報 治療相による親の感情の変化. 第22回日本小児がん学会, 大阪
30. 野田幸弘, 中野崇秀, 金子一成, 稲垣隆介 (2006) 集学的治療を行い寛解を維持しているAT/RTの一例. 第22回日本小児がん学会, 大阪
31. 金子一成 (2006) 小児の維持輸液療法の最近の話題. 第23回新潟小児腎・循環器フォーラム, 新潟
32. 佐藤正人, 谷内昇一郎 (2006) 左横隔膜ヘルニアに対する腹腔鏡下手術の1例—スネークリトラクターの応用. 第26回日本小児内視鏡外科・手術手技研究会, 高松
33. 川崎有希, 村上洋介, 篠原 徹, 横山達郎, 井出幸彦, 越後茂之, 小川 實, 加納治男, 萱谷 太, 北田 實, 竹打克郎, 寺口正之, 西崎 宏, 松下 享, 湯浅 實 (2006) 小学1年の学校心臓検診から見た川崎病急性期カードの普及状況. 第30回大阪府医師会医学会総会, 大阪
34. 福井聖子, 木野 稔, 小林久和, 蔭山尚正, 豊田百合子 (2006) 大阪府小児救急電話相談, 平成17年度の報告と課題の検討. 第30回大阪府医師会医学会総会, 大阪
35. 居原田安奈, 今井雄一郎, 河崎裕英, 磯崎夕佳, 蓮井正史, 金子一成 (2006) ANCA関連腎炎の1女児例. 第34回近畿小児腎臓病学会, 大阪
36. 谷内昇一郎, 蓮井正史, 金子一成 (2006) PFAPA症候群の4例の臨床的検討. 第38回日本小児感染症学会総会, 高知
37. 木全貴久, 森 喜造, 内山敬達, 目黒敬章, 藤井喜充, 村上貴孝, 関府寺美, 木野 稔, 中野博光 (2006) 腸重積症の糞便中のウイルス検索. 第38回日本小児感染症学会総会, 高知
38. 藤井宏弥, 豆板律子, 濱田梨恵, 杉村省吾, 石崎優子, 関府寺美, 木野 稔, 中野博光 (2006) 心的外傷体験により強迫性障害を発症した男児の治療—薬物療法と遊戯療法をもちいて一. 第3回日本小児心身医学会関西地方会, 大阪
39. 荒木 敦, 金子一成, 村上貴孝, 木野 稔 (2006) 熱性けいれんと血清ナトリウム濃度との関連について. 第40回日本小児神経学会近畿地方会, 大阪
40. 端 里香, 杉本健郎, 中村彰利 (2006) 10年の長期経過中の亜急性硬化性全脳炎の1例—経時的脳は変化の検討—. 第40回日本小児神経学会近畿地方会, 大阪
41. 戸口直美, 岡田 満, 伊豆亜加音, 板橋有香, 村上佳津美, 竹村 司, 小野 厚 (2006) 肝機能障害の原因としてミルクアレルギーが推測された1女児例. 第43回日本小児アレルギー学会, 千葉
42. 須藤京子, 小島崇嗣, 箕浦貴則, 谷内昇一郎, 青木孝夫, 金子一成 (2006) 食物アレルギーの寛解 卵抗体陽性例の検討 卵白抗体値の推移について. 第43回日本小児アレルギー学会, 千葉
43. 谷内昇一郎, 金子一成 (2006) 乳児好中球減少症の鑑別診断と最近の話題. 第48回日本小児血液学会, 大阪
44. 大橋 敦, 辻 章志, 黒柳裕一, 木下 洋, 金子一成 (2006) 早産児における好中球の一酸化窒素産生能に関する検討. 第51回日本未熟児新生児学会, 埼玉
45. 大谷尚子, 田村和夫, 木下 洋 (2006) 臍帯動脈異常に片側臓器低形成を合併した1例および当院での単一臍帯動脈18例の検討. 第51回日本未熟児新生児学会, 埼玉
46. 谷内昇一郎, 田辺創一, 小島崇嗣, 箕浦貴則, 須藤京子, 木村彰宏, 黒坂文武, 笹井みさ, 西野昌光, 伊藤典之, 金子一成 (2006) 小麦アレルギー患者における低アレルゲン化小麦による減感作療法の試み. 第56回アレルギー学会秋季大会, 東京
47. 金子一成 (2006) 小児の低ナトリウム血症 : SIADHとCSWS. 第5回北里Pediatrics Seminar, 神奈川
48. 山戸史子, 高屋淳二, 東野博彦 (2006) IDDMの兄妹, 姉妹2例の臨床的検討. 第8回小児思春期糖尿病談話会, 大阪
49. 金子一成 (2006) 低Na血症の最近のトピック

- ス：SIADHとCSWS. 第9回福岡小児腎疾患治療研究会, 福岡
50. 金子一成 (2006) 経口補水療法の実際. 筑後小児医会セミナー, 福岡
 51. 石崎優子 (2006) 小児医療からみた乳幼児の心の健康II 対応が難しい子どもの理解. 日本乳幼児教育学会第16回大会, 大阪
 52. 木下 洋 (2006) 超低出生体重児の医療的ケア. 平成18年度大阪府保健師研修「母子保健コース」教育講演, 大阪
 53. 箕浦貴則, 谷内昇一郎, 金子一成 (2006) 食物アレルギー負荷試験の実際. 第13回大阪食物アレルギー懇話会, 大阪
 54. 寺西顕司, 原田佳明, 中村眞紀子 (2006) 34年目の寝屋川病気あけつくし保育所: 病後児保育から病児保育への転換. 第16回寝屋川小児科懇話会, 大阪
 55. 中村眞紀子, 原田佳明, 寺西顕司, 大川 薫, 岡村雅雄 (2006) 気管支喘息として経過観察されていた気管内腫瘍の1例. 第16回寝屋川小児科懇話会, 大阪
 56. 河崎裕英 (2006) EBウイルス感染症の up to date. 第16回寝屋川小児懇話会, 大阪
 57. 木全貴久, 藤井喜充, 村上貴孝, 寺口正之, 罔府寺美, 木野 稔, 中野博光, 金子一成 (2006) 腹痛を主訴としたリウマチ熱の1女児例. 第16回日本小児リウマチ学会, 長野
 58. 金子一成 (2006) 小児の輸液療法における最近の話題. 第16回北海道小児腎臓病研究会, 札幌
 59. 内山敬達, 森 喜造, 木全貴久, 藤井喜充, 村上貴孝, 罔府寺美, 木野 稔 (2006) 小児救急病院における重症度評価の後方視的検討. 第1回OK小児救急症例検討会, 大阪
 60. 野田幸弘, 今井雄一郎, 黒柳裕一, 大橋 敦, 中野崇秀, 河崎裕英, 北村直行, 蓮井正史, 寺口正之, 木下 洋, 金子一成 (2006) 急激な経過で死亡したHSES (Hemorrhagic shock encephalopathy syndrome) が疑われた2例. 第1回OK小児救急症例検討会, 大阪
 61. 寺口正之, 吉村 健, 野田幸弘, 金子一成, 荻野廣太郎, 谷内昇一郎, 木野 稔, 岡崎仁志 (2006) 免疫グロブリン不応の川崎病におけるステロイドパルス療法. 第26回日本川崎病研究会, 大阪
 62. 石森真吾, 舟木克枝, 藤原 亨, 辻美代子 (2006) 3歳児健診の検尿で見つかった溶血性尿毒症症候群の1症例. 第34回大阪市東部小児談話会, 大阪
 63. 金子一成 (2006) 学校検尿制度による小児腎疾患の診断と治療. 第38回日本臨床検査自動化学会, 神戸
 64. 深井善光 (2006) 小児科医が子どもの心に出会う時. 第47回日本児童青年精神医学会総会, 東京
 65. 平林雅人, 野田幸弘, 中野崇秀, 河崎裕英 (2006) 脈絡叢がんの1女児例. 第49回小児がんカンファレンス, 大阪
 66. 國吉京子, 長尾靖子, 荒木 敦, 楠本健司 (2006) 言語外来における自閉症等広汎性発達障害の検査とその指導—小児科との連携—. 第51回日本音声言語医学会総会学術集会, 京都
 67. 河崎裕英, 今井雄一郎, 野田幸弘, 中野崇秀, 金子一成 (2006) 同種造血幹細胞移植後にDEK-CAN キメラ遺伝子が消失したAMLの小児例. 第68回日本血液学会・第48回日本臨床血液学会合同総会, 福岡
 68. 古林万木夫, 谷内昇一郎, 田辺創一 (2006) 醤油醸造における小麦アレルギーの分解機構に関する研究 (技術賞受賞). 平成18年度日本醸造学会, 東京
 69. 金子一成 (2006) 尿路感染症の新しい治療. 加多乃会第144回勉強会, 大阪
 70. 木下 洋 (2006) シナリオによる新生児蘇生講習会開催の取組み. 静岡県中部周産期研修会 特別講演, 静岡
 71. 寺口正之 (2006) 「小児心電図の見方」この心電図をどうしますか? パートI. 大阪府医師会学校医部会 平成18年度学校保健・循環器講習会, 大阪
 72. 罔府寺美 (2006) 発熱の子どもへの対応. 第12回日本保育園保健学会, 大阪
 73. 藤田 位, 日野利治, 木下 洋 (2006) ワークショップ 診察技法をもう一度考えよう. 第16回日本外来小児科学会, ワークショップ, 横浜
 74. 金子一成 (2006) 経口補水療法の実際. 第16

回日本外来小児科学会年次集会, 横浜

75. 笠原道雄, 野田幸弘, 荒木 敦, 蓮井正史, 金子一成 (2006) 当院における細菌性腸炎の臨床的検討. 第171回大阪小児科学会, 大阪
76. 石崎優子, 深井善光, 永井 章, 宮島 祐, 田中英高, 小児心身医学会薬事委員会 (2006) 小児心身医学会会員の向精神薬の適正使用に関する意識調査 小児心身医学会薬事委員会の活動報告. 第24回日本小児心身医学会, 東京
77. 藤井宏弥, 豆板律子, 濱田梨恵, 杉村省吾, 石崎優子, 罔府寺美, 木野 稔, 中野博光 (2006) PF スタディから明らかになる発達の問題—心理的問題を主訴に来院した児を対象に. 第24回日本小児心身医学会, 東京
78. 須藤京子, 蓮井正史, 野田幸弘, 金子一成 (2006) 腸重積と鑑別が困難であった腸管出血性大腸菌感染症の一例. 第2回京阪こどもカンファレンス, 大阪
79. 谷内昇一郎 (2006) アトピー性皮膚炎と除去食療法. 第40回守口・門真外来小児科勉強会, 大阪
80. 村上貴孝 (2006) 小児てんかんに対するClobazamの効果. 第40回日本てんかん学会, 金沢
81. 森 喜造, 東野博彦, 木野 稔 (2006) 清涼飲料水ケトーシスを来たした11歳女児例—発症に到った社会・心理的背景についての考察—, 第40回日本小児内分泌学会学術集会, 大阪
82. 木下 洋 (2006) 新生児蘇生のアルゴリズム. 平成18年度大阪府医師会第2回新生児蘇生講習会, 大阪
83. 村上貴孝 (2006) 障害児の健康管理に必要な知識と学校での対応. 大阪市立養護教育諸学校医療的ケア連絡協議会研修会, 大阪
84. 村上貴孝 (2006) 障害児の健康管理に必要な知識と学校での対応. 大阪府教育委員会主催医療的ケア一般研修会, 大阪
85. 森亜由美, 池田里紗, 中西真須美, 木野 稔, 畑井由美子 (2006) 急性期病院での個別保育の必要性. 第10回日本医療保育学会, 静岡
86. 池田里紗, 中西真須美, 森亜由美, 木野 稔, 守永美希 (2006) 急性期病院におけるプリパレーションの取り組み. 第10回日本医療保育学会, 静岡
87. 森 喜造, 東野博彦, 木野 稔 (2006) 清涼飲料水ケトーシスを来たした11歳女子例—発症に到った社会・心理的背景についての考察—, 第12回小児思春期糖尿病研究会, 大阪
88. 居原田安奈, 今井雄一郎, 河崎裕英, 磯崎夕佳, 蓮井正史, 金子一成 (2006) 高血圧を呈した顕微鏡的多発血管炎の1症例. 第13回高血圧研究会, 大阪
89. 高屋淳二 (2006) インスリン抵抗性と細胞内マグネシウム. 第13回小児高血圧研究会, 大阪
90. 金子一成 (2006) 新生児・小児における画像検査法の進歩—腎泌尿器疾患を中心に—. 関西医科大学産科婦人科学教室同門会, 大阪
91. 金子一成 (2006) 大学病院小児科におけるアメニティ. 第16回全国病児保育研究大会, 大阪
92. 木野 稔 (2006) 少子時代の小児医療と究極の育児支援. 第16回全国病児保育研究大会, 大阪
93. 喜多俊二, 岡崎仁志, 荒木 敦, 金子一成 (2006) インフルエンザ脳症に罹患した先天性脳梁欠損症のてんかん経過について. 第34回大阪てんかん研究会, 大阪
94. 福永幹彦, 阿部哲也, 水野泰行, 神原憲治, 中井吉英, 入澤 聡, 木下 洋, 飯田寛和, 松田公志 (2006) OSCEの医療面接評価とクラークシップ時のコミュニケーション能力評価との関係. 第38回医学教育学会, 奈良
95. 河崎裕英 (2006) 組織球性壊死性リンパ節炎の1症例. 第40回枚方・交野小児懇話会 (3・1会), 大阪
96. 大橋 敦, 辻 章志, 金子一成 (2006) 新生児における脳内血流連続モニタリングの臨床的意義. 第42回日本周産期・新生児医学会, 宮崎
97. 依岡寛和, 小野淑子, 奥野茜子, 吉田桃子, 堤明裕, 榎木 晋, 安田勝彦, 神崎秀陽, 池本裕実子, 木下 洋, 金子一成 (2006) 抗SS-A抗体陽性妊婦の胎児AVブロックに対しdexamethasoneによる胎児治療を行った1症例. 第42回日本周産期・新生児医学会学術集会, 宮崎
98. 寺西顕司, 大橋 敦, 木下 洋, 北村直行, 池本裕実子, 辻 章志, 黒柳裕一, 金子一成 (2006) エコーウイルス type6 の垂直感染による新生児肝炎の1症例. 第42回日本周産期新生児医学会, 宮崎

99. 池本裕実子, 大橋 敦, 北村直行, 辻 章志, 黒柳裕一, 木下 洋, 金子一成 (2006) エオプロステノール少量投与が有効であった新生児遷延性肺高血圧の1例. 第42回日本周産期新生児医学会, 宮崎
100. 吉村 健, 寺口正之, 池本裕実子, 金子一成 (2006) 脳梗塞を合併した急性心筋炎の1例. 第42回日本小児循環器学会総会, 名古屋
101. 寺口正之, 吉村 健, 池本裕実子, 野木俊二, 金子一成, 角田智彦, 服部玲治, 今村洋二 (2006) 急性肺水腫で発症した僧帽弁腱索断裂による僧帽弁逆流の1例. 第42回日本小児循環器学会総会, 名古屋
102. 野木俊二, 羽根田紀幸, 安田謙二, 金子一成 (2006) 膜様部心室中隔小欠損に対するカテーテル・コイル閉鎖術の有用性・安全性について. 第42回日本小児循環器学会総会, 名古屋
103. 金子一成 (2006) 小児の低Na血症: SIADHとCSWS. 第8回京都MEK研究会, 京都
104. 森 喜造, 東野博彦, 木野 稔 (2006) 清涼飲料水ケトーススを来たした11歳女子例—発症に到った社会・心理的背景についての考察—, 第9回小児思春期糖尿病談話会, 大阪
105. 金子一成 (2006) 新臨床研修制度が医局講座制にもたらしたもの. ノボノルディスクファーマ主催特別講演会, 大阪
106. 金子一成 (2006) 小児疾患における SIADH. リリースブリングセミナー2006, 神戸
107. 金子一成 (2006) 川崎病の新しい治療. 関西医科大学附属枚方病院 病診連携懇話会, 京都
108. 木野 稔, 森 喜造, 木全貴久, 内山敬達, 目黒敬章, 藤井喜充, 村上貴孝, 圀府寺美, 中野博光 (2006) 急性期入院治療における病棟保育の意義. 第109回日本小児科学会学術集会, 金沢
109. 須藤京子, 寺口正之, 蓮井正史, 野田幸弘, 吉村 健, 金子一成, (2006) 短期間に緩解・増悪を繰り返す潰瘍性大腸炎の8歳女児例メサラジンの副反応による増悪の可能性. 第170回大阪小児科学会, 大阪
110. 福井聖子, 古形小百合, 卯西 元, 小國龍也, 蔭山尚正 (2006) 病気とケガについての保護者向け小冊子の紹介—幼稚園版と保育所版の相違を含めて—. 第17回日本小児科医会セミナー, 神戸
111. 藤井喜充, 木野 稔, 中野博光 (2006) 当院で経験した回腸回腸結腸型腸重積の検討. 第20回日本小児救急医学会, 茨城
112. 木野 稔, 小林久和, 酒井英雄, 山本時彦, 藤田敬之助, 井藤尚之, 酒井國男, 高森勝子 (2006) 大阪府小児救急電話相談事業の実態と意義. 第20回日本小児救急医学会, 茨城
113. 大橋 敦, 木下 洋, 池本裕実子, 寺口正之, 金子一成 (2006) 新生児遷延性肺高血圧症に対する一酸化窒素吸入療法の有効性について. 第22回近畿小児循環器HOT研究会, 大阪
114. 蓮井正史, 辻 章志, 居原田安奈, 舟木克枝, 磯崎夕佳, 金子一成 (2006) 特発性ネフローゼ症候群における一酸化窒素(NO)の関与. 第41回日本小児腎臓病学会, 名古屋
115. 蓮井正史, 藤本幸子, 木全貴久, 磯崎夕佳, 金子一成, 今井雄一郎 (2006) ステイロイド抵抗性の消化器症状を呈したHenoch-Schönlein purpura (HSP) の臨牀的検討. 第41回日本小児腎臓病学会, 名古屋
116. 金子一成 (2006) 経口補水療法の最近の考え方. 第41回日本小児腎臓病学会学術集会, 名古屋
117. 吉村 健, 寺口正之, 竹花一哉, 池田耕士, 澤田 敏, 金子一成 (2006) 川崎病冠動脈病変に対するマルチスライスCTの有用性. 第42回日本小児放射線学会, 東京
118. 村上貴孝 (2006) 学校医から見た肢体不自由養護学校の現状と問題点. 第48回日本小児神経学会総会, 千葉
119. 端里 香, 杉本健郎, 中村彰利 (2006) 乳児期発症の若年型歯状核赤核淡蒼球ルイ体萎縮症(DRPLA)姉妹例の脳波の経時的変化. 第48回日本小児神経学会総会, 千葉
120. 長尾靖子, 荒木 敦, 石崎優子, 國吉京子, 金子一成 (2006) チームによる自閉症スペクトラム診断の試み. 第48回日本小児神経学会総会, 千葉
121. 木下 洋 (2006) 新生児蘇生のアルゴリズム. 平成18年度大阪府医師会第1回新生児蘇生講習会, 大阪
122. 金子一成 (2006) 関西医科大学におけるカリ

- キュラムについて, 平成18年度第1回教務事務研究会, 大阪
123. 木野 稔 (2006) 心身両面からの小児医療の
実践〜心理士と一緒に仕事をして〜, 和歌山
小児科医会学術講演会, 和歌山
124. 金子一成 (2006) 小児の特発性ネフローゼ症
候群の病因, 大阪小児科医会第132回学術集
会, 大阪
125. 谷内昇一郎, 箕浦貴則, 金子一成 (2006) 小
麦アレルギー患者における低アレルギー化小
麦減感作療法の試み, 第12回大阪食物アレルギー懇話会, 大阪
126. 藤井喜充 (2006) 当院で経験した回腸回腸結
腸型腸重積の検討, 第15回大阪小児栄養消化
器病懇話会, 大阪
127. 金子一成 (2006) 小児の慢性腎疾患の現状と
学校保健, 第43回大阪小児保健研究会, 大阪
128. 金子一成 (2006) 小児の維持輸液療法: 最近の
考え方, 第49回兵庫県小児腎臓懇話会, 大阪
129. 木下 洋 (2006) 新生児乳児の外来診療, 尼
崎市医師会講演会, 兵庫
130. 谷内昇一郎 (2006) 慢性肉芽腫症の話, つば
さの会例会 (原発性免疫不全患者の会), 大阪
131. 河崎裕英, 海老原康博, 辻浩一郎 (2006) 小
児のリンパ腫様肉芽腫症, 第109回日本小児科
学会学術集会, 金沢
132. 吉村 健, 寺口正之, 荒木 敦, 金子一成
(2006) 心臓カテーテル検査後に遅発性虚血を
認めた心房中隔欠損の1例, 第109回日本小児
科学会学術集会, 金沢
133. 荒木 敦, 高屋淳二, 金子一成 (2006) 養護
学校に通う児童・生徒の肥満について, 第109
回日本小児科学会学術集会, 金沢
134. 高屋淳二, 藤本幸子, 今井雄一郎, 金子一成
(2006) 胆道閉鎖症におけるMRCPの有用性,
第109回日本小児科学会学術集会, 金沢
135. 小野 厚, 罔府寺美, 寺口正之, 武部充子,
佐々木照子, 内山敬達, 大川 薫, 金子一成
(2006) 診断まで1年半を要した大動脈炎症候
群の1女子例, 第109回日本小児科学会学術集
会, 金沢
136. 石崎優子, 服部祐子, 藤井由里, 谷内昇一郎,
金子一成 (2006) PSC 日本語版を用いた軽度
発達障害児の二次的な心理社会的問題の評
価, 第109回日本小児科学会学術集会, 金沢
137. 大橋 敦, 木下 洋, 池本裕実子, 北村直行,
辻 章志, 伊藤太一, 竹安晶子, 黒柳裕一, 畑
埜泰子, 金子一成 (2006) 10年間の成績から
見た当院NICUにおける患者情報共有と低出生
体重児の予後との関連, 第109回日本小児科学
会学術集会, 金沢
138. 辻 章志, 谷内昇一郎, 蓮井正史, 伊藤太一,
居原田安奈, 金子一成 (2006) 慢性肉芽腫症
患児におけるブドウ球菌食刺激下の好中球
一酸化窒素産生量に関する検討, 第109回日本
小児科学会学術集会, 金沢
139. 藤本幸子, 野田幸弘, 中野崇秀, 金子一成
(2006) パルミチン酸デキサメタゾンとシクロ
スポリン併用療法が奏効したHPSの3例, 第
109回日本小児科学会学術集会, 金沢
140. 蓮井正史, 伊藤太一, 辻 章志, 谷内昇一郎,
金子一成 (2006) 慢性肉芽腫症における炎症
性腸疾患, 第109回日本小児科学会学術集会,
金沢
141. 今井雄一郎, 蓮井正史, 吉田桃子, 中嶋達也,
金子一成 (2006) 卵巣嚢腫の茎捻転による急
性腹症の1女子例, 第169回大阪小児科学会,
大阪
142. 金子一成 (2006) 新しい研究プロトコールに
ついて, 第31回関西小児疾患臨床研究グルー
プ例会, 大阪
143. 村上貴孝 (2006) けいれん性疾患の実態と診
療所での初期対応, 第39回守口門真外来小児
科勉強会, 大阪
144. 鈴川純子, 荒木 敦, 笠原道雄, 金子一成
(2006) 当科における先天性CMV感染症の検
討, 第49回大阪小児てんかん研究会, 大阪
145. 桐山直子, 足立 靖, 南野桂三, 岩崎真佳,
中野景司, 小池保志, 鈴木康弘, 向出裕美, 重
松明男, 松村美代, 池原 進 (2006) SCID/hu
マウスを用いたヒト臍帯血からの網膜神経細
胞への分化の検討, 第95回日本病理学会総会,
東京
146. 向出裕美, 足立 靖, 鈴木康弘, 岩崎真佳,
小池保志, 南野桂三, 中野景司, 重松明男, 桐
山直子, 上山泰男, 池原 進 (2006) IBM-BMT
にDLIとドナー骨髄由来樹状細胞を併用した
悪性腫瘍の治療法, 第95回日本病理学会総会,

東京

- 147.重松明男, 足立 靖, 桐山直子, 岩崎真佳, 小池保志, 中野景司, 向出裕美, 今村雅寛, 池原 進 (2006) 低線量放射線照射が樹状細胞の活性化に及ぼす影響. 第95回日本病理学会総会, 東京
- 148.中野景司, 足立 靖, 南野桂三, 鈴木康弘, 岩崎真佳, 小池保志, 向出裕美, 重松明男, 桐山直子, 池原 進 (2006) M-CSFによるendothelial progenitor cell (EPC) のmobilizationメカニズム. 第95回日本病理学会総会, 東京
- 149.金子一成 (2006) 小児の維持輸液療法の再考—見直される輸液戦略—. 第15回都立豊島病院小児科公開勉強会, 東京
- 150.吉村 健, 寺口正之, 荒木 敦, 原田佳明, 稲垣隆介, 金子一成 (2006) 完全房室ブロック (CAVB) に脳硬塞を合併した急性心筋炎の1例. 第19回近畿小児科学会, 大阪
- 151.藤原 亨, 田中幸代, 辻美代子 (2006) 当科におけるサルモネラ腸炎とカンピロバクター腸炎との比較検討. 第19回近畿小児科学会, 京都
- 152.木下 洋, 北村直行, 北島博之, 白石淳, 金太 章, 南 宏尚, 西原正人, 市場博幸, 根岸宏邦, 藤村正哲, 酒井國男 (2006) シナリオに基づく新生児蘇生講習会と新しいNRPガイドライン. 第19回近畿小児科学会, 京都
- 153.藤井喜充, 森 喜造, 木全貴久, 村上貴孝, 園府寺美, 木野 稔, 中野博光, 石崎優子 (2006) 反復性腹痛27例の検討. 第19回近畿小児科学会総会, 京都
- 154.寺口正之, 吉村 健, 金子一成 (2006) マルチスライスCTが経過観察に有用であった超巨大冠動脈瘤を有する川崎病の1例. 第30回近畿川崎病研究会, 大阪
- 155.金子一成 (2006) 小児の腎泌尿器疾患における画像検査法の進歩. 第33回近畿小児腎臓病研究会, 大阪
- 156.田中幸代, 藤原 亨, 辻美代子 (2006) 膀胱尿管逆流と腎形成異常. 第33回大阪市東部小児談話会, 大阪
- 157.谷内昇一郎 (2006) 小児の気管支喘息の最近の話題. 第39回守口・門真外来小児科勉強会, 大阪
- 158.村上貴孝 (2006) インフルエンザ罹患時に熱せん妄をきたした症例の検討—タミフルとの関係について—. 第39回日本小児神経学会近畿地方会, 大阪
- 159.藤井喜充, 木野 稔, 中野博光 (2006) 移動性盲腸に伴う盲腸重積症の1例. 第42回日本腹部救急医学会総会, 東京
- 160.辰巳貴美子, 大谷 肇, 谷内昇一郎, 足立 靖, 榎木千春, 池原 進, 今村洋二, 金子一成 (2006) Intra-bone Marrow Transplantation of Bone Marrow Does Not Repair Cardiomyopathic Heart with Targeted Mutation of delta-sarcoglycan Gene. 第5回日本再生医療学会, 名古屋
- 161.木野 稔 (2006) [学校現場における心疾患管理の問題点]—川崎病を中心として—. 府医師会学校医部会 平成18年度学校保健研修会, 大阪
- 162.木野 稔 (2006) 乳幼児虐待予防のための対策と問題点について—地域の小児科医の立場から—. 平成17年度大阪府医師会就学前児保健研修会, 大阪
- 163.金子一成 (2006) 小児の維持輸液療法: 最近の考え方. 高知県小児科医会学術講演会, 高知
- 164.園府寺美 (2006) 発熱の子どもへの対応. 大阪小児科医会公開講演会, 大阪
- 165.原田佳明 (2006) マイコプラズマ感染症に併発した関節炎例. 第15回寝屋川小児科懇話会, 大阪
- 166.辻美代子, 田中幸代, 藤原 亨 (2006) インターネットによる診療予約システム導入による効果の検討. 第27回済生会野江病院学術集団会, 大阪
- 167.金子一成 (2006) 小児の維持輸液療法の再考. 第33回大阪小児腎研究会, 大阪
- 168.金子一成 (2006) 学校検尿の意義とその実態. 第6回和歌山小児腎疾患研究会, 和歌山
- 169.金子一成 (2006) ネフローゼ症候群と活性酸素. 平成17年度温仁会総会, 大阪
- 170.木下 洋 (2006) 新生児蘇生のアルゴリズム. 平成17年度大阪府医師会第4回新生児蘇生講習会, 大阪
- 171.高田晃平, 棚野晃秀, 徳原克治, 浜田吉則, 野田幸弘, 中野崇秀, 河崎裕英, 金子一成 (2006) 肝間葉性過誤腫の1例. 第22回日本小

児がん学会, 大阪

172. 金子一成 (2006) 尿路感染症予防: その新しい治療戦略. 第41回日本逆流腎症フォーラム, 東京
173. 榎木千春, 大谷 肇, 呉 越, 辰巳貴美子, 服部玲治, 今村洋二 (2006) IGF-1 increases engraftment of transplanted mesenchymal stem cells and improves cardiac function without differentiation in rats with myocardial infarction. 第5回日本再生医療学会, 盛岡

著 書

1. 木野 稔, 藤井喜充 (2006) こどもの腹部エコー 達人への一歩 (木野 稔編) 1-160 頁, 医学書院, 東京
2. 村上貴孝 (2006) 重い障害を持つ子どもたちへの関わり—校医の立場から. 医療的ケア-あゆみといま, そして未来へ (大阪養護教育と医療研究会編) 170-181 頁, クリエイツかもがわ, 京都
3. 石崎優子 (2006) 不登校. 学校医・学校保健ハンドブック—必要な知識と視点のすべて— (衛藤 隆, 中原俊隆編) 445-450 頁, 文光堂, 東京
4. 金子一成 (2006) 小児科疾患 小児の高血圧. 今日の治療指針 (山口 徹, 北原光夫, 福井次矢編) 2006年版 (ポケット判), 974-975 頁, 医学書院, 東京
5. 木下 洋 (2006) 呼吸窮迫症候群. 今日の小児治療指針 (大関武彦) 14, 122-123 頁, 医学書院, 東京
6. 金子一成 (2006) 夜尿症. 今日の小児治療指針 (大関武彦, 古川 漸, 横田俊一郎編) 14, 469-470 頁, 医学書院, 東京
7. 石崎優子 (2006) 児童生徒の心の問題とその推進. 今日の小児治療指針 (大関武彦, 古川 漸, 横田俊一郎) 14, 584-585 頁, 医学書院, 東京
8. 木野 稔 (2006) 下痢嘔吐症 (感染性胃腸炎～食中毒). 小児救急看護マニュアル (市川光太郎編) 92-97 頁, 中外医学社, 東京
9. 金子一成 (2006) 水腎症, 尿路閉塞性腎機能障害. 小児慢性疾患診療マニュアル (加藤忠明編) 初版, 124-126 頁, 診断と治療社, 東京
10. 金子一成 (2006) 腎尿路結石. 小児慢性疾患診療マニュアル (加藤忠明編) 初版, 126-129 頁, 診断と治療社, 東京
11. 金子一成 (2006) 小児の採尿. 小児臨床検査ガイド (五十嵐隆, 水口 雅編) 1, 18-23 頁, 文光堂, 東京
12. 木下洋, 野村雅子, 内田美恵子, 清水健二, 田村正徳 (2006) 小児科医・産科医・助産師・看護師向けの新生児心肺蘇生の研修プログラムの作成と研修システムの構築とその効果に関する研究. 平成17年度厚生労働省報告書, 181-184 頁, 厚生労働省, 東京

外科学講座

〈研究業績〉

原 著

1. Neto JS, Nakao A, Toyokawa H, Nalesnik MA, Romanosky AJ, Kimizuka K, Kaizu T, Hashimoto N, Azhipa O, Stolz DB, Choi AM and Murase N (2006) Low-dose carbon monoxide inhalation prevents development of chronic allograft nephropathy. *Am J Physiol Renal Physiol* 290: F324-F334
2. Nakano A, Toyokawa H, Tsung A, Nalesnik MA, Stolz DB, Kohmoto J, Ikeda A, Tomiyama K, Harada T, Takahashi T, Yang R, Fink MP, Morita K, Choi AMK, Murase N (2006) Ex Vivo application of carbon monoxide in University of Wisconsin Solution to prevent intestinal cold ischemia/reperfusion Injury. *Am J Transplant* 6(10): 2243-2255
3. Uchida Y, Kasahara M, Egawa H, Takada Y, Ogawa K, Ogura Y, Uryuhara K, Morioka D, Sakamoto S, Inomata Y, Kamiyama Y and Tanaka K (2006) Long-term outcome of adult-to-adult living donor liver transplantation for post-kasai biliary atresia. *Am J Transplant* 6: 2443-2448
4. Kaibori M, Tanigawa N, Matsui Y, Saito T,

- Uchida Y, Ishizaki M, Tanaka H and Kamiyama Y (2006) Influence of transcatheter arterial chemoembolization on the prognosis after hepatectomy for hepatocellular carcinoma in patients with severe liver dysfunction. *Anticancer Res* 26: 3685–3692
5. Kiyozuka Y, Yamamoto M, Matsuyama T, Miki K, Tsukamoto R, Shimano N and Tsubura A (2006) Synchronous granular cell tumor of the bladder, endometrial carcinoma and endometrial stromal sarcoma. *Asia Pacific J Clin Oncol* 2: 64–67
 6. Nakao A, Toyokawa H, Kimizuka K, Nalesnik MA, Nozaki I, Bailey FJ, Demetris AJ, Starzl TE and Murase N (2006) Simultaneous bone marrow and intestinal transplantation promotes marrow-derived hematopoietic stem cell engraftment and chimerism. *Blood* 108: 1413–1420
 7. Ikebukuro K, Adachi Y, Suzuki Y, Iwasaki M, Nakano K, Koike Y, Mukaide H, Yamada Y, Fujimoto S, Seino Y, Oyaizu H, Shigematsu A, Kiriya N, Hamada Y, Kamiyama Y and Ikehara S (2006) Synergistic effects of injection of bone marrow cells into both portal vein and bone marrow on tolerance induction in transplantation of allogeneic pancreatic islets. *Bone Marrow Transplant* 38: 657–664
 8. Tanaka K, Yamamoto D, Kanematsu S, Okugawa H and Kamiyama Y (2006) A four node axillary sampling trial on breast cancer patients. *Breast* 15: 203–209
 9. Takahashi K, Toyokawa H, Takai S, Sato S, Yanagimoto H, Terakawa N, Araki H, Kwon AH and Kamiyama Y (2006) Surgical influence of pancreatectomy on the function and count of circulating dendritic cells in patients with pancreatic cancer. *Cancer Immunol Immunother* 55(7): 775–784
 10. Kaibori M, Ha-Kawa S K, Uchida Y, Ishizaki M, Hijikawa T, Saito T, Imamura A, Hirohara J, Uemura Y, Tanaka K and Kamiyama Y (2006) Recurrent Hepatitis C After Living Donor liver Transplantation Detected by Tc-99m GSA Liver Scintigraphy. *Dig Dis Sci* 51: 2013–2017
 11. Kaizu T, Ikeda A, Nakao A, Takahashi Y, Tsung A, Kohmoto J, Toyokawa H, Shao L, Brian T, Bucher, Tomiyama K, Michael A, Nalesnik Murase N, David A. Geller (2006) Donor Graft Adenoviral iNOS Gene Transfer Ameliorates Rat Liver Transplant Preservation Injury and Improves Survival. *Hepatology* 43(3): 464–473
 12. Hamazaki K, Higashihara E, Terachi T, Takada H, Matsuda T, Kawakita M, Fuse H, Hamazaki T, Kameyama S, Masai M, Chiba Y, Tokunaga M, Furuya Y, Okegawa T, Murota T, Kawa G and Itomura M (2006) The effect of eicosapentaenoic acid on prostate-specific antigen. *In Vivo* 20: 397–402
 13. Takada K, Hamada Y, Watanabe K, Tanano A, Tokuhara K, Sato M and Kamiyama Y (2006) Antenatal magnetic resonance imaging is useful in providing predictive values for surgical procedures in abdominal wall defects. *J Pediatr Surg* 41: 1962–1966
 14. Kaibori M, Yanagida H, Nakanishi H, Ozaki T, Yoshida H, Matsui K, Hijikawa T, Kamiyama Y and Okumura T (2006) Hepatocyte growth factor stimulates the induction of cytokine-induced neutrophil chemoattractant through the activation of NF- κ B in rat hepatocytes. *J Surg Res* 130: 88–93
 15. Yanagida H, Kaibori M, Hijikawa T, Kwon AH, Kamiyama Y and Okumura T (2006) Administration of rhHGF-activator via portal vein stimulates the regeneration of cirrhotic liver after partial hepatectomy in rats. *J Surg Res* 130: 38–44
 16. Toyokawa H, Nakao A, Stolz DB, Romanosky AJ, Nalesnik MA, Neto JS, Kaizu T, Demetris AJ and Murase N (2006) 3D-confocal structural analysis of bone marrow-derived renal tubular cells during renal ischemia/reperfusion injury. *Lab Invest* 86: 72–82
 17. Yamada M, Nishizawa M, Nakatake R, Habara K, Yoshida H, Ozaki T, Matsui K, Hamada Y, Kamiyama Y, Ito S, Okumura T (2006) Characterization of alternatively spliced isoforms of the type I interleukin-1 receptor on iNOS induction in rat hepatocytes. *Nitric Oxide* 17(2): 98–105

18. Baden T, Yamamichi K, Michiura T, Tsubura A and Hioki K (2006) Sequential endoscopic findings and histological changes of N-nitrosomethylbenzylamine-induced esophageal carcinogenesis in rats. *Oncol Rep* 16: 965–970
19. Zhang Y, Adachi Y, Suzuki Y, Minamino K, Iwasaki M, Nakano K, Koike Y, Mukaide H, Shigematsu A, Kiriya N, Li C and Ikehara S (2006) Synergistic effects of granulocyte-colony stimulating factor and macrophage-colony stimulating factor on recovery of donor hematopoietic cells in allogeneic bone marrow transplantation. *Oncol Rep* 16: 367–371
20. Zhang Y, Adachi Y, Iwasaki M, Minamino K, Suzuki Y, Nakano K, Koike Y, Mukaide H, Shigematsu A, Kiriya N, Li C and Ikehara S (2006) G-CSF and/or M-CSF accelerate differentiation of bone marrow cells into endothelial progenitor cells in vitro. *Oncol Rep* 15: 1523–1527
21. Satoi S, Takai S, Matsui Y, Terakawa N, Iwaki R, Fukui J, Yanagimoto H, Takahashi K, Toyokawa H, Araki H, Kwon AH and Kamiyama Y (2006) Less morbidity after pancreaticoduodenectomy of patients with pancreatic cancer. *Pancreas* 33: 45–52
22. Terakawa N, Satoi S, Takai S, Yanagimoto H, Takahashi K, Komiyama Y, Kwon AH, Kamiyama Y and Takahashi H (2006) Clinical monitoring of innate cellular immunity of monocytes/macrophages by tumor necrosis factor alpha productivity in whole blood stimulated by lipopolysaccharide in patients with pancreatic cancer. *Pancreas* 33: 31–37
23. Yanagida H, Kaibori M, Yoshida H, Habara K, Yamada M, Kamiyama Y and Okumura T (2006) Hepatic ischemia/reperfusion upregulates the susceptibility of hepatocytes to confer the induction of inducible nitric oxide synthase gene expression. *Shock* 26: 162–168
24. Qiu Z, Kwon AH, Tsuji K, Kamiyama Y, Okumura T and Hirao Y (2006) Fibronectin prevents D-galactosamine/lipopolysaccharide-induced lethal hepatic failure in mice. *Shock* 25: 80–87
25. Nakano K, Adachi Y, Minamino K, Iwasaki M, Shigematsu A, Kiriya N, Suzuki Y, Koike Y, Mukaide H, Taniuchi S, Kobayashi Y, Kaneko K and Ikehara S (2006) Mechanisms underlying acceleration of blood flow recovery in ischemic limbs by macrophage colony-stimulating factor. *Stem Cells* 24: 1274–1279
26. Satoi S, Toyokawa H, Yanagimoto H, Matsui Y, Takai S and Kamiyama Y (2006) Using an internal thoracic artery holder in pancreaticojejunostomy. *Surgery* 140: 836–837
27. Kwon AH, Matsui Y, Kaibori M and Ha-Kawa SK (2006) Preoperative regional maximal removal rate of technetium-99m-galactosyl human serum albumin (GSA-Rmax) is useful for judging the safety of hepatic resection. *Surgery* 140: 379–386
28. Kaibori M, Matsui Y, Hijikawa T, Uchida Y, Kwon AH and Kamiyama Y (2006) Comparison of limited and anatomic hepatic resection for hepatocellular carcinoma with hepatitis C. *Surgery* 139: 385–394
29. Michiura T, Kanbara T, Nakai K, Inoue K, Yamamichi K and Nakane Y (2006) Posterior esophagopexy with dome formation to prevent reflux in interposed jejunal pouch reconstruction after total gastrectomy. *Surg Today* 36: 570–573
30. Kwon AH, Yanagimoto H, Matsui Y and Imamura A (2006) Agenesis of the gallbladder with hypoplastic cystic duct diagnosed at laparoscopy. *Surg Laparosc Endosc Percutan Tech* 16: 251–254
31. Nakao A, Toyokawa H, Abe M, Kiyomoto T, Nakahira K, Choi AM, Nalesnik MA, Thomson AW, Murase N (2006) Heart allograft protection with low-dose carbon monoxide inhalation. Effects on inflammatory mediators and alloreactive T-cell responses. *Transplantation* 81(2): 220–230
32. Kiyomoto T, Toyokawa H, Nakao A, Kaizu T, Dmetris AJ, Starzl TE, Murase N (2006) The Difficulty of Eliminating Donor Leukocyte Microchimerism in Rat Recipients Bearing Established Organ Allografts. *Transplantation* 81(3): 438–444
33. Michiura T, Nakane Y, Kanbara T, Nakai K, Inoue K, Yamamichi K and Kamiyama Y (2006)

- Assessment of the preserved function of the remnant stomach in pylorus-preserving gastrectomy by gastric emptying scintigraphy. *World J Surg* 30: 1277-1283
34. Kwon AH and Matsui Y (2006) Laparoscopic cholecystectomy in patients aged 80 years and over. *World J Surg* 30: 1204-1210
 35. 柳本泰明, 高井惣一郎, 里井壯平, 豊川秀吉, 伊東恭悟, 上山泰男 (2006) 【癌ワクチン療法の新しい試み】膵癌におけるペプチド化学併用療法の開発に向けて. *Biother* 20: 468-474
 36. 山中英治, 亀井有子, 加藤裕子 (2006) 栄養療法がわかる! NSTが進められる! 栄養ってなぜ大切? 絵で理解栄養のことをもっと身近に. *Expert Nurse* 22(2): 24-31
 37. 山中英治, 亀井有子, 加藤裕子 (2006) 栄養療法がわかる! NSTが進められる! 栄養療法を進めるために“これだけは知っておきたい”キホン. *Expert Nurse* 22(2): 32-41
 38. 山中英治 (2006) 【栄養療法がわかる! NSTが進められる!】こんな時のポイントは? 疾患ごとの栄養療法 術後患者の栄養管理のポイントは?. *Expert Nurse* 22(2): 46-48
 39. 高田晃平, 日置紘士郎 (2006) 【第一線医師・研修医・コメディカルのための新・輸液ガイド すぐ役立つ手技・手法のすべて】 実地診療に必要な栄養輸液の基礎知識と手技 末梢静脈からの可及的高カロリー輸液. *Med Pract* 23 (臨増): 121-125
 40. 海堀昌樹 (2006) ~肝癌における肝移植の適応~ミラノ基準逸脱となる危険因子保有者が適応に. *Medical Tribune* 第10回肝臓学会ハイライトニュース
 41. 山中英治 (2006) 経静脈・経腸栄養 プランニングとその実践 栄養療法の基礎 栄養管理法の選択. *Medicina* 43(5): 738-740
 42. 加藤裕子, 山中英治 (2006) 【褥瘡の医療 栄養管理をめぐる】 褥瘡管理におけるNST活動の実際 NSTと褥瘡対策チームの協働による効果的な褥瘡管理. 栄養・評価と治療 23(2): 158-161
 43. 道浦 拓, 中根恭司 (2006) 【基本手術手技をカラー写真で解説 術式別看護手順がわかる実践消化器外科手術マニュアル】 胃, 十二指腸 噴門側胃切除術 基礎知識. オペネーシング (2006春季増刊): 70-76
 44. 吉岡和彦 (2006) 【基本手術手技をカラー写真で解説 術式別看護手順がわかる実践消化器外科手術マニュアル】 結腸, 直腸 結腸・直腸手術のための解剖. オペネーシング (2006春季増刊): 112-113
 45. 吉岡和彦 (2006) 【徹底ガイド排便ケア Q&A】 便失禁 お産の時の産道裂傷による便失禁って治るの? ナーシングケア Q & A (14): 98-99
 46. 吉岡和彦 (2006) 【徹底ガイド排便ケア Q & A】 便失禁 便失禁を起こす病態や病気ってどんなものがあるの? ナーシングケア Q & A (14): 96-97
 47. 吉岡和彦 (2006) 【徹底ガイド排便ケア Q & A】 新肛門 筋肉を電気刺激して肛門を造る手術って, どんな手術なの? ナーシングケア Q & A (14): 208-209
 48. 吉岡和彦 (2006) 【徹底ガイド排便ケア Q & A】 便失禁 便失禁の治療ってあるの? ナーシングケア Q & A (14): 102-103
 49. 中根恭司, 道浦 拓 (2006) 【消化器疾患 state of arts 消化管 (食道・胃・腸)】 主要疾患 現況・病態・診断・治療 胃癌 胃切除後の貯留能再建. 医のあゆみ 別冊 (消化器疾患 Ver.3): 577-580
 50. 岩本慈能, 吉岡和彦 (2006) 【大腸癌化学療法 最近の併用投与】 CPT-11 (24 時間持続) + UFT/LV. 癌と化療 33: 901-903
 51. 道浦 拓, 中根恭司 (2006) 【外科研修医マニュアル】 術前・術後に必要な処置 中心静脈路確保. 消外 29: 427-429
 52. 里井壯平, 高井惣一郎, 柳本泰明, 谷川 昇, 米虫 敦, 豊川秀吉, 荒木 浩, 松井陽一, 上山泰男 (2006) 【熟知すべき最近の画像診断; 消化器癌の立体画像】 膵頭部癌の診断・治療におけるMDCTの役割. 消外 29: 1441-1448
 53. 標葉隆三郎, 土屋 誉, 山崎 繁, 谷畑英一, 五関謹秀, 西 八嗣, 橋口陽二郎, 山田好則, 板東隆文, 小西敏郎, 山本和夫, 須田 嵩, 加藤仁司, 井上健太郎, 山根哲郎, 山中英治, 岩瀬和裕 (2006) ビタミンB1を配合した糖・電解質・アミノ酸輸液製剤 AFV-03 の比較試験

(第III相)多施設共同による消化器疾患術患者における検討. 新薬と臨床 55(3): 305-338

54. 辻本博明, 宇野喜代美, 山中英治 (2006) 手術室におけるクリニカルパスの導入と改訂過程の検証. 日クリニカルパス会誌 8: 141-145
55. 今村 敦, 大久保遊平, 田中宏典, 尾崎 岳, 奥野雅史, 斉藤隆道, 山田 斉, 高田秀穂, 上山泰男 (2006) 腸骨動脈完全閉塞症例にたいする血管内治療. 日血管外会誌 15: 603-610
56. 森田美佳, 吉岡和彦, 畑 嘉高, 中野雅貴, 岩本慈能, 米倉康博, 中根恭司 (2006) アンケート調査によるストーマ造設患者におけるストーマ受容の解析. 日本大腸肛門病会誌 59: 322-327
57. 中本博之, 箕浦俊之, 小田道夫, 今村 敦 (2006) Behcet病に伴う腹部大動脈瘤および胃癌に対し2期的手術を施行した1例. 日臨外会誌 67: 330-333
58. 山岡 学, 松崎龍典, 寺島由香利, 有元美代子, 細川美香, 阿部 操, 岡前文子, 大谷哲司, 寺西節子, 岸本裕司, 海堀昌樹, 福原資郎 (2006) 移植後に HLA 抗体が検出された生体肝移植. 日本輸血学会雑誌 52(1): 80
59. 河 相吉, 澤田 敏, 海堀昌樹, 上山泰男 (2006) 【肝病態生理研究のあゆみ】 99m Tc-GSA アシアロシンチによるグラフト肝機能評価. 薬理と治療 34 Suppl 2: S183-S187
60. 山中英治 (2006) [今どうしてNSTなのか?] NST とクリニカルパスの現状と展望. 臨床外科 61(10): 1355-1361

症例報告

1. 三宅 岳, 足立 靖, 金森千春, 保坂直樹, 新宅雅幸, 溝上友美, 神崎秀陽, 上山泰男, 池原 進 (2006) ヒトパルボウイルスB19による胎児水腫の1剖検例. 診断病理 23: 318-322
2. Yuri T, Shimano N, Ohashi Y, Miki K, Tsukamoto R and Tsubura A (2006) An autopsy case of primary mixed choriocarcinoma and mature teratoma located in the thymic region associated with elevated human chorionic gonadotropin levels and characteristic testicular changes. Med Mol Morphol 39: 49-53
3. 辻 陽子, 弥山秀芳, 上村祐子, 北中直子, 米

田篤司, 三箇山宏樹, 太田由子, 寺村重郎, 榎木 晋, 堀越順彦, 山田正法, 松浦 節, 北出浩章, 森 毅, 奥野雅史, 小倉徳裕, 高田秀穂 (2006) 癌の緩和ケアで使用した制吐剤によって惹起された薬原性アカシジアの3例. 癌と化療 33: 267-269

4. 吉田 良, 霜田雅之, 肥田侯矢, 山神和彦, 山本秀和, 小西靖彦, 武田 惇 (2006) 十二指腸潰瘍が原因と考えられる特発性食道破裂の1例. 手術 60: 249-253
5. 徳原克治, 浜田吉則, 棚野晃秀, 高田晃平, 上山泰男, 野田幸弘, 中野崇秀, 藤井喜充, 罔府寺美 (2006) 腫瘍破裂, 大量腹水貯留を伴った卵巣若年性顆粒膜細胞腫の1幼児例. 小児がん 43: 18-21
6. 高田晃平, 浜田吉則, 徳原克治, 棚野晃秀, 辰巳貴美子, 野田幸弘, 中野崇秀, 上山泰男 (2006) 新生児破裂肝芽腫の1例. 日小外会誌 42: 222-228
7. 三宅 岳, 浜田吉則, 渡邊健太郎, 棚野晃秀, 徳原克治, 高田晃平, 上山泰男, 中野崇秀 (2006) Opsoclonus-myoelonus-ataxia を契機に発見された神経芽腫の1例. 日小外会誌 42: 28-34

学会発表

1. Hijikawa T, Kaibori M, Uchida Y, Matsui K, Okumura T and Kamiyama Y (2006) Effect of Insulin-like Growth Factor-1 on Liver Injury Induced by D-Galactosamine and Lipopolysaccharide in Rats. 20th World congress of International Society for Digestive Surgery, Rome
2. Kaibori M, Saito T, Matsui Y, Uchida Y, Ishizaki M, Hijikawa T and Kamiyama Y (2006) The effect of preoperative transcatheter arterial chemoembolization on the prognosis after hepatectomy for hepatocellular carcinoma. 20th World congress of International Society for Digestive Surgery, Rome
3. Kaibori M, Saito T, Matsui Y, Uchida Y, Ishizaki M, Hijikawa T and Kamiyama Y (2006) Detection of recurrent hepatitis C by liver scintigraphy using 99mTc-GSA on living donor liver transplantation. 20th World congress of International

Society for Digestive Surgery, Rome

4. Kaibori M, Saito T, Matsui Y, Uchida Y, Ishizaki M, Hijikawa T and Kamiyama Y (2006) A review of the prognostic factors in patients with recurrence after liver resection for hepatocellular carcinoma. 20th World congress of International Society for Digestive Surgery, Rome
5. Kwon AH, Matsui Y and Satoi S (2006) Indication of laparoscopic cholecystectomy for Mirizzi syndrome by preoperative spiral computed tomography scan after intravenous infusion cholangiography. 71th Annual Scientific Meeting of American College of Gastroenterology, Las Vegas
6. Kwon AH and Qiu Z (2006) Sivelestat, a neutrophil elastase inhibitor prevents endotoxin-induced liver injury in rats following partial hepatectomy. 71th Annual Scientific Meeting of American College of Gastroenterology, Las Vegas
7. Kaibori M, Saito T, Uchida Y, Ishizaki M, Tanaka H and Kamiyama Y (2006) Indications for Liver Transplantation in Patients with Primary and Recurrent Hepatocellular Carcinoma. The 35th World Congress of the International College of Surgeons, Pattaya
8. Kaibori M, Saito T, Uchida Y, Ishizaki M, Tanaka H and Kamiyama Y (2006) Influence of Transcatheter Arterial Chemoembolization on the Prognosis after Hepatectomy for Hepatocellular Carcinoma in Patients with Severe Liver Dysfunction. The 35th World Congress of the International College of Surgeons, Pattaya
9. Saito T, Kaibori M, Uchida Y, Ishizaki M, Tanaka H and Kamiyama Y (2006) Recurrent Hepatitis C after Living Donor Liver Transplantation Detected by TC-99m GSA Liver Scintigraphy. The 35th World Congress of the International College of Surgeons, Pattaya
10. Tanaka H, Kaibori M, Ozaki T, Matsui K, Tokuhara K, Kamiyama Y and Okumura T (2006) Sodium-Hydrogen Exchanger Inhibitor Down-Regulates The Induction of Nitric Oxide Production in Hepatocytes. The 35th World Congress of the International College of Surgeons, Pattaya
11. Kwon AH, Imamura A and Sato M (2006) Indication of laparoscopic cholecystectomy for Mirizzi syndrome by preoperative spiral computed tomography scan after intravenous infusion cholangiography. 10th World Congress of Endoscopic Surgery, Berlin
12. Yoshioka K, Iwamoto S and Nakane Y (2006) Do We Need an Electrical Stimulator after Graciloplasty in Patients with Rectal Cancer and Faecal Incontinence? 1st scientific and annual general meeting European Society of Coloproctology—ESCP. Lisbon
13. Yamamichi K, Baden T, Michiura T, Nakai K, Inoue K, Asai A and Nakane Y (2006) Detection of hematogenous micrometastasis of esophageal cancer by RT-PCR of CEA mRNA. 8th OESO World Cong, Avignon
14. Nakai K, Yamamichi K, Kanbara T, Kim S, Michiura T, Inoue K, Asai A and Nakane Y (2006) The results of esophagogastric anastomosis with side-to-side suture technique after esophagectomy. 8th OESO World Congress, Avignon
15. Imamura A, Okuno M, Saito T, Tanaka H, Ozaki T, Yamada H, Kwon AH, Takada H and Kamiyama Y (2006) Treatment of iliac artery occlusions (TASC C D) by endovascular therapy: A durable alternative therapeutic option for bypass grafting? 第7回アジア血管外科学会, Malaysia
16. Takada K, Hamada Y, Watanabe K, Tokuhara K, Tanano A, Sato M and Kamiyama Y (2006) Cellular proliferative activity is significantly increased in gastric mucosa in patients with hepatocoduodenostomy after excision of choledochal cyst. British Association of Paediatric Surgeons 53rd Annual International Congress, Stockholm
17. Uchida Y, Sakamoto S, Egawa H, Ogawa K, Takada Y and Uemoto S (2006) Impact of early and meticulous management for hepatic artery thrombosis on long-term outcome after pediatric living donor liver transplantation. World Transplant Congress2006 The First Joint International Transplant Meeting, Boston
18. Satoi S, Yanagimoto Y, Takai S, Toyokawa H,

- Takahashi K, Terakawa N, Yamamoto T and Kamiyama Y (2006) Circulating dendritic cell as a new prognostic factor in pancreatic cancer patients. 2006 ASCO Annual Meeting Atlanta
19. Yanagimoto Y, Mine T, Yamamoto K, Satoi S, Honma S, Mizoguchi J, Yamada A, Oka M, Kamiyama Y, Itoh K and Takai S (2006) Immunological evaluation of personalized peptide vaccination with gemcitabine for advance pancreatic cancer patients. 2006 ASCO Annual Meeting Atlanta
20. Kaibori M, Yanagida H, Hijikawa T, Kwon AH, Kamiyama Y and Okumura T (2006) Administration of fhHGF-activator via portal rein stimulates the generation of cirrhotic liver following partial hepatectomy in rats. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress, Kyoto
21. Matsui K, Kawaguchi Y, Ozaki T, Tanaka H, Habara K, Yamada M, Tokuhara K, Yoshida H, Kaibori M, Kamiyama Y, Nishizawa M, Ito S and Okumura T (2006) Effects of active hexose correlated compound for induction of nitric oxide production of hepatocytes. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress, Kyoto
22. Okumura T, Kaibori M, Yanagida H, Yoshida H, Habara K, Yamada M and Kamiyama Y (2006) Hepatic ischemia-reperfusion upregulates the susceptibility of hepatocytes to confer the induction of iNOS gene expression. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress, Kyoto
23. Ozaki T, Tanaka H, Yamada M, Habara K, Yoshida H, Matsui K, Tokuhara K, Kaibori M, Kamiyama Y, Nishizawa M, Ito S and Okumura T (2006) Effect of cysteamine on the induction of iNOS stimulated by interleukin-1 β in hepatocytes. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress, Kyoto
24. Tanaka H, Kaibori M, Habara K, Yamada M, Yoshida H, Matsui K, Ozaki T, Tokuhara K, Kamiyama Y, Nishizawa M, Ito S and Okumura T (2006) Effect of Na⁺/H⁺ exchanger inhibitor (FR183998) on the induction of inducible nitric oxide synthase and nitric oxide production of hepatocytes. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress, Kyoto
25. Tokuhara K, Hamada Y, Habara K, Yamada M, Yoshida H, Ozaki T, Matsui K, Tanaka H, Kaibori M, Kamiyama Y, Ito S and Okumura T (2006) Effect of rebamipide on the induction of inducible nitric oxide synthase stimulated by interleukin-1 β in hepatocytes. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress, Kyoto
26. Yanagida H, Kaibori M, Hijikawa T, Kwon AH, Kamiyama Y and Okumura T (2006) Administration of rhHGF-activator via portal vein stimulates the generation of cirrhotic liver following partial hepatectomy in rats. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology, Kyoto
27. Matsui K, Kawaguchi Y, Ozaki T, Tanaka H, Habara K, Yamada M, Tokuhara K, Yoshida H, Kaibori M, Kamiyama Y, Nishizawa M, Ito S and Okumura T (2006) Effects of active hexose correlated compound for induction of nitric oxide production of hepatocytes. 第79回日本生化学会大会, Kyoto
28. Okumura T, Kaibori M, Yanagida H, Yoshida H, Habara K, Yamada M and Kamiyama Y (2006) Hepatic ischemia-reperfusion upregulates the susceptibility of hepatocytes to confer the induction of iNOS gene expression. 第79回日本生化学会大会, Kyoto
29. Ozaki T, Tanaka H, Yamada M, Habara K, Yoshida H, Matsui K, Tokuhara K, Kaibori M, Kamiyama Y, Nishizawa M, Ito S and Okumura T (2006) Effect of cysteamine on the induction of iNOS stimulated by interleukin-1 β in hepatocytes. 第79回日本生化学会大会, Kyoto
30. Tanaka H, Kaibori M, Habara K, Yamada M, Yoshida H, Matsui K, Ozaki T, Tokuhara K, Kamiyama Y, Nishizawa M, Ito S and Okumura T

- (2006) Effect Na⁺/H⁺ exchanger inhibitor (FR183998) on the induction of inducible nitric oxide synthase and nitric oxide production of hepatocytes. 第79回日本生化学会大会, Kyoto
31. Tokuhara K, Hamada Y, Habara K, Yamada M, Ozaki T, Matsui K, Tanaka H, Kaibori M, Kamiyama Y, Ito S and Okumura T (2006) Effect of rebamipide on the induction of inducible nitric oxide synthase stimulated by interleukin-1b in hepatocytes. 第79回日本生化学会大会, Kyoto
 32. Kaibori M, Yanagida H, Hijikawa T, Kwon AH, Kamiyama Y, Okumura T (2006) Administration of rhHGF-activator via portal vein stimulates the generation of cirrhotic liver following partial hepatectomy in rats. 第79回日本生化学会大会, Kyoto
 33. Sato M, Hamada Y, Tanano A, Takada K and Hatano T (2006) The role of laparoscopy in the treatment of childhood intussusception. 39th Annual Meeting of the Pacific Association of Pediatric Surgeons, Taipei
 34. Takada K, Hamada Y, Watanabe K, Tanano A, Tokuhara K, Sato M and Kamiyama Y (2006) Antenatal MRI is Useful for Predictive Values for Surgical Procedure in Abdominal Wall Defects. 39th Annual Meeting of the Pacific Association of Pediatric Surgeons, Taipei
 35. Imamura A, Okuno M, Saito T, Tanaka H, Ozaki T, Takada H and Kamiyama Y (2006) Predictors of long-term patency after treatment of iliac artery occlusion by endovascular therapy: durable alternative therapeutic option for bypass grafting? 41st Congress of European Society of Surgical Research, Rostock, Germany
 36. Kwon AH, Kaibori M, Imamura A and Kamiyama Y (2006) Prevention of Pleural Effusion after Hepatectomy Using Argon Beam Coagulation. 5th World Congress of the International Hepato-Pancreato-Biliary Association, Tokyo
 37. Pirenne J, Waer M, Ferdinande P, Hiele M, Geboes K, Nevens F, Emonds MP, Koshiha T and Kitade H (2006) Operational tolerance after intestinal transplantation. Annual Meeting of the Belgian Transplantation Society, Brussels
 38. Fujii K, Takiuchi H, Narahara H, Inoue K, Imano M, Kimura Y, Hirao M, Nakane Y, Tsujinaka T, Furukawa H and Taguchi T (2006) Improved survival in advanced gastric cancer with the use of active four agents, S1, irinotecan, taxane, and cisplatin, in the course of treatment. 第78回日本胃癌学会総会, 大阪
 39. Nakai K, Kanbara T, Michiura T, Inoue K, Yamamichi K and Nakane Y (2006) Study for Sentinel node biopsy with early gastric cancer. In single institution. 第78回日本胃癌学会総会, 大阪
 40. 佐藤正人, 小切匡史, 元廣高之, 今田世紀, 高田晃平, 浜田吉則 (2006) 小児腹腔鏡下脾臓摘出術の遠隔期合併症としての splenosis. 第19回日本内視鏡外科学会, 京都
 41. 権 雅憲 (2006) 腹腔鏡下胆嚢摘出術の胃切除術既往症例への対応. 第19回日本内視鏡外科学会, 京都
 42. 権 雅憲 (2006) 胃切除術既往症例に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術の適応について. 第19回日本内視鏡外科学会総会, 京都
 43. 重松明男, 足立 靖, 松本憲明, 小柳津治樹, 桐山直子, 向出裕美, 今村雅寛, 福原資郎, 池原 進 (2006) 同種骨髄移植後に急性腎不全を発症した一部検例. 第35回日本病理学会近畿支部学術集会, 京都
 44. Nakano K, Adachi Y, Hisha H, Koike Y, Mukaide H, Kiriya N and Ikehara S (2006) 移植と免疫抑制 (NZW x BXSb) F1マウスからのドナー由来未熟B細胞白血病細胞株の確立 (Establishment of a Donor-Derived Immature B Cell Leukemia Cell Line from (NZW x BXSb) F1 Mice after BMT from C3H Mice). 第36回日本免疫学会・学術集会, 大阪
 45. Shigematsu A, Adachi Y, Kiriya N, Mukaide H, Koike Y, Nakano K and Ikehara S (2006) 腫瘍抗原とそれを用いた抗腫瘍免疫制御法 ヒト正常組織におけるサイトグロブリンの発現相違 (Different expression of Cytoglobin in human normal tissues). 第36回日本免疫学会総会・学術集会, 大阪
 46. Mukaide H, Adachi Y, Nakano K, Koike Y, Kiriya N, Shigematsu A and Ikehara S (2006)

Immunotherapy for malignant tumors using combination of IBM-BMI, DLI and dendritic cells. 第36回日本免疫学会総会学術集会, 大阪

47. 米田祥子, 村田紘未, 吉田桃子, 笠松 敦, 中嶋達也, 斉藤淳子, 安田勝彦, 神崎秀陽, 吉岡和彦 (2006) 再発と手術を繰り返した子宮平滑筋肉腫の1症例. 第115回近畿産科婦人科学会学術集会, 大阪
48. 高田晃平, 棚野晃秀, 徳原克治, 浜田吉則, 野田幸弘, 中野崇秀, 川崎裕英, 金子一成 (2006) 肝間葉性過誤腫の1例. 第22回日本小児がん学会, 大阪
49. 高田晃平, 棚野晃秀, 徳原克治, 浜田吉則 (2006) 小児に最適の術式とは? 小児膵管胆道合流異常に対する至適胆道再建術の検討 胃内胆汁逆流の観点から. 第22回日本小児外科学会秋季シンポジウム, 高松
50. 佐藤正人, 谷内昇一郎 (2006) 左横隔膜ヘルニアに対する腹腔鏡下手術の1例—スネークリトラクターの応用. 第26回日本小児内視鏡外科・手術手技研究会, 高松
51. 道浦 拓, 桜本和人, 中井宏治, 井上健太郎, 山道啓吾, 中根恭司 (2006) PPG 術後のQOL 評価. 第36回胃外科・術後障害研究会, 栃木
52. 桜本和人, 三木博和, 道浦 拓, 中井宏治, 井上健太郎, 山道啓吾, 中根恭司 (2006) PPG 術後の排出遅延に対する治療. 第36回胃術後障害研究会, 栃木
53. 山道啓吾, 小松優治, 坂井田紀子, 道浦 拓, 中井宏治, 浅井 晃, 中根恭司 (2006) 長期間にわたる慢性炎症により発生した多発食道癌を伴った食道アカラシアの1例. 第56回食道色素研究会, 札幌
54. 海堀昌樹, 内田洋一郎, 石崎守彦, 斎藤隆道, 上山泰男 (2006) 非進行肝細胞癌の根治切除可能症例に対する肝移植の適応. 第68回日本臨床外科学会総会, 広島
55. 岩本慈能, 吉岡和彦, 向出裕美, 岡崎 智, 中根恭司 (2006) 外来クリニカルパスによるmFOLFOX 6/FOLFIRI 療法. 第68回日本臨床外科学会総会, 広島
56. 吉岡和彦, 岩本慈能, 畑 嘉高, 中根恭司, 上山泰男 (2006) 直腸癌患者の人工肛門回避のベストチョイスはどのように意思決定される

か? 第68回日本臨床外科学会総会, 広島

57. 吉田秀行, 中井宏治, 川口雄才, 高田秀穂, 中根恭司, 上山泰男 (2006) Paclitaxel/S-1併用療法で腹水が消失した治癒切除不能進行胃癌の1例. 第68回日本臨床外科学会総会, 広島
58. 山中英治, 羽原弘造, 寺川直良, 北川克彦 (2006) 高齢者の多い地域連携型急性期病院におけるNSTの現状と課題. 第68回日本臨床外科学会総会, 広島
59. 山道啓吾, 道浦 拓, 中井宏治, 三木博和, 櫻本和人, 金 成泰, 井上健太郎, 浅井 晃, 中根恭司 (2006) 進行食道癌に対する集学的治療の治療成績と問題点. 第68回日本臨床外科学会総会, 広島
60. 山尾 順, 森本泰介, 平岡泰三, 森村絵里, 山本智久, 柳本泰明, 金 成泰, 豊川秀吉, 里井壮平, 早川克己, 上山泰男 (2006) 術前診断可能であったPTPシート誤飲による小腸腔瘻の一例. 第68回日本臨床外科学会総会, 広島
61. 山尾 順, 里井壮平, 柳本泰明, 豊川秀吉, 松井陽一, 山本智久, 高井惣一郎, 山道啓吾, 吉岡和彦, 上山泰男 (2006) 術後離開創に対するハイドロファイバーを用いた創処置方法. 第68回日本臨床外科学会総会, 広島
62. 中本博之, 松浦 節, 箕浦俊之 (2006) 胃および横行結腸が縦隔内に嵌入了巨大食道裂孔ヘルニアの1例. 第68回日本臨床外科学会総会, 広島
63. 豊川秀吉, 里井壮平, 柳本泰明, 山尾 順, 山本智久, 高井惣一郎, 上山泰男 (2006) 当科における胆道再建と膵管空腸吻合の工夫. 第68回日本臨床外科学会総会, 広島
64. 柳本泰明, 里井壮平, 豊川秀吉, 松井陽一, 山本智久, 山尾 順, 高井惣一郎, 上山泰男 (2006) 膵頭十二指腸切除術後合併症に対する治療戦略. 第68回日本臨床外科学会総会, 広島
65. 桜本和人, 山道啓吾, 道浦 拓, 三木博和, 中井宏治, 浅井 晃, 井上健太郎, 植村芳子, 中根恭司 (2006) 食道原発メラニン欠乏性悪性黒色腫の1例. 第68回日本臨床外科学会総会, 広島
66. 佐藤正人, 元広高之, 今田世紀, 小切匡史, 棚野晃秀, 高田晃平, 濱田吉則 (2006) 腹腔鏡下脾臓摘出術後のsplenosis. 第68回日本臨床

外科学会総会, 広島

67. 岩城隆二, 露木 茂, 中島康夫, 浮草 実 (2006) 小腸脂肪腫を先進部とした成人腸重積症の1例第68回日本臨床外科学会総会, 広島
68. 道浦 拓 (2006) 当科における胃切除のクリニカルパス, 第7回日本クリニカルパス学会学術集会, 熊本
69. 道浦 拓 (2006) 胃切除術, 第7回日本クリニカルパス学会学術集会, 熊本
70. 里井壯平, 宮崎浩章, 豊川秀吉, 柳本泰明, 松井陽一, 寺川直良, 高井惣一郎, 上山泰男 (2006) 臍頭十二指腸切除術に対するクリニカルパスの導入, 第7回日本クリニカルパス学会学術集会, 熊本
71. 坂尾将幸, 高橋 悠, 福井由理, 山科雅央, 梅原秀人, 池田耕造, 島谷昌明, 池田広記, 宮崎浩彰, 中橋佳嗣, 海堀昌樹, 廣原淳子, 上山泰男, 関 寿人, 岡崎和一 (2006) Hemobiliaを来した胆管細胞癌の1例, 2006年日本消化器関連学会週間 (DDW-Japan 2006) 第48回日本消化器病学会総会, 札幌
72. 里井壯平, 高井惣一郎, 柳本泰明, 豊川秀吉, 上山泰男 (2006) MDCTによる膵癌進展度診断, DDW-Japan 2006 第14回日本消化器関連学会週間, 札幌
73. 海堀昌樹, 斎藤隆道, 内田洋一郎, 石崎守彦, 肱川 健, 松井陽一, 上山泰男 (2006) ミラノ基準合致肝細胞癌切除症例における肝移植適応に関する検討, 第10回日本肝臓学会大会, 鹿児島
74. 高田晃平, 棚野晃秀, 徳原克治, 浜田吉則 (2006) 先天性胆道拡張症術後に肝内結石をきたした1例, 第29回日本膵管胆道合流異常研究会, 徳島
75. 中井宏治, 北川克彦, 羽原弘造, 山田正法, 浜田吉則, 奥村忠芳 (2006) ラット小腸移植におけるEGFの移植腸管に対する糖及び蛋白に関する消化吸収促進効果の検討, 第37回日本消化吸収学会総会, 札幌
76. 岩本慈能ら (2006) 有害事象の発現によりレジメンを変更—mFOLFOX6からmFOLFOX7, またはFOLFIRIへ, 第44回日本癌治療学会総会, 東京
77. 山道啓吾, 道浦 拓, 三木博和, 桜本和人, 中井宏治, 井上健太郎, 浅井 晃, 中根恭司 (2006) 食道多重癌に対する治療法の検討, 第58回日本気管食道科学会, 札幌
78. 道浦 拓, 神原達也, 中井宏治, 井上健太郎, 山道啓吾, 中根恭司 (2006) 胃全摘空腸パOUCH間置再建時の逆流防止の工夫, 第58回日本気管食道科学会, 札幌
79. 金 成泰, 吉田 良, 高田秀穂, 大久保遊平, 辻 勝成, 中井宏治, 森 毅, 北出浩章, 奥野雅史, 佐藤正人, 今村 敦, 川口雄才, 權雅憲 (2006) 原発性回腸癌の2例, 第72回日本消化器内視鏡学会総会, 札幌
80. 内田英子, 森垣知美, 金子香織, 平石範子, 神農和枝, 森友久美子, 岩本 恵, 野口加奈子, 沖百合子, 森本摂子, 寺川直良, 羽原弘造, 北川克彦, 山中英治 (2006) 経腸栄養の下痢対策における寒天固形化の効果, 第16回近畿輸液・栄養研究会, 大阪
81. 三宅 岳, 足立 靖, 金森千春, 保坂直樹, 新宅雅幸, 神崎秀陽, 上山泰男, 池原 進 (2006) 胎児水腫の1剖検例, 第34回日本病理学会近畿支部学術集会, 神戸
82. 海堀昌樹, 河相 吉, 内田洋一郎, 石崎守彦, 肱川 健, 斎藤隆道, 廣原淳子, 上山泰男 (2006) 肝アシアロシンチによる生体肝移植後再発C型肝炎の検討, 第42回日本移植学会総会, 千葉
83. 北出浩章, 權 雅憲, 上山泰男, 河合 英, 高橋完治, Pirenne J (2006) 肝移植レシビエントの高度に対する身体的限界—肝移植レシビエントとのキリマンジャロ登山, 第42回日本移植学会総会, 幕張
84. 岩本慈能, 吉岡和彦, 向出裕美, 岡崎 智, 中根恭司 (2006) 外来診療でのmFOLFOX6/FOLFIRI療法, 第44回日本癌治療学会総会, 東京
85. 岩本慈能, 吉岡和彦, 向出裕美, 岡崎 智, 中根恭司 (2006) 進行直腸癌に対する5'-DFURと放射線の術前併用療法, 第44回日本癌治療学会総会, 東京
86. 岩本慈能, 吉岡和彦, 向出裕美, 岡崎 智, 中根恭司 (2006) 大腸癌外来化学療法におけるCVポートの安全性と有用性に対する検討, 第44回日本癌治療学会総会, 東京
87. 向出裕美, 足立 靖, 桐山直子, 鈴木康弘, 岩

- 崎真佳, 南野桂三, 中野景司, 小池保志, 重松明男, 上山泰男, 池原 進 (2006) 骨髄内骨髄移植 (IBM-BMT) に donor lymphocyte infusion (DLI) とドナー骨髄由来樹状細胞のパルス療法を併用した悪性腫瘍の治療法. 第44回日本癌治療学会総会, 東京
88. 高井惣一郎, 柳本泰明, 里井壮平, 豊川秀吉, 高橋完治, 寺川直良, 峯 孝志, 伊東恭悟, 上山泰男 (2006) 膵癌・胆道癌の治療成績は何か? 原因と対策 膵癌の腫瘍免疫からみた悪性度と対策. 第44回日本癌治療学会総会, 東京
89. 山道啓吾, 馬殿徹也, 道浦 拓, 中井宏治, 井上健太郎, 中根恭司 (2006) 食道癌における末梢血微小転移の検出と化学放射線療法が及ぼす影響について. 第44回日本癌治療学会総会, 東京
90. 福井淳一, 稲葉宗夫, 保坂直樹, 坂口雄沢, 津田雅庸, 上田祐輔, 郭 可泉, 李 銘, 上山泰男, 池原 進 (2006) 骨髄内骨髄移植法における移植片対宿主病抑制効果の検討. 第44回日本癌治療学会総会, 東京
91. 瀧内比呂也, 今村博司, 今野元博, 木村 豊, 石田秀之, 辻仲利政, 植原啓之, 中根恭司, 森本 卓, 田村孝雄, 松本繁己, 原 章倫, 福永浩紀, 古河 洋 (2006) TS-1抵抗性の進行・再発胃癌に対する Paclitaxel/Doxifluridine 併用療法の第III相臨床試験 (OGSG0302). 第44回日本癌治療学会総会, 東京
92. 三木博和, 道浦 拓, 桜本和人, 井上健太郎, 山道啓吾, 中根恭司 (2006) PD術後食道表在癌に対し, salvage 局所切除が有効であった1例. 第553回大阪外科集談会, 大阪
93. 高田晃平, 棚野晃秀, 徳原克治, 浜田吉則 (2006) こんなときも局注療法をしますか? 第56回小児外科わからん会, 大阪
94. 岩本慈能, 吉岡和彦, 向出裕美, 岡崎 智, 中根恭司 (2006) 進行直腸癌に対する5'-DFURと放射線の術前併用療法. 第61回日本大腸肛門病学会, 弘前
95. 吉岡和彦, 岩本慈能, 中野雅貴, 畑 嘉高, 中根恭司 (2006) 直腸癌の再建術式と術後排便機能 Graciloplasty は直腸癌の術後再建と排便機能の改善に寄与するか? 第61回日本大腸肛門病学会, 弘前
96. 吉田 良, 大道道大, 岩本慈能, 吉岡和彦, 高田秀穂, 中根恭司 (2006) 孤立性肝膿瘍を合併した直腸癌の1例. 第61回日本大腸肛門病学会, 弘前
97. 海堀昌樹, 斎藤隆道, 内田洋一朗, 石崎守彦, 松井陽一, 上山泰男 (2006) 術前肝機能障害よりみた肝動脈塞栓術の肝細胞癌肝切除後の予後におよぼす効果. 第65回日本癌学会学術総会, 横浜
98. 三宅 岳, 保坂直樹, 上山泰男, 池原 進 (2006) 胸腺移植を併用したアロ骨髄移植 (骨髄内骨髄移植法) による GVT 効果及び GVHR の検討. 第65回日本癌学会学術総会, 横浜
99. 住本貴美, 高岡 亮, 島谷昌明, 山科雅央, 松本隆之, 大宮美香, 深田憲将, 鈴木 亮, 武尾真宏, 福井由理, 内田一茂, 松下光伸, 関寿人, 岡崎和一, 豊川秀吉, 松井陽一, 上山泰男 (2006) 内視鏡下に結石排石が認められた胆嚢十二指腸瘻の1例. 第77回日本消化器内視鏡学会近畿地方会, 京都
100. 住本貴美, 高岡 亮, 島谷昌明, 松下光伸, 深田憲将, 内田一茂, 武尾真宏, 鈴木 亮, 高山俊行, 関 寿人, 岡崎和一, 里井壮平, 高井惣一郎, 上山泰男 (2006) 胆管十二指腸吻合術後40年して胆管炎, 閉塞性黄疸を発症し診断された胆管癌の一例. 第85回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪
101. 武尾真宏, 松本隆之, 森 茂生, 田橋賢也, 島谷昌明, 高橋 悠, 鈴木 亮, 住本貴美, 高岡 亮, 岡崎和一, 井上健太郎, 中根恭司, 坂井田紀子, 植村芳子 (2006) 急速に進展発育し通過障害を来した十二指腸神経内分泌腫瘍の一例. 第85回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪
102. 道浦 拓 (2006) 消化器術後の急性肺障害患に対するシベレスタットナトリウムの有用性. 北河内フォーラム2006, 大阪
103. 高田晃平, 棚野晃秀, 徳原克治, 浜田吉則 (2006) 回腸の impending rupture を合併した新生児胃破裂の1例. 第42回日本小児外科学会近畿地方会, 兵庫
104. 佐藤正人, 水上 陽 (2006) 第1鰓裂性瘻孔の1例. 第42回日本小児外科学会近畿地方会, 兵

庫

- 105.渡辺健太郎, 松川泰廣 (2006) 穿孔性虫垂炎の術後, 上腹部に大網膿瘍を形成した2例. 第42回日本小児外科学会近畿地方会, 兵庫
- 106.高田晃平, 棚野晃秀, 徳原克治, 浜田吉則, 奥田和之, 高橋伯夫 (2006) Hirschsprung病の兄妹発生例. 第42回日本小児外科学会近畿地方会, 兵庫
- 107.松井康輔, 川口雄才, 尾崎 岳, 田中宏典, 徳原克治, 松井陽一, 海堀昌樹, 西澤幹雄, 上山泰男, 奥村忠芳 (2006) 肝細胞のiNOS誘導とAHCCの阻害効果— α -グルカン糖画分の効果—. 第14回AHCC研究会, 札幌
- 108.奥川帆麻, 山本大悟, 川西 洋, 小路徹二, 田中完児 (2006) 巨大腫瘍を呈した乳腺原発悪性リンパ腫の一例. 第14回日本乳癌学会総会, 金沢
- 109.兼松清果, 山本大悟, 奥川帆麻, 川西 洋, 小路徹二, 田中完児, 山崎律子, 廣濱秀次, 漆畑直樹 (2006) 乳癌と臭気. 第14回日本乳癌学会総会, 金沢
- 110.山本大悟, 岩瀬 哲, 小田桐弘毅, 北村 薫 (2006) HER2 陽性乳癌に対するTrastuzumab (Herceptin) の治療効果. 第14回日本乳癌学会総会, 金沢
- 111.小松優治, 二階堂任, 小路徹二, 是枝 敬, 畑埜武彦 (2006) Trastuzumab, weekly Paclitaxel 併用療法が奏効した乳癌肝転移症例の一例. 第14回日本乳癌学会総会, 金沢
- 112.森 毅, 田中完児, 山本大悟, 兼松清果 (2006) トラスツズマブ・パクリタキセル療法が二度奏効し, 長期生存を得ている乳癌肝転移の1例. 第14回日本乳癌学会総会, 金沢
- 113.田中完児 (2006) 乳癌診療におけるチーム医療の取り組みとその効果 乳がん診療におけるチーム医療の実践 特に Breast Care Nurse との共働. 第14回日本乳癌学会総会, 金沢
- 114.福井淳一, 稲葉宗夫, 池原 進 (2006) 骨髄内ドナーリンパ球輸注法による移植片対宿主病の抑制. 第16回日本サイトメトリー学会学術集会, 長崎
- 115.佐藤正人 (2006) 腸重積症治療における腹腔鏡の応用. 第35回京大小児科関連懇話会, 大阪
- 116.川村梨那子, 古川富紀子, 関 寿人, 梅原秀人, 池田耕造, 是枝ちづ, 岡崎和一, 上山泰男, 海堀昌樹, 谷川 昇, 坂井田紀子 (2006) FNHによりBudd-Chiari症候群様の血流異常を認めた一例. 第42回日本肝癌研究会, 東京
- 117.羽原弘造, 浜田吉則, 徳原克治, 中井宏治, 北川克彦, 山田正法, 吉田秀行, 海堀昌樹, 奥村忠芳, 上山泰男 (2006) 小腸上皮細胞のiNOS誘導に対するスタチン効果. 第43回日本外科代謝栄養学会, 新潟
- 118.海堀昌樹, 石崎守彦, 内田洋一郎, 肱川 健, 斎藤隆道, 奥村忠芳, 上山泰男 (2006) ラット肝切除後エンドトキシン血症に対するPirfenidoneの生体保護効果. 第43回日本外科代謝栄養学会, 新潟
- 119.中井宏治, 神原達也, 田中義人, 金 泰成, 道浦 拓, 井上健太郎, 山道啓吾, 中根恭司 (2006) 食道癌術後症例に対する, グルタミンペプチド配合濃厚流動食 (サンエット GP) 投与の効果. 第43回日本外科代謝栄養学会, 新潟
- 120.徳原克治, 浜田吉則, 中井宏治, 山田正法, 羽原弘造, 吉田秀行, 尾崎 岳, 松井康輔, 田中宏典, 海堀昌樹, 奥村忠芳, 上山泰男 (2006) 肝細胞のiNOS誘導に対するrebamipideの効果. 第43回日本外科代謝栄養学会, 新潟
- 121.吉岡和彦, 岩本慈能, 中野雅貴, 畑 嘉高, 中根恭司, 上山泰男 (2006) 人工肛門の回避は重要か? : 効用値とAHPを用いた下部直腸癌における術式選択の検討. 第61回日本消化器外科学会学術集会, 横浜
- 122.肱川 健, 海堀昌樹, 山田正法, 石崎守彦, 内田洋一郎, 権 雅憲, 上山泰男 (2006) GalN/LPS誘発劇症肝不全モデルにおけるIGF-1の生体保護効果. 第61回日本消化器外科学会学術集会, 横浜
- 123.高井惣一郎, 里井壯平, 柳本泰明, 豊川秀吉, 高橋完治, 寺川直良, 荒木 浩, 松井陽一, 上山泰男 (2006) 切除可能脾癌の術前放射線化学療法の意義について (続報). 第61回日本消化器外科学会学術集会, 横浜
- 124.山道啓吾, 道浦 拓, 中井宏治, 小松優治, 櫻本和人, 神原達也, 金 成泰, 井上健太郎, 浅井 晃, 中根恭司 (2006) 胃切除後食道癌に対する食道切除・胸腔内空腸Roux-Y再建法. 第61回日本消化器外科学会学術集会, 横浜

- 125.中井宏治, 神原達也, 金 泰成, 道浦 拓, 井上健太郎, 山道啓吾, 中根恭司 (2006) グルタミンペプチド配合濃厚流動食 (サンエットGP) の食道癌術後症例への影響. 第61回日本消化器外科学会学術集会, 横浜
- 126.道浦 拓, 中根恭司, 神原達也, 中井宏治, 井上健太郎, 上山泰男 (2006) RI 胃排出機能検査をもちいた機能温存手術の評価. 第61回日本消化器外科学会学術集会, 横浜
- 127.内田洋一郎, 海堀昌樹, 肱川 健, 石崎守彦, 尾崎 岳, 田中宏典, 権 雅憲, 上山泰男 (2006) ラット劇症肝不全モデルにおけるneutrophil elastase inhibitor の生体保護効果の検討. 第61回日本消化器外科学会学術集会, 横浜
- 128.豊川秀吉, 里井壯平, 高井惣一郎, 柳本泰明, 寺川直良, 山尾 順, 山本智久, 大久保遊平, 松井陽一, 上山泰男 (2006) 当科における臍切除術のドレーン管理. 第61回日本消化器外科学会学術集会, 横浜
- 129.柳本泰明, 高井惣一郎, 山本光太郎, 峯 孝志, 里井壯平, 豊川秀吉, 寺川直良, 岡 正朗, 伊東恭悟, 上山泰男 (2006) 進行臍癌におけるテーラーメイド癌ペプチドワクチン/塩酸ゲムシタピン併用第I相臨床試験. 第61回日本消化器外科学会学術集会, 横浜
- 130.里井壯平, 高井惣一郎, 豊川秀吉, 柳本泰明, 辻 勝成, 寺川直良, 山尾 順, 山本智久, 松井陽一, 上山泰男 (2006) 当科における臍消化管吻合 (確実な吻合を目指して). 第61回日本消化器外科学会学術集会, 横浜
- 131.海堀昌樹, 斉藤隆道, 内田洋一郎, 石崎守彦, 肱川 健, 松井陽一, 上山泰男 (2006) ミラノ基準合致肝細胞癌切除症例に対する肝移植の適応に関する検討. 第61回日本消化器外科学会定期学術集会, 横浜
- 132.岩本慈能, 吉岡和彦, 向出裕美, 岡崎 智, 中根恭司 (2006) 進行直腸癌に対する5'-DFURと放射線の術前併用療法. 第61回日本消化器外科学会定期学術集会, 横浜
- 133.中根恭司 (2006) この症例をどうする—外科的治療を中心に— (2) 胃癌. 第61回日本消化器外科学会定期学術総会, 横浜
- 134.権 雅憲, 松井陽一, 佐藤正人, 今村 敦 (2006) Mirizzi症候群に対する腹腔鏡下手術適応の検討. 第61回日本消化器外科学会定期学術総会, 横浜
- 135.羽原弘造, 浜田吉則, 山田正法, 吉田秀行, 尾崎 岳, 松井康輔, 徳原克治, 田中宏典, 海堀昌樹, 上山泰男, 西澤幹雄, 奥村忠芳 (2006) 炎症性サイトカインによる肝細胞iNOS誘導に対するスタチンの効果. 第13回肝細胞研究会, 旭川
- 136.吉田秀行, 権 雅憲, 羽原弘造, 山田正法, 尾崎 岳, 松井康輔, 徳原克治, 田中宏典, 海堀昌樹, 上山泰男, 西澤幹雄, 奥村忠芳 (2006) 肝臓のiNOS誘導に対するedaravoneの抑制メカニズム. 第13回肝細胞研究会, 旭川
- 137.松井康輔, 川口雄才, 尾崎 岳, 山田正法, 羽原弘造, 吉田秀行, 徳原克治, 田中宏典, 海堀昌樹, 上山泰男, 西澤幹雄, 奥村忠芳 (2006) 肝細胞のiNOS誘導とAHCCの保護効果. 第13回肝細胞研究会, 旭川
- 138.田中宏典, 海堀昌樹, 内田洋一郎, 石崎守彦, 羽原弘造, 山田正法, 吉田秀行, 松井康輔, 尾崎 岳, 徳原克治, 権 雅憲, 上山泰男, 西澤幹雄, 奥村忠芳 (2006) 初代培養肝細胞の一酸化窒素の産生誘導に対するNa⁺/H⁺exchanger阻害剤の効果. 第13回肝細胞研究会, 旭川
- 139.徳原克治, 浜田吉則, 山田正法, 羽原弘造, 吉田秀行, 尾崎 岳, 松井康輔, 田中宏典, 海堀昌樹, 上山泰男, 西澤幹雄, 奥村忠芳 (2006) 肝細胞における炎症性サイトカインのiNOS誘導とrebamipideの効果. 第13回肝細胞研究会, 旭川
- 140.尾崎 岳, 田中宏典, 山田正法, 羽原弘造, 吉田秀行, 松井康輔, 徳原克治, 海堀昌樹, 上山泰男, 西澤幹雄, 奥村忠芳 (2006) Cysteamineのラット肝細胞iNOS誘導に与える影響. 第13回肝細胞研究会, 旭川
- 141.内田洋一郎, 阪本靖介, 小川晃平, 笠原群生, 瓜生原健嗣, 小倉靖弘, 江川裕人, 高田泰次, 上本伸二 (2006) 小児生体肝移植後の動脈血栓症に対する治療戦略および長期成績. 第24回日本肝移植研究会, 長野
- 142.上山泰男, 松井陽一, 川口雄才 (2006) 外科系治療における健康補助食品の応用. 第28回日本外科系連合学会学術集会, 東京

- 143.井上健太郎, 神原達也, 道浦 拓, 山道啓吾, 中根恭司 (2006) 癒着防止フィルム使用症例での術後腹腔鏡検査の実施可能性と意義. 第31回日本外科系連合学会学術集会, 石川
- 144.高井惣一郎, 里井壯平, 柳本泰明, 豊川秀吉, 高橋完治, 寺川直良, 荒木 浩, 松井陽一, 上山泰男 (2006) 膵癌の術前放射線化学療法 of 検討. 第37回日本膵臓学会大会, 東京
- 145.内田一茂, 池浦 司, 島谷昌昭, 松下光伸, 高岡 亮, 里井壯平, 高井惣一郎, 上山泰男, 岡崎和一 (2006) 肝・膵臓に認められた炎症性偽腫瘍の一例. 第37回日本膵臓学会大会, 東京
- 146.豊川秀吉, 里井壯平, 高井惣一郎, 柳本泰明, 辻 勝成, 荒木 浩, 寺川直良, 山尾 順, 山本智久, 松井陽一, 上山泰男 (2006) 当科における膵消化管吻合の工夫. 第37回日本膵臓学会大会, 東京
- 147.柳本泰明, 峯 孝志, 里井壯平, 豊川秀吉, 高橋完治, 寺川直良, 山田 亮, 岡 正朗, 上山泰男, 伊東恭悟, 高井惣一郎 (2006) 膵癌治療最前線: テーラーメイド癌ペプチドワクチン及び塩酸ゲムシタビン併用療法. 第37回日本膵臓学会大会, 東京
- 148.里井壯平, 高井惣一郎, 柳本泰明, 豊川秀吉, 松井陽一, 寺川直良, 荒木 浩, 山尾 順, 山本智久, 上山泰男 (2006) MDCT による膵癌進行度診断と外科的予後. 第37回日本膵臓学会大会, 東京
- 149.里井壯平, 高井惣一郎, 柳本泰明, 豊川秀吉, 松井陽一, 寺川直良, 荒木 浩, 山尾 順, 山本智久, 上山泰男 (2006) 膵癌進行度診断画像診断はどこまで正確か MDCT による膵癌進行度診断と外科的予後. 第37回日本膵臓学会大会, 横浜
- 150.棚野晃秀, 浜田吉則, 片岡洋祐, 渡辺 淳, 山田久夫 (2006) 筋層間神経叢における神経ネットワークの構築 ラット胎児腸管における検討. 第43回日本小児外科学会総会, 秋田
- 151.金 成泰, 山道啓吾, 道浦 拓, 中井宏治, 浅井 晃, 神原達也, 井上健太郎, 中井宏治, 上山泰男, 小山恒男 (2006) ESD にて切除し得た遺残頸部食道表在癌の2例. 第60回日本食道学会学術集会, 東京
- 152.桜本和人, 山道啓吾, 中井宏治, 小松優治, 神原達也, 金 成泰, 道浦 拓, 井上健太郎, 浅井 晃, 中根恭司 (2006) 食道癌術後虹彩転移の1例. 第60回日本食道学会学術集会, 東京
- 153.山道啓吾, 道浦 拓, 中井宏治, 小松優治, 神原達也, 金 成泰, 井上健太郎, 浅井 晃, 中根恭司 (2006) 進行食道癌に対する術前化学放射線療法の問題点と今後の課題. 第60回日本食道学会学術集会, 東京
- 154.小松優治, 山道啓吾, 道浦 拓, 桜本和人, 神原達也, 金 成泰, 中井宏治, 井上健太郎, 浅井 晃, 中根恭司 (2006) 進行食道癌化学放射線療法後の腹腔リンパ節再発に対し salvage 手術が奏功した一例. 第60回日本食道学会学術集会, 東京
- 155.中井宏治, 山道啓吾, 小松優治, 神原達也, 金 成泰, 道浦 拓, 井上健太郎, 浅井 晃, 中根恭司 (2006) 頸部食道胃管吻合に自動吻合器を用いた治療成績. 第60回日本食道学会学術集会, 東京
- 156.道浦 拓, 山道啓吾, 桜本和人, 田中義人, 中井宏治, 井上健太郎, 中根恭司, 上山泰男 (2006) 進行食道癌化学放射線療法における治療効果判定の限界について. 第60回日本食道学会学術集会, 東京
- 157.宮崎浩彰, 北村 臣, 里井壯平, 馬庭知弘, 湯浅文雄 (2006) 当院における電子クリティカルパスの導入. 第8回日本医療マネジメント学会学術総会, 横浜
- 158.河 相吉, 澤田 敏, 海堀昌樹, 上山泰男 (2006) 99mTc-GSA アシアロシンチによるグラフト肝機能評価. 第14回肝病態生理研究会, 京都
- 159.加茂直子, 龍見謙太郎, 祝迫恵子, 尾崎 岳, 田中宏典, 三木 明, 瀬尾 智, 岡本大輔, 井ノ本琢也, 古家敬三, 鍛利幸, 亥埜恵一, 東山 洋, 有本 明, 中島康夫, 浮草 実 (2006) 上腸間膜動脈血栓症に引き続いて生じた総肝動脈血栓症の一例. 第171回近畿外科学会, 大阪
- 160.今村容子, 金 成泰, 川口雄才, 北出浩章, 大久保遊平, 中井宏治, 権 雅憲, 高田秀穂 (2006) 索状物が原因と考えられた小腸穿孔の

一例. 第179回近畿外科学会, 和歌山

161. 山尾 順, 森本泰介, 森村絵里, 福光 剣, 松尾宏一, 山本栄司, 岩田辰吾, 森口喜生, 向原純雄 (2006) 術前診断可能であったPTPシート誤飲による小腸腔瘻の一例. 第179回近畿外科学会, 和歌山
162. 山木 壮, 榎本博文, 北岡昭宏, 加藤仁司 (2006) 門脈内ガスを認めた腸管囊腫様気腫症の1例. 第179回近畿外科学会, 和歌山
163. 水上 陽, 田野龍介, 水本明良, 金井陸行, 笹田哲朗, 橋田裕毅, 上田修吾, 郡司周太郎, 大石賢玄, 小山幸法, 高林有道 (2006) 急性腹症で緊急手術を施行した若年者腸結核の1例. 第179回近畿外科学会, 和歌山
164. 辻 勝成, 権 雅憲, 今村 敦, 北出浩章 (2006) 胆嚢癌が疑われた胆嚢アミロイドーシスの1例. 第179回近畿外科学会, 和歌山
165. 北出浩章, 辻 勝成, 権 雅憲, 高田秀穂, Pirenne J (2006) 移植患者の高度耐性一肝移植術後患者とのキリマンジャロ登山一. 第179回近畿外科学会, 和歌山
166. 瀧内比呂也, 今村博司, 今野元博, 木村 豊, 石田秀之, 辻仲利政, 植原啓之, 中根恭司, 森本 卓, 田村孝雄, 松本繁己, 原 章倫, 福永浩紀, 古河 洋 (2006) TS-1抵抗性の進行・再発胃癌に対する Paclitaxel/Doxifluridine 併用療法の第III相臨床試験 (OGSG0302). 第179回近畿外科学会, 和歌山
167. 海堀昌樹, 斉藤隆道, 内田洋一郎, 石崎守彦, 松井陽一, 上山泰男 (2006) 術前肝動脈塞栓術の肝細胞癌肝切除後の予後におよぼす効果. 第18回日本肝胆膵外科関連会議, 東京
168. 山尾 順, 里井壯平, 高井惣一郎, 豊川秀吉, 柳本泰明, 寺川直良, 大久保遊平, 山本智久, 松井陽一, 権 雅憲, 上山泰男 (2006) 膵頭十二指腸切除術における自己血輸血の導入. 第18回日本肝胆膵外科関連会議, 東京
169. 寺川直良, 柳本泰明, 高井惣一郎, 峯 孝志, 里井壯平, 高橋完治, 山本光太郎, 山田 亮, 岡 正朗, 伊東恭悟, 上山泰男 (2006) 集学的治療にて1年以上生存しえた切除不能・再発膵癌の4例. 第18回日本肝胆膵外科関連会議, 東京
170. 田上修司, 柳本泰明, 高井惣一郎, 里井壯平, 豊川秀吉, 辻 勝成, 権 雅憲, 内田一茂, 岡崎和一, 上山泰男 (2006) 術前に膵癌との鑑別が困難であった自己免疫性膵炎の1例. 第18回日本肝胆膵外科関連会議, 東京
171. 柳本泰明, 高井惣一郎, 里井壯平, 豊川秀吉, 高橋完治, 寺川直良, 上山泰男 (2006) 切除不能膵癌における新しい予後予測因子としての末梢血樹状細胞数の役割. 第18回日本肝胆膵外科関連会議, 東京
172. 里井壯平, 高井惣一郎, 柳本泰明, 豊川秀吉, 辻 勝成, 寺川直良, 山尾 順, 山本智久, 権 雅憲, 上山泰男 (2006) 当科における膵液漏の発生率とその治療. 第18回日本肝胆膵外科関連会議, 東京
173. 権 雅憲, 松井陽一, 里井壯平 (2006) 腹腔鏡下胆嚢摘出術後に診断された胆嚢癌症例の追加切除と予後の検討. 第18回日本肝胆膵外科関連会議, 東京
174. 大久保遊平, 里井壯平, 高井惣一郎, 豊川秀吉, 柳本泰明, 田上修司, 寺川直良, 山尾順, 山本智久, 松井陽一, 権 雅憲, 上山泰男 (2006) 膵切除術における閉鎖吸引式ドレーンの安全性. 第18回日本肝胆膵外科関連会議, 東京
175. 今村 敦, 奥野雅史, 大久保遊平, 尾崎 岳, 田中宏典, 斉藤隆道, 高田秀穂, 上山泰男 (2006) 腸骨動脈完全閉塞症例にたいする血管内治療. 第34回日本血管外科学会, 東京
176. 道浦 拓, 山道啓吾, 浅井 晃, 三木博和, 桜本和人, 井上健太郎, 中根恭司 (2006) 肝硬変合併, 食道GISTの1例. 第9回近畿過大侵襲研究会, 大阪
177. 河 相吉, 澤田 敏, 海堀昌樹, 上山泰男 (2006) 移植グラフト肝の機能評価 ^{99m}Tc -GSA graft Rmaxの有用性. 第65回日本医学放射線学会, 横浜
178. 辻田 (久徳) 美樹, 段原直行, 垠 貴司, 高田秀穂, 羽田尚彦, 螺良愛郎 (2006) ヒト乳癌細胞株 (KPL-1) における共役ドコサヘキサエン酸による増殖抑制機序の解明. 第93回日本病理学会総会, 札幌
179. 垠 貴司, 段原直行, 辻田久徳美樹, 二階堂泰資, 島野直人, 上原範久, 清塚康彦, 四方伸明, 螺良愛郎 (2006) Zeranol の思春期前暴

- 露における雌 Sprague-Dawley ラットにおよぼす影響. 第93回日本病理学会, 札幌
180. 島野直人, 段原直行, 垠 貴司, 辻田久徳美樹, 二階堂泰資, 螺良愛郎 (2006) Indole-3-carbinol の思春期前暴露による MNU 誘発ラット乳癌におよぼす影響. 第93回日本病理学会, 札幌
181. 段原直行, 辻田久徳美樹, 垠 貴司, 高田秀穂, 羽田尚彦, 螺良愛郎 (2006) 共役ドコサヘキサエン酸による MNU 誘発ラット乳癌に対する抗腫瘍効果. 第93回日本病理学会, 札幌
182. 清塚康彦, 上原範久, 段原直行, 垠 貴司, 辻田久徳美樹, 島野直人, 螺良愛郎 (2006) マウス胸腺細胞の dexamethasone 誘発 apoptosis における telomere 長短縮と telomerase RNA の発現亢進. 第93回日本病理学会, 札幌
183. 岡崎 智, 比舎弘子, 溝上友美, 王 曉麗, 宋 昌曄, 李 清, 上山泰男, 池原 進 (2006) 静脈内骨髄移植 (IV-BMT) あるいは骨髄内骨髄移植 (IBM-BMT) 併用による同種肝移植効果の比較検討 (II). 第95回日本病理学会総会, 東京
184. 桐山直子, 足立 靖, 南野桂三, 岩崎真佳, 中野景司, 小池保志, 鈴木康弘, 向出裕美, 重松明男, 松村美代, 池原 進 (2006) SCID/hu マウスを用いたヒト臍帯血からの網膜神経細胞への分化の検討. 第95回日本病理学会総会, 東京
185. 向出裕美, 足立 靖, 鈴木康弘, 岩崎真佳, 小池保志, 南野桂三, 中野景司, 重松明男, 桐山直子, 上山泰男, 池原 進 (2006) IBM-BMT に DLI とドナー骨髄由来樹状細胞を併用した悪性腫瘍の治療法. 第95回日本病理学会総会, 東京
186. 三宅 岳, 保坂直樹, 龍 堯志, 西田晃久, 崔 文旻, 稲葉宗夫, 上山泰男, 池原 進 (2006) 胸腺移植を併用したアロ骨髄移植 (骨髄内骨髄移植法) による GVT 及び GVHR の比較. 第95回日本病理学会総会, 東京
187. 重松明男, 足立 靖, 桐山直子, 岩崎真佳, 小池保志, 中野景司, 向出裕美, 今村雅寛, 池原 進 (2006) 低線量放射線照射が樹状細胞の活性化に及ぼす影響. 第95回日本病理学会総会, 東京
188. 小池保志, 足立 靖, 鈴木康弘, 南野桂三, 岩崎真佳, 向出裕美, 重松明男, 桐山直子, 上山泰男, 池原 進 (2006) ラット同種間骨髄内骨髄移植 (IBM-BMT) とドナーリンパ球注入療法 (DLI) による抗腫瘍効果の検討. 第95回日本病理学会総会, 東京
189. 中野景司, 足立 靖, 南野桂三, 鈴木康弘, 岩崎真佳, 小池保志, 向出裕美, 重松明男, 桐山直子, 池原 進 (2006) M-CSF による endothelial progenitor cell (EPC) の mobilization メカニズム. 第95回日本病理学会総会, 東京
190. 井上健太郎, 神原達也, 道浦 拓, 金 成泰, 中井宏治, 山道啓吾, 中根恭司 (2006) 胃癌手術における閉鎖式吸引ドレーンの有効性と安全性. 第106回日本外科学会定期学術集会, 東京
191. 羽原弘造, 濱田吉則, 吉田秀行, 山田正法, 尾崎 岳, 松井康輔, 徳原克治, 田中宏典, 西澤幹雄, 海堀昌樹, 奥村忠芳, 上山泰男 (2006) IEC-6 の iNOS 誘導に対する pitavastatin の効果. 第106回日本外科学会定期学術集会, 東京
192. 海堀昌樹, 内田洋一朗, 石崎守彦, 奥村忠芳, 上山泰男 (2006) 障害肝のエネルギー代謝における一酸化窒素 (NO) の役割. 第106回日本外科学会定期学術集会, 東京
193. 吉岡和彦, 岩本慈能, 中野雅貴, 畑 嘉高, 中根恭司, 上山泰男 (2006) Graciloplasty における「昇圧帯」の評価. 第106回日本外科学会定期学術集会, 東京
194. 吉田秀行, 權 雅憲, 海堀昌樹, 辻 勝成, 羽原弘造, 山田正法, 尾崎 岳, 松井康輔, 徳原克治, 田中宏典, 宮宗武史, 奥村忠芳, 上山泰男 (2006) マクロファージの iNOS 誘導に対する edaravone の効果. 第106回日本外科学会定期学術集会, 東京
195. 高井惣一郎, 里井壯平, 柳本泰明, 豊川秀吉, 高橋完治, 寺川直良, 辻 勝成, 荒木 浩, 松井陽一, 上山泰男 (2006) 予後規定因子に基づいた膀胱癌術前放射線化学療法の意義. 第106回日本外科学会定期学術集会, 東京
196. 山田正法, 浜田吉則, 羽原弘造, 松井康輔, 吉田秀行, 尾崎 岳, 徳原克治, 田中宏典, 西澤幹雄, 奥村忠芳, 上山泰男 (2006) 肝細胞の iNOS 誘導における IL-1R1 isoform 発現とそ

- の役割. 第106回日本外科学会定期学術集会, 東京
- 197.山本智久, 高橋完治, 柳本泰明, 里井壯平, 豊川秀吉, 寺川直良, 大久保遊平, 高井惣一郎, 権 雅憲, 上山泰男 (2006) 膵癌切除症例における末梢血樹状細胞モニタリングの有用性. 第106回日本外科学会定期学術集会, 東京
- 198.寺川直良, 柳本泰明, 豊川秀吉, 里井壯平, 高井惣一郎, 高橋完治, 山本智久, 山尾 順, 権 雅憲, 上山泰男 (2006) 切除膵癌組織での樹状細胞の局在による検討. 第106回日本外科学会定期学術集会, 東京
- 199.松井康輔, 川口雄才, 尾崎 岳, 山田正法, 羽原弘造, 吉田秀行, 徳原克治, 田中宏典, 海堀昌樹, 西澤幹雄, 奥村忠芳, 上山泰男 (2006) 病態肝のiNOS誘導におけるAHCCの効果. 第106回日本外科学会定期学術集会, 東京
- 200.大久保遊平, 里井壯平, 高井惣一郎, 豊川秀吉, 柳本泰明, 寺川直良, 山本智久, 松井陽一, 権 雅憲, 上山泰男 (2006) 膵頭十二指腸切除術における自己血輸血の使用経験. 第106回日本外科学会定期学術集会, 東京
- 201.棚野晃秀, 濱田吉則, 片岡洋祐, 渡辺 淳, 山田久夫, 上山泰男 (2006) ラット胎児期腸管における筋層間神経叢の共焦点蛍光顕微鏡を用いた免疫組織学的検討. 第106回日本外科学会定期学術集会, 東京
- 202.中根恭司, 道浦 拓, 神原達也, 金 成泰, 中井宏治, 井上健太郎, 山道啓吾 (2006) 胃全摘後空腸パウチ間置再建術とその成績. 第106回日本外科学会定期学術集会, 東京
- 203.辻 勝成, 権 雅憲, 吉田秀行, 宮宗武史, 邱 澤雨, 奥村忠義, 上山泰男 (2006) マウス抗Fas抗体誘発肝障害モデルにおけるedaravoneのアポトーシス抑制効果の検討. 第106回日本外科学会定期学術集会, 東京
- 204.尾崎 岳, 田中宏典, 山田正法, 羽原弘造, 吉田秀行, 松井康輔, 徳原克治, 海堀昌樹, 奥村忠芳, 上山泰男 (2006) 肝細胞のiNOS誘導に対するcysteamineの効果. 第106回日本外科学会定期学術集会, 東京
- 205.豊川秀吉, 中尾篤典, 梅津貴史, Romanosky A, Nalesnik MA, 上山泰男, Stolz DB, 村瀬紀子 (2006) 腎虚血再灌流障害後の実質組織修復における特異的前駆様細胞と骨髄由来細胞の役割. 第106回日本外科学会定期学術集会, 東京
- 206.柳本泰明, 高井惣一郎, 里井壯平, 豊川秀吉, 高橋完治, 寺川直良, 金 成泰, 権 雅憲, 上山泰男 (2006) 膵癌症例104例における予後予測因子としての末梢血樹状細胞の有用性. 第106回日本外科学会定期学術集会, 東京
- 207.里井壯平, 岩城隆二, 高井惣一郎, 松井陽一, 柳本泰明, 豊川秀吉, 寺川直良, 高橋完治, 大久保遊平, 権 雅憲, 上山泰男 (2006) 十二指腸乳頭部癌の予後規定因子. 第106回日本外科学会定期学術集会, 東京
- 208.権 雅憲, 邱澤雨, 辻 勝成, 吉田秀行, 宮宗武史 (2006) 好中球エラスターゼ阻害剤のアポトーシス抑制作用の検討. 第106回日本外科学会定期学術集会, 東京
- 209.平 充 他 (2006) streptozotocin 誘発糖尿病ラットの治療法の開発—脾ラ氏島移植に骨髓内骨髓移植法を用いて—. 第122回関西医科大学学術集談会, 大阪
- 210.松井康輔, 川口雄才, 上山泰男, 西澤幹雄, 安田勝彦, 奥村忠芳 (2006) 障害肝におけるAHCCの保護作用—iNOSのNO産生に対する効果—. 第122回関西医科大学学内学術集談会, 大阪
- 211.羽原弘造, 浜田吉則, 北川克彦, 中井宏治, 山田正法, 徳原克治, 奥村忠芳, 上山泰男 (2006) 小腸上皮細胞のiNOS誘導に対するHMG-CoA還元酵素阻害剤pitavastatinの効果. 第18回日本小腸移植研究会, 奈良
- 212.奥野雅史, 今村 敦, 大久保遊平, 田中宏典, 尾崎 岳, 高田秀穂 (2006) 後腹膜出血をきたした上腸間膜動脈瘤破裂の1例. 第20回日本血管外科学会近畿地方会, 京都
- 213.棚野晃秀, 浜田吉則, 高田晃平, 渡辺健太郎, 徳原克治, 上山泰男 (2006) 当科で経験した遅発性Bochdalek孔ヘルニアの9例. 第42回日本腹部救急医学会, 東京
- 214.羽原弘造, 浜田吉則, 山田正法, 吉田秀行, 尾崎 岳, 松井康輔, 徳原克治, 田中宏典, 海堀昌樹, 西澤幹雄, 奥村忠芳, 上山泰男 (2006) 肝障害に対するpitavastatinの保護効果. 第42

回日本腹部救急医学会総会, 東京

- 215.高田晃平, 浜田吉則, 徳原克治, 棚野晃秀, 上山泰男 (2006) 症候性腸管重複症の検討. 第42回日本腹部救急医学会総会, 東京
- 216.権 雅憲, 邱 澤雨, 辻 勝成, 吉田秀行, 宮宗武史 (2006) ラット肝切除後エンドトキシン血症モデルにおけるケミカルメディエーターの制御と臨床応用について. 第42回日本腹部救急医学会総会, 東京
- 217.棚野晃秀, 高田晃平, 浜田吉則 (2006) 空腸閉鎖術後の遷延する高ビリルビン血症の1例. 第55回小児外科わからん会, 大阪
- 218.井上健太郎, 神原達也, 道浦 拓, 中井宏治, 山道啓吾, 中根恭司 (2006) 腹膜再発の早期発見を目的とした術後腹腔鏡検査の意義. 第78回日本胃癌学会総会, 大阪
- 219.井上健太郎, 中根恭司, 今村博司, 古河 洋, 飯島正平, 中辻直之, 辻仲利政 (2006) 幽門側胃切除後の予防的抗生剤投与の必要性に関する第2.3相試験 (OGSG O202, O501). 第78回日本胃癌学会総会, 大阪
- 220.今村博司, 瀧内比呂也, 今野元博, 木村 豊, 石田秀之, 辻仲利政, 植原啓之, 中根恭司, 森本 卓, 田村孝雄, 松本繁己, 原 章倫, 福永浩紀, 下川敏雄, 古河 洋 (2006) TS-1 抵抗性の進行・再発胃癌に対するPaclitaxel/Doxifluridine 併用療法の第Ⅱ相臨床試験 (OGSG O302). 第78回日本胃癌学会総会, 大阪
- 221.神原達也, 中井宏治, 羽原弘造, 道浦 拓, 佐藤睦哉, 井上健太郎, 山道啓吾, 中根恭司 (2006) 残胃の癌の臨床病理学的検討. 第78回日本胃癌学会総会, 大阪
- 222.中井宏治, 小松優治, 神原達也, 金 成泰, 道浦 拓, 井上健太郎, 山道啓吾, 中根恭司 (2006) 胃癌術後症例に対する, 上部消化管内

視鏡検査 follow up の検討. 第78回日本胃癌学会総会, 大阪

- 223.道浦 拓, 神原達也, 中井宏治, 井上健太郎, 山道啓吾, 中根恭司 (2006) RI 胃排出機能検査をもちいたPPGの評価. 第78回日本胃癌学会総会, 大阪
- 224.棚野晃秀, 浜田吉則, 片岡洋祐, 渡辺 淳, 山田久夫 (2006) 筋層間神経叢における神経ネットワークの構築—ラット胎児腸管における検討—. 第36回日本小児消化管機能研究会, 新潟
- 225.高田晃平, 棚野晃秀, 徳原克治, 浜田吉則, 野田幸弘, 中野崇秀, 河崎裕英, 金子一成 (2006) 肝間葉性過誤腫の1例. 第22回日本小児がん学会, 大阪
- 226.高尾奈那, 木村 穰, 秋山由佳, 中山英恵, 宮内拓史, 上田加奈子, 田嶋佐和子, 海堀昌樹, 上山泰男, 廣原淳子, 岩坂壽二 (2006) 脂肪肝を伴う肝臓移植ドナー運動療法の1例. 第24回臨床運動療法研究会, 大阪
- 227.笠井千尋, 森 友彦, 馬殿徹也, 古元克好, 元廣高之, 山中英治, 小切匡史 (2006) 小腸腫瘍の一例. 第549回大阪外科集談会, 大阪
- 228.岩田亮一, 小池保志, 中井宏治, 廣岡 智, 吉田秀行, 辻 勝成, 吉田 良, 北出浩章, 奥野雅史, 今村 敦, 川口雄才, 権 雅憲, 高田秀穂 (2006) 術前卵巣腫瘍と診断した腸間膜リンパ管腫の一例. 第554回大阪外科集談会, 大阪

著 書

1. 中根恭司 (2006) 1. 基礎的知識 B 術後発熱の診断. 新臨床外科学4 (監修: 武藤徹一郎, 幕内雅敏) 4, 114–116頁, 医学書院, 東京

胸部心臓血管外科学講座

〈研究概要〉

胸部心臓血管外科学講座は, 心臓血管外科と呼吸器外科の2つの診療科を有している. 心臓血管外科は循環器内科や小児科循環器グループとともに, 先天性心疾患, 虚血性心疾患, 弁膜症, 大動脈疾患等の疾患に対し, 内科と外科が一体となって研究活動を行っている. また, 呼吸器外科は, 肺癌, 転移性肺腫瘍, 悪性縦隔腫瘍など悪性胸部疾患の外科治療を行い, 第一内科呼吸器グループ, 放射線科治療部門,

病態検査科病理部門と研究グループを作り協力して臨床研究活動を行っている。また、神経内科との協力ののもとに重症筋無力症の外科治療も担当し難病の治療成績向上に努めている。

心臓血管外科部門では、手術件数約200例である。小児科循環器グループとも密接な関係を保ち、術前より互いに協力して治療を行っており、成績向上のため、きめ細かい術前術後管理に努めている。虚血性心疾患では、動脈グラフトを用いた完全血行再建を基本とし、長年の心筋保護法の研究成果が実り、安全に手術が行えるようになってきている。また、循環器内科での基礎的研究の臨床への応用として、骨髄幹細胞移植による血管再生治療を臨床に試みている。弁膜症の治療方針は、自己弁温存をはかる弁形成、弁輪形成術を第一選択とし、不可能な例に人工弁置換術を行う方針である。経食道エコーの術中導入により適切な弁機能の判定が可能となった。大血管疾患は、破裂性大動脈瘤や急性大動脈解離が含まれ、脳合併症や多臓器不全、感染による死亡例も多いが、大動脈弓部3分枝置換も超低体温循環停止法と選択的脳灌流法の併用により、安全な手術が可能になった。また、大動脈遮断に伴う脊髄麻痺予防の問題も極めて重要であり、その予防法の研究をすすめている。

呼吸器外科は、年間約170例の手術症例があり、その多くは原発性肺癌、悪性縦隔腫瘍、転移性腫瘍である。肺癌は、地域医師会と協力し市民検診を積極的に行っており早期発見例が増加しており、治療成績は向上し、その成績を逐次公表している。これら早期肺癌の外科手術にあたっては胸腔鏡を補助とした低侵襲手術を行うことを原則としている。しかし、依然減少しない進行肺癌などに対しては呼吸器内科、放射線科と協力し集学的治療を積極的に行い予後の改善に努めている。自然気胸も数多い疾患であり、若年者が多い本疾患には胸腔鏡手術を多用している。また転移性肺腫瘍も近年症例が増加しその治療戦略は年々変化し予後の改善がみられてきた。また、以前から当院で積極的な集学的治療を行っている非精上皮腫胚細胞性腫瘍などの悪性縦隔腫瘍も良好な手術成績の向上をみている。

平成18年度も、心臓血管外科、呼吸器外科ともに、これらの臨床経験に基づいた研究発表が行いえた。実験的研究では、平成17年度日本学術振興会科学研究費、再生医学難病治療センター、癌治療センターの補助により、1) 組織培養装置の導入により、分子生物学的側面からの研究に基づいた心筋保護に関する臨床的、基礎的研究(心筋細胞特異的心筋保護法に関する研究、統合的薬理学 Preconditioning に関する研究)、2) 心、肺移植に関する基礎的研究、3) 肺癌に関する細胞免疫学的研究、4) 生体吸収性気管支ステントの開発とその臨床応用、5) 虚血性心疾患に対する骨髄幹細胞移植による再生医療の研究などを行っている。

また、大阪工業大学生体システム研究室とともに共同研究も進めている。

〈研究業績〉

原 著

1. Kaneda H, Waddell TK, de Perrot M, Bai XH, Gutierrez C, Arenovich T, Chaparro C, Liu M and Keshavjee S. (2006) Pre-implantation multiple cytokine mRNA expression analysis of donor lung grafts predicts survival after lung transplantation in humans. *Am J Transplant* 6: 544-551
2. Kyo S, Otani H, Matsuhisa S, Akita Y, Enoki C, Tatsumi K, Hattori R, Imamura H, Kamihata H and Iwasaka T. (2006) Role of oxidative/nitrosative stress in the tolerance to ischemia/reperfusion injury in cardiomyopathic hamster heart. *Antioxid Redox Signal* 8: 1351-1361
3. Kyo S, Otani H, Hamano A, Matsuhisa S, Akita Y, Fujiwara H, Hattori R, Imamura H, Kamihata H and Iwasaka T (2006) Dystrophin is a possible end-target of ischemic preconditioning against cardiomyocyte oncosis during the early phase of reperfusion. *Cardiovasc Res* 70: 354-363
4. Fujii H, Kaneda H and Fujiwara HI (2006) Administration of sivelestat after acute aortic dissection surgery. *Chirurgia* 19: 337-340
5. Fujii H, Hirakawa A, Kitazawa Y, Yamamoto T and Nakatani T (2006) A study of axillary artery cannulation in Stanford type A acute aortic dissection compared with femoral artery cannulation. *Chirurgia* 19: 333-336
6. Fujii H, Tanaka T, Yamamoto T, Takeyama N, Hirakawa A and Kajimoto S (2006) Thoracic aor-

- tic emergencies in octogenarians. *Chirurgia* 19: 161–163
7. Otani H, Matsuhisa S, Akita Y, Kyoï S, Enoki C, Tatsumi K, Fujiwara H, Hattori R, Imamura H and Iwasaka T. (2006) Role of mechanical stress in the form of cardiomyocyte death during the early phase of reperfusion. *Circ J* 70: 1344–1355
 8. Maniwa T, Saito Y, Kaneda H and Imamura H (2006) Bronchial stump reinforcement with the intercostal muscle flap without adverse effects. *Eur J Cardiothorac Surg* 30: 652–656
 9. Maniwa T, Saito Y, Kaneda H, Imamura H, Murao K and Shingu K (2006) Pneumothorax after pneumonectomy: Surgery with successful double lobe ventilation. *Jpn J Thorac Cardiovasc Surg* 54: 359–361
 10. International Society of Heart and Lung Transplantation Registry, Sato M, Gutierrez C, Kaneda H, Liu M, Waddell TK and Keshavjee S. (2006) The effect of gender combinations on outcome in human lung transplantation: the International Society of Heart and Lung Transplantation Registry experience. *J Heart Lung Transplant* 25: 634–637
 11. Andrade CF, Kaneda H, Der S, Tsang M, Lodyga M, Chimisso Dos Santos C, Keshavjee S and Liu M. (2006) Toll-like receptor and cytokine gene expression in the early phase of human lung transplantation. *J Heart Lung Transplant* 25: 1317–1323
 12. Das S, Otani H, Maulik N and Das DK (2006) Redox regulation of angiotensin II preconditioning of the myocardium requires MAP kinase signaling. *J Mol Cell Cardiol* 41: 248–255
 13. Fujii H, Kitazawa Y, Saito F, Tsuda M, Yabuki T and Kajimoto S (2006) Return to home early days after acute aortic dissection surgery. *Minerva Chir* 61: 509–514
 14. 藤井弘史, 北澤康秀, 金田浩由紀, 山本 透, 富野敦稔, 岸本真房, 鈴木聡史, 梅井菜央, 安藤有子, 村山里香 (2006) 救命センターに搬送された下肢閉塞性動脈硬化症急性増悪例の治療成績 下肢動脈塞栓症との比較. *日臨救急医学会誌* 9: 438–443
- 症例報告
1. Maniwa T, Saito Y and Kaneda H (2006) Intercostal muscle flap without increase of pain and blood loss after lung surgery. *J Thorac Cardiovasc Surg* 131: 1422–1423
 2. 藤井弘史, 中尾佳永, 徳田貴則, 岡田隆之, 北澤康秀 (2006) 直腸との瘻孔形成が疑われた孤立性感染性内腸骨動脈瘤の1手術治験例. *日血管外会誌* 15: 39–42
 3. 三木重樹, 田中孝也, 山本 透, 藤井弘史, 北澤康秀, 中谷壽男 (2006) 急速に出現・拡大した感染性嚢状腹部大動脈瘤の1例. *日臨救急医学会誌* 9: 33–37
- 学会発表
1. 服部玲治 (2006) National Heart Institute in Malaysia. Complex Catheter Therapeutics 2006, Kuala Lumpur
 2. Akita Y, Otani H, Matsuhisa S, Kyoï S, Enoki C, Imamura H, Kamihata H, Kimura Y and Iwasaka T (2006) Regular Exercise Promotes Chronic Ischemic Tolerance via Activation of Cardiac Sympathetic Nerve, Oxidative Stress and Upregulation of iNOS. 70th Anniversary Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Nagoya
 3. Kyoï S, Ohtani H, Matsuhisa S, Akita Y, Enoki C, Imamura H, Kamihata H and Iwasaka T (2006) Phosphorylation of Dystrophin is a Molecular Link between Mitochondrial Protection and Prevention of Oncosis Mediated by Ischemic Preconditioning. 70th Anniversary Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Nagoya
 4. Matsuhisa S, Ohtani H, Akita Y, Kyoï S, Enoki C, Imamura H, Kamihata H, Kimura Y and Iwasaka T (2006) Angiotensin II Type-1 Receptor Blocker Preserves Ischemic Tolerance in Hypertensive Rat Heart by Converting Cardioprotective Effect from iNOS- to eNOS-dependent Mechanism. 70th Anniversary Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Nagoya
 5. Ohtani H, Manabe K, Matsuhisa S, Akita Y, Kyoï

- S, Enoki C, Fujiwara H, Imamura H and Iwasaka T (2006) Activation of Mitochondrial KATP Channels and Inhibition of Glycogen Synthase Kinase-3 β Independently Contribute to Cardio-protection Mediated by Ischemic Preconditioning. 70th Anniversary Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Nagoya
6. Ohtani H, Matsuhisa S, Akita Y, Kyoi S, Enoki C, Tatsumi K, Imamura H and Iwasaka T (2006) Aged Heart is Tolerant to Ischemia/Reperfusion Injury by Exposure to Oxidative-Nitrosative Stress and Resistant to Ischemic Preconditioning. 70th Anniversary Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Nagoya
 7. Ohtani H, Matsuhisa S, Akita Y, Kyoi S, Enoki C, Tatsumi K, Imamura H and Iwasaka T (2006) Is Myocardial Hibernation a Self-defense Mechanism Against Contractile Force-induced Oncosis in Energy-depleted Myocyte? 70th Anniversary Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Nagoya
 8. Ohtani H, Okada T, Enoki C, Wu Y, Tatsumi K, Matsuhisa S, Akita Y, Kyoi S, Iwasaka T and Imamura H (2006) Role of Phosphatidylinositol 3-kinase-mTOR Cascade in Self-renewal and Myogenic Differentiation of Bone Marrow-derived Mesenchymal Stem Cells. 70th Anniversary Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Nagoya
 9. Enoki C, Otani H, Wu Y, Matsuhisa S, Akita Y, Kyoi S, Tatsumi K, Okada T, Hattori R and Imamura H (2006) IGF-1 Increases Engraftment of Transplanted Mesenchymal Stem Cells and Improves Cardiac Function without Differentiation in Rats with Myocardial Infarction. 70th Anniversary Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Nagoya
 10. 金田浩由紀, 齊藤幸人, 馬庭知弘, 南健一郎, 今村洋二 (2006) FDG-PET陰性はpathological CRとしてよいか? 最近の症例検討から. 第47回日本肺癌学会, 京都
 11. 金田浩由紀, 齊藤幸人, 馬庭知弘, 南健一郎, 今村洋二 (2006) UFTにて病勢コントロール可能であった術後再発肺癌2症例の検討. 第47回日本肺癌学会, 京都
 12. 馬庭知弘, 齊藤幸人, 金田浩由紀, 南健一郎, 今村洋二 (2006) 肺全摘除術後対側気胸の2治験例. 第47回日本肺癌学会, 京都
 13. 玉置岳史, 上平和孝, 金田浩由紀, 齊藤幸人, 中村 宏, 平本久子, 馬庭知弘, 矢木泰弘, 米津精文, 福原資郎, (2006) 化学療法が奏効し, 外科的切除を行った縦隔原発胚細胞性腫瘍の一例. 第47回日本肺癌学会総会, 京都
 14. 藤井弘史, 北澤康秀, 山本 透, 富野敦稔, 岸本真房, 鈴木聡史, 藤原弘佳, 梶本心太郎, 平川昭彦, 村尾佳則, 中谷寿男 (2006) 急性大動脈解離術後のシベレスタットナトリウム投与の有効性. 第34回日本救急医学会総会, 福岡
 15. 榎木千春, 佐藤大祐, 服部玲治, 今村洋二 (2006) 虚血性心筋症に対する骨髄間葉系幹細胞移植の検討ー冠動脈内注入と心筋内注入法. 第10回心筋・血管新生療法研究会, 福岡
 16. 寺口正之, 吉村 健, 池本裕実子, 野木俊二, 金子一成, 角田智彦, 服部玲治, 今村洋二 (2006) 急性肺水腫で発症した僧帽弁腱索断裂による僧帽弁逆流の1例. 第42回日本小児循環器学会総会, 名古屋
 17. 馬庭知弘, 齊藤幸人, 金田浩由紀, 南健一郎, 今村洋二 (2006) 左肺全摘術後右気胸を中下葉の選択的換気下で手術した一例. 第29回日本呼吸器内視鏡学会, つくば
 18. 中尾佳永, 服部玲治, 角田智彦, 榎木千春, 岡田隆之, 藤井弘史, 今村洋二 (2006) 弓部分岐した病変を伴う異型大動脈縮窄症に対して外科手術を行った大動脈炎症候群の1例. 第49回関西胸部外科学会, 浜松
 19. 藤井弘史 (2006) 救命センターに搬送されたASO緊急症例. 第5回東京ASOフォーラム, 東京
 20. 宮崎浩彰, 北村 臣, 里井壯平, 馬庭知弘, 湯浅文雄 (2006) 当院における電子クリティカルパスの導入. 第8回日本医療マネジメント学会学術総会, 横浜
 21. 金田浩由紀, 齊藤幸人, 馬庭知弘, 南健一郎, 迫田亜理紗, 吉川みどり, 窪内久恵, 今村洋二 (2006) 肺葉切除術後4時間目歩行から開始する早期リハビリテーション. 第23回日本呼吸器外科学会, 東京
 22. 齊藤幸人, 長谷川剛, 奥村明之進, 野守裕明,

- 斎藤泰紀 (2006) 安全教育を考慮して. 第23回日本呼吸器外科学会, 東京
23. 金田浩由紀, 齊藤幸人, 馬庭知弘, 南健一郎, 今村洋二, 日下博文 (2006) 重症筋無力症に対する拡大胸腺摘除術 術前ステロイドコントロール後の成績に関して. 第23回日本呼吸器外科学会総会, 東京
 24. 馬庭知弘, 齊藤幸人, 金田浩由紀, 南健一郎, 今村洋二 (2006) 下葉・中下葉切除術例における肋間筋弁気管支断端被覆. 第23回日本呼吸器外科学会総会, 東京
 25. 榎木千春, 大谷肇, 服部玲治, 今村洋二 (2006) Insulin-like-growth factor-1 は心筋内に移植した骨髄間葉系幹細胞の生着を促進し, 心筋梗塞後の心機能を改善する. 第5回再生心臓血管外科治療研究会, 盛岡
 26. 吉川みどり, 迫田亜里沙, 大田政代, 窪内久恵, 金田浩由紀 (2006) 肺葉切除術後4時間後歩行における有効性と安全性の比較. 第33回日本集中治療医学会, 大阪
 27. 榎木千春, 大谷 肇, 吳 越, 辰巳貴美子, 服部玲治, 今村洋二 (2006) IGF-1 increases engraftment of transplanted mesenchymal stem cells and improves cardiac function without differentiation in rats with myocardial infarction. 第5回日本再生医療学会, 盛岡

脳神経外科学講座

〈研究概要〉

脳腫瘍では悪性グリオーマに対する集学的治療を行い, 手術材料は全例に電頭, 組織培養を試みている. 株化細胞を基礎にして, フローサイトメトリー (FACS can購入), レーザースキャニングサイトメーターによるDNA histogramの解析, サイクリンによるcell kinetics, 無菌の細胞分取, 更に分子生物学的手法による解析などを行っている. また, 透過型, 走査型電頭による形態学的観察も行っている. 最近では, 脳腫瘍の遺伝子治療の基礎実験を行っている. 脳血管障害では臨床的に血管内手術とを組み合わせた最先端の治療を行っている. 小児脳外科では先天性奇形の実験的作成や, 水頭症の発生機序について研究をしている. 脳死研究では, 平坦脳波の自動解析を法医学・救急科・精神科と合同で研究を行っている. 頭蓋底外科では, 耳鼻科・形成外科とのチームにより困難な手術例に対する種々のアプローチを研究している.

虚血脳や脊髄損傷における骨髄移植による神経再生の基礎実験を臨床応用に向けて研究中である.

〈研究業績〉

原 著

1. Koizume S, Jin MS, Miyagi E, Hirahara F, Nakamura Y, Piao JH, Asai A, Yoshida A, Tsuchiya E, Ruf W and Miyagi Y (2006) Activation of cancer cell migration and invasion by ectopic synthesis of coagulation factor VII. *Cancer Res* 66: 9453–9460
2. Oishi T, Kasai H, Sakurai Y and Kawamoto K (2006) Extramedullary plasmacytoma extensively affecting the sella turcica and paranasal sinuses. *Clin Neuropathol* 25: 44–47
3. Li Q, Hosaka N, Cui W, Wang X, Cui Y, Cui Y, Song C, Li Q, Ryu T, Fan T, Kawamoto K and Ikehara S (2006) Lin-CD34- bone marrow cells from adult mice can differentiate into neural-like cells. *Neurosci Lett* 408: 51–56
4. 森 薫, 西村俊博, 山本明生, 亀田尚美, 片上和敏, 西村茂樹, 今堀 巧, 大沼香織, 谷川 昇, 澤田 敏 (2006) 血管計測におけるロードマップ機能を利用したキャリブレーション. *Konica Minolta Med Network* 57: 510–513
5. 大重英行, 笠井治文, 龍 堯志, 我妻敬一, 李強, 山原崇弘, 沼 義博, 河本圭司 (2006) 免疫組織学的, 及びフローサイトメトリーによる再発髄膜腫の増殖能に関する研究. *Neuro-Oncol* 15: 39–46
6. 沖井 裕, 河本圭司, 赤根 敦, 岩瀬正顕, 大石哲也 (2006) 脳死判定における脳波解析用

ソフトウェア (ATAMAP II for Windows) の簡便な実用化. *Neurosurg Emerg* 11: 181-185

7. 沖井 裕, 河本圭司, 赤根 敦, 岩瀬正顕, 吉岡正太郎, 大石哲也, 中谷壽男 (2006) 32 例の平坦脳波の自動解析. *Neurosurg Emerg* 11: 70-74

総 説

1. 稲垣隆介, 久徳茂雄, 瀬野敏孝, 川口琢也, 大重英行, 山内康雄, 河本圭司 (2006) 頭蓋縫合早期癒合症の基本的概念と治療. *脳神外ジャーナル* 15: 105-113

症例報告

1. 山原崇弘, 笠井治文, 我妻敬一, 龍 堯志, 李 強, 大重英行, 山内康雄, 河本圭司 (2006) 頭蓋骨の石灰化腫瘍の1例. *Neuro-Oncol 進歩* 15: 57-58
2. 我妻敬一, 稲垣隆介, 龍 堯志, 大重英行, 山原崇弘, 李 強, 山内康雄, 河本圭司, 植村芳子, 坂井田紀子 (2006) 乳児脊髄腫瘍の一例. *Neuro-Oncol 進歩* 15: 56-57
3. 我妻敬一, 稲垣隆介, 龍 堯志, 李 強, 大重英行, 山原崇弘, 山内康雄, 河本圭司 (2006) 小児小脳腫瘍の一例. *Neuro-Oncol 進歩* 15: 51-52
4. 大重英行, 笠井治文, 我妻敬一, 李 強, 龍 堯志, 稲垣隆介, 山内康雄, 河本圭司 (2006) 高齢者にみられた悪性グリオーマの一例. *Neuro-Oncol 進歩* 15: 49-50

学会発表

1. Inagaki T, Kyutoku S, Kawaguchi T, Uesaka T, Ryu T, Yamahara T, Seno T, Oishi T, Yamano-uchi Y and Kawamoto K (2006) If there is an indication of intervention for mild form of craniosynostosis. Consensus Conference on Craniosynostosis, Rome
2. Inagaki T, Kyutoku S, Kawaguchi T, Uesaka T, Ryu T, Yamahara T, Seno T, Oishi T, Yamano-uchi Y and Kawamoto K (2006) The management of craniosynostosis using distractors: the benefit and limitation. Consensus Conference on Craniosynostosis, Rome

3. Ohshige H, Ryu T, Azuma K, Li Q, Yamahara T, Numa Y and Kawamoto K (2006) Immunohisto-logical and flow cytometric studies on proliferat-ing activities in recurrent meningioma. 5th Interntaional Congress on Meningiomas and Cerebral Venous System, Fuji
4. Kyutoku S, Seno T, Inagaki T, Yamanouchi Y and Kuro A (2006) Efficacy of ICP Monitoring for Mild Craniosynostosis. 6th APCA Conference, Singapore
5. Kawamoto K (2006) Clinical pathology of skull base tumor. 3rd Chinese Neurooncology, 天津
6. Inagaki T, Kyutoku S and Kawamoto K (2006) The management of mild craniosynostosis based on the intracranial pressure. 34rd Annual Meet-ing of the International Society for Pediatric Neurosurgery, Taipei
7. Oi S, Nomura S, Nagasaka M, Arai H, Shirane R, Yamanouchi Y, Nishimoto H and Date H (2006) Natural history of and surgical indication for asymptomatic spinal lipoma: COE-Top 7 Japan Prospective Cooperative Study I. 34rd Annual Meeting of the International Society for Pediatric Neurosurgery, Taipei
8. Fujioka M, Nishio K, Ueda S, Kubo A, Kangawa K, Kitamura K, Takagi Y, Mishima K, Mori T, Asano T, Sasaki T, Asai A, Kawamoto K, Otani N, Yonekawa Y and Siesjo B-K (2006) Apotent vasorelaxant peptide increases in the ischemic brain after aneurysmal subarachnoid hemor-rhage: possible involvement of reactive astro-cytes. 3rd European Japanese Joint Conference for Stroke Surgery, Zurich
9. Fujioka M, Taoka T, Matsuo Y, Mishima K, ogoshi K, Kondo Y, Tsuda M, Fujiwara M, Asano T, Sakaki T, Miyasaki A, Darren P, Asai A, Kawamoto K, Otani N, Yonekawa Y and Siesjo B-K (2006) Late cognitive decline due to slowly-progressive Ischemic neurodegeneration associ-ated with longlasting inflammatory and oxida-tivve stress. 3rd European Japanese Joint Con-ference for Stroke Surgery, Zurich
10. Qiang Li, Ryu T, Ikehara S and Kawamoto K (2006) Hematopoietic stem cells can differenti-

- ate into neural-like cells. 第24回日本ヒト細胞学会大会, 東京
11. Shiguang Zhao, Jian Zhang, Yaohua Liu, Yubin Zhang and Kawamoto K (2006) Effects of As2O3 on genes related cell cycle regulation of human glioma. 第24回日本脳腫瘍病理学会, 沖縄
 12. Kawamoto K, Oshige H, Kasai H, Ryu T, Azuma K, Qiang Li, Yamahara T and Numa Y (2006) Flow cytometric and immunohistological studies on proliferating activities in recurrent meningioma. ISAC XXIII International Congress, Quebec
 13. 沼 義博, 山原崇弘, 瀬野敏孝, 山内康雄, 浅井昭雄, 河本圭司 (2006) 前頭蓋底腫瘍に対するBIHアプローチの応用. 第11回日本脳腫瘍の外科学会, 大阪
 14. 河本圭司, 山原崇弘, 大重英行, 龍 堯志, 沼義博, 山内康雄, 浅井昭雄 (2006) Glioblastomaにおける術中迅速病理診断による腫瘍摘出評価. 第11回日本脳腫瘍の外科学会, 大阪
 15. 大石哲也, 沼 義博, 辻 雅之, 我妻敬一, 栗本匡久, 河本圭司 (2006) 脳神経外科救急疾患に合併したALI/ALDSに対するシベレスタトナトリウムの使用経験. 第11回日本脳神経外科救急学会, 大阪
 16. 浅井昭雄 (2006) 一過性脳虚血による遅発性神経細胞死. 奈良脳神経ネットワーク, 奈良
 17. 藤岡政行, 西尾健治, 植田史朗, 前田裕仁, 久保篤史, 南野直人, 寒川賢治, 北村和雄, 柳寿右, 河本圭司, 浅井昭雄, 奥地一夫, 三島健一, Bo K. Siesjo (2006) くも膜下出血後の遅発性脳虚血における反応性アストロサイトと中枢性アドレノメジュリン. 第18回日本脳循環代謝学会, 東京
 18. 野田幸弘, 中野崇秀, 金子一成, 稲垣隆介 (2006) 集学的治療を行い寛解を維持しているAT/RTの一例. 第22回日本小児がん学会, 大阪
 19. 久徳茂雄, 瀬野敏孝, 稲垣隆介, 山内康雄, 富野祐里, 井上唯史, 河本圭司 (2006) 頭蓋縫合早期癒合軽症例における頭蓋内圧測定の意義. 第23回日本頭蓋顎顔面外科学会, 長崎
 20. 河本圭司 (2006) 頭蓋底骨腫瘍の臨床と病理. 第52回関東脳神経外科懇話会, 東京
 21. 岩瀬正顕, 藤井弘史, 前田裕仁, 吉岡正太郎, 平川昭彦, 中谷壽男, 河本圭司 (2006) 急性大動脈解離にともなう脳血管障害. 第34日本救急医学会, 福岡
 22. 稲垣隆介 (2006) 水頭症治療: 短絡管設置と神経内視鏡治療? 現状と今後の展望. 第65回社団法人日本脳神経外科学会総会, 京都
 23. 岩瀬正顕, 前田裕仁, 吉岡正太郎, 中谷壽男, 河本圭司 (2006) 軸椎間接突起骨折の治療. 第65回日本脳神経外科学会総会, 京都
 24. 沼 義博, 山原崇弘, 瀬野敏孝, 山内康雄, 浅井昭雄, 河本圭司 (2006) 小脳血管芽腫の手術. 第65回日本脳神経外科学会総会, 京都
 25. 李 強, 龍 堯志, 池 原進, 河本圭司 (2006) 成体骨髄由来造血幹細胞の神経系細胞へ分化誘導の研究. 第65回日本脳神経外科学会総会, 京都
 26. 龍 堯志, 吉村晋一, 我妻敬一, 李 強, 保坂直樹, 久米利明, 赤池昭紀, 池原 進, 河本圭司 (2006) 急性期脊髄損傷に対する新しい神経保護薬の治療—ラットモデルを用いて—, 第65回日本脳神経外科学会総会, 京都
 27. 稲垣隆介, 山内康雄, 河本圭司 (2006) 神経内視鏡手術: 適応に問題のあった症例 神経内視鏡手術に加えて髄液短絡管手術を必要とした鞍上部くも膜嚢胞の症例. 第22回新都市神経内視鏡フォーラム, 東京
 28. 河本圭司, 山原崇弘, 大重英行, 我妻敬一, 龍堯志, 李 強, 沼 義博 (2006) サイトメトリーによる脳腫瘍の蔵書奥と悪性度の評価. 第38回日本臨床分子形態学会, 宇部
 29. 山原崇弘, 沼 義博, 我妻敬一, 大重英行, 李強, 河本圭司 (2006) 再発astrocytomaの臨床病理学的研究. 第38回日本臨床分子形態学会, 宇部
 30. 河本圭司, 山原崇弘, 大重英行, 我妻敬一, 龍堯志, 李 強, 沼義博 (2006) サイトメトリーによる脳腫瘍の増殖と悪性度の評価. 第38回日本臨床分子形態学会総会, 宇部
 31. 山原崇弘, 山内康雄, 塚崎裕司, 瀬野敏孝, 沼義博, 浅井昭雄, 河本圭司 (2006) 出血を来した円蓋部髄膜腫の一例. 第64回近畿脳腫瘍研究会, 千里
 32. 瀬野敏孝, 沼 義博, 稲垣隆介, 山原崇弘, 山内康雄, 浅井昭雄, 河本圭司 (2006) 乳児の頭皮下Hemangiopericytomaの一例. 第64回近

畿脳腫瘍研究会, 千里

33. 李 強, 龍 堯志, 池原 進, 河本圭司 (2006) 成体骨髄由来増結幹細胞の神経系細胞へ分化誘導の研究. 第7回日本分子脳神経外科学会, 東京
34. 河本圭司 (2006) ISACの歴史. 第16回サイトメトリー学会, 長崎
35. 李 強, 我妻敬一, 龍 堯志, 大重英行, 仙波都志香, 沼 義博, 河本圭司 (2006) フローサイトメトリーによるグリオーマの悪性度評価の基礎実験. 第16回日本サイトメトリー学会, 長崎
36. 稲垣隆介, 久徳茂雄, 河本圭司 (2006) 小児脳外科領域 (特に頭蓋縫合早期癒合症) に対する頭蓋底外科手術について. 第18回日本頭蓋底外科学会, 名古屋
37. 久徳茂雄, 辻 裕之, 川上勝弘, 沼 義博, 河本圭司 (2006) 前頭蓋底眼窩再建の治療方針について. 第18回日本頭蓋底外科学会, 名古屋
38. 山原崇弘, 笠井治文, 大石哲也, 吉村晋一, 稲垣隆介, 山内康雄, 浅井昭雄, 河本圭司 (2006) 頭蓋骨伸展を認めた頭蓋底 chondroid chordoma の一例. 第18回日本頭蓋底外科学会, 名古屋
39. 河本圭司, 山原崇弘, 大重英行, 我妻敬一, 龍 堯志, 李 強, 沼義博 (2006) サイトメトリーによる脳腫瘍の増殖と悪性度の評価. 第24回日本ヒト細胞学会大会, 東京
40. 久徳茂雄, 瀬野敏孝, 稲垣隆介, 山内康雄 (2006) Craniosynostosis 軽症例における頭蓋内圧測定の意義. 第2回 Craniosynostosis 研究会, 東京
41. 稲垣隆介, 川口琢也, 山内康雄, 河本圭司 (2006) 稀な症例: 手術治療を必要とした出血後, 傍脳室嚢胞の一例. 第14回臨床小児脳神経外科懇話会, 東京
42. 河本圭司 (2006) 芸術における頭蓋骨. 第24回日本脳腫瘍病理学会, 沖縄
43. 河本圭司, 山原崇弘, 我妻敬一, 大重英行, 龍 堯志, 笠井治文, 沼 義博, 山内康雄, 坂井田紀子, 植村芳子 (2006) Glioblastoma における術中迅速病理診断による腫瘍細胞浸潤の検討. 第24回日本脳腫瘍病理学会, 沖縄
44. 李 強, 我妻敬一, 大重英行, 山原崇弘, 龍 堯志, 笠井治文, 河本圭司 (2006) 巨細胞性脳腫瘍の巨細胞についての形態学的・免疫組織学的検討. 第24回日本脳腫瘍病理学会, 沖縄
45. 河本圭司 (2006) サイトメトリーを用いた脳腫瘍の悪性度の評価. 第26回日本脳神経外科コンgres, 東京
46. 川上勝弘, 神崎清一郎, 吉村晋一, 中村晶彦, 山本光男, 沼 義博 (2006) 蝶形洞内視鏡手術, 視神経の観察. 第51回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会, 千里
47. 辻 雅之, 沼 義博, 清水俊樹, 大石哲也, 栗本匡久, 河本圭司 (2006) 真の破裂後交通動脈瘤の5例. 第51回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会, 千里
48. 大石哲也, 沼 義博, 栗本匡久, 河本圭司 (2006) 卒中様症状で発症した脳腫瘍の2症例. 第63回近畿脳腫瘍研究会, 千里
49. 吉村 健, 寺口正之, 荒木 敦, 原田佳明, 稲垣隆介, 金子一成 (2006) 完全房室ブロック (CAVB) に脳硬塞を合併した急性心筋炎の1例. 第19回近畿小児科学会, 大阪
50. 岩瀬正顕, 藤井弘史, 平川昭彦, 中谷壽男, 河本圭司 (2006) 急性大動脈疾患にともなう脳血管障害. 第31回日本脳卒中学会総会, 横浜
51. 沼 義博, 川上勝弘, 大石哲也, 吉村晋一, 山内康雄, 河本圭司 (2006) 前頭蓋底腫瘍, 及びトルコ鞍近傍腫瘍に対する頭蓋底手術. 第16回日本間脳下垂体腫瘍学会, 神戸
52. 沖井 裕, 河本圭司, 赤根 敦, 岩瀬正顕, 大石哲也 (2006) 脳死・臓器移植における現実脳死判定における脳波解析用ソフトウェア (ATAMAP II for Windows) の簡便な実用化. 第11回日本脳神経外科救急学会, 大阪
53. 岩瀬正顕, 吉岡正太郎, 平川昭彦, 中谷壽男, 河本圭司 (2006) 重症頭部外傷患者に対する集学的治療と栄養管理. 第11回日本脳神経外科救急学会, 大阪
54. 大重英行, 稲垣隆介, 山原崇弘, 瀬野敏孝, 塚崎裕司, 笠井治文, 山内康雄, 河本圭司 (2006) 眼窩内血管性病変と頭蓋内血管奇形合併の検討. 第29回日本脳神経CI学会, 東京
55. 大石哲也, 笠井治文, 沼 義博, 吉村晋一, 稲垣隆介, 山内康雄, 河本圭司 (2006) 頭蓋骨に発生した稀な血管内皮腫の一例. 第29回日

本脳神経CI学会, 東京

56. 岩瀬正顕, 斉藤福樹, 前田裕仁, 平川昭彦, 村尾佳則, 中谷壽男, 河本圭司 (2006) 非骨傷性脊髄損傷の現状と問題点. 第16回近畿外傷診療フォーラム, 橿原
57. 稲垣隆介, 川口琢也, 山内康雄, 河本圭司 (2006) 出血後傍側脳室嚢胞の一例: 手術時期決定の問題について. 第24回日本こども病院神経外科医会, 仙台
58. 浅井昭雄 (2006) 脳虚血による遅発性神経細胞死の分子機序. グランヴィア脳血管セミナー, 大阪
59. 藤岡政行 (2006) 脳卒中の治療. 福岡大学講演: 神経疾患セミナー, 福岡
60. 瀬野敏孝, 稲垣隆介, 笠井治文, 塚崎裕司, 大

重英行, 山内康雄, 河本圭司 (2006) 頭蓋骨原発悪性リンパ腫の一例. 第63回近畿脳腫瘍研究会, 千里

著書

1. 沼 義博, 河本圭司 (2006) 前頭蓋底腫瘍および近傍腫瘍に対する頭蓋底アプローチ. 脳腫瘍の外科 | 脳腫瘍手術の進歩と限界 | (田渕和雄編) 218-221頁, メディカ出版, 大阪
2. 河本圭司, 山原崇弘, 沼 義博, 龍 堯志, 大石哲也, 大重英行, 李強 (2006) 悪性グリオーマの手術範囲決定—形態と cell kinetics—. 脳腫瘍の外科—脳腫瘍手術の進歩と限界— (田渕和雄編) 26-31頁, メディカ出版, 大阪

整形外科科学講座

〈研究概要〉

〈基礎研究〉

1. 自己免疫疾患

我々はアロ全骨髄細胞移植を骨髄内に直接投与する「骨髄内骨髄移植法」により, 様々な難治性自己免疫疾患モデルマウスの治療を行ってきた. SKG/Jcl マウスはT細胞シグナル伝達分子の点突然変異を持つマウスであり, 滑膜炎や, 骨・軟骨破壊がみられる関節リウマチのモデルマウスである. 発症前のSKGマウスにアロ全骨髄細胞を骨髄内骨髄移植し, 自己免疫疾患のより効果的な治療方法について検討した. 生後2ヶ月齢の発症前のSKGマウスに, 5 Gy × 2回の放射線分割照射を行い, 翌日にB6マウスの全骨髄細胞を脛骨内に直接投与した. 未治療群では生後3ヶ月ごろより足関節の腫脹, 発赤が認められたが, 骨髄移植群では6ヶ月経過時においても関節炎症状は認められなかった. 6ヶ月経過時の骨髄移植群の骨髄内, 脾臓内, リンパ節内のリンパ球はドナー由来に置換され, すべての血球系の割合は正常マウスと同程度に回復していた. 骨髄移植群の骨を3週間培養し, 回収した接着細胞 (ストローマ細胞) もすべてドナー由来に置換されていた. MLRを行った結果, 骨髄移植群は自己であるB6およびSKGマウスにはトランスを示し, また, サードパーティであるC3Hマウスには正常な反応を示した. SKGマウスに対し, 正常な骨髄細胞を移植することにより, 免疫抑制剤などを用いずに治療が可能であった. 骨髄内骨髄移植はドナー由来の造血系幹細胞と間葉系幹細胞を同時に置換することが可能であり, その結果, 骨免疫系を正常に回復することが可能であると考えられた. 以上国内の学会に発表し, 海外論文に投稿中である.

2. 骨壊死疾患

ステロイドは様々な治療に必要な薬剤であるが, その合併症も多数報告されている. 合併症のうち大腿骨頭壊死は大きな問題であるが, 今回, ステロイド誘発家兔骨壊死に対する骨髄細胞移植を用いた新しい治療法を開発した.

①ステロイド投与前の骨髄細胞を採取し, methylprednisolone (MPSL: 20 mg/kg) を筋注により作成したステロイド誘発家兔骨壊死モデルの大腿骨に注入した. 結果, 大腿骨壊死発生率は約70%から0%へ減少していた. 骨髄移植群の大腿骨内の骨髄細胞は活性化しており, VEGF 染色陽性細胞や Tunnel 染色陽

性細胞は非骨髄移植群に比べ有意に低下していた。

骨髄細胞を直接骨髄内に投与することにより骨髄内局所の活性化、骨髄細胞の脂肪変性抑制、さらに髄内圧の抑制が得られた結果、骨壊死を抑制することが可能と考えられた。さらに血中止血・凝固系も改善しており、ステロイドに暴露されていない骨髄細胞が血管内皮細胞に作用した可能性も考えられた。骨髄内骨髄移植はあらたな治療方法になりうると考えられた。以上国内の学会に発表し、Rheumatologyにacceptされた。

②ステロイド投与後骨髄細胞は変性し、骨壊死となる可能性がある。今回ステロイド投与後の骨髄細胞を1週間in vitroで培養し、methylprednisolone (MPSL: 20 mg/kg) を筋注により作成したステロイド誘発家免骨壊死モデルの大腿骨に注入した。ステロイドを加えた骨髄細胞のBAP (骨型アルカリホスファターゼ) の活性化は1週間の培養によりほぼ正常値に回復していた。この回復した骨髄細胞をステロイド投与後家免に投与したところ実験①と同様の結果を得た。

ステロイド投与後においてもリフレッシュした骨髄細胞にすることにより骨壊死発症の治療が可能であった。

以上国内の学会に発表し、Modern Rheumatologyにacceptされた。

3. 脊椎疾患

変性椎間板に対する治療として、動物モデルで椎間板内への遺伝導入やサイトカイン治療が報告され、良好な結果を示している。しかし、長期的な安全性については不明な点が多い。自己椎間板髄核細胞や間葉系幹細胞を用いた椎間板細胞も報告が散見されるが効果が不十分である。従来方法である吸引法で採取した新鮮全骨髄細胞の使用は、末梢リンパ球や赤血球が混入するため、特に椎間板内への使用を考えると、自己免疫反応を引き起こす可能性もあり、その使用は困難であった。今回我々は、末梢血の混入を防ぐことが可能な灌流式骨髄細胞採取法により採取した新鮮全骨髄細胞と椎間板髄核細胞を共培養し、椎間板髄核細胞への影響を検討した。Fisher344/slc ラット雄を使用し、灌流法もしくは吸引法で採取した骨髄細胞と椎間板細胞を共培養した。新鮮全骨髄細胞は、培養された間葉系幹細胞に比べ、椎間板髄核細胞の細胞増殖能力と細胞外器質の合成能力を亢進させることが可能であった。また、椎間板細胞の増殖能力と細胞外器質の両方を活性化する因子の1つであるTGF- β の産生量が全骨髄細胞群で、有意に亢進していた。培養された間葉系幹細胞に比べ、新鮮全骨髄細胞を用いることにより椎間板髄核細胞の高い活性化が得られた。さらに灌流法より採取した骨髄細胞は、自己免疫反応を引き起こす末梢血の混入が減少するため、直接椎間板内への注入が可能であると考えられた。以上国内の学会に発表し、海外の論文に投稿中である。

4. 関節疾患

前十字靭帯 (ACL) 損傷は高頻度にかかる外傷の一つであるが、自然治癒能力に乏しく再建術が一般に行われている。ACL不全断裂モデルラットを用いて膝関節内骨髄移植を行い、ACL損傷に対する骨髄移植の有効性の確立と靭帯再生のメカニズムを解析し、将来外科的手術の補助的手段の一翼を担う方法を開発する。

Fischer ラットを用いてACL不全断裂モデルを作成。このラットに骨髄細胞、間葉系細胞を関節内に投与した。関節内投与後2週後にオートグラフ (SHIMADZU) による力学的評価と組織学的評価を行い、関節内サイトカインを測定した。ACL不全断裂モデルラットに対する膝関節内骨髄移植は有効であり、間葉系細胞移植に比して力学的強度は高かった。将来、骨髄細胞移植は外科的手術の簡便かつ安全な補助的手段となる可能性がある。以上国内の学会に発表した。

〈臨床研究〉

1. 手の外科

リウマチ手の変形や腱損傷、外傷による手の障害に対し外科的治療を行うと共に種々の手関節疾患に対し、手関節鏡等を用いその病態の解明を行っている。手だけでなく上肢全般に外傷等での手術の工夫や手指の短縮に対する仮骨延長を用いた手指の延長も行い良好な成績を得ている。また、腱移行や腱を用いた手の再建手術に対しハンドセラピストと密接に連携を保ち、術後早期よりの運動療法を行いこれらの臨床成績について報告した。

2. 電気生理診断学

電気生理学的手法を用いて、中枢・末梢神経を対象とした基礎的・臨床的研究を行ってきた。臨床面では術中脊髄モニタリングの臨床応用、脊髄症術中診断に使い、その成果を上げた。基礎的研究では、末梢神経有連続性損傷に対する端側吻合の原理を引用した bypass 移植術の有用性、末梢神経端側吻合後の再生軸索の起源をウサギ腓骨神経損傷モデルを用いて証明し、国内外の末梢神経関連学会、雑誌に発表した。

3. 関節疾患

関節炎、関節症に対して、人工関節置換術、主にその術後成績を検討し学会発表、論文投稿を行ってきた。特に人工股関節では新しいインプラントの開発を行い、広く市場で使用されるようになった。またセメントテクニックの指導、抗菌剤入りセメントの物性について研究、発表を行っている。膝関節においては、各種人工膝関節、単関節置換について症例を重ね学会発表を行っている。また、人工関節術後の緩みや感染に広範囲に骨欠損を認める場合、同種骨を併用し様々な角度からの再建を行っている。膝関節、股関節鏡視下手術も行い学会発表を行っている。

4. 脊椎外科

脊椎外科全般に関して、臨床的研究を行っている。主たる内容は、脊椎外科における低侵襲手術、頸髄症に対する後方支持組織温存術式の開発、頸椎椎間板ヘルニアに対する後方からの摘出術、術後C5麻痺の発生メカニズム、脊椎感染症の外科的治療、骨粗鬆症性の脊椎骨折後の遅発性神経障害の病態、胸腰椎に対する脊椎インスツルメンテーションの合併症、脊椎固定術後の隣接椎障害等であり、手術成績の向上に努めている。特に顕微鏡下の脊椎手術を積極的に行ない、侵襲の少ない術式の開発に取り組んでいる。研究面では、引き続き新しい腰椎前方固定術式のバイオメカニカルな検討を行なっている。

〈研究業績〉

原 著

1. Kohno Y, Okamoto T, Ishibe T, Nagayama S, Shima Y, Nishijo K, Shibata K R, Fukiage K, Otsuka S, Uejima D, Araki N, Naka N, Nakashima Y, Aoyama T, Nakayama T, Nakamura T and Toguchida J (2006) Expression of claudin7 is tightly associated with epithelial structures in synovial sarcomas and regulated by an Ets family transcription factor, ELF3. *J Biol Chem* 281: 38941-38950
2. Sasai K, Umeda M, Saito T, Ohnari H, Wakabayashi E and Iida H (2006) Microsurgical posterior foraminotomy with laminoplasty for cervical spondylotic radiculomyelopathy including cervical spondylotic amyotrophy. *J Neurosurg Spine* 5: 126-132
3. Takada K, Inaba M, Ichioka N, Ueda Y, Taira M, Baba S, Mizokami T, Wang X, Hisha H, Iida H and Ikehara S (2006) Treatment of senile osteoporosis in SAMP6 mice by intra-bone marrow injection of allogeneic bone marrow cells. *Stem Cells* 24: 399-405
4. Sasai K (2006) To the Editor. *Spine journal* 6(1): 103-104
5. Sasai K, Adachi T, Togano K, Wakabayashi E,

- Ohnari H and Iida H (2006) Two-level disc herniation in the cervical and thoracic spine presenting with spastic paresis in the lower extremities without clinical symptoms or signs in the upper extremities. *Spine J* 6: 464-467
6. Ohnari H, Sasai K, Akagi S, Iida H, Takanori S and Kato I (2006) Investigation of axial symptoms after cervical laminoplasty, using questionnaire survey. *Spine J* 6: 221-227
7. 小室 元, 飯田寛和 (2006) 【高齢者の転倒骨折予防】高齢者大腿骨頸部骨折における乳幼児モデルを使用した転倒動作の再現 新たなヒッププロテクターの開発. *Geriatr Med* 44: 207-210
8. 菅 俊光, 中野恭一 (2006) 【周術期呼吸リハビリテーション】術後の呼吸リハビリテーション. *MED REHABIL* (68):17-24
9. 和田孝彦, 飯田寛和 (2006) 【THAの脱臼と対策】制御型カップを用いた THA の治療経験. *関節外科* 25: 408-413
10. 福田 登, 今田直紀, 児島 新, 飯田寛和 (2006) 化膿性肩関節炎に対する上腕骨頭切除・抗生剤含有セメントを用いた治療経験. *肩関節* 30: 325-329
11. 中村誠也, 飯田寛和, 中谷健治, 中谷壽男 (2006) 本院救命センターにおけるcircular型創外固定器を用いた開放骨折治療について. *骨折* 28: 707-710
12. 黒井亜弥, 和田孝彦, 福田 登, 飯田寛和 (2006) C-arm CTガイド下に切除を行った類骨骨腫の1例. *整・災外* 49: 409-412
13. おおえ賢一, 池田 登, 上尾豊二 (2006) Charnley式人工股関節の長期成績 20年以上経過例の検討. *整・災外* 49: 151-157
14. 串田剛俊, 飯田寛和, 池原 進 (2006) 新しい医療技術 IBM-BMT(骨髄内骨髄移植)による難病治療. *整・災外* 49: 1321-1326
15. 飯田寛和 (2006) 【診断に難渋する骨・関節疾患】股関節における診断に難渋する疾患 強直性脊椎炎. *整・災外* 49: 1219-1223
16. 菅 俊光 (2006) 【初回と違うのはココ!再置換術の治療と看護 人工股関節の場合】再置換術後のリハビリテーション. *整外看* 11: 44-51
17. 飯田寛和 (2006) ナースのための整形外科手術アトラス 股関節編 変形性股関節症に対する人工股関節置換術 (前側方侵入/セメント固定). *整外看* 11: 113-117
18. 齋藤貴徳, 藤沢礼子, 市岡直也, 足立 崇 (2006) 経頭蓋電気刺激筋記録運動誘発電位による術中モニタリングにおける優位側・非優位側. *脊髄機能診断* 27: 112-115
19. 齋藤貴徳 (2006) 【しびれの臨床】しびれと疾患 上肢のしびれ 胸郭出口症候群. *総合臨* 55: 2237-2242
20. 赤木繁夫, 若林 英, 笹井邦彦, 飯田寛和 (2006) 感染性脊椎炎の治療経験. *中部整災誌* 49: 695-696
21. 中谷晃之, 濱田 彰, 和田孝彦, 岡村泰三, 大窪 博 (2006) 関節リウマチに対する生物学的製剤 (レミケード) の使用経験. *中部整災誌* 49: 79-80
22. 森裕之, 松岡成康, 橋谷 実, 玉置譲二 (2006) 骨折をきたした下腿骨骨Paget病の1例. *中部整災誌* 49: 1147-1148
23. 谷川暢之, 齊藤貴徳, 中村誠也, 飯田寛和 (2006) 【末梢神経障害の基礎と治療戦略】基礎的研究 神経移植 末梢神経バイパス移植術の有用性とその再生軸索の起源. *別冊整形外* (49): 63-68
24. 齋藤貴徳, 市岡直也, 小川浩司, 松矢浩暉, 足立 崇, 笹井邦彦, 飯田寛和 (2006) 【脊椎脊髄病学 最近の進歩 2006】脊髄症を呈した胸椎椎間板ヘルニアの手術療法 後方アプローチによる顕微鏡下椎間板摘出術. *臨整外* 41: 375-382
25. 笹井邦彦, 丸山東勲, 若林 英, 飯田寛和, 齋藤貴徳, 大成浩征, 赤木繁夫 (2006) 胸椎脊柱管内占拠性病変に対する顕微鏡下片側進入法. *臨整外* 41: 1149-1156
26. 和田孝彦, 宮島茂夫, 飯田寛和 (2006) 関節リウマチ患者のMMP-3とCARFの比較検討. *臨と研* 83: 309-313
- 症例報告
1. Takemura S, Sasai K, Ohnari H, Ichikawa N, Akagi S and Iida H (2006) Brown-Sequard-plus syndrome due to stab injury: A case report. *Spi-*

nal Cord 44: 518-521

学会発表

1. Komuro H (2006) Development of a new hip protector Reconstruction of falling movements resulting in hip fractures on the elderly by examining those in infants. The 1st International Summit Forum of Orthopaedics, Wuhan
2. 笹井邦彦, 梅田眞志, 若林 英, 丸山東勲, 飯田寛和, 齋藤貴徳 (2006) 頸椎症性脊髄神経根症 (頸椎症性筋萎縮症を含む) に対する椎弓形成術を併用した顕微鏡視下椎間孔拡大術. 第12回日本最小侵襲整形外科学会, 和歌山
3. 齋藤貴徳, 市岡直也, 小川浩司, 松矢浩暉, 足立 崇, 石原昌幸 (2006) X-tube を用いた腰椎の除圧・固定術. 第12回日本最小侵襲整形外科学会, 和歌山
4. Ueda Y, Inaba M, Miang L, Fukui J, Tsuda M, Sakaguchi Y, Kequan G, Omae M, Ando Y, Iida H and Ikehara S (2006) Th1/Th2 Induction of Senile Osteoporosis in Normal Mice by IBM-BMT from SAMP6. 第36回日本免疫学会総会・学術集会, 大阪
5. 飯田寛和 (2006) 人工股関節の優れた長期成績を目指して私がセメントTHAを選択する理由. 第112回西日本整形・災害外科学会, 米子
6. 宮島茂夫, 串田剛俊, 澤井宏和, 徳永裕彦, 赤木繁夫, 濱田 彰, 和田孝彦, 大野博史, 飯田寛和 (2006) RAに対する人工関節置換手術症例(TKA,THA)の経年的変化 薬物療法の進歩はどう影響したか. 第34回日本リウマチ関節外科学会, 新潟
7. 齋藤貴徳, 市岡直也, 小川浩司, 藤澤礼子, 松矢浩暉, 足立 崇 (2006) 整形外科疾患 (脊髄・末梢神経疾患など) への応用はどこまで進んだか 頸椎・胸椎部手術における脊髄上行路・下行路のモニター. 第36回日本臨床神経生理学会, 横浜
8. 石原昌幸, 齋藤貴徳, 市岡直也, 小川浩司, 松矢浩暉, 足立 崇 (2006) 成人に発症した肘内障の1例. 第412回整形外科集談会京阪神地方会, 大阪
9. 宮島茂夫 (2006) 「高齢者の健康管理」 快適生活の大敵!! 腰の痛み・ひざの痛み. 加多乃会 平成18年度講演会, 守口
10. 中村誠也 (2006) 診断・治療に苦慮する四肢外傷 一手の外科外来症例と救命センターでの経験から一. 大阪臨床整形外科医会研修会, 大阪
11. 上田祐輔, 稲葉宗夫, 高田敬蔵, 李 銘, 池原 進, 飯田寛和 (2006) 骨髄内骨髄移植により老人性骨粗鬆症を発症した動物モデルの検討. 第21回日本整形外科学会基礎学術集会, 長崎
12. 小室 元, 飯田寛和, 大貫正秀, 植田勝彦, 中島聖子 (2006) 大腿骨頸部骨折予防のヒッププロテクターの衝撃緩和パッド装着位置の検討. 第33回日本股関節学会, 東京
13. 飯田寛和 (2006) 股関節外科医の育成について. 第33回日本股関節学会, 東京
14. 和田孝彦, おおえ賢一, 飯田寛和 (2006) Triple Taper Curved Stem (SC-Stem) の短期成績. , 第33回日本股関節学会東京
15. Oe K, Sasai K, Ohnari H, Maruyama T, Wakabayashi E and Iida H (2006) PIGMENTED VILLONODULAR SYNOVITIS ORIGINATING FROM THE LUMBAR FACET JOINT. 8th Annual Meeting of the Spine Society of Europe (ヨーロッパ脊椎外科学会2006), Istanbul
16. Sasai K, Ohnari H, Wakabayashi E, Umeda M, Maruyama T and Iida H (2006) Microsurgical posterior circumferential decompression with unilateral approach for thoracic disorders. 8th Annual Meeting of the Spine Society of Europe (ヨーロッパ脊椎外科学会2006), Istanbul
17. 笹井邦彦, 大成浩征, 梅田眞志, 若林 英, 丸山東勲, 飯田寛和 (2006) 胸腰椎部に発生した硬膜外くも膜嚢腫の低侵襲な切除方法. 第13回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会, 東京
18. 大成浩征, 笹井邦彦, 赤木繁夫, 若林英, 梅田眞志, 飯田寛和 (2006) 特発性硬膜外血腫3例と出血点についての推論. 第13回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会, 東京
19. 吉川尚孝, 岡本尚史, 和田孝彦, 飯田寛和 (2006) 寛骨臼に生じたinsufficiency fractureの1例. 第411回整形外科集談会京阪神地方会, 大阪
20. 串田剛俊, AbrahamNader, G.池原進, 飯田寛

- 和 (2006) 血管内皮細胞へ遺伝子導入した Human heme oxygenase-1 gene の apoptosis 抑制効果. 第42回日本移植学会総会, 千葉
21. 笹井邦彦, 若林 英, 丸山東勲, 飯田寛和 (2006) 低侵襲に切除を行った硬膜外くも膜嚢腫の1例. 第39回日本脊椎外科同好会, 東京
22. 中村知寿, 和田孝彦, 飯田寛和 (2006) 先天性多発性関節拘縮症に伴った股関節障害に人工股関節置換術を行った一例. 第14回 Hip Forum 2006, 南あわじ
23. 和田孝彦, 中村知寿, おおえ賢一, 飯田寛和 (2006) 反復性脱臼を生じたTHAに対する制御型カップの使用経験. 第14回 Hip Forum 2006, 南あわじ
24. 笹井邦彦 (2006) 顕微鏡を用いた脊椎手術のススメ. 第1回枚方手術セミナー, 枚方
25. 飯田寛和 (2006) 人工骨頭・人工関節の手術手技. 第1回枚方手術セミナー, 枚方
26. 中村誠也, 赤木繁夫, 宮島茂夫, 坂根政則, 串田剛史, 福田 登, 小串むつみ, 澤井宏和, 浅田 卓, 飯田寛和 (2006) 外傷性膝関節拘縮に対する quadriceps plasty の検討. 第32回日本骨折治療学会, 仙台
27. 福永幹彦, 阿部哲也, 水野泰行, 神原憲治, 中井吉英, 入澤 聡, 木下 洋, 飯田寛和, 松田公志 (2006) OSCE の医療面接評価とクラックシップ時のコミュニケーション能力評価との関係. 第38回医学教育学会, 奈良
28. 上田祐輔, 稲葉宗夫, 高田敬蔵, 飯田寛和, 池原 進 (2006) 老化促進マウスからの骨髄内骨髄移植により骨髄環境の老化を誘導させた動物モデルの検討. 第29回日本基礎老化学会, 長崎
29. 福田 登, 中村誠也, 児島 新, 飯田寛和 (2006) 化膿性肩関節炎に対する上腕骨頭切除・抗生剤含有セメントを用いた治療. 第29回日本骨・関節感染症学会, 東京
30. 大野博史, 宮島茂夫, 飯田寛和 (2006) MIS-TKA における mini-midvastus approach の検討. 第31回日本膝関節学会, 沖縄
31. 大窪 博, 大野博史, 赤木繁夫, 飯田寛和 (2006) ウェイトリフティングによる外傷性腰部椎間板ヘルニアの一例. 第32回日本整形外科学会スポーツ医学会, 沖縄
32. 吉川尚孝, 串田剛俊, 木下有紀子, 赤木繁夫, 飯田寛和 (2006) 遅発性に神経症状が悪化した胸椎化膿性脊椎炎の1例. 第410回整形外科集談会京阪神地方会, 大阪
33. 菅 俊光, 小山富夫, 沖井明, 佐々木万弓, 梅田真志 (2006) 手指運動訓練用リハビリテーションシステム. 第43回日本リハビリテーション医学会, 東京
34. 梅田真志, 菅 俊光, 佐々木万弓, 飯田寛和 (2006) 片側人工股関節置換術における重心動揺および下肢荷重バランスの検討. 第43回日本リハビリテーション医学会, 東京
35. 笹井邦彦, 若林 英, 飯田寛和, 斎藤貴徳, 大成浩征, 赤木繁夫 (2006) 片側進入顕微鏡視下胸髄全周性除圧術. 第79回日本整形外科学会学術集会, 横浜
36. 小室 元, 飯田寛和, 村田光正, 村田 実, 大貫正秀, 小林和彦, 中島聖子 (2006) 高齢者大腿骨頸部骨折における乳幼児モデルを使用した転倒動作の再現. 第79回日本整形外科学会学術集会, 横浜
37. 松矢浩暉, 斎藤貴徳, 市岡直也, 藤澤礼子, 足立 崇 (2006) 肘部管症候群に対するサージェアトムを用いた上腕骨内上顆切除術. 第79回日本整形外科学会学術集会, 横浜
38. 中村誠也, 飯田寛和 (2006) 生体内挿入インプラントと術後感染の予防と対策 内固定材料を用いた骨折治療による術後感染とその対策. 第79回日本整形外科学会学術集会, 横浜
39. 和田孝彦, 松矢浩暉, 徳永裕彦, 飯田寛和 (2006) 抗生剤混入骨セメントの特性 バンコマイシンとテイコプラニン. 第79回日本整形外科学会学術集会, 横浜
40. 斎藤貴徳, 市岡直也, 藤澤礼子, 松矢浩暉, 足立 崇 (2006) 脊髄症を呈した胸椎椎間板ヘルニアの手術療法 後方アプローチによる顕微鏡下椎間板摘出術. 第79回日本整形外科学会学術集会, 横浜
41. 斎藤貴徳, 市岡直也, 藤澤礼子, 松矢浩暉, 足立 崇 (2006) 梨状筋症候群の診断と治療. 第79回日本整形外科学会学術集会, 横浜
42. 梶本心太郎, 平川昭彦, 藤井弘史, 中村誠也, 村尾佳則, 中谷壽男 (2006) 肩関節脱臼整復にて発生した腋窩動脈断裂の1例. 第9回日本

臨床救急医学会, 盛岡

43. 吉田雄吾, 加藤勇司, 笹井邦彦, 赤木繁夫, 飯田寛和 (2006) 環椎後弓形成不全の2例. 第106回中部日本整形外科災害外科学会, 大阪
44. 森裕之, 松岡成康, 橋谷 実, 玉置譲二, 芦田一繭 (2006) 骨折をきたした下腿骨骨Paget病の一例. 第106回中部日本整形外科災害外科学会, 大阪
45. 赤木繁夫, 若林英, 大成浩行, 笹井邦彦, 飯田寛和 (2006) 脊椎感染症に対する治療戦略 感染性脊椎炎の治療経験. 第106回中部日本整形外科災害外科学会, 大阪
46. 笹井邦彦, 大成浩征, 若林 英, 梅田真志, 飯田寛和 (2006) 腰部脊柱管狭窄症に対する固定術の適応 顕微鏡視下片側進入両側除圧術の限界. 第35回日本脊椎脊髄病学会, 東京
47. 齋藤貴徳, 市岡直也, 松矢浩暉, 足立 崇, 笹井邦彦, 飯田寛和 (2006) 頸椎手術後C5麻痺に対する椎間孔部除圧術による予防 術前の電気生理学的検査による適応選択効果. 第35回日本脊椎脊髄病学会, 東京
48. 齋藤貴徳, 市岡直也, 足立 崇, 松矢浩暉, 飯田寛和, 笹井邦彦 (2006) 体性感覚誘発電位と経頭蓋電気刺激誘発電位を用いた術中脊髄機能モニタリングの有用性の検討. 第35回日本脊椎脊髄病学会, 東京
49. 谷川暢之, 齋藤貴徳, 飯田寛和 (2006) Martin-Gruber 吻合 type 3 と知覚神経破格を伴う手根管症候群の3例. 第49回日本手の外科学会, 浜松
50. 中村誠也, 飯田寛和 (2006) 伸筋腱断裂の手術 手背部伸筋腱損傷の一次修復. 第49回日本手の外科学会, 浜松
51. 齋藤貴徳, 市岡直也, 松矢浩暉, 足立 崇 (2006) 体性感覚誘発電位を用いた胸郭出口症候群の診断と術後成績. 第49回日本手の外科学会, 浜松
52. 齋藤貴徳, 市岡直也, 松矢浩暉, 足立 崇, 飯田寛和 (2006) 腕神経叢損傷に対する横隔神経移行による肘屈曲再建術後の肺機能の検討. 第49回日本手の外科学会, 浜松
53. 宮島茂夫, 澤井宏和, 串田剛俊, 赤木繁夫, 飯田寛和 (2006) 関節リウマチの治療 メトトレキサートとレフルノミド RAに対するメトトレキサート (MTX) 療法における葉酸追加併用例の検討. 第50回日本リウマチ学会総会, 長崎
54. 串田剛俊, 宮島茂夫, 赤木繁夫, 和田孝彦, 徳永裕彦, 児島 新, 飯田寛和 (2006) 関節リウマチ足の手術療法 関節リウマチ前足部病変に対する関節形成術の術後成績. 第50回日本リウマチ学会総会, 長崎
55. 赤木繁夫, 串田剛俊, 宮島茂夫, 飯田寛和 (2006) 関節リウマチの頸椎病変/関節リウマチの脊椎病変 RA脊椎病変に対する外科治療の問題点の検討. 第50回日本リウマチ学会総会, 長崎
56. 中谷晃之, 和田孝彦, 濱田 彰, 宮島茂夫, 尾崎吉郎, 市川宜弘 (2006) 関節リウマチに対するインフリキシマブ (レミケード) の治療成績. 第50回日本リウマチ学会総会, 長崎
57. 和田孝彦, 宮島茂夫, 飯田寛和 (2006) 足部に滑膜嚢腫を生じた関節リウマチの一例. 第50回日本リウマチ学会総会, 長崎
58. 澤井宏和, 飯田寛和 (2006) サイトカイン・ケモカイン リウマチ滑膜中におけるフラクトカインのT細胞の活性化とそのメカニズム. 第50回日本リウマチ学会総会, 長崎
59. 上田祐輔, 稲葉宗夫, 高田敬蔵, 李 銘, 福井淳一, 郭可 泉, 津田雅庸, 坂口雄沢, 大前麻理子, 飯田寛和, 池原 進 (2006) 骨髄内骨髄移植による老人性骨粗鬆症の誘導 骨粗鬆症のモデルマウスの骨髄細胞を正常マウスに移植して. 第95回日本病理学会総会, 東京
60. 児島 新 (2006) 外来で診る手の外科疾患について. 枚方市交野市整形外科勉強会, 枚方
61. 飯田寛和 (2006) 人工股関節再置換術一関節リウマチを中心に. 第31回九州リウマチ学会, 宮崎
62. 斎藤福樹, 矢吹 輝, 久間洋子, 鉄穴洋子, 田嶋佐和子, 菅 俊光, 北澤康秀 (2006) 集中治療チーム全体で考えよう『集中治療での栄養サポートチーム』救命救急センターにおける合理的なNSTの活動を目指して. 第33回日本集中治療医学会, 大阪
63. 飯田寛和 (2006) 私が骨セメントを使用する理由. セメントヒップ講演会及びワークショップ, 新潟

64. 飯田寛和 (2006) 人工股関節再置換術の実際. 第10回兵庫股関節研究会, 神戸
65. 笹井邦彦 (2006) 低侵襲手術からみた腰部脊柱管狭窄症に対する固定術の適応. 第13回群馬脊椎脊髄疾患研究会, 群馬
66. 齋藤貴徳, 市岡直也, 藤澤礼子, 足立 崇 (2006) 体性感覚誘発電位におけるN16の記録法と臨床応用—N16 遠隔電場電位を用いた梨状筋症候群の診断—. 第28回脊髄機能診断研究会, 東京
67. 宮島茂夫, 大野博史, 中村誠也, 飯田寛和 (2006) 当科での感染 TKA に対する治療方針. 第36回日本人工関節学会, 京都
68. 中村知寿, 和田孝彦, 徳永裕彦, 飯田寛和 (2006) 制御型カップを用いた人工股関節置換術の治療経験. 第36回日本人工関節学会, 京都
69. 和田孝彦, 松矢浩暉, 徳永裕彦, 飯田寛和 (2006) 抗生剤混入骨セメントの特性—バンコマイシンとテイコプラニンの比較. 第36回日本人工関節学会, 京都
70. 飯田寛和 (2006) 股関節に関する最近の話題. 浜松整形外科医会, 浜松
71. 井口有子, 辻田美樹, 安井浩司, 小川 豊, 大窪 博, 徳永裕彦, 北澤康秀 (2006) 熱傷後に異所性骨化を生じた1例. 第14回日本熱傷学会近畿地方会, 岸和田
72. 三宅ヨシカズ, 安井浩司, 松島貴志, 小川 豊, 宮崎秀行, 中村誠也, 北澤康秀, 中谷壽男 (2006) 皮下深部まで達した電撃傷の1例. 第14回日本熱傷学会近畿地方会, 岸和田
73. 鋳谷敏夫, 若林 英, 笹井邦彦, 丸山東勲, 飯田寛和 (2006) 鑑別を要した脱出型腰椎椎間板ヘルニアの1例. 第408回整形外科集談会京阪神地方会, 大阪
74. 飯田寛和 (2006) 股関節手術のサルベージ. 第4回長崎骨と関節フォーラム, 長崎

形成外科学講座

〈研究業績〉

原 著

1. Wang YB, Kusumoto K, Kakudo N and Ogawa Y (2006) The use of skin allograft with donor-specific tolerance in a rabbit model of full-thickness burn. *Burns* 32: 737–743
2. Shimotsuma A, Kusumoto K and Ogawa Y (2006) Quantification of mentolabial profile using lateral roentgen cephalography and profile reconstruction by mandibular osteotomy in healthy adults and patients with scar contracture following severe facial burns. *Burns* 32: 619–625
3. Tanabe A, Ogawa Y, Takemoto T, Wang Y, Furukawa T, Kono H, Adachi Y and Kusumoto K (2006) Interleukin 6 induces the hair follicle growth phase (anagen). *J Dermatol Sci* 43: 210–213
4. Kakudo N, Kusumoto K, Wang Y B, Iguchi Y and Ogawa Y (2006) Immunolocalization of vascular endothelial growth factor on intramuscular ectopic osteoinduction by bone morphogenetic protein-2. *Life Sci* 79: 1847–1855
5. Kakudo N, Kusumoto K, Kuro A and Ogawa Y (2006) Effect of recombinant human fibroblast growth factor-2 on intramuscular ectopic osteoinduction by recombinant human bone morphogenetic protein-2 in rats. *Wound Repair Regen* 14: 336–342
6. Kurokawa I, Mizutani H, Kusumoto K, Nishijima S, Tsujita-Kyutoku M, Shikata N and Tsubura A (2006) Cytokeratin, filaggrin, and p63 expression in reepithelialization during human cutaneous wound healing. *Wound Repair Regen* 14: 38–45
7. 久徳茂雄 (2006) 形成外科からみた重症虚血肢 (その2) その外科治療について. *Angiol Front* 5: 1–5
8. 山村有美, 葛西健一郎 (2006) 【女性に特有の皮膚疾患診療マニュアル】肝斑. *Derma*. (119): 42–47
9. 小川 豊 (2006) 【血管 その病変と治療】眼瞼部蕁状血管腫に対する視機能を考慮した治療. *PEPARS* (9): 22–28
10. 酒井めぐみ, 葛西健一郎 (2006) 単純性血管腫のレーザー治療. *PEPARS* (7): 1–11

11. 田辺敦子, 三宅省吾, 小川 豊, 楠本健司 (2006) 塞性動脈硬化症その他による難治性潰瘍に対する新しい治療法 shock wave therapy について. 医工治療 18: 173-179
12. 畔 熱行, 葛西健一郎, 酒井めぐみ, 山村有美, 久野 文, 高橋健造 (2006) Q-switched Nd:YAG Laser (1064 nm) 治療が著効した銀皮症の1例. 日形会誌 26: 604-607
13. 井口有子, 葛西健一郎, 酒井めぐみ, 山村有美, 久野 文 (2006) 炭酸ガスレーザー治療による表皮母斑の治療経験. 日形会誌 26: 107-112
14. 伊藤文人, 菅 豊明 (2006) 眉毛部へのステロイド懸濁液注射後に急激に視力障害を生じた1例—ステロイド懸濁液による重篤な合併症について—. 日形会誌 26: 682-685
15. 森 雄大, 小川 豊, 木下慎介, 畔 熱行, 村岡道德, 原田輝一, 元村尚嗣, 若見暁樹, 佐々木直美, 大場教弘, 波多野隆治, 久徳茂雄, 井上唯史, 富野祐里, 下間亜由子, 山本 純, 田辺敦子, 三宅省吾, 佐々木富美子, 原岡剛一, 伊藤文人, 菅 豊明, 福田 智, 大西早百合, 堀尾 修, 日原正勝, 田嶋敏彦, 谷口俊子, 綾部 忍, 西村真紀子, 山本理奈 (2006) 熱傷創に対するトラフェルミン (フィブラストスプレー) の検討. 熱傷 32: 33-39
16. 田辺敦子, 三宅省吾, 加川隆三郎, 楠本健司, 小川 豊 (2006) ヒトパピローマウィルスと皮膚癌の検討. 洛和会病医誌 17: 21-24
17. 藤森佐和子, 下間亜由子, 覚道奈津子, 山本純, 小川 豊 (2006) 陥入爪治療におけるフェノール法での圧抵時間, 治療期間, 再発率の比較検討. 臨皮 60: 1174-1177

総 説

1. 稲垣隆介, 久徳茂雄, 瀬野敏孝, 川口琢也, 大重英行, 山内康雄, 河本圭司 (2006) 頭蓋縫合早期癒合症の基本的概念と治療. 脳神外ジャーナル 15: 105-113

症例報告

1. Kakudo N, Kusumoto K, Fujimori S, Shimotsuma A and Ogawa Y (2006) Reconstruction of a natural-appearing umbilicus using an island flap:

case report. J Plast Reconstr Aesthet Surg 59: 999-1002

2. 小西朝子, 今出川盛宣, 小西研史, 覚道奈津子, 山本 純, 下間亜由子 (2006) CHOP療法中の血管外漏出による広範囲皮膚壊死の1例. 皮の科 5: 102

学会発表

1. Inagaki T, Kyutoku S, Kawaguchi T, Uesaka T, Ryu T, Yamahara T, Seno T, Oishi T, Yamano-uchi Y and Kawamoto K (2006) If there is an indication of intervention for mild form of cranio-synostosis. Consensus Conference on Cranio-synostosis, Rome
2. Inagaki T, Kyutoku S, Kawaguchi T, Uesaka T, Ryu T, Yamahara T, Seno T, Oishi T, Yamano-uchi Y and Kawamoto K (2006) The management of craniosynostosis using distractors: the benefit and limitation. Consensus Conference on Cranio-synostosis, Rome
3. Kyutoku S, Seno T, Inagaki T, Yamanouchi Y and Kuro A (2006) Efficacy of ICP Monitoring for Mild Craniosynostosis. 6th APCA Conference, Singapore
4. Kusumoto K, Yamamoto I, Kuniyoshi K and SHimotsuma A (2006) Record and Analysis of Lip Motion Using an In-contact Motion capture System After Cleft lip Operation. 18th Congress of European Association for Cranio-Maxillofacial Surgery, Barcelona
5. Kasai K (2006) Lasers to Treat Nevus of Ota/Ito: The Osaka Experience: Long Term Results/Complications. International Conference Barcelona 2006 – advances and controversies in laser medicine and surgery, Barcelona
6. Harada T, Ogawa Y, Kusumoto K and Mori Y (2006) Boosted re-epithelization with basic fibroblast growth factor in deep dermal burn wound. XIII International Society for Burn Injuries, Tortolena
7. Kasai K (2006) Laser Treatment of Acquired Dermal Melanocytosis / Senile Facial Pigmented Lesions. International Conference Barcelona 2006 – advances and controversies in laser medi-

- cine and surgery, Barcelona
8. Kasai K (2006) Laser treatment for nevi and Asian facial pigmented disorders. 2006年浙江省整形外科美容外科学術集会, 杭州
 9. Kakudo N, Shimotsuna A and Kusumoto K (2006) Bone Tissue Engineering Using Multipotential Cells from Human Adipose Tissue and Three-Dimensional Composites. 18th Congress of European Association for Cranio-Maxillofacial Surgery, Barcelona
 10. Hihara M, Matsushima T, Tanaka Y, Ogawa Y and Kusumoto K (2006) Functional Reconstruction of Severely Burned Hand with Osseous Blood Flow Deficiency. The 8th Korea-Japan Congress of Plastic and Reconstructive Surgery, Jeju
 11. 葛西健一郎 (2006) 眉毛・睫毛の植毛. 第12回日本臨床毛髪学会 (学術講習会), 別府
 12. 久徳茂雄, 井上唯史, 浅井 悌, 田中博之 (2006) 高齢者の熱傷3例. 第14回日本熱傷学会近畿地方会, 岸和田
 13. 浅井 悌, 小西陽子, 井上唯史, 久徳茂雄 (2006) 両側下腿の凍傷を契機にコンパートメント症候群を呈した1例. 第14回日本熱傷学会近畿地方会, 岸和田
 14. 覚道奈津子, 三宅省吾, 櫛田哲史, 楠本健司, Britt Wildemann, Georg N. Duda (2006) GDF-5の筋肉内埋入による骨軟骨誘導能についての実験的検討. 第36回日本創傷治癒学会, 東京
 15. 福田 智, 大西早百合, 三宅ヨシカズ, 楠本健司 (2006) 踵部虚血性潰瘍にPRP療法 (PRPゲル上に植皮術) で創閉鎖し得た1例. 第36回日本創傷治癒学会, 東京
 16. 井上唯史, 松島貴志, 楠本健司 (2006) 尿道造陰瘻に至った性転換手術の一例. 第87回日本形成外科学会関西支部学術集会, 奈良
 17. 櫛田哲史, 三宅省吾, 堀尾 修, 下間亜由子, 楠本健司 (2006) デグロービング損傷の植皮術後に発症したアナフィラクトイド紫斑の1例. 第87回日本形成外科学会関西支部学術集会, 奈良
 18. 笹尾卓史, 田辺敦子 (2006) ASO 他に対する新しい治療方法—Shock Wave Therapy—について (第2報). 第87回日本形成外科学会関西支部学術集会, 奈良
 19. 三宅省吾, 覚道奈津子, 櫛田哲史, 下間亜由子, 楠本健司 (2006) 多発性基底細胞癌の1例. 第87回日本形成外科学会関西支部学術集会, 奈良
 20. 山本 純, 鈴木健司, 下間亜由子 (2006) メッシュ感染をおこした腹壁癒痕ヘルニアの再建例. 第87回日本形成外科学会関西支部学術集会, 奈良
 21. 田中義人, 藤井ゆず子, 伊藤文人 (2006) 保存的治療を行ったPTCAによる放射性潰瘍の2例. 第87回日本形成外科学会関西支部学術集会, 奈良
 22. 畔 熱行, 久徳茂雄, 井上唯史, 佐野寿哉, 赤松栄之, 島 盛隆 (2006) 下顎巨大エナメル上皮腫切除後のCI麻痺側腭骨による再建術. 第87回日本形成外科学会関西支部学術集会, 奈良
 23. 下間亜由子, 楠本健司, 山本一郎 (2006) 非接触光学式動作解析システムによるsmile時の口唇運動の記録と解析. 第16回日本シミュレーション外科学会, 高槻
 24. 久徳茂雄, 瀬野敏孝, 稲垣隆介, 山内康雄, 富野祐里, 井上唯史, 河本圭司 (2006) 頭蓋縫合早期癒合軽症例における頭蓋内圧測定の意義. 第23回日本頭蓋顎顔面外科学会, 長崎
 25. 伊藤文人, 田中義人, 藤井ゆず子 (2006) 耳下腺被膜下に存在したlymphoepithelial cystの1例. 第24回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 長崎
 26. 下間亜由子, 久徳美樹, 竹本剛司, 堀尾 修, 楠本健司 (2006) 多発顔面骨折変形治癒例の治療とその方略. 第24回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 長崎
 27. 大西早百合, 福田 智, 楠本健司, 奥田大造 (2006) 顔面変形をきたした巨大含歯性嚢胞の1例. 第24回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 長崎
 28. 畔 熱行, 久徳茂雄, 上羽哲也, 金井理恵, 瀬戸嗣郎 (2006) 狭頭を合併した低フォスファターゼ血症の1手術例. 第24回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 長崎
 29. 堀尾 修, 楠本健司, 下間亜由子, 覚道奈津子 (2006) 側面頭部 X 線規格写真を用いた一

- 般成人の下顎形態の分析（硬組織を基準として）. 第24回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 長崎
30. 國吉京子, 下間亜由子, 南方竜也, 楠本健司 (2006) 口蓋裂術後の鼻咽喉閉鎖機能不全例への補助装具（軟口蓋挙上装置）の活用. 第24回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 長崎
 31. 竹本剛司, 堀尾 修, 下間亜由子, 楠本健司 (2006) 当科における莓状血管腫105例の検討. 第27回日本レーザー医学会総会, 千葉
 32. 覚道奈津子, 下間亜由子, 三宅省吾, 櫛田哲史, 楠本健司 (2006) ヒト脂肪組織由来細胞によるアテロコラーゲンにおける3次元骨再生. 第15回日本形成外科学会基礎学術集会, 埼玉
 33. 覚道奈津子, 三宅省吾, 櫛田哲史, 楠本健司, Wildemann Britt, Duda Georg N. (2006) GDF-5の筋肉内埋入による骨軟骨誘導能についての実験的検討. 第15回日本形成外科学会基礎学術集会, 埼玉
 34. 竹本剛司, 覚道奈津子, 楠本健司 (2006) 肋軟骨移植後の彎曲変形に関する実験的研究. 第15回日本形成外科学会基礎学術集会, 埼玉
 35. 國吉京子, 長尾靖子, 荒木 敦, 楠本健司 (2006) 言語外来における自閉症等広汎性発達障害の検査とその指導—小児科との連携—. 第51回日本音声言語医学会総会学術集会, 京都
 36. 福田 智, 大西早百合, 三井秀明, 小川 豊 (2006) MDTと植皮術にて救肢出来た糖尿病性足壊疽の1例. 第6回国際双翅目学会, 福岡
 37. 伊藤文人, 田中義人, 藤井ゆず子 (2006) 当院形成外科における褥瘡治療と問題点. 第8回日本褥瘡学会学術集会, 埼玉
 38. 佐竹絵美, 堀内ナギサ, 井上唯史, 鈴木健司, 久徳茂雄, 加藤裕子, 佐藤美香, 北野らん子, 池田京子 (2006) ストーマ用装具を使用した陰圧閉鎖療法の見護面での有用性. 第8回日本褥瘡学会学術集会, 埼玉
 39. 三宅省吾, 久徳茂雄, 安井浩司, 鈴木健司 (2006) 脊損患者の坐骨部褥瘡に対する大腿後面筋皮弁を用いた再建について. 第8回日本褥瘡学会学術集会, 埼玉
 40. 鈴木健司, 畔 熱行, 井上唯史, 楠本健司 (2006) 逆行性広背筋皮弁を利用した胸椎部褥瘡の一例. 第8回日本褥瘡学会学術集会, 埼玉
 41. 稲垣隆介, 久徳茂雄, 河本圭司 (2006) 小児脳外科領域（特に頭蓋縫合早期癒合症）に対する頭蓋底外科手技について. 第18回日本頭蓋底外科学会, 名古屋
 42. 久徳茂雄, 辻 裕之, 川上勝弘, 沼 義博, 河本圭司 (2006) 前頭蓋底眼窩再建の治療方針について. 第18回日本頭蓋底外科学会, 名古屋
 43. 久徳茂雄, 瀬野敏孝, 稲垣隆介, 山内康雄 (2006) Craniosynostosis軽症例における頭蓋内圧測定の意義. 第2回Craniosynostosis研究会, 東京
 44. 國吉京子 (2006) 口蓋に裂を伴わない“口蓋裂言語”例の治療経験. 第32回日本コミュニケーション障害学会学術講演会, 札幌
 45. 伊藤文人, 田中義人 (2006) 当院形成外科における暖房器具による熱傷. 第32回日本熱傷学会総会・学術集会, 仙台
 46. 櫛田哲史, 三宅省吾, 井口有子, 堀尾修, 安井浩司, 久徳茂雄 (2006) 精神疾患を背景とし, 外科的治療を要した熱傷患者についての検討. 第32回日本熱傷学会総会・学術集会, 仙台
 47. 日原正勝, 松島貴志, 田中義人, 小川豊, 楠本健司 (2006) 骨血流不全を伴った手指全周性深建熱傷の救指例. 第32回日本熱傷学会総会・学術集会, 仙台
 48. 覚道奈津子, 久徳茂雄, 櫛田哲史, 井上唯史, 佐藤正人 (2006) 転倒によりpectus barが90度回転偏位した漏斗胸手術例. 第86回日本形成外科学会関西支部学術集会, 大阪
 49. 笹尾卓史, 田辺敦子 (2006) ASO 症例における切断下肢の皮膚組織の検討. 第86回日本形成外科学会関西支部学術集会, 大阪
 50. 竹本剛司, 楠本健司, 小川豊, 覚道奈津子, 笹尾卓史 (2006) 肋軟骨を用いた隆鼻術再建例における, 移植肋軟骨変形についての1考察. 第86回日本形成外科学会関西支部学術集会, 大阪
 51. 田中義人, 藤井ゆず子, 伊藤文人 (2006) 創傷被覆材としてのdrainage film dressing (仮称) の有用性. 第86回日本形成外科学会関西支部学術集会, 大阪

52. 南方竜也, 松島貴志, 楠本健司 (2006) 右下腿に発症したマンソン孤虫症の1例. 第86回日本形成外科学会関西支部学術集会, 大阪
53. 堀尾 修, 久徳茂雄, 安井浩司, 南方竜也, 三宅省吾 (2006) 耳介上部欠損の5再建例. 第86回日本形成外科学会関西支部学術集会, 大阪
54. 鈴木健司 (2006) 脂肪肉腫との鑑別に難渋した線維脂肪腫の1例. 第86回日本形成外科学会関西支部学術集会, 大阪
55. 國吉京子, 楠本健司, 山本一郎, 久徳茂雄 (2006) チームコラボレーションによる軟口蓋挙上装置 (PLP) の活用と調整. 第30回日本口蓋裂学会総会・学術集会, 北安曇郡白馬村
56. 田辺敦子, 笹尾卓史 (2006) ASO 他に対する新しい治療方法—Shock Wave Therapy—について. 第22回医工学治療学会, 福岡
57. 伊藤文人, 田中義人, 菅 豊明 (2006) 創傷治療におけるJETOX 創傷洗浄装置の使用経験. 第49回日本形成外科学会総会・学術集会, 岡山
58. 井口有子, 小川 豊 (2006) レーザー照射時の外用局所麻酔薬に関する統計. 第49回日本形成外科学会総会・学術集会, 岡山
59. 久徳茂雄, 安井浩司, 堀尾 修, 南方竜也, 井上唯史, 小川 豊 (2006) 眼瞼・眼窩再建の難しさと戦略. 第49回日本形成外科学会総会・学術集会, 岡山
60. 笹尾卓史, 田辺敦子, 奥田聖子, 島川哲郎 (2006) 当院における褥瘡チームを中心としたNST活動について. 第49回日本形成外科学会総会・学術集会, 岡山
61. 森 雄大, 楠本健司, 辻田 (久徳) 美樹, 松島貴志, 竹本剛司, 安井浩司, 小川 豊 (2006) 頬骨骨折に合併する顎関節窩骨折についての検討. 第49回日本形成外科学会総会・学術集会, 岡山
62. 菅 豊明, 松島貴志, 王 毅彪, 南方竜也, 小川 豊 (2006) デグロービング損傷に於ける残存手掌側皮膚の二期的利用法について. 第49回日本形成外科学会総会・学術集会, 岡山
63. 楠本健司, 山本一郎, 國吉京子, 小川 豊 (2006) 形成外科言語治療における歯科との連携とそのあり方について. 第49回日本形成外科学会総会・学術集会, 岡山
64. 國吉京子, 楠本健司, 小川 豊 (2006) 鰓弓由来症候群における構音と形成不全との関係. 第49回日本形成外科学会総会・学術集会, 岡山
65. 伊藤文人, 田中義人, 菅 豊明 (2006) 悪性腫瘍末期患者への手術経験. 第17回義眼床手術研究会, 神戸
66. 久徳茂雄, 富野祐里, 井上唯史, 中島正明 (2006) 前頭蓋底眼窩部fibrous dysplasiaの眼窩再建例. 第17回義眼床手術研究会, 神戸
67. 畔 熱行 (2006) 瞼縁を重視した義眼床再建. 第17回義眼床手術研究会, 神戸
68. 狩谷佳寛, 烏野美千代, 西 一典, 林 真樹, 中谷美和子, 田中博之, 久徳茂雄, 加藤元一 (2006) 血清アルブミン値が感染症リスクファクターとなり得るかの検討. 第21回日本環境感染学会総会, 東京
69. 葛西健一郎 (2006) 脱毛レーザーの理論的背景と各種レーザーの比較. 日本医学脱毛学会2006年度学術集会, 東京
70. 井口有子, 辻田美樹, 安井浩司, 小川 豊, 大窪 博, 徳永裕彦, 北澤康秀 (2006) 熱傷後に異所性骨化を生じた1例. 第14回日本熱傷学会近畿地方会, 岸和田
71. 井上唯史, 久徳茂雄, 浅井 悌, 田中博之 (2006) 高齢者の熱傷3例. 第14回日本熱傷学会近畿地方会, 岸和田
72. 下間亜由子, 山本 純 (2006) パレスチナ難民の顔面熱傷後瘢痕拘縮の治療例. 第14回日本熱傷学会近畿地方会, 岸和田
73. 三宅ヨシカズ, 安井浩司, 松島貴志, 小川 豊, 宮崎秀行, 中村誠也, 北澤康秀, 中谷壽男 (2006) 皮下深部まで達した電撃傷の1例. 第14回日本熱傷学会近畿地方会, 岸和田
74. 大西早百合, 福田 智 (2006) 蛆虫による壊死創面浄化法の熱傷治療への応用. 第14回日本熱傷学会近畿地方会, 岸和田
75. 田中義人, 伊藤文人 (2006) 当院形成外科における顔面熱傷についての検討. 第14回日本熱傷学会近畿地方会, 岸和田
76. 日原正勝, 松島貴志, 田中義人, 小川 豊 (2006) 完全に血流の途絶していた手指全周性深達熱傷の1例. 第14回日本熱傷学会近畿地方会, 岸和田
77. 葛西健一郎 (2006) 機器を用いたエイジング

治療：タイトニング本音を語る．第1回日本美容抗加齢医学会，横浜

78. 久徳茂雄，畔 熱行，笠井千尋（2006）脳神経外科との境界領域におけるマイクロサージャリー～とくに頭蓋底外科と顔面神経麻痺の再建について．第23回大阪マイクロサージャリー研究会，大阪

著 書

1. 葛西健一郎（2006）Skin rejuvenationとは何か．WHAT'S NEW in 皮膚科学2006-2007（宮地良樹編）128-129頁，メディカルレビュー社，東京
2. 山村有美，葛西健一郎（2006）肝斑に対するベスト治療は．WHAT'S NEW in 皮膚科学2006-2007（宮地良樹編）130-131頁，メディカルレ

ビュー社，大阪

3. 小川 豊（2006）眼瞼・義眼床の再建—臨床例アトラス—．1-124頁，克誠堂出版，東京
4. 葛西健一郎（2006）あざ（母斑）・血管腫．子どもはすばらしい（牛尾信也監修）461-463頁，金原書店，東京
5. 萩尾藤江，國吉京子，タミー木村，日比野英子，山上良一，山本一郎（2006）待ってるよ赤ちゃん（楠本健司編）1-55頁，法藏館，京都
6. 葛西健一郎（2006）眉毛の訴え 化粧・刺青から再建まで．毛の悩みに応える皮膚科診療毛髪最前線（板見智・宮地良樹編）60-66頁，南山堂，東京
7. 葛西健一郎（2006）シミの治療 このシミをどう治す？ 1-246頁，文光堂，東京

皮膚科学講座

〈研究業績〉

原 著

1. Hamakawa M, Sugihara A, Okamoto H and Horio T (2006) Ultraviolet B radiation suppresses Langerhans cell migration in the dermis by down-regulation of $\alpha 4$ integrin. Photodermatol Photoimmunol Photomed 22: 116-123
2. Kurokawa I, Mizutani H, Kusumoto K, Nishijima S, Tsujita-Kyutoku M, Shikata N and Tsubura A (2006) Cytokeratin, filaggrin, and p63 expression in reepithelialization during human cutaneous wound healing. Wound Repair Regen 14: 38-45
3. 堀尾 武（2006）太陽紫外線の生体への影響とその防御技術 紫外線DNA損傷と免疫抑制. FRAGRANCE J (308): 92
4. 堀尾 武（2006）【皮膚から見つける内科疾患】皮疹でわかる内科疾患 グルカゴノーマ. Medicina 43: 1717-1719
5. 堀尾 武（2006）アトピー性皮膚炎の悪化因子と環境要因 日光とアトピー性皮膚炎. 皮膚の科学 5: 34-37
6. 堀尾 武（2006）【知っておきたい検査とその読み方】光線過敏試験. 皮膚臨床 48: 1505-1508
7. 岡本祐之（2006）【ジェネリック・ガイド】抗

生物質. Derma. (113): 61-69

8. 岡本祐之（2006）太陽紫外線の生体への影響とその防御技術 ランゲルハンス細胞に対する紫外線の影響. FRAGRANCE J (308): 91
9. 岡本祐之（2006）知っておきたい画像所見皮膚疾患 5 肉芽腫. Junior (455): 1-6
10. 岡本祐之（2006）【皮膚から見つける内科疾患】皮疹でわかる内科疾患 サルコイドーシス（解説/特集）. Medicina 43: 1714-1716
11. 岡本祐之（2006）光免疫 紫外線による免疫抑制 ランゲルハンス細胞と紫外線免疫抑制. 日皮会誌 116: 2124-2126
12. 水野可魚，岡本祐之（2006）皮膚生検組織において肉芽腫性病変を認めた症例の検討. サルコイドーシス 26: 17-22

症例報告

1. 土井理左，為政大幾，伊庭仁樹，堀尾 武（2006）リンパ節転移を伴った悪性神経鞘腫（非 von Recklinghausen 病）の1例. 皮膚の科学 5: 420-423
2. 土井理左，岡本祐之，堀尾 武（2006）放射線皮膚炎のステロイド外用部位に出現した扁平黄色腫の1例. 臨皮 60: 52-54
3. 山中滋木，橋本洋子，岡本祐之，堀尾 武

(2006) 黄体ホルモンの製剤による薬剤性アナフィラキシーが疑われた1例. 皮膚の科学 5: 19-21

4. 山中滋木, 杉原 昭, 堀尾 武 (2006) 塩酸バンコマイシン誘発性線状 IgA 水疱性皮膚症の1例. 日皮会誌 116: 2285-2290
5. 佐々木浩子, 岡本祐之, 堀尾 武 (2006) アルコール性肝障害患者に発症した Unilateral Nevoid Telangiectasia. 皮膚の科学 5: 231-234
6. 梅原真紀子, 為政大幾, 大貫雅子, 村江美保, 堀尾 武, 大西雅之, 中 紀文, 荒木信人 (2006) 足底の胼胝内に生じた amelanotic melanoma. 皮膚の科学 5: 178-182
7. 太田 馨, 水野可魚, 為政大幾, 岡本祐之, 幸野 健, 堀尾 武 (2006) 関節リウマチの経過中に出現した Acquired Lymphangiectasia の2例. 日皮会誌 116: 209-214

学会発表

1. Adachi Y, Horio T, Yamazaki F, Uchida N and Matsuo T (2006) The therapeutic effect of topical vitamin D3 on psoriasis is not inactivated by phototherapy. 第9回日中合同皮膚科学会, 成都
2. Ota A, Mizuno K, Okamoto H and Horio T (2006) Generalized Granuloma Annulare Improved by Narrow Band UVB Therapy. 第9回日中合同皮膚科学会, 中国
3. 内田尚子, 水野可魚, 杉原 昭, 岡本祐之, 堀尾 武 (2006) Bier's stop の4症例. 第392回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪
4. 光井千慧, 為政大幾, 梅原真紀子, 村江美保, 堀尾 武, 黒川晃夫 (市立枚方市民) (2006) ステロイド内服にて加療した皮下脂肪組織炎様 T細胞リンパ腫. 第398回日本皮膚科学会大阪地方会, 兵庫
5. 村江美保, 岡本祐之, 堀尾 武 (2006) ストレプトマイシンによる接触じんましの1例. 第57回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 名古屋
6. 足立由香, 山崎文和, 内田尚子, 松尾智央, 堀尾 武 (2006) 尋常性乾癬治療におけるビタミンD3外用への紫外線療法の影響. 第57回日本皮膚科学会中部支部総会, 名古屋
7. 加藤典子, 為政大幾, 堀尾 武 (2006) 初診時に尿閉を生じていた外陰部に棘細胞癌. 第21回日本皮膚外科学会, 新潟
8. 大江秀一, 水野可魚, 岡本祐之, 堀尾 武 (2006) 塩酸ロメフロキサシンによるアナフィラキシーの1例. 第36回日本皮膚アレルギー学会総会・第31回日本接触皮膚炎学会総会合同学術大会, 兵庫
9. 筋師彩子, 水野可魚, 山本典雅, 岡本祐之, 堀尾 武 (2006) 特異な分布を示したミオナール (塩酸エペリゾン) による薬疹の1例. 第396回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪
10. 吉賀正亨, 小宮山豊, 寺岡安津子, 宗像真智子, 為政大幾, 正木浩哉, 堀尾 武, 高橋伯夫 (2006) D-ダイマーの異常高値を認めた悪性黒色腫の1例. 第7回日本検査血液学会学術集会, 東京
11. 堀尾 武 (2006) 紫外線と皮膚. 第105回日本皮膚科学会総会, 京都
12. 山本典雅, 水野可魚, 岡本祐之, 堀尾 武 (2006) 塵肺関連強皮症の1例. 第395回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪
13. 岡本祐之 (2006) 光免疫 紫外線による免疫抑制 ランゲルハンス細胞と紫外線免疫抑制. 第105回日本皮膚科学会総会, 京都
14. 山中滋木, 杉原 昭, 堀尾 武 (2006) 塩酸バンコマイシンとの関連が疑われた線状 IgA 水疱性皮膚症の1例. 第105回日本皮膚科学会総会, 京都
15. 足立由香, 為政大幾, 梅原真紀子, 山中滋木, 堀尾 武 (2006) Malignant Nodular Hidradenoma の1例. 日本皮膚悪性腫瘍学会, 京都
16. 村江美保, 為政大幾, 堀尾 武 (2006) 皮膚に多発転移した内臓原発平滑筋肉腫の1例. 第394回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪
17. 松尾智央, 為政大幾, 太田 馨, 梅原真紀子, 堀尾 武 (2006) 壊死性軟部組織感染症の3例. 日本皮膚外科学会, 大阪
18. 村江美保, 為政大幾, 堀尾 武 (2006) Infantile digital fibromatosis 4例

著書

1. 堀尾 武 (2006) 光皮膚科学—基礎から臨床へ— 1-317頁, 医学ジャーナル社, 大阪
2. 岡本祐之 (2006) サルコイドーシスにトラニ

- ラストは効くか. WHAT'S NEW in 皮膚科学 2006-2007 1(宮地良樹編)180-181頁, メディカルレビュー社, 東京
3. 岡本祐之 (2006) 皮膚. サルコイドーシスとその他の肉芽腫性疾患 1(安藤正幸, 四元秀毅編)108-116頁, 克誠堂出版, 東京
 4. 岡本祐之 (2006) リポイド類壊死症. 皮膚疾患最新の治療2007-2008(瀧川雅浩, 渡辺晋一編)109頁, 南江堂, 東京
 5. 尾崎元昭, 石井則久, 後藤正道, 野上玲子, 小野友道, 岡本祐之, 古川福実, 江藤隆史 (2006) ハンセン病アトラス診断のための指針 1(尾崎元昭, 石井則久, 後藤正道, 野上玲子, 小野友道, 岡本祐之, 古川福実, 江藤隆史編)1-70頁, 金原出版, 東京

泌尿器科学講座

〈研究業績〉

原 著

1. Yoshida K, Nishiyama H, Kinoshita H, Matsuda T and Ogawa O (2006) Surgical treatment for urethral recurrence after ileal neobladder reconstruction in patients with bladder cancer. *BJU Int* 98: 1008-1011
2. Inoue T, Segawa T, Shiraishi T, Yamada T, Kinukawa N, Yoshida T, Toda Y, Shimizu Y, Nakamura E, Kinoshita H, Kamoto T and Ogawa O (2006) High-grade and hormone-treated prostate cancer express high levels of thymidylate synthase. *BJU Int* 98: 197-200
3. Akamatsu S, Kinoshita H, Shimizu Y, Yoshimura K, Ito N, Kamoto T and Ogawa O (2006) Retroperitoneoscopic nephrectomy as a second-line treatment after transarterial embolization for symptomatic autosomal dominant polycystic kidney disease. *Hinyokika kiyo* 52: 947-950
4. Hamazaki K, Higashihara E, Terachi T, Takada H, Matsuda T, Kawakita M, Fuse H, Hamazaki T, Kameyama S, Masai M, Chiba Y, Tokunaga M, Furuya Y, Okegawa T, Murota T, Kawa G and Itomura M (2006) The effect of eicosapentaenoic acid on prostate-specific antigen. *In Vivo* 20: 397-402
5. Kawa G, Tatsumi M, Hiura Y, Muguruma K, Kinoshita H and Matsuda T (2006) Retroperitoneoscopic pyeloplasty: Using reconstructive methods based on intraoperative findings. *Int J Urol* 13: 1171-1174
6. Mitsumori M, Sasaki Y, Mizowaki T, Takayama K, Nagata Y, Hiraoka M, Negoro Y, Sasai K, Kinoshita H, Kamoto T and Ogawa O (2006) Results of radiation therapy combined with neo-adjuvant hormonal therapy for stage III prostate cancer: Comparison of two different definitions of PSA failure. *Int J Clin Oncol* 11: 396-402
7. 日浦義仁, 河源, 田中朋子, 地崎竜介, 安田鐘樹, 巽 一啓, 佐藤仁彦, 川喜多繁誠, 大口尚基, 岡田日佳, 六車光英, 室田卓之, 木下秀文, 松田公志 (2006) 腹腔鏡下根治的腎摘除術60例の検討. *Jpn J Endourol ESWL* 19: 76-81
8. 松田公志 (2006) 【より安全な泌尿器腹腔鏡手術をめざして 技術認定制度を踏まえて】泌尿器腹腔鏡基本手技 技術認定ビデオ審査結果から. *Jpn J Endourol ESWL* 19: 2-7
9. 松田公志 (2006) 【腹腔鏡手術vs ミニマム創手術 これからは始める泌尿器科医のために】手術における技術評価法. *Urol View* 4: 20-27
10. 大口尚基, 松田公志 (2006) 【前立腺肥大症 日常診療の視点から】Key words 前立腺肥大症とクリニカルパス, カレントセラピー 24: 385-387
11. 河源, 松田公志 (2006) 【メタボリックシンドローム】メタボリックシンドロームとテストステロンおよび男性更年期障害. 最新医 61 (6月増刊): 1439-1445
12. 六車光英, 松田公志 (2006) 【産婦人科 インフォームド・コンセントの実例】婦人科(内分泌・不妊)精巣内精子採取術 (TESE). 産と婦 73: 153-156
13. 木下秀文 (2006) 【最新 甲状腺・副甲状腺・

副腎の手術】腹腔鏡下副腎摘出術. 手術 60: 1973-1978

14. 日浦義仁, 六車光英, 松田公志 (2006) 【成人期に達した小児外科術後症例の諸問題】鼠径ヘルニア術後精管閉塞の診断と治療. 小児外科 38: 1231-1234
15. 木下秀文, 松田公志 (2006) 【内分泌性高血圧症 診断と治療の進歩】内分泌性高血圧症の治療 副腎性高血圧の外科的治療の現状. 日内会誌 95: 689-694
16. 松田公志, 小野佳成, 寺地敏郎, 内藤誠二, 馬場志郎, 三木恒治 (2006) 泌尿器腹腔鏡技術認定制度の現状と将来. 日内視鏡外会誌 11: 131-136
17. 河原, 巽 一啓, 松田公志 (2006) 【内分泌症候群 (第2版) その他の内分泌疾患を含めて】その他 PADAM. 日臨 別冊 (内分泌症候群3): 559-564
18. 六車光英, 松田公志 (2006) 【内分泌症候群 (第2版) その他の内分泌疾患を含めて】男性性機能 造精機能, 精子輸送, 性機能障害による男性不妊症 精索静脈瘤. 日臨 別冊 (内分泌症候群2): 268-270
19. 松田公志 (2006) 【新人ナース必見! イラストでわかる! 泌尿器科疾患ノート】男性不妊症. 泌ケア 11: 600-602
20. 木下秀文, 佐藤仁彦, 地崎竜介, 河原, 六車光英, 松田公志 (2006) 関西医大における腹腔鏡下神経温存膀胱全摘除術および回腸新膀胱造設術の経験. 泌紀 52: 231-234
21. 木下秀文, 河原, 日浦義仁, 大口尚基, 壇野祥三, 六車光英, 松田公志 (2006) 【前立腺がん放射線療法の進歩】Salvage 放射線療法・手術と放射線療法の比較 関西医大における前立腺全摘除術後の biochemical failure に対する salvage 放射線療法の治療成績. 泌外 19: 959-962

症例報告

1. 吉田健志, 中村英二郎, 川原貴史, 井上高光, 澤崎晴武, 神波大己, 吉村耕治, 高橋 毅, 清川岳彦, 西山博之, 伊藤哲之, 賀本敏行, 小川 修 (2006) 鼠径部腫瘍を契機に発見された Myxoid liposarcoma の1例. 泌紀 52: 727-731

学会発表

1. Yoshida K, Kinoshita H, Kawa G, Yasuda K, Kwakita S, Hiura Y, Muguruma K, Murota T and Matsuda T (2006) Laparoscopic partial cystectomy for treatment of bladder lesions. 第23回日韓泌尿器科会議, 奈良
2. 渡邊仁人, 乾 秀和, 河原, 木下秀文, 松田公志 (2006) 嚢腫状の変化を伴った副腎 adenomatoid tumor の1例. 第10回内視鏡下内分泌手術研究会, 京都
3. 安田鐘樹, 三島崇生, 巽 一啓, 河原, 木下秀文, 松田公志 (2006) トロカーポート部再発が疑われた尿管腫瘍の1例. 第197回日本泌尿器科学会関西地方会, 大阪
4. 伊藤将彰, 福井勝一, 小倉啓司 (2006) 急速に肝転移をおこした膀胱小細胞癌の1例. 第197回日本泌尿器科学会関西地方会, 大阪
5. 谷口久哲, 三島崇生, 内田潤二, 木下秀文 (2006) 神経繊維腫症I型患者に合併した後腹膜悪性神経鞘腫瘍の1例. 第197回日本泌尿器科学会関西地方会, 大阪
6. 中川雅之, 田上英毅, 岡村基弘, 吉田浩士, 上田朋宏 (2006) 尿失禁・膀胱痛治療に難渋した症例. 第197回日本泌尿器科学会関西地方会, 大阪
7. 矢西正明, 川喜多繁誠, 福井勝也, 島田 治, 杉 素彦, 室田卓之, 志賀淑子, 播磨洋子, 松田公志 (2006) I-125 シードを用いた前立腺癌密閉小線源永久挿入治. 第197回日本泌尿器科学会関西地方会, 大阪
8. 渡邊仁人, 乾 秀和, 福井勝一, 巽 一啓, 増田朋子, 河原, 木下秀文, 松田公志 (2006) 重複腎盂尿管における後腹膜鏡下上腎摘除術の経験. 第19回日本内視鏡外科学会総会, 京都
9. 岡田英孝, 宮城博恵, 馬場真有美, 川畑仁美, 小野淑子, 松岡 進, 安田勝彦, 日浦義仁, 六車光英, 松田公志, 神崎秀陽 (2006) 大学病院での産婦人科と泌尿器科による生殖医療センターの共同運用について. 第51回日本生殖医学会総会・学術講演会, 大阪
10. 日浦義仁 (2006) 関西医科大学における精路再建術—精路閉塞原因の最近の動向もふくめて—, 第51回日本生殖医学会総会・学術講演会, 大阪

11. 日浦義仁, 六車光英, 地崎竜介, 松田公志 (2006) 最近経験した先天性精路奇形による閉塞性無精子症の3例. 第51回日本生殖医学会総会・学術講演会, 大阪
12. 日浦義仁 (2006) 不妊症外科的手術のトピックス 関西医科大学における精路再建術 精路閉塞原因の最近の動向もふくめて. 第51回日本生殖医学会総会・学術講演会, 大阪
13. 河原, 巽 一啓, 長谷善明, 木下秀文, 松田公志 (2006) 男性更年期外来受診患者における精神症状について自己評価式抑うつ性尺度 (SDS) を用いた検討. 第6回日本Men's Health医学会, 東京
14. 松田公志 (2006) 腹腔鏡下腎部分切除術: 腎動脈阻血術. 第8回浜松泌尿器科手術手技研究会, 静岡
15. 松田公志 (2006) 泌尿器腹腔鏡手術: 技術認定と基本手技. 東京女子医科大学人泌尿器癌研究会, 東京
16. 乾 秀和, 吉田健志, 増田朋子, 地崎竜介, 渡邊仁人, 日浦義仁, 大口尚基, 河原, 木下秀文, 松田公志 (2006) 鏡視下手術および開放手術による根治的腎摘除術の臨床病期T1・T2での検討. 第20回日本Endourology・ESWL学会, 大阪
17. 吉田健志, 大口尚基, 山本奈恵, 井上貴明, 木下秀文, 松田公志 (2006) 尿失禁・性器脱に対する最小侵襲手術と治療成績 当教室での性器脱手術の臨床的検討. 第20回日本Endourology・ESWL学会, 大阪
18. 松田公志 (2006) 泌尿器腹腔鏡技術認定制度: 2年間の報告. 第20回日本Endourology・ESWL学会, 大阪
19. 増田朋子, 山本奈恵, 吉田健志, 地崎竜介, 日浦義仁, 大口尚基, 河原, 木下秀文, 松田公志 (2006) 腹腔鏡下前立腺全摘出術の治療成績 関西医大6年間の検討. 第20回日本Endourology・ESWL学会, 大阪
20. 大口尚基, 吉田健志, 木下秀文, 松田公志 (2006) 女性性器脱・尿失禁に対する新しいMinimally Invasive Therapy 性器脱に対する腹腔鏡下手術. 第20回日本Endourology・ESWL学会, 大阪
21. 地崎竜介, 山本奈恵, 吉田健志, 増田朋子, 佐藤仁彦, 大口尚喜, 日浦義仁, 河原, 木下秀文, 松田公志 (2006) 腎盂尿管腫瘍に対する腎尿管全摘後の膀胱内再発に関する検討. 第20回日本Endourology・ESWL学会, 大阪
22. 中川雅之, 吉田浩志, 田上英毅, 岡本基弘, 上田朋宏 (2006) 経尿道的膀胱水圧拡張術時の間質性膀胱炎の内視鏡所見, 潰瘍部焼灼術についての検討. 第20回日本Endourology・ESWL学会, 大阪
23. 福井勝一, 伊藤将彰, 小倉啓司, 長船 崇, 山田 仁 (2006) 副腎腫瘍 (マイクロアデノーマ) に対する腹腔鏡下手術の経験. 第20回日本Endourology・ESWL学会, 大阪
24. 木下秀文, 河原, 松田公志 (2006) 膀胱腫瘍に対する新しい手術戦略 腹腔鏡下膀胱部分切除術. 第20回日本Endourology・ESWL学会, 大阪
25. 松田公志, 伊藤直樹, 川喜田睦司, 繁田正信, 三股浩光 (2006) 泌尿器腹腔鏡ガイドライン委員会報告 腹腔鏡下腎尿管全摘除術のガイドライン. 第20回日本Endourology・ESWL学会, 大阪
26. 木下秀文, 増田朋子, 地崎竜介, 日浦義仁, 大口尚基, 安田鐘樹, 井上貴明, 川喜多繁誠, 六車光英, 河原, 松田公志 (2006) 関西医大における前立腺多数箇生検の臨床的検討. 第44回日本癌治療学会総会, 東京
27. 伊藤将彰, 福井勝一, 小倉啓司, 長船 崇 (2006) 当科における en bloc TUR-Bt の検討. 第56回日本泌尿器科学会中部総会, 名古屋
28. 乾 秀和, 木下秀文, 渡邊仁人, 山本奈恵, 吉田健志, 増田朋子, 地崎竜介, 日浦義仁, 大口尚基, 河原, 松田公志 (2006) 当科における腎盂尿管癌のリンパ節郭清pN陽性症例. 第56回日本泌尿器科学会中部総会, 名古屋
29. 吉田健志, 大口尚基, 山本奈恵, 増田朋子, 地崎竜介, 乾 秀和, 渡邊仁人, 日浦義仁, 河原, 木下秀文, 松田公志 (2006) 女性尿失禁手術TVT・TOT手術の臨床的検討. 第56回日本泌尿器科学会中部総会, 名古屋
30. 吉田浩志, 中川雅彦, 田上英毅, 岡村基弘, 上田朋宏 (2006) 疾患を限定しない男性専門外来の開設とその実績について. 第56回日本泌尿器科学会中部総会, 名古屋

31. 大口尚基, 吉田健志, 木下秀文, 松田公志 (2006) 女性性器脱に対する手術. 第56回日本泌尿器科学会中部総会, 名古屋
32. 巽 一啓 (2006) 男性更年期患者の QOL. 第56回日本泌尿器科学会中部総会, 名古屋
33. 檀野祥三, 中谷 浩, 大原 孝, 松下嘉明 (2006) 経直腸的前立腺生検の臨床的検討. 第56回日本泌尿器科学会中部総会, 名古屋
34. 地崎竜介, 山本奈恵, 増田朋子, 日浦義仁, 大口尚基, 河源, 木下秀文, 松田公志 (2006) 前立腺癌の局在診断における MRI 検査の有用性についての検討. 第56回日本泌尿器科学会中部総会, 名古屋
35. 渡邊仁人, 河 源, 巽 一啓, 川喜多繁誠, 日浦義仁, 安田鐘樹, 地崎竜介, 増田朋子, 井上貴昭, 六車光英, 木下秀文, 松田公志 (2006) 後腹膜鏡下腎盂形成術における術後腎機能の臨床的検討. 第56回日本泌尿器科学会中部総会, 名古屋
36. 島田 治, 福井勝也, 矢西正明, 川喜多繁誠, 杉 素彦, 芦田 眞, 室田卓之, 四方伸明, 松田公志 (2006) FMD(Fibromuscular dysplasia)による腎動脈瘤破裂の一例. 第56回日本泌尿器科学会中部総会, 名古屋
37. 地崎竜介, 河 源, 木下秀文, 松田公志 (2006) 関西医大における性同一性障害患者の診療. 日本性機能学会 - 第17回学術総会, 京都
38. 日浦義仁, 六車光英, 地崎竜介, 木下秀文, 松田公志 (2006) 小児期鼠径ヘルニア手術後の精管閉塞に対する精路再建術の検討. 第29回日本生殖外科学会, 東京
39. 地崎竜介, 河源, 木下秀文, 松田公志 (2006) 関西医大における性同一性障害患者の診療. 第10回関西泌尿器研究会, 大阪
40. 島田 治 (2006) 香川大学医学部における二年間の活動報告 HGS-ETR2 による抗腫瘍効果の検討. 第10回関西泌尿器研究会, 大阪
41. 地崎竜介, 河源, 木下秀文, 松田公志 (2006) 性同一性障害患者における診療の経験. 第16回日本性機能学会中部総会, 大阪
42. 福永幹彦, 阿部哲也, 水野泰行, 神原憲治, 中井吉英, 入澤 聡, 木下 洋, 飯田寛和, 松田公志 (2006) OSCEの医療面接評価とクラークシップ時のコミュニケーション能力評価との関係. 第38回医学教育学会, 奈良
43. 室田卓之 (2006) 血尿と尿路悪性疾患. 北河内学術講演会, 大阪
44. 山本奈恵, 井上貴昭, 川喜多繁誠, 大口尚基, 六車光英, 河源, 木下秀文, 松田公志 (2006) 前立腺癌内分泌療法中, PSAの上昇を伴わない多発性転移で死亡した1例. 第195回日本泌尿器科学会関西地方会, 大阪
45. 矢西正明, 駒井資弘, 島田 治, 川端和史, 大口尚基, 土井 浩, 内田潤二, 室田卓之, 大原 孝 (2006) 1986年から2005年における関西医科大学附属香里病院の手術症例集計報告. 第195回日本泌尿器科学会関西地方会, 大阪
46. 大口尚基, 川喜多繁誠, 日浦義仁, 木下秀文, 松田公志 (2006) 干渉低周波刺激療法の QOR 調査. 第19回日本老年泌尿器科学会, 東京
47. 中川雅之, 伊藤靖彦, 吉田浩士, 上田明宏, 齋藤亮一, 西川信之 (2006) 間質性膀胱炎患者の発症・診断年齢, 尿路感染時の下部尿路症状. 第19回日本老年泌尿器科学会, 東京
48. 木下秀文, 増田朋子, 河源, 松田公志 (2006) 泌尿器科領域の低侵襲手術の現状 (ミニマム創, 鏡視下手術) 腹腔鏡下前立腺全摘出術の治療成績. 第31回日本外科系連合会学術集会, 金沢
49. 地崎竜介 (2006) 性腺外胚細胞腫の1例. 第6回北河内泌尿器科懇話会, 大阪
50. 福井勝也 (2006) 治療方法に苦慮した腎外傷の1例. 第6回北河内泌尿器科懇話会, 大阪
51. 松田公志 (2006) 泌尿器腹腔鏡手術～技術認定で求められる基本手技を中心に～. 第7回高知県泌尿器手術手技研究会, 高知
52. 大口尚基 (2006) 子宮全摘術後の陰断端脱に対する腹腔鏡下陰断端仙骨固定術の経験. 第8回日本骨盤底医学会, 北海道
53. 河 源, 井上貴昭, 増田朋子, 地崎竜介, 安田鐘樹, 日浦義仁, 大口尚基, 木下秀文, 松田公志 (2006) 手術適応決定に苦慮した原発性アルドステロン症の2例. 第18回日本内分泌外科学会, 岐阜
54. 松田公志, 河 源, 巽 一啓 (2006) 男子更年期の臨床的問題点 男性更年期障害の診断. 第79回日本内分泌学会学術総会, 神戸

55. 松田公志, 河 源, 巽 一啓, 日浦義仁 (2006) Aging Male の視点から見た ED 老人と性 男性更年期外来受診患者に対するホルモン補充療法の意義と問題点. 日本性機能学会—第17回学術総会, 神戸
 56. 安田鐘樹, 河 源, 地崎竜介, 六車光英, 木下秀文, 松田公志 (2006) 腎動脈阻血下腹腔鏡下腎部分切除術後の腎機能評価. 第94回日本泌尿器科学会総会, 福岡
 57. 河 源, 巽 一啓, 川喜多繁誠, 六車光英, 木下秀文, 松田公志, 浦上昌也, 榎木 勇 (2006) 健康中年男性におけるテストステロン値および男性更年期症状に関する検討. 第94回日本泌尿器科学会総会, 福岡
 58. 松田公志 (2006) 泌尿器腹腔鏡技術認定制度の現状と将来. 第94回日本泌尿器科学会総会, 福岡
 59. 増田朋子, 木下秀文, 井上貴昭, 地崎竜介, 安田鐘樹, 川喜多繁誠, 日浦義仁, 六車光英, 松田公志 (2006) 前立腺多数箇所生検の成績. 第94回日本泌尿器科学会総会, 福岡
 60. 大口尚基, 井上貴昭, 川喜多繁誠, 日浦義仁, 木下秀文, 嘉村康邦, 松田公志 (2006) 子宮全摘術後の腔断端端に対する腹腔鏡下腔断仙骨固定術の経験. 第94回日本泌尿器科学会総会, 福岡
 61. 地崎竜介, 福井勝也, 三島崇生, 安田鐘樹, 佐藤仁彦, 川喜多繁誠, 日浦義仁, 大口尚基, 河 源, 六車光英, 木下秀文, 松田公志 (2006) 術前MRIの有用性について 当院における前立腺生検の検討. 第94回日本泌尿器科学会総会, 福岡
 62. 日浦義仁, 河 源, 増田朋子, 川喜多繁誠, 六車光英, 木下秀文, 川喜田睦司, 松田公志 (2006) 腹腔鏡下手術時の癌細胞血管内播種の可能性について RT-PCR 法による末梢血液中腫瘍関連物質の検出による検討. 第94回日本泌尿器科学会総会, 福岡
 63. 木下秀文, 安田鐘樹, 地崎竜介, 井上貴昭, 川喜多繁誠, 大口尚基, 河 源, 六車光英, 松田公志 (2006) 腹腔鏡下膀胱部分切除術. 第94回日本泌尿器科学会総会, 福岡
 64. 木下秀文, 河 源, 六車光英, 松田公志 (2006) 腎癌に対する体腔鏡下腎部分切除術 腎動脈の血流遮断による腹腔鏡下腎部分切除術. 第94回日本泌尿器科学会総会, 福岡
 65. 河 源, 巽 一啓, 川喜多繁誠, 六車光英, 木下秀文, 松田公志 (2006) 本学男子学生および健康中年男性における男性更年期障害診断質問票の回答結果の検討. 第122回関西医科大学学内学術集談会, 大阪
 66. 日浦義仁, 六車光英, 増田朋子, 地崎竜介, 木下秀文, 松田公志 (2006) 小児期鼠径ヘルニア手術の既往を有する先天性精路奇形による閉塞性無精子症の2例. 第32回関西アンドロロジーカンファレンス, 大阪
 67. 安田鐘樹 (2006) 浸潤性膀胱癌 (膀胱全摘除術) の治療成績. 第5回KKUC, 香川
 68. 山本奈恵 (2006) 回腸新膀胱造設術後の尿道再発の検討. 第5回KKUC, 香川
 69. 矢西正明 (2006) 表在性膀胱癌の治療成績. 第5回KKUC, 香川
 70. 増田朋子, 井上貴昭, 日浦義仁, 河 源, 六車光英, 木下秀文, 松田公志, 川端和史 (2006) 65歳非セミノーマ精巣胚細胞腫瘍の1例. 第194回日本泌尿器科学会関西地方会, 和歌山
 71. 松田公志 (2006) 男性にもある更年期障害～男性ホルモン補充療法の効果と副作用～. 第8回関西医科大学市民公開講座, 大阪
 72. 大口尚基 (2006) 腹腔鏡下腔断仙骨固定術. 第25回泌尿器科手術研究会, 神戸
 73. 大口尚基 (2006) 女性骨盤底の解剖と失禁の機序. 第25回泌尿器科手術研究会, 神戸
- 著 書
1. 松田公志 (2006) 19. 泌尿器疾患 精索静脈瘤. TODAY'S THERAPY 2007 今日の治療指針 813-814頁, 医学書院, 東京
 2. 室田卓之 (2006) 風邪で薬をのんでるうちに尿が出なくなった 第2章高齢者編. シミュレーションで学ぶ救急対応マニュアル2 56-58頁, 羊土社, 東京
 3. 松田公志 (2006) 第19章 染色体異常による男性不妊. 新編 精子学 379-397頁, 東京大学出版社, 東京
 4. 松田公志, 六車光英, 日浦義仁 (2006) 閉塞性無精子症に対するART. 図説ARTマニュアル 320-323頁, 永井書店, 大阪

5. 木下秀文, 松田公志 (2006) 第3節 手術適応
開放手術と腹腔鏡手術の適応. 内分泌外科標準テキスト 251-256 頁, 日本内分泌外科学会, 東京
6. 松田公志 (2006) 泌尿器科疾患ノート 特集
15 男性不妊症. 泌尿器ケア 52-54 頁, メディカ出版, 大阪
7. 木下秀文, 河源, 松田公志 (2006) 小細胞癌の治療. 泌尿器疾患治療の新しいストラテジー 162-167 頁, メジカルビュー社, 東京

眼科学講座

〈研究業績〉

原著

1. Kiyozuka Y, Yamamoto M, Matsuyama T, Miki K, Tsukamoto R, Shimano N and Tsubura A (2006) Synchronous granular cell tumor of the bladder, endometrial carcinoma and endometrial stromal sarcoma. *Asia Pacific J Clin Oncol* 2: 64-67
2. Ikebukuro K, Adachi Y, Suzuki Y, Iwasaki M, Nakano K, Koike Y, Mukaide H, Yamada Y, Fujimoto S, Seino Y, Oyaizu H, Shigematsu A, Kiriya N, Hamada Y, Kamiyama Y and Ikehara S (2006) Synergistic effects of injection of bone marrow cells into both portal vein and bone marrow on tolerance induction in transplantation of allogeneic pancreatic islets. *Bone Marrow Transplant* 38: 657-664
3. Ogata N, Nomura S, Shouzu A, Imaizumi M, Arichi M and Matsumura M (2006) Elevation of monocyte-derived microparticles in patients with diabetic retinopathy. *Diabetes Res Clin Pract* 73: 241-248
4. Uehara N, Miki K, Tsukamoto R, Matsuoka Y and Tsubura A (2006) Nicotinamide blocks N-methyl-N-nitrosourea-induced photoreceptor cell apoptosis in rats through poly (ADP-ribose) polymerase activity and Jun N-terminal kinase/activator protein-1 pathway inhibition. *Exp Eye Res* 82: 488-495
5. Matsuoka M, Ogata N, Minamino K, Higuchi A and Matsumura M (2006) High levels of pigment epithelium-derived factor in the retina of a rat model of type 2 diabetes. *Exp Eye Res* 82: 172-178
6. Miki K, Yoshizawa K, Shikata N, Yuri T, Matsuoka Y and Tsubura A (2006) Effects of gender and gonad status on N-methyl-N-nitrosourea-induced cataractogenesis and retinopathy in Lewis rats. *In Vivo* 20: 5-10
7. Higuchi A, Ogata N, Jo N, Wada M and Matsumura M (2006) Pars plana vitrectomy with removal of posterior hyaloid face in treatment of refractory diabetic macular edema resistant to triamcinolone acetonide. *Jpn J Ophthalmol* 50: 529-531
8. Matsuoka M, Ogata N, Minamino K, Matsumura M (2006) Expression of pigment epithelium-derived factor and vascular endothelial growth factor in fibrovascular membranes from patients with proliferative diabetic retinopathy. *Jpn J Ophthalmol* 50: 116-120
9. Yuri T, Tsukamoto R, Miki K, Uehara N, Matsuoka Y and Tsubura A (2006) Biphasic effects of zeranol on the growth of estrogen receptor-positive human breast carcinoma cells. *Oncol Rep* 16: 1307-1312
10. Zhang Y, Adachi Y, Suzuki Y, Minamino K, Iwasaki M, Nakano K, Koike Y, Mukaide H, Shigematsu A, Kiriya N, Li C and Ikehara S (2006) Synergistic effects of granulocyte-colony stimulating factor and macrophage-colony stimulating factor on recovery of donor hematopoietic cells in allogeneic bone marrow transplantation. *Oncol Rep* 16: 367-371
11. Zhang Y, Adachi Y, Iwasaki M, Minamino K, Suzuki Y, Nakano K, Koike Y, Mukaide H, Shigematsu A, Kiriya N, Li C and Ikehara S (2006) G-CSF and/or M-CSF accelerate differentiation of bone marrow cells into endothelial progenitor cells in vitro. *Oncol Rep* 15: 1523-1527

12. Adachi Y, Oyaizu H, Taketani S, Minamino K, Yamaguchi K, Shultz L D, Iwasaki M, Tomita M, Suzuki Y, Nakano K, Koike Y, Yasumizu R, Sata M, Hiramata N, Kubota I, Fukuhara S and Ikehara S (2006) Treatment and transfer of emphysema by a new bone marrow transplantation method from normal mice to Tsk mice and vice versa. *Stem Cells* 24: 2071-2077
13. Nakano K, Adachi Y, Minamino K, Iwasaki M, Shigematsu A, Kiriya N, Suzuki Y, Koike Y, Mukaide H, Taniuchi S, Kobayashi Y, Kaneko K and Ikehara S (2006) Mechanisms underlying acceleration of blood flow recovery in ischemic limbs by macrophage colony-stimulating factor. *Stem Cells* 24: 1274-1279
14. 和田光正, 松村美代 (2006) 【糖尿病眼合併症の診療指針】その他の眼合併症 新生血管緑内障 予防と早期治療. *眼ブラクティス* 7: 178-183
15. 高橋寛二 (2006) 【眼底アトラス】疾患アトラス 眼底疾患 multifocal choroiditis with panuveitis. *眼ブラクティス* 12: 238
16. 高橋寛二 (2006) 【眼底アトラス】疾患アトラス 眼底疾患 punctate inner choroidopathy (PIC). *眼ブラクティス* 12: 237
17. 高橋寛二 (2006) 【眼底アトラス】疾患アトラス 眼底疾患 地図状脈絡膜炎. *眼ブラクティス* 12: 236
18. 高橋寛二 (2006) 【眼底アトラス】疾患アトラス 眼底疾患 急性後極部多発性斑状色素上皮症 (APMPPE). *眼ブラクティス* 12: 235
19. 高橋寛二 (2006) 【眼底アトラス】疾患アトラス 眼底疾患 急性網膜色素上皮炎. *眼ブラクティス* 12: 234
20. 高橋寛二 (2006) 【眼底アトラス】疾患アトラス 眼底疾患 散弾状脈絡網膜症. *眼ブラクティス* 12: 233
21. 埴本 慎 (2006) 【眼底アトラス】疾患アトラス 眼底疾患 硝子体黄斑界面症候群. *眼ブラクティス* 12: 184-186
22. 高橋寛二 (2006) 【眼底アトラス】疾患アトラス 眼底疾患 低眼圧黄斑症・網膜症. *眼ブラクティス* 12: 162
23. 高橋寛二 (2006) 【眼底アトラス】疾患アトラス 眼底疾患 中心性滲出性脈絡網膜症 (特発性脈絡膜新生血管). *眼ブラクティス* 12: 158-159
24. 安藤 彰 (2006) 【緑内障診療の進めかた】Topics 神経保護の戦略. *眼ブラクティス* 11: 370-372
25. 南部裕之, 松村美代 (2006) 【緑内障診療の進めかた】管理の基本と要点 手術治療 術式の実際と効果 白内障手術との併施. *眼ブラクティス* 11: 321-325
26. 三木弘彦, 中嶋基麿, 南川美登里, 稲本裕一, 佐々本ひとみ, 西川睦彦, 三木克朗 (2006) ミロル点眼薬の長期投与による臨床評価. *眼臨医報* 100: 20-23
27. 大山奈美, 佐々木奈穂, 松原敬忠, 星野 健, 松永裕史 (2006) 関西医大香里病院のボツリヌス毒素治療経験. *眼臨医報* 100: 407-408
28. 星野 健, 大山奈美, 松原敬忠, 松永裕史 (2006) 関西医大香里病院の裂孔原性網膜剥離手術成績. *眼臨医報* 100: 945-947
29. 尾辻 剛, 津村晶子, 高橋寛二, 正健一郎, 永井由巳, 福地俊雄, 有澤章子, 松村美代 (2006) 自然経過観察中に classic 脈絡膜新生血管の所見を示したポリープ状脈絡膜血管症の検討. *日眼会誌* 110: 454-461
30. 尾辻 剛, 高橋寛二, 正健一郎, 福地俊雄, 津村晶子, 松村美代 (2006) 視力が保持された中心窩を含む網膜色素上皮裂孔の光干渉断層計所見. *日眼会誌* 110: 218-225
31. 小林香陽, 藤岡義人, 高橋寛二, 松村美代 (2006) B 群溶連菌による心内膜炎が原因であった内因性転移性眼内炎. *日眼会誌* 110: 199-204
32. 山田晴彦, 山田英里, 松田秀幸 (2006) 超音波乳化吸引術における超音波連続発振モードとインクリメンタルパルスモードとの前向き検討による比較. *臨眼* 60: 1937-1942

総 説

1. 南部裕之 (2006) GLAUCOMA Q&A 急性原発閉塞隅角緑内障の治療方針. *Fronti Glaucoma* 7: 106-109
2. 永井由巳 (2006) 光線力学的療法 (PDT) セミナー「狭義滲出型加齢黄斑変性の診断」. あ

たらしい眼科 23: 1303-1304

3. 高橋寛二 (2006) 【光線力学的療法の現状】画像読影の基本. 眼科 48: 1203-1213
4. 南部裕之, 松村美代 (2006) 【手術教育】緑内障手術. 眼科 48: 441-449
5. 西村哲哉 (2006) ケアに生かす 手術アトラス 外傷性網膜剥離. 眼ケア 8: 265-269
6. 西村哲哉 (2006) ケアに生かす 手術アトラス 外傷性硝子体出血. 眼ケア 8: 161-165
7. 松村美代 (2006) 学会報告「第44回網膜硝子体学会」を主催して 2006年3月. 大阪府眼科医会会報 35-36
8. 松村美代 (2006) 手術のタイミングとポイント コラム 手術の環境整備. 臨眼 60 (11増刊号): 95

症例報告

1. Yuri T, Shimano N, Ohashi Y, Miki K, Tsukamoto R and Tsubura A (2006) An autopsy case of primary mixed choriocarcinoma and mature teratoma located in the thymic region associated with elevated human chorionic gonadotropin levels and characteristic testicular changes. Med Mol Morphol 39: 49-53
2. 南野桂三, 足立 靖, 植村芳子, 坂井田紀子, 草深公秀, 長岡三穂, 鈴木康弘, 岩崎真佳, 松村美代, 池原進 (2006) 食道粘膜下腺腫の1症例. 診断病理 23: 46-48
3. 山田晴彦, 山田英里, 山田日出美 (2006) 続発性緑内障に対してシメソトミー併用トラベクトミーを行った3例. 臨眼 60: 787-791
4. 山田晴彦, 山田英里 (2006) 虚血性視神経症を再三起こしたにもかかわらず視力が比較的良好に保たれた高血圧症の1例. 臨眼 60: 519-524
5. 大山奈美, 高橋寛二, 松原 孝, 寺井実知子, 河合江実, 松村美代, 山本千加子 (2006) Unilateral acute idiopathic maculopathyの1例. 臨眼 60: 1825-1829
6. 山田晴彦, 山田英里 (2006) 網膜内境界膜下血腫と黄斑円孔を形成した網膜細動脈瘤の2例. 臨眼 60: 1819-1823

学会発表

1. Matsuyama K, Ogata N, Wada M, Minamino K, Koriyama M, Higuchi A and Matsumura M (2006) Trans-Tenon's Retrobulbar Injection of Triamcinolone Acetonide for Diffuse Diabetic Macular Edema. X VII International Congress of Eye Research, Buenos Aires
2. Kaneko S, Ando A, Okuda-Ashitaka E, Matsumura M and Ito S (2006) Ornithine cytotoxicity for human pigment epithelial cells is mediated by cationic amino acid transporter I (CAT-1). 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FOBBM Congress, 京都
3. Ogata N, Nomura S, Imaizumi M, Shozu A, Arichi M and Matsumura M (2006) Elevation of Monocyte-Derived Microparticles in Patients with Diabetic Retinopathy. Association for Research in Vision and Ophthalmology 2006 Annual Meetin, Fort, Lauderdale, Florida
4. Yamada H, Minamino K, Yamada E, Higuchi A and Matsumura M (2006) Bone marrow transplantation into the vitreous cavity augmented vascular recanalization after hyperoxic vascular drop-outs. Association for Research in Vision and Ophthalmology 2006 Annual Meetin, Fort Lauderdale, Florida
5. Ando A, Kiriya N, Kaneko S, Nishimura T and Matsumura M (2006) Aquaporin Gene Expression in Trabecular Meshwork Cells. Association for Research in Vision and Ophthalmology 2006 Annual Meeting, Fort Lauderdale, Florida
6. Ando A, Arai E, Kawai E, Akioka M, Kiriya N, Kiuchi K, Matsui Y, Nakae K and Matsumura M (2006) A Case of The Maxillary Sinus Malignant Melanoma That Was Found With Abducent Nerve Paralysis. XVI International Neuro-ophthalmology Society Meeting, 東京
7. Kimura M, Ogata N, Higuchi A, Jo N, Wada M and Matsumura M (2006) Pars Plana Vitrectomy with Removal of Posterior Hyaloid Face in Treatment of Refractory Diabetic Macular Edema Resistant to Triamcinolone Acetonide. XVII International Congress of Eye Research,

- Buenos Aires, Argentina
8. Ogata N, Imaizumi M, Kurokawa H, Arichi M and Matsumura M (2006) Optic Nerve Compression by Normal Carotid Artery in Patients with Normal Tension Glaucoma. XVII International Congress of Eye Research, Buenos Aires, Argentina
 9. 安藤 彰, 小池直子, 新井英子, 河合江実, 秋岡真砂子, 高橋寛二, 松井淑江, 松村美代 (2006) 視神経炎の経過中に眼球突出を呈して診断がついた視神経髄膜腫の一例. 第355回大阪眼科集談会, 大阪
 10. 難波奈々, 有澤章子, 永井由巳, 高橋寛二, 松村美代 (2006) 傾斜乳頭症候群にポリープ状脈絡膜血管症を合併した1症例. 第355回大阪眼科集談会, 大阪
 11. 重松明男, 足立 靖, 松本憲明, 小柳津治樹, 桐山直子, 向出裕美, 今村雅寛, 福原資郎, 池原 進 (2006) 同種骨髄移植後に急性腎不全を発症した一剖検例. 第35回日本病理学会近畿支部学術集会, 京都
 12. Nakano K, Adachi Y, Hisha H, Koike Y, Mukaide H, Kiriya N and Ikehara S (2006) 移植と免疫抑制 (NZW × BXSB)F1 マウスからのドナー由来未熟B細胞白血病細胞株の確立. 第36回日本免疫学会・学術集会, 大阪
 13. Shigematsu A, Adachi Y, Kiriya N, Mukaide H, Koike Y, Nakano K and Ikehara S (2006) 腫瘍抗原とそれを用いた抗腫瘍免疫制御法 ヒト正常組織におけるサイトグロブリンの発現相違. 第36回日本免疫学会総会・学術集会, 大阪
 14. Mukaide H, Adachi Y, Nakano K, Koike Y, Kiriya N, Shigematsu A and Ikehara S (2006) Immunotherapy for malignant tumors using combination of IBM-BMI, DLI and dendritic cells. 第36回日本免疫学会総会学術集会, 大阪
 15. 高橋寛二, 宇山昌延, 永井由巳, 正健一郎, 津村晶子, 松村美代 (2006) 放射状配列を示す家族性ドルーゼン Mallatia Leventinese の臨床像. 第45回日本網膜硝子体学会総会, 東京
 16. 緒方奈保子, 松山加耶子, 嶋千絵子, 松永裕史, 和田光正, 城 信雄, 松村美代 (2006) 糖尿病網膜症患者の血中 Pigment Epithelium-Derived Factor(PEDF)と腎機能. 第45回日本網膜硝子体学会総会, 東京
 17. 松山加耶子, 西村哲哉, 國富 薫, 埴本 慎 (2006) 25G 経結膜硝子体術後に生じた細菌性眼内炎の一例. 第45回日本網膜硝子体学会総会, 東京
 18. 木本高志, 西村哲哉, 國富 薫, 木村元貴, 大津弥生, 松村美代 (2006) 網膜静脈閉塞症に伴う黄斑浮腫に対する組織プラスミノゲン活性化因子治療. 第45回日本網膜硝子体学会総会, 東京
 19. 和田光正, 樋口暁子, 高橋寛二, 松村美代 (2006) 網膜過誤腫に脈絡膜新生血管を合併した1症例. 第45回日本網膜硝子体学会総会, 東京
 20. 埴本 慎, 和田光正, 松山加耶子, 西村哲哉, 松村美代 (2006) 裂孔原性網膜剥離に対する20G 硝子体手術と23G 硝子体手術 prospective studyの短期成績. 第45回日本網膜硝子体学会総会, 東京
 21. 松村美代 (2006) 開放隅角緑内障－視神経乳頭の見方から手術まで. 名古屋大学眼科集談会, 名古屋
 22. 北村 臣, 勝谷茂樹, 西野典宏, 西村泰典, 仲野俊成, 埴本 慎, 宮崎浩彰 (2006) データウェアハウス (DWH) からパスデータ抽出の試み－PDCAへの資料提示－. 第7回日本クリニカルパス学会学術集会, 熊本
 23. 正健一郎 (2006) 光線力学療法の実践. 北河内眼科PDTセミナー, 大阪
 24. 高橋寛二 (2006) PDT ケーススタディー加齢黄斑変性, こんなときどうする?－. 北河内眼科PDTセミナー, 大阪
 25. 高橋寛二 (2006) 加齢黄斑変性に対する光線力学療法－パターン別対処法－. 群馬県眼科医会学術講演会, 群馬
 26. 松山加耶子, 西村哲哉, 國富 薫, 埴本 慎 (2006) 25G 経結膜硝子体術後に生じた細菌性眼内炎の一例. 第354回大阪眼科集談会, 大阪
 27. 埴本 慎, 松山加耶子, 和田光正, 西村哲哉, 松村美代 (2006) 裂孔原性網膜剥離に対する20G硝子体手術と23G硝子体手術のProspective studyの短期成績. 第354回大阪眼科集談会, 大阪
 28. 永井由巳, 高橋寛二, 正健一郎, 有澤章子, 尾辻 剛, 津村晶子, 有馬由里子, 松村美代

- (2006) 大きい病変サイズを持つ症例に行った光線力学的療法の経過. 第45回日本網膜硝子体学会総会, 東京
29. 永井由巳, 高橋寛二, 沢 美喜, 五味 文, 張野正誉, 佐藤孝樹 (2006) インストラクションコース 上方流『黄斑塾』第3講. 第60回日本臨床眼科学会, 京都
 30. 山田晴彦, 山田英里, 松村美代 (2006) 緑内障, 高眼圧における角膜厚. 第60回日本臨床眼科学会, 京都
 31. 緒方奈保子, 松永裕史, 和田光正, 城 信雄, 嶋千絵子, 松山加耶子, 武田俊彦, 松村美代 (2006) 糖尿病網膜症と血中 Pigment Epithelium-Derived Factor(PEDF) 濃度. 第60回日本臨床眼科学会, 京都
 32. 松山加耶子, 西村哲哉, 南部裕之, 和田光正, 松村美代, 岡本好夫 (2006) 虹彩生検で診断が確定した悪性リンパ腫の一例. 第60回日本臨床眼科学会, 京都
 33. 松村美代 (2006) 安全確実な白内障手術教育. 第60回日本臨床眼科学会, 京都
 34. 城 信雄, 南部裕之, 松村美代 (2006) 完全な硝子体の郭清が有効であった悪性緑内障の2例. 第60回日本臨床眼科学会, 京都
 35. 正健一郎, 永井由巳, 有澤章子, 津村晶子, 尾辻 剛, 高橋寛二 (2006) 偽 Classic 病巣を示すポリープ状脈絡膜血管症の頻度と OCT 所見. 第60回日本臨床眼科学会, 京都
 36. 前西尚子, 和田光正, 松村美代 (2006) 予後良好であった YAG レーザーによる外傷性黄斑円孔. 第60回日本臨床眼科学会, 京都
 37. 南部裕之 (2006) 緑内障手術療法のブレイクスルー ビスコカナロストミーを検証する. 第60回日本臨床眼科学会, 京都
 38. 木本高志 (2006) 専門別研究会 レーザー眼科学 網膜静脈分枝閉塞症の治療方針. 第60回日本臨床眼科学会, 京都
 39. 有馬由里子, 高橋寛二, 永井由巳, 正健一郎, 有澤章子, 津村晶子, 松村美代 (2006) 視力不良例に行った光線力学的療法 (PDT) の成績. 第60回日本臨床眼科学会, 京都
 40. 埴本 慎, 松永裕史, 寺内博夫, 西村哲哉, 松村美代 (2006) 特発性黄斑円孔に対する 25G システム経結膜硝子体手術の成績. 第60回日本臨床眼科学会, 京都
 41. 加藤 聡, 高野雅彦, 安藤伸朗, 松村美代 (2006) インストラクションコース 糖尿病患者の治療方針—こんな時どうする. 第60回日本臨床眼科学会, 京都
 42. 高橋寛二 (2006) 滲出型加齢黄斑変性の病態と診断. 徳島眼科医療フォーラム, 徳島
 43. 高橋寛二 (2006) 加齢黄斑変性の診断と PDT による治療. 兵庫県西部勤務医部会, 兵庫
 44. 松永裕史 (2006) 白内障. 目の愛護デー, 大阪
 45. 西村哲哉 (2006) 25G 経結膜硝子体手術—ウエットラボから臨床まで—. 第12回大阪眼科手術シンポジウム, 大阪
 46. 杉本清美, 南部裕之, 城 信雄, 安藤 彰, 松村美代 (2006) 遊離結膜弁移植による濾過胞再建. 第17回日本緑内障学会, 神戸
 47. 南部裕之, 城 信雄, 畑埜浩子, 松村美代, 安藤 彰 (2006) Advanced Non-penetrating Trabeculectomy(AdNPT) の手術成績. 第17回日本緑内障学会, 神戸
 48. 高橋寛二 (2006) PDT ケーススタディーパターン別対処法—. 長崎眼科集談会, 長崎
 49. 城 信雄, 南部裕之, 松村美代 (2006) 完全な硝子体の郭清が必要であった悪性緑内障の2例. 第353回大阪眼科集談会, 大阪
 50. 南部裕之, 杉本清美, 城 信雄, 松村美代, 安藤 彰 (2006) 遊離結膜弁移植による濾過胞再建. 第353回大阪眼科集談会, 大阪
 51. 高橋寛二 (2006) PDT における術前視力不良例の考え方. 第8回 Japan Macula Club, 蒲郡
 52. 木内克治, 木本高志, 高橋寛二, 嶋千絵子, 西村哲哉, 松村美代 (2006) 特徴的な所見を示した食道癌原発の転移性虹彩腫瘍. スリーサム・イン米子 (第40回日本眼炎症学会), 米子
 53. 北川チエミ, 埴本 慎, 木本高志, 高橋寛二, 西村哲哉, 松村美代 (2006) 眼球摘出に至ったマイラゲル使用強膜内陥術後眼内炎の2症例. スリーサム・イン米子 (第40回日本眼炎症学会), 米子
 54. 松村美代 (2006) 糖尿病合併症の手術療法—新生血管緑内障を中心として—. 第21回 阪南眼科勉強会, 泉大津
 55. 高橋寛二 (2006) 治療部位の確定. 第9回 PDT 講習会, 東京

56. 高橋寛二 (2006) 関西医科大学附属枚方病院眼科における眼科診療システム. 枚方眼科病病連携の会, 枚方
57. 安藤 彰 (2006) ニブラジロールの転写因子 NF- κ B の活性化とアポトーシス関連遺伝子発現抑制を介した神経保護作用. 第112回京都眼科学会, 京都
58. 松山加耶子, 西村哲哉, 南部裕之, 和田光正, 松村美代 (2006) 虹彩の biopsy で診断が確定した悪性リンパ腫の1例. 第112回京都眼科学会, 京都
59. 杉本清美, 南部裕之, 城 信雄, 安藤 彰, 松村美代 (2006) 遊離結膜弁移植による濾過胞再建. 第112回京都眼科学会, 京都
60. 有馬由里子, 高橋寛二, 永井由巳, 正健一郎, 有澤章子, 津村晶子, 松村美代 (2006) 視力不良例に行った光線力学的療法の治療効果. 第112回京都眼科学会, 京都
61. 有澤章子, 高橋寛二, 永井由巳, 正健一郎, 津村晶子, 尾辻 剛, 松村美代 (2006) ポリープ状脈絡膜血管症に対する光線力学的療法の治療効果. 第112回京都眼科学会, 京都
62. 正健一郎, 高橋寛二, 永井由巳, 有澤章子, 津村晶子, 尾辻 剛, 西村哲哉 (2006) 光線力学療法 (PDT) 後に硝子体出血をきたした加齢黄斑変性 (AMD) の3症例. 第23回日本眼循環学会, 山梨
63. 有澤章子, 高橋寛二, 永井由巳, 正健一郎, 有馬由里子, 松村美代 (2006) 特発性黄斑円孔に合併したポリープ状脈絡膜血管症の2症例. 第23回日本眼循環学会, 山梨
64. 永井由巳, 高橋寛二, 正健一郎, 有澤章子, 松村美代 (2006) 13年の経過を経て中心性漿液性脈絡網膜症からポリープ状脈絡膜血管症を発症した症例. 第23回日本眼循環学会, 山梨
65. 高橋寛二 (2006) 滲出型加齢黄斑変性の病態と診断. 第2回兵庫県黄斑疾患研究会, 兵庫
66. 松村美代 (2006) スーパーローテイトにどう対処するか? 第45回日本白内障学会総会・第21回日本眼内レンズ屈折手術学会総会, 東京
67. 高橋寛二 (2006) PDT ケーススタディーパターン別対処法一. 第2回東京黄斑疾患研究会, 東京
68. 前西尚子, 和田光正, 松村美代 (2006) 予後良好であった YAG レーザーによる外傷性黄斑円孔. 第352回大阪眼科集談会, 大阪
69. 有馬由里子, 高橋寛二, 永井由巳, 正健一郎, 有澤章子, 津村晶子, 松村美代 (2006) 視力不良例に行った光線力学的療法の治療効果. 第352回大阪眼科集談会, 大阪
70. 南部裕之 (2006) 緑内障手術の適応と問題点—3.POAGにおける手術戦略—. 第35回大阪眼科手術の会, 大阪
71. 松村美代 (2006) 糖尿病眼合併症の手術療法—新生血管緑内障を中心として—. 第4回神奈川県眼科DMカンファレンス, 横浜
72. 安藤 彰, 桐山直子, 金子志帆, 西村哲哉, 松村美代 (2006) 線維柱帯細胞におけるアクアポリンおよび Kir と Na⁺, K⁺ ATPase 遺伝子発現線維柱帯細胞の水とイオン輸送体. 第110回日本眼科学会総会, 大阪
73. 山田晴彦, 南野桂三, 山田英里, 樋口暁子, 松村美代 (2006) 骨髄細胞の硝子体内注入による網膜血管の再生促進効果. 第110回日本眼科学会総会, 大阪
74. 緒方奈保子, 松岡雅人, 和田光正, 城 信雄, 樋口暁子, 嶋千恵子, 武田俊彦, 郡山昌敬, 南野敬三, 松村美代 (2006) 糖尿病患者の血中 PEDF. 第110回日本眼科学会総会, 大阪
75. 有澤章子, 永井由巳, 正健一郎, 津村晶子, 尾辻 剛, 高橋寛二 (2006) ポリープ状脈絡膜血管症に対する光線力学的療法の治療効果. 第110回日本眼科学会総会, 大阪
76. 有澤章子 (2006) ポリープ状脈絡膜血管症の治療 レーザー治療と光線力学療法の適応 ポリープ状脈絡膜血管症に対する光線力学的療法の治療効果. 第110回日本眼科学会総会, 大阪
77. 木内克治, 木本高志, 高橋寛二, 嶋千絵子, 西村哲哉, 松村美代 (2006) 食道癌原発の転移性虹彩腫瘍の1例. 第351回大阪眼科集談会, 大阪
78. 友寄勝夫, 山中 修, 大西克尚, 向野利一郎, 吉川 洋, 緒方奈保子 (2006) 後部強膜肥厚を呈した悪性リンパ腫の1例. 第41回眼科臨床病理組織研究会, 大阪
79. 黒川弘晶, 池田耕士, 大村直人, 前原 稔, 澤

- 田 敏, 今泉正仁, 緒方奈保子 (2006) 視神経のMRI 血管による視神経圧迫と正常眼圧緑内障の関わりについて. 第65回日本医学放射線学会学術集会, 横浜
80. 三木克朗, 上原範久, 塚本麗子, 松岡洋一郎, 螺良愛郎 (2006) MNU誘発視細胞傷害を抑制する3-aminobenzamideの投与量ならびに投与時期. 第95回日本病理学会, 東京
81. 塚本麗子, 垠 貴司, 三木克朗, 松岡洋一郎, 螺良愛郎 (2006) 低用量MNUと短期妊娠レベルのエストロゲン/プロゲステロン暴露の乳腺発癌に対する影響. 第95回日本病理学会, 東京
82. 垠 貴司, 塚本麗子, 三木克朗, 上原範久, 清塚康彦, 松岡洋一郎, 四方伸明, 螺良愛郎 (2006) 妊娠期を模倣したエストロゲンおよびプロゲステロン投与期間のMNU誘発ラット乳腺発癌への影響. 第95回日本病理学会, 東京
83. 桐山直子, 足立 靖, 南野桂三, 岩崎真佳, 中野景司, 小池保志, 鈴木康弘, 向出裕美, 重松明男, 松村美代, 池原 進 (2006) SCID/huマウスを用いたヒト臍帯血からの網膜神経細胞への分化の検討. 第95回日本病理学会総会, 東京
84. 向出裕美, 足立 靖, 鈴木康弘, 岩崎真佳, 小池保志, 南野桂三, 中野景司, 重松明男, 桐山直子, 上山泰男, 池原 進 (2006) IBM-BMTにDLIとドナー骨髄由来樹状細胞を併用した悪性腫瘍の治療法. 第95回日本病理学会総会, 東京
85. 重松明男, 足立 靖, 桐山直子, 岩崎真佳, 小池保志, 中野景司, 向出裕美, 今村雅寛, 池原 進 (2006) 低線量放射線照射が樹状細胞の活性化に及ぼす影響. 第95回日本病理学会総会, 東京
86. 小池保志, 足立 靖, 鈴木康弘, 南野桂三, 岩崎真佳, 向出裕美, 重松明男, 桐山直子, 上山泰男, 池原 進 (2006) ラット同種間骨髄内骨髄移植 (IBM-BMT) とドナーリンパ球注入療法 (DLI) による抗腫瘍効果の検討. 第95回日本病理学会総会, 東京
87. 中野景司, 足立 靖, 南野桂三, 鈴木康弘, 岩崎真佳, 小池保志, 向出裕美, 重松明男, 桐山直子, 池原 進 (2006) M-CSFによるendothelial progenitor cell(EPC)のmobilizationメカニズム. 第95回日本病理学会総会, 東京
88. 松村美代 (2006) 緑内障—治療法の選択—. 群馬県眼科医会 春季集談会, 群馬
89. 高橋寛二 (2006) PDTケーススタディーパターン別対処法—. 小松サージカルカンファレンス, 小松
90. 城 信雄, 和田光正, 樋口暁子, 嶋千絵子, 武田俊彦, 南部裕之, 緒方奈保子, 西村哲哉, 松村美代 (2006) 糖尿病網膜症による血管新生緑内障に対する濾過手術併用硝子体手術の成績. 第110回日本眼科学会総会, 東京
91. 城 信雄, 和田光正, 樋口暁子, 嶋千絵子, 武田俊彦, 緒方奈保子, 南部裕之, 西村哲哉, 松村美代 (2006) 糖尿病網膜症による血管新生緑内障に対する濾過手術併用硝子体手術の成績. 第12回日本糖尿病眼学会総会, 東京
92. 嶋千絵子, 松村美代, 緒方奈保子, 和田光正, 城 信雄, 樋口暁子, 武田俊彦 (2006) 牽引性網膜剥離のない増殖糖尿病網膜症に対するシリコンオイル注入硝子体手術症例の検討. 第12回日本糖尿病眼学会総会, 東京
93. 桐山直子, 足立 靖, 南野桂三, 岩崎真佳, 中野景司, 小池保志, 鈴木康弘, 向出裕美, 重松明男, 松村美代, 池原 進 (2006) SCID/huマウスを用いたヒト臍帯血有核細胞の網膜神経細胞への分化の検討. 第5回日本再生医療学会総会, 岡山
94. 嶋千絵子, 和田光正, 武田俊彦, 樋口暁子, 城 信雄, 緒方奈保子, 松村美代 (2006) 網膜剥離を伴わない増殖糖尿病網膜症に対するシリコンオイル併用硝子体手術症例の検討. 第350回大阪眼科集談会, 大阪
95. 永井由巳, 正健一郎, 有澤章子, 津村晶子, 尾辻 剛, 高橋寛二 (2006) 狭義加齢黄斑変性に行った光線力学的療法の成績. 厚生労働省難治性疾患克服研究事業 網膜脈絡膜・視神経萎縮症調査研究班, 福岡
96. 高橋寛二, 小椋祐一郎, 湯沢美都子, 石橋達朗 (2006) 加齢黄斑変性の診断基準. 厚生労働省難治性疾患克服研究事業 網膜脈絡膜・視神経萎縮症調査研究班, 福岡
97. 正健一郎, 永井由巳, 有澤章子, 高橋寛二 (2006) 偽クラシック所見を示すポリープ状脈絡膜血管症. 厚生労働省難治性疾患克服研究

事業 網膜脈絡膜・視神経萎縮症調査研究班, 福岡

98. 有澤章子, 永井由巳, 正健一郎, 津村晶子, 尾辻 剛, 高橋寛二 (2006) ポリーブ状脈絡膜血管症所見を示す加齢黄斑変性に行った光線力学的療法の成績, 厚生労働省難治性疾患克服研究事業 網膜脈絡膜・視神経萎縮症調査研究班, 福岡
99. 安藤 彰 (2006) 線維柱帯細胞における水とイオン輸送担体, 第10回 眼科分子生物研究会, 熱海
100. 三木克朗, 義澤克彦, 螺良愛郎 (2006) 3-aminobenzamide による MNU 誘発ラット網膜変性の抑制効果, 第22回日本毒性病理学会, 鹿児島
101. 安藤 彰 (2006) インストラクションコース 原発閉塞隅角緑内障の治療戦略—隅角癒着解離術をマスターしよう! 隅角癒着解離術 (大事なのは顔の位置), 第29回日本眼科手術学会総会, 東京
102. 高橋寛二 (2006) インストラクションコース 加齢黄斑変性のレーザー治療 PDT の適応と照射範囲 応用編, 第29回日本眼科手術学会総会, 東京
103. 高橋寛二 (2006) ランチョンセミナー わが国における PDT の現状と今後—新ガイドライン調査の結果—, 第29回日本眼科手術学会総会, 東京
104. 緒方奈保子 (2006) インストラクションコース 網膜光凝固術の適応と限界 加齢黄斑変性症, 第29回日本眼科手術学会総会, 東京
105. 松村美代 (2006) バックリング手術, 第29回日本眼科手術学会総会, 東京
106. 松村美代 (2006) インストラクションコース 原発閉塞隅角緑内障の治療戦略—隅角癒着解離術をマスターしよう! まとめ—それでもやっぱりトラベクトミーか??? 第29回日本眼科手術学会総会, 東京
107. 松村美代 (2006) 緑内障—代表的な術式と基本手技—トラベクトミー2, 第29回日本眼科手術学会総会, 東京
108. 西村哲哉, 岡見豊一, 寺井実知子, 三上義人, 梅山圭以子, 壺井邦彦 (2006) 水晶体囊ごと落下眼内レンズの眼内法による毛様溝逢着, 第29回日本眼科手術学会総会, 東京
109. 南部裕之 (2006) 私の一押し: 緑内障手術「手技の工夫, 器具の工夫」線維柱帯切開術, 第29回日本眼科手術学会総会, 東京
110. 南部裕之 (2006) インストラクションコース 原発閉塞隅角緑内障の治療戦略—隅角癒着解離術をマスターしよう! 原発閉塞隅角緑内障の治療の進め方, 第29回日本眼科手術学会総会, 東京
111. 尾辻 剛 (2006) インストラクションコース 原発閉塞隅角緑内障の治療戦略—隅角癒着解離術をマスターしよう! 術後管理と術後成績, 第29回日本眼科手術学会総会, 東京
112. 和田光正, 埴本 慎, 木本高志, 寺内博夫, 西村哲哉, 松村美代 (2006) 23G 経結膜硝子体手術システムの使用経験, 第29回日本眼科手術学会総会, 東京
113. 埴本 慎, 和田光正, 木本高志, 寺内博夫, 高橋寛二, 西村哲哉, 松村美代 (2006) 25G マイクロファイバースキャンデリア (PHOTON) の使用経験, 第29回日本眼科手術学会総会, 東京
114. 松村美代 (2006) 網膜剥離術式の変遷と私, 第2回岡山ビジョンナ会講演会, 岡山

著 書

1. Ando A, Ito S, Kaneko S, Ueda-Yamada M, Nakauchi T, Matsumura M (2006) Heterogeneity of Retinal Pigment Epithelial Cells in Ornithine Cytotoxicity. *New Developments in Eye Research*: pp. 137–165, Nova Science Publishers, New York
2. Ogata N, Takahashi K (2006) Polypoidal Choroidal Vasculopathy. *Ocular Angiogenesis* (Tombran-tink Joyce, Barnstable Collin J ed) pp. 73–78, Humana Press, Totowa, NJ
3. 飯田知弘, 湯沢美都子, 玉置康裕, 竹田宗康, 高橋寛二 (2006) レーザー手術. *Eye Surgery バトルロイヤル2: 網膜硝子体 斜視編* 6 (バトルロイヤル編集委員会編) 71–136 頁, メジカルビュー社, 東京
4. 松村美代 (2006) 教育と診療環境システム, すぐに役立つ眼科診療の知識 白内障 (谷口重雄, 綾期木雅彦編) 197–199 頁, 金原出版, 東京
5. 西村哲哉 (2006) 真菌性眼内炎, 眼感染症ケース別まるごとマスター (眼科インストラク

ジョンコース6) (前田直之, 黒坂大次郎編)
379-382頁, メジカルビュー社, 東京

6. 正健一郎, 永井由巳, 有澤章子, 高橋寛二 (2006) 偽クラシック所見を示すポリープ状脈絡膜血管症. 厚生労働省網膜脈絡膜・視神経萎縮調査研究班 平成 17 年度研究報告書 193-200頁, 厚生労働省, 東京
7. 有澤章子, 永井由巳, 正健一郎, 津村晶子, 尾辻 剛, 高橋寛二 (2006) ポリープ状脈絡膜血管症所見を示す加齢黄斑変性に行った光線力学的療法の成績. 厚生労働省網膜脈絡膜・視神経萎縮調査研究班 平成 17 年度研究報告書 201-209頁, 厚生労働省, 東京
8. 永井由巳, 正健一郎, 有澤章子, 津村晶子, 尾辻 剛, 高橋寛二 (2006) 狭義加齢黄斑変性に行った光線力学的療法の成績. 厚生労働省

網膜脈絡膜・視神経萎縮調査研究班 平成 17 年度研究報告書 210-212頁, 厚生労働省, 東京

9. 高橋寛二, 小椋祐一郎, 湯沢美都子, 石橋達朗 (2006) 加齢黄斑変性の診断基準. 厚生労働省網膜脈絡膜・視神経萎縮調査研究班 平成 17 年度研究報告書 236-258頁, 厚生労働省, 東京
10. 松村美代 (2006) 内科疾患に伴う眼症状. 内科学XVIII内科と周辺疾患 (金澤一郎, 北原光夫, 山口 徹, 小俣政男編) 2962-2967頁, 医学書院, 東京
11. 松村美代 (2006) 内科医が知っておきたい眼科の知識と疾患. 内科学XVIII内科と周辺疾患 (金澤一郎, 北原光夫, 山口 徹, 小俣政男編) 2972-2976頁, 医学書院, 東京

耳鼻咽喉科学講座

〈研究業績〉

原 著

1. Iwai H, Shimano T, Omae M, Kaneko T and Yamashita T. (2006) Early acquisition of esophageal phonation following tracheoesophageal phonation. *Acta Otolaryngol* 126: 764-768
2. Baba S, Iwai H, Inaba M, Kawamoto K, Omae M, Yamashita T and Ikehara S (2006) Transfer of accelerated presbycusis by transplantation of bone marrow cells from senescence-accelerated mice. *Brain Res* 1120: 93-99
3. Shen J, Harada N, Nakazawa H, Kaneko T, Izumikawa M and Yamashita T (2006) Role of nitric oxide on ATP-induced Ca^{2+} signaling in outer hair cells of the guinea pig cochlea. *Brain Res* 1081: 101-112
4. Abrashkin KA, Izumikawa M, Miyazawa T, Wang CH, Crumling MA, Swiderski DL, Beyer LA and Raphael Y (2006) The fate of outer hair cells after acoustic or ototoxic insults. *Hear Res* 218: 20-29
5. Holt AG, Asako M, Duncan RK, Lomax CA, Juiz JM and Altschuler RA (2006) Deafness associated changes in expression of two-pore domain potassium channels in the rat cochlear nucleus.

Hear Res 216-217: 146-153

6. Kanzaki S, Beyer LA, Swiderski DL, Izumikawa M, Stover T, Kawamoto K and Raphael Y (2006) p27Kip1 deficiency causes organ of Corti pathology and hearing loss. *Hear Res* 214: 28-36
7. Buras ED, Holt AG, Griffith RD, Asako M and Altschuler RA (2006) Changes in glycine immunoreactivity in the rat superior olivary complex following deafness. *J Comp Neurol* 494: 179-189
8. Le Prell CG, Kawamoto K, Raphael Y and Dolan DF (2006) Electromotile hearing: Acoustic tones mask psychophysical response to high-frequency electrical stimulation of intact guinea pig cochlea. *J Acoust Soc Am* 120: 3889-3900
9. Shen J, Harada N, Kubo N, Liu B, Mizuno A, Suzuki M and Yamashita T (2006) Functional expression of transient receptor potential vanilloid 4 in the mouse cochlea. *Neuroreport* 17: 135-139
10. 岩井 大 (2006) 【唾液線疾患 その診断と治療】唾液腺良性腫瘍. *ENTONI* (69): 38-44
11. 井野千代徳 (2006) 【口腔乾燥症の診断と治療】口腔乾燥症とは 唾液腺の加齢性変化と乾燥症の重症度分類. *ENTONI* (65): 1-6

12. 宗本由美, 古川昌幸, 土井 直, 山下敏夫 (2006) 【耳科画像診断マニュアル】外耳道真珠腫・骨腫. ENTONI (61): 7-12
13. 井野千代徳, 松本あゆみ (2006) 【舌痛症と味覚障害】舌痛症の原因と治療. ENTONI (58): 1-8
14. 岩井 大, 山下敏夫 (2006) 【頭頸部領域の腺癌をどう扱うか】耳下腺の腺癌 NOS および類縁腫瘍. JOHNS 22: 1062-1066
15. 金子明弘, 宗本由美, 土井 直, 栗山博道, 古川昌幸, 米田元胤, 北尻雅則, 山下敏夫, 細田泰男 (2006) 接着法を用いた鼓膜形成術の成績と工夫. Otol Jpn 16: 81-86
16. 米田元胤 (2006) 【内耳障害改善への戦略 基礎的アプローチ】遺伝子導入を用いた蝸牛形態および機能再生の試み. Otol Jpn 16: 135-138
17. 古川昌幸 (2006) 当科における癒着性中耳炎の治療 耳管粘膜誘導法について. Otol Jpn 16: 2-4
18. 土井 直, 白石修悟, 中澤浩子, 米田元胤, 池田浩己, 金子敏彦, 足立真理, 北尻雅則, 山下敏夫 (2006) 稀な単独アブミ骨奇形の一症例—アブミ骨筋腱が正常でアブミ骨と錐体隆起の骨性固着—. Otol Jpn 14: 244-247
19. 久保伸夫 (2006) 【アレルギーの病気で気になること】新しい抗ヒスタミン薬とは? アレルギー疾患 2: 562-564
20. 辻 裕之, 永田基樹, 井上俊哉, 南 豊彦, 岩井 大, 大西純夫, 湯川尚哉, 小椋 学, 山下敏夫, 永田憲司 (2006) 【S-1の基礎と臨床】T2N0 声門癌に対するS-1を用いた化学放射線同時併用療法 臨床第I相試験. 癌と化療 33: 163-166
21. 辻中良一, 南 豊彦, 中川のふ子, 多田直樹, 金 義慶, 井野千代徳, 山下敏夫 (2006) 口腔疾患と肝疾患について. 口腔咽喉科 18: 435-443
22. 金 義慶, 南 豊彦, 中川のふ子, 多田直樹, 井野千代徳 (2006) 悪性外耳道炎と悪性外耳道腫瘍 (扁平上皮癌) との比較. 耳鼻と臨 52: 46-53
23. 土井 直, 山下敏夫 (2006) 【耳鼻咽喉科・頭頸部外科 症候群事典】osteogenesis imperfecta (骨形成不全症). 耳鼻・頭頸外科 78: 208
24. 土井 直, 山下敏夫 (2006) 【耳鼻咽喉科・頭頸部外科 症候群事典】orthostatic dysregulation syndrome (起立性調節障害). 耳鼻・頭頸外科 78: 207
25. 土井 直, 山下敏夫 (2006) 【耳鼻咽喉科・頭頸部外科 症候群事典】orbital apex syndrome (眼窩先端部 syndrome). 耳鼻・頭頸外科 78: 205-206
26. 土井 直, 山下敏夫 (2006) 【耳鼻咽喉科・頭頸部外科 症候群事典】oral-facial-digital syndrome (口顔指 syndrome). 耳鼻・頭頸外科 78: 204
27. 朝子幹也, 濱田聡子, 久保伸夫, 河本光平, 古川昌幸, 山下敏夫 (2006) Semi-rigid endoscopic sinus surgeryの経験. 耳鼻展望 49: 324-327
28. 宮本 真, 南野雅之, 近野哲史, 八木正夫, 山下敏夫 (2006) 多発性線維性骨異形成症例. 耳鼻臨床 99: 767-770
29. 柴田清児ブルース, 河本光平, 栗山博道, 山下敏夫 (2006) 腰椎麻酔後の両側低音障害型難聴例. 耳鼻臨床 99: 537-541
30. 辻 裕之, 八木正夫, 南野雅之, 永田基樹, 湯川尚哉, 南 豊彦, 下出祐造, 山下敏夫 (2006) 副咽頭間隙腫瘍の検討. 耳鼻臨床 99: 481-490
31. 石部 司, 久保伸夫 (2006) アレルギー性鼻炎に対するアルゴンプラズマ凝固療法. 耳鼻臨床 99: 203-210
32. 久保伸夫 (2006) 【小児科医が知りたい・聞きたい「子どもの耳・鼻・のど Q & A」】鼻炎, アレルギー性鼻炎 レーザー照射の効果持続期間と適応. 小児臨 59: 2673-2677
33. 久保伸夫 (2006) 【小児の耳鼻咽喉頭・頭頸部疾患 診断と治療】小児の鼻出血. 小児外科 38: 1318-1321
34. 河本光平, 小西将矢, 栗山博道 (2006) 内耳への遺伝子導入. 通信医 58: 263-266
35. 岩井 大, 山下敏夫 (2006) 耳下腺の手術神経保存と被膜処理 耳下腺下極腫瘍に対する下顎縁枝法の適応と手技 (解説). 頭頸部外 16: 45-50
36. 小西将矢, 岩井 大, 南野雅之, 赤木麻里, 足立真理, 湯川尚哉, 永田基樹, 辻 裕之, 山

下敏夫 (2006) 唾液腺導管癌8症例の検討. 頭頸部外 15: 213-216

37. 井上俊哉, 辻 裕之, 南 豊彦, 永田基樹, 湯川尚哉, 南野雅之, 小椋 学, 八木正夫, 藤澤琢郎, 宮本 真, 近野哲史, 山下敏夫 (2006) 上側壁型中咽頭癌切除後再建症例における長期的術後機能評価 Gehanno 法による長期成績の検討. 頭頸部癌 32: 474-480
38. 永田基樹, 辻 裕之, 南野雅之, 井上俊哉, 湯川尚哉, 藤澤琢郎, 八木正夫, 小椋 学, 宮本 真, 近野哲史, 岩井 大, 山下敏夫 (2006) 上顎癌に対する皮切の工夫 extended lateral rhinotomy + hemicoronal flap法によるアプローチ. 頭頸部癌 32: 423-428
39. 蓮尾麻里, 南野雅之, 八木正夫, 岩井 大, 辻裕之, 小西将矢, 島野卓史, 坂井田紀子, 山下敏夫 (2006) HER-2蛋白を発現したSalivary Duct Carcinoma におけるトラスツズマブ使用の検討. 頭頸部癌 32: 68-71
40. 堤 俊之, 宝谷剛志, 佐久間寛, 加瀬政彦, 杉本哲夫, 山下敏夫 (2006) 脳幹部コリン作動性ニューロンのシナプスの局在と機能. 頭頸自律神 20: 46-47
41. 馬場 奨, 岩井 大, 稲葉宗夫, 河本光平, 池原 進, 山下敏夫 (2006) 骨髄移植による老人性難聴の発現. 頭頸自律神 20: 38-39
42. 金 義慶, 南 豊彦, 中川のふ子, 多田直樹, 井野千代徳 (2006) 慢性外耳道炎, 悪性外耳道炎そして悪性外耳道癌 (SCC) の細菌検査結果等について. 日耳鼻感染症研会誌 24: 95-100

症例報告

1. 金 義慶, 南 豊彦, 中川のふ子, 多田直樹, 井野千代徳 (2006) 口内炎を主訴としたSweet病の1例. 耳鼻と臨 52: 172-177
2. 金 義慶, 南 豊彦, 中川のふ子, 多田直樹, 井野千代徳 (2006) 下口唇に病変を認めたサルコイドーシスの1例. 耳鼻と臨 52: 104-108
3. 小西将矢, 宗本由美, 土井 直, 金子明弘, 古川昌幸, 北尻雅則, 山下敏夫 (2006) 内耳奇形による細菌性髄膜炎をきたした2例. 耳鼻臨床 99: 531-535
4. 宮本 真, 柿本晋吾, 井上俊哉, 永田基樹, 山下敏夫 (2006) 良性対称性脂肪腫症例. 耳鼻

臨床 99: 403-407

学会発表

1. Kubo N and Senda M (2006) Histamine H1 receptor occupancy in brains after single or consecutive administration of anti-histamine measured by positron emission tomography (PET). 11th Asian Research Symposium in Rhinology, Seoul
2. Hamada S, Asako M, Kubo N and Yamashita T (2006) The hard-to-reach frontal sinus osteoma managed under endoscopic procedure using semi-rigid type ; a case report. 2006 Joint Meeting of Eight Departmenta of Otolaryngology, Taipei
3. Kaneko T, Anthony WG, Asako M, Shimano T and Yamashita T (2006) Speed of intracellular transport in the guinea-pig outer hair cell. 2006 Joint Meeting of Eight Departmenta of Otolaryngology, Taipei
4. Shimano T, Kaneko T, Tada N, Kakimoto S, Takeda H, Asako M and Yamashita T (2006) A Case of Descending Necrotizing Mediastinitis (DNM) Caused by a Fish Bone. 2006 Joint Meeting of Eight Departmenta of Otolaryngology, Taipei
5. Baba S, Iwai H, Lee S, Otani M, Inaba M, Omae M, Kawamoto K, Ikehara S and Yamashita T (2006) Relation between acceleration of age-related hearing loss and bone marrow cells from senescence-prone donors. 43rd Inner Ear Biology Workshop, Montpellier
6. Iwai H, Baba S, Lee S, Otani M, Inaba M, Omae M, Ikehara S and Yamashita T (2006) Role of systemic immune system in survival of the spiral ganglion cells. 43rd Inner Ear Biology Workshop, Montpellier
7. Lee S, Iwai H, Baba S, Otani M, Inaba M, Omae M, Ikehara S and Yamashita T (2006) Evidence of treatment of autoimmune hearing loss by reconstitution of systemic immune system. 43rd Inner Ear Biology Workshop, Montpellier
8. Otani M, Iwai H, Lee S, Baba S, Inaba M, Ikehara S and Yamashita T (2006) Transfer of autoim-

- mune inner ear disorder by bone marrow transplantation. 43rd Inner Ear Biology Workshop, Montpellier
9. Hamada S, Asako M, Kubo N, Kitajiri M and Yamashita T (2006) The 3-D Shaped Mask Treatment for FLU Patients. THE 11th KOREA-JAPAN Joint Meeting of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery, Busan
 10. Kim E-K, Asako M, Munemoto Y, Doi T, Konishi M, Kaneko A, Kitajiri M and Yamashita T (2006) Mondini dysplasia causing bacterial meningitis: the report of 2 cases. THE 11th KOREA-JAPAN Joint Meeting of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery, Busan
 11. Kim E-K, Munemoto Y, Konishi M, Kitajiri M and Yamashita T (2006) Two Cases of Mondini Dysplasia Causing Meningitis. THE 11th KOREA-JAPAN Joint Meeting of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery, Busan
 12. Crumling M, Abrashkin K, Izumikawa M, Gong T, Swiderski D and Raphael Y (2006) The fate of degenerated outer hair cells: Prestin in supporting cells. 第29回ARO midwinter meeting, Baltimore
 13. Crumling M, Izumikawa M and Raphael Y (2006) Prestin-expressing cells generated in the organ of Corti by Atoh1 gene delivery in vivo. 第29回ARO midwinter meeting, Baltimore
 14. Izumikawa M, Batts S, Swiderski D, Crumling M, Miyazawa T, Dolan D and Raphael Y (2006) The severity of ototoxic insult affects outcome of Atoh1 treatment. 第29回ARO midwinter meeting, Baltimore
 15. Miyazawa T, Izumikawa M, Swiderski D, Beyer L, Crumling M and Raphael Y (2006) Viral vector inoculation into the apical cochlear endolymph transduces cells throughout the auditory membranous labyrinth. 第29回ARO midwinter meeting, Baltimore
 16. Mustapha M, Fang Q, Beyer L, Karolyi J, Izumikawa M, Dootz G, Gong T, Lomax M, Dolan D, Raphael Y and Camper S (2006) Effects of thyroid hormone deficiency on cochlear development and function. 第29回ARO midwinter meeting, Baltimore
 17. Osumi Y, Yagi M, Shibata S, Kawamoto K, Asako M, Kuriyama H and Yamashita T (2006) The Difference of Gene Expression by Aging in C57/BL6 Mouse Cochlea Nuclei and Inferior Colliculus with cDNA Microarray Analysis. 第29回ARO midwinter meeting, Baltimore
 18. 大前麻理子, 稲葉宗夫, 上田祐輔, 坂口雄沢, 津田雅庸, 福井淳一, 李 銘, 郭 可泉, 三宅 岳, 岩井 大, 山下敏夫, 池原 進 (2006) 系骨髄内骨髄移植法を用いたマウス造血前駆細胞の解析. 第36回日本免疫学会総会, 大阪
 19. 岡崎はるか, 朝子幹也, 土井 直, 山下敏夫 (2006) 血小板増多に伴って発症した拍動性耳鳴の1例. 日本耳鼻咽喉科学会大阪地方連合会第299回例会, 大阪
 20. 池上智子, 近野哲史, 朝子幹也, 古川昌幸, 山下敏夫 (2006) 鼻腔内異所性歯牙の1例. 日本耳鼻咽喉科学会大阪地方連合会第299回例会, 大阪
 21. 中出多子, 岩井 大, 河本光平, 泉川雅彦, 中江 香, 小西将矢, 栗山博道, 北尻雅則, 山下敏夫 (2006) 透析患者にみられた多発性副甲状腺腺腫の1例. 日本耳鼻咽喉科学会大阪地方連合会第299回例会, 大阪
 22. 柴田清児, 大隈泰則, 神田靖士, 八木正夫, 河本光平, 朝子幹也, 栗山博道, 西山利正, 山下敏夫 (2006) 聴覚路における加齢性難聴にともなう遺伝子発現の変化. 日本分子生物学会2006フォーラム, 名古屋
 23. 柴田清児, ブルース, 大隅泰則, 神田靖士, 八木正夫, 河本光平, 朝子幹也, 栗山博道, 西山利正, 山下敏夫 (2006) 聴覚路における加齢性難聴にともなう遺伝子発現の変化. 日本分子生物学会 第29回総会報告, 名古屋
 24. 久保伸夫, 榎本雅夫, 石神 信, 池田浩己 (2006) 花粉曝露室における各種マスクの比較試験. 第56回日本アレルギー学会秋季学術大会, 東京
 25. 久保伸夫, 石神 信, 榎本雅夫 (2006) 規模花粉曝露室における各種マスクの性能比較. 第56回日本アレルギー学会秋季学術大会, 東京
 26. 石神 信, 久保伸夫 (2006) CAE および風洞

- 実験によりマスク性能評価. 第56回日本アレルギー学会秋季学術大会, 東京
27. 古川昌幸, 土井 直, 栗山博道, 宗本由美, 金子敏彦, 北尻雅則, 山下敏夫, 米田元胤, 金子明弘 (2006) 当科における癒着性中耳炎手術症例についての検討. 第16回日本耳科学会, 青森
28. 宗本由美, 土井 直, 細田泰男, 栗山博道, 古川昌幸, 金子明弘, 米田元胤, 北尻雅則, 山下敏夫 (2006) 当科における先天性耳小骨奇形手術症例の検討. 第16回日本耳科学会, 青森
29. 朝子幹也, 河本光平, 土井 直, 古川昌幸, 山下敏夫 (2006) Churg-Strauss 症候群に移行した好酸球性中耳炎症例の検討. 第16回日本耳科学会, 青森
30. 土井 直, 古川昌幸, 栗山博道, 宗本由美, 金子敏彦, 北尻雅則, 山下敏夫, 細田泰男, 金子明弘, 米田元胤 (2006) 伝音再建材料の違いによる術後の気骨導差についての検討. 第16回日本耳科学会総会, 青森
31. 岩井 大, 中江 香, 小椋 学, 宮本 真, 泉川雅彦, 河本光平, 清水順一, 中出多子, 北尻雅則, 山下敏夫 (2006) 木村氏病における治療法と予後因子の検討. 第19回日本口腔・咽頭科学会, 東京
32. 清水順一, 八木正夫, 岩井 大, 中出多子, 中江 香, 河本光平, 泉川雅彦, 久保伸夫, 北尻雅則, 山下敏夫 (2006) 術前下口唇麻痺を伴った顎下腺導管癌の1例. 第19回日本口腔・咽頭科学会, 東京
33. 久保伸夫, 浜田聡子, 朝子幹也, 山下敏夫 (2006) アジスロマイシンの組織内動態の検討. 第36回耳鼻咽喉科感染症研究会, 鹿児島
34. 河本光平, 朝子幹也, 中江 香, 古川昌幸, 久保伸夫, 山下敏夫 (2006) 当科における好酸球性副鼻腔炎の検討. 第45回日本鼻科学会総会, 四日市
35. 中江 香, 古川昌幸, 河本光平, 朝子幹也, 中村晶彦, 笠井治文, 山内康雄, 山下敏夫 (2006) 内視鏡支援鼻内下垂体手術の検討 鼻中隔・蝶形骨洞経路法について. 第45回日本鼻科学会総会, 四日市
36. 朝子幹也, 河本光平, 中江 香, 濱田聡子, 古川昌幸, 久保伸夫, 山下敏夫 (2006) 当科における前頭洞高度病変の検討. 第45回日本鼻科学会総会, 四日市
37. 前山啓充, 大久保美紀, 高井優子, 西村将人, 馬場一泰, 柴田清児ブルース, 河本光平, 栗山博道 (2006) TRTにおける両側耳鳴の治療効果の検討. 第51回日本聴覚医学会総会・学術講演会, 山形
38. 宮本 真, 井上俊哉, 小椋 学, 山下敏夫 (2006) 特発性下咽頭・食道閉鎖症例, 日本耳鼻咽喉科学会大阪地方連合会第298回例会, 大阪
39. 近野哲史, 朝子幹也, 古川昌幸, 山下敏夫 (2006) 歯科材料が原因と思われる上顎洞異物の一例. 日本耳鼻咽喉科学会大阪地方連合会第298回例会, 大阪
40. 宮本 真, 井上俊哉, 小椋 学, 山下敏夫 (2006) 特発性下咽頭・食道閉鎖症例, 日本耳鼻咽喉科学会大阪地方連合会第298回例会, 大阪
41. 島野卓史, 多田直樹, 柿本晋吾, 金子敏彦, 竹田浩子, 白石美都子, 山下敏夫 (2006) 魚骨により生じた降下性壊死性縦隔洞炎. 日本耳鼻咽喉科学会大阪地方連合会第298回例会, 大阪
42. 岩井 大 (2006) 耳下腺腫瘍の診断法と治療法. 第16回九州頭頸部癌懇話会, 博多
43. 柴田清児ブルース, 大隅泰則, 八木正夫, 神田靖士, 河本光平, 栗山博道, 西山利正, 山下敏夫 (2006) アミトリプチリンのGDNF誘導作用による音響外傷に対する内耳保護. 第23回頭頸部自律神経研究会, 大阪
44. 泉川雅彦, 河本光平, 栗山博道, Raphael Yehoash, 山下敏夫 (2006) 高度難聴動物へのAtoh1 遺伝子導入による蝸牛有毛細胞の再生と聴力閾値の改善. 第24回頭頸部自律神経学会, 大阪
45. 大前麻理子, 稲葉宗夫, 池原 進 (2006) 異系骨髓内骨髓移植法を用いたマウス造血前駆細胞の解析. 第16回日本サイトメトリー学術集会, 長崎
46. 久徳茂雄, 辻 裕之, 川上勝弘, 沼義博, 河本圭司 (2006) 前頭蓋底眼窩再建の治療方針について. 第18回日本頭蓋底外科学会, 名古屋
47. 井上俊哉 (2006) 頭頸部癌治療の進歩—再建

- 外科の役割一. 第13回北東大阪耳鼻咽喉科臨床懇話会, 大阪
48. 南野雅之, 辻 裕之, 井上俊哉, 永田基樹, 湯川尚哉, 岩井 大, 小椋 学, 山下敏夫, 永田憲司 (2006) 当科における進行舌癌に対する術前化学放射線療法の検討. 第27回頭頸部手術手技研究会, 大阪
 49. 竹村博一, 林隆一, 山崎光男, 宮崎真和, 鶴久森徹, 大幸宏幸, 篠崎 剛, 富所雄一 (2006) Ewing肉腫の3症例の経験. 第30回頭頸部癌学会・第27回手術手技研究会, 大阪
 50. 井上俊哉, 辻 裕之, 南 豊彦, 永田基樹, 湯川尚哉, 南野雅之, 小椋 学, 八木正夫, 藤澤琢郎, 宮本 真, 近野哲史, 山下敏夫 (2006) 上側壁型中咽頭癌再建例の長期的成績. 第30回日本頭頸部癌学会, 大阪
 51. 小西将矢, 南野雅之, 永田憲司, 小野公二, 辻裕之, 井上俊哉, 山下敏夫 (2006) 再発耳下腺癌に対する中性子捕捉療法併用症例. 第30回日本頭頸部癌学会, 大阪
 52. 南野雅之, 辻 裕之, 井上俊哉, 永田基樹, 湯川尚哉, 岩井 大, 小椋 学, 山下敏夫, 永田憲司 (2006) 当科における進行舌癌に対する術前化学放射線療法の検討. 第30回日本頭頸部癌学会, 大阪
 53. 岩井 大, 八木正夫, 足立真理, 南野雅之, 永田基樹, 湯川尚哉, 井上俊哉, 金子敏彦, 山下敏夫 (2006) 耳下腺腺様嚢胞癌における診断法と治療法の検討. 第30回日本頭頸部癌学会, 大阪
 54. 藤澤琢郎, 永田基樹, 辻 裕之, 井上俊哉, 南野雅之, 湯川尚哉, 小椋 学, 八木正夫, 宮本 真, 近野哲史, 山下敏夫 (2006) 当科における上顎癌症例の検討. 第30回日本頭頸部癌学会, 大阪
 55. 八木正夫, 永田基樹, 南野雅之, 清水順一, 井上俊哉, 岩井 大, 山下敏夫 (2006) 当科における耳下腺腺房細胞癌症例の検討. 第30回日本頭頸部癌学会, 大阪
 56. 岡崎はるか, 朝子幹也, 古川昌幸, 山下敏夫 (2006) 神経麻痺による眼球運動障害を伴った慢性副鼻腔炎の2症例. 日本耳鼻咽喉科学会大阪地方連合会第297回例会, 大阪
 57. 中出多子, 中江 香, 河本光平, 栗山博道, 北尻雅則, 山下敏夫 (2006) 脳膿瘍を来した真珠腫性中耳炎の1例. 日本耳鼻咽喉科学会大阪地方連合会第297回例会, 大阪
 58. 鈴木健介, 朝子幹也, 古川昌幸, 山下敏夫 (2006) 好酸球性副鼻腔炎で発症したChurg-Strauss症候群の一例. 日本耳鼻咽喉科学会大阪地方連合会第297回例会, 大阪
 59. 南野雅之, 井上俊哉, 永田基樹, 湯川尚哉, 岩井 大, 小椋 学, 山下敏夫 (2006) 甲状腺扁平上皮癌症例. 日本耳鼻咽喉科学会大阪地方連合会第297回例会, 大阪
 60. 朝子幹也, 河本光平, 中江 香, 濱田聡子, 古川昌幸, 久保伸夫, 山下敏夫 (2006) 当科における前頭洞高度病変の検討. 第107回日本耳鼻咽喉科学会, 東京
 61. 大岡久司, 南野雅之, 山下敏夫 (2006) 六君子湯が有効であった喉頭肉芽腫症例の検討. 第107回日本耳鼻咽喉科学会, 東京
 62. 八木正夫, 永田基樹, 南野雅之, 湯川尚哉, 清水順一, 鈴木健介, 岩井 大, 山下敏夫 (2006) 当科における耳下腺腫瘍の検討. 第107回日本耳鼻咽喉科学会, 東京
 63. 朝子幹也, 濱田聡子, 久保伸夫, 山下敏夫 (2006) 前頭洞骨壁欠損を伴った前頭洞病変の検討. 第107回日本耳鼻咽喉科学会総会, 東京
 64. 濱田聡子, 朝子幹也, 宗本由美, 久保伸夫, 山下敏夫 (2006) 突発性難聴における高感度CRPの検討. 第107回日本耳鼻咽喉科学会総会, 東京
 65. 川上勝弘, 神寄清一郎, 吉村晋一, 中村晶彦, 山本光男, 沼義 博 (2006) 蝶形洞内視鏡手術. 視神経の観察. 第51回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会, 千里
 66. 池田耕士, 岩井 大, 大村直人, 前原 稔, 澤田 敏 (2006) 再発耳下腺多形腺腫の病理組織像とMRIとの対比. 第65回日本医学放射線学会, 横浜
 67. 大前麻理子, 稲葉宗夫, 上田裕輔, 坂口雄沢, 津田雅庸, 福井淳一, 李 銘, 郭 可泉, 岩井 大, 山下敏夫, 池原 進 (2006) 異系骨髓内骨髓移植法を用いたマウス造血前駆細胞および樹状細胞サブセットの解析. 第95回日本病理学会総会, 東京
 68. 永田基樹, 井上俊哉, 藤澤琢郎, 湯川尚哉, 小

- 棕 学, 八木正夫, 宮本 真, 近野哲史, 山下敏夫, 辻 裕之. (2006) 上顎全摘後の顔貌. 300回大阪地方会, 大阪
69. 泉川雅彦 (2006) 高度聴力障害を有する哺乳動物での Atoh1 遺伝子導入による蝸牛有毛細胞の再生と聴力閾値の改善. 第122回関西医科大学学内学術集談会, 大阪
70. 岩井 大 (2006) 蝸牛障害の予防と治療. 第1回感覚器シンポジウム, 東京
71. 久保伸夫, 朝子幹也, 濱田聡子, 吉永和仁, 池田浩己, 山下敏夫 (2006) 呼吸中NOおよびCOの起源と病態への関与. 第24回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会, 鳥羽
72. 泉川雅彦, 河本光平, 蓑田涼生, 栗山博道, Raphael Yehoash, 山下敏夫 (2006) 高度聴力障害を有する哺乳動物での Atoh1 遺伝子導入による蝸牛有毛細胞の再生と聴力閾値の改善. 日本耳鼻咽喉科学会大阪地方連合会第296回例会, 大阪
73. 南野雅之, 藤澤琢郎, 永田基樹, 井上俊哉, 山下敏夫, 西川邦男 (2006) VCS クリップを用いた頭頸部再建遊離皮弁血管吻合術. 日本耳鼻咽喉科学会大阪地方連合会第296回例会, 大阪
74. 南野雅之, 井上俊哉, 永田基樹, 湯川尚哉, 岩井 大, 小棕 学, 山下敏夫, 辻 裕之 (2006) 進行舌癌に対する術前化学放射線療法の検討. 日本耳鼻咽喉科学会大阪地方連合会第297回例会, 大阪
75. 岩井 大 (2006) 耳下腺の手術—神経保存と被膜処理. 第16回日本頭頸部外科, 久留米
76. 久保伸夫 (2006) 他科のドクターに聞くアレルギー診療のコツ 上気道炎症と下気道炎症類似点と相違点
77. Miyamoto M, Inoue T and Yamashita T (2006) VELOPHARYNGEAL FUNCTION AFTER RECONSTRUCTION OF LATERAL AND SUPERIOR OROPHARYNGEAL DEFECTS. 23th Congress Pan-Pacific Surgical Association Japan, Bangkok
78. Batts S, Crumling M, Miyazawa T, Izumikawa M, Dolan D, Swiderski D and Raphael Y (2006) The severity of ototoxic insult affects outcome of Atoh1 treatment. 43rd Inner Ear Biology Workshop. Montpellier

放射線科学講座

〈研究業績〉

原 著

1. Maehara M, Tanigawa N, Ikeda K, Ohmura N, Komemushi A, Kojima H, Kariya S and Sawada S (2006) Gadolinium-enhanced magnetic resonance imaging after percutaneous vertebroplasty does not improve the short-term prediction of new compression fractures. *Acta Radiol* 47: 817–822
2. Kariya S, Tanigawa N, Kojima H, Komemushi A, Shomura Y, Shiraishi T, Kawanaka T and Sawada S (2006) Percutaneous transluminal cutting-balloon angioplasty for hemodialysis access stenoses resistant to conventional balloon angioplasty. *Acta Radiol* 47: 1017–1021
3. Ha-Kawa SK, Yoshida T, Yague T, Tani M, Suzuki T and Sawada S (2006) Acupuncture-induced cerebral blood flow responses in dystonia. *Ann Nucl Med* 20: 83–87
4. Kodaira T, Fuwa N, Kamata M, Furutani K, Tachibana H, Yamazaki T (2006) Single-institute phase I/II trial of alternating chemoradiotherapy with 5-FU and nedaplatin for esophageal carcinoma. *Anticancer Res.* 26(1B): 471–478
5. Kaibori M, Tanigawa N, Matsui Y, Saito T, Uchida Y, Ishizaki M, Tanaka H and Kamiyama Y (2006) Influence of transcatheter arterial chemoembolization on the prognosis after hepatectomy for hepatocellular carcinoma in patients with severe liver dysfunction. *Anticancer Res* 26: 3685–3692
6. Kojima H, Tanigawa N, Kariya S, Komemushi A, Shomura Y and Sawada S (2006) Clinical assessment of percutaneous radiofrequency ablation for

- painful metastatic bone tumors. *Cardiovasc Intervent Radiol* 29: 1022–1026
7. Komemushi A, Tanigawa N, Kariya S, Kojima H, Shomura Y, Komemushi S and Sawada S (2006) Percutaneous vertebroplasty for osteoporotic compression fracture: Multivariate study of predictors of new vertebral body fracture. *Cardiovasc Intervent Radiol* 29: 580–585
 8. Tanigawa N, Komemushi A, Kariya S, Kojima H, Shomura Y and Sawada S (2006) Radiological follow-up of new compression fractures following percutaneous vertebroplasty. *Cardiovasc Intervent Radiol* 29: 92–96
 9. Kaibori M, Ha-Kawa S K, Uchida Y, Ishizaki M, Hijikawa T, Saito T, Imamura A, Hirohara J, Uemura Y, Tanaka K and Kamiyama Y (2006) Recurrent Hepatitis C After Living Donor liver Transplantation Detected by Tc-99m GSA Liver Scintigraphy. *Dig Dis Sci* 51: 2013–2017
 10. Saito Y, Nobuhara K, Okugawa G, Takase K, Sugimoto T, Ikeda K, Sawada S and Kinoshita T (2006) The corpus callosum in obsessive-compulsive disorder: a diffusion tensor imaging study. *Eur Psychiatry* 21: S234
 11. Nobuhara K, Okugawa G, Sugimoto T, Minami T, Tamagaki C, Takase K, Saito Y, Sawada S and Kinoshita T (2006) Frontal white matter anisotropy and symptom severity of late-life depression: A magnetic resonance diffusion tensor imaging study. *J Neurol Neurosurg Psychiatry* 77: 120–122
 12. Okada A, Murakami T, Mikami K, Onishi H, Tanigawa N, Marukawa T, Namamura H (2006) A case of hepatocellular carcinoma treated by MR-guided focused ultrasound ablation with respirating gating. *Magn Reson Med Sci* 5(3): 167–171
 13. Iraha Y, Murayama S, Toita T, Utsunomiya T, Nagata O, Akamine T, Ogawa K, Adachi G, Tanigawa N (2006) Self-expandable metallic stent placement for patients with inoperable esophageal carcinoma: Investigation of influence of prior radiotherapy and chemotherapy. *Radiation Medicine* 24: 247–252
 14. Ikeda K, Maehara M, Ohmura N, Kurokawa H, Koda K, Yokoyama H and Sawada S (2006) Spontaneous rupture of a necrotic hepatic angiosarcoma: Findings on dual-phase computed tomography and angiography. *Radiat Med* 24: 369–372
 15. Kojima H, Tanigawa N, Kariya S, Komemushi A, Shomura Y, Sawada S, Arai E and Yokota Y (2006) A case of spontaneous regression of hepatocellular carcinoma with multiple lung metastases. *Radiat Med* 24: 139–142
 16. Kwon A H, Matsui Y, Kaibori M and Ha-Kawa SK (2006) Preoperative regional maximal removal rate of technetium-99m-galactosyl human serum albumin (GSA-Rmax) is useful for judging the safety of hepatic resection. *Surgery* 140: 379–386
 17. 米虫 敦, 谷川 昇, 狩谷秀治, 小島博之, 庄村裕三, 上埜泰寛, 宮田美好, 宮内清秀, 澤田 敏 (2006) 骨粗鬆症性圧迫骨折に対する経皮的椎体形成術の医療経済学的検討. *IVR* 21: 285–289
 18. 谷川 昇, 小島博之, 狩谷秀治, 米虫 敦, 庄村裕三, 澤田 敏 (2006) 【低侵襲治療としてのRFA】骨腫瘍. *IVR* 21: 260–265
 19. 米虫 敦 (2006) 手技 CT+透視. *IVR* 21: 192–196
 20. 森 薫, 西村俊博, 山本明生, 亀田尚美, 片上和敏, 西村茂樹, 今堀 巧, 大沼香織, 谷川 昇, 澤田 敏 (2006) 血管計測におけるロードマップ機能を利用したキャリブレーション. *Konica Minolta Med Network* 57: 510–513
 21. 米虫 敦 (2006) 【私たちは信じている 放射線科医の未来は明るい！】IVRが大好きな若手放射線科医師の立場から. *Rad Fan* 4: 93–95
 22. 狩谷秀治 (2006) 【マイクロカテーテルの最先端に迫る！】2.7Fr マイクロカテーテルはどこまで使えるか プログレート2.7Frガイドワイヤー一体型の使用状況. *Rad Fan* 4: 62–64
 23. 仲野俊成, 渡邊 淳, 大村直人, 澤田 敏, 高橋伯夫, 福泉利彦, 廣川陽介 (2006) 病院情報システムの通信パターンを考慮したネットワークの構築. *医療情報学* 26: 105–112
 24. 辻 裕之, 永田基樹, 井上俊哉, 南 豊彦, 岩

- 井 大, 大西純夫, 湯川尚哉, 小椋 学, 山下敏夫, 永田憲司 (2006) 【S-1の基礎と臨床】T2N0 声門癌に対する S-1 を用いた化学放射線同時併用療法 臨床第I相試験. 癌と化療 33: 163-166
25. 玉井洋太郎, 今滝 修, 阿部義明, 萩原將太郎, 伊藤以知郎, 朝倉浩文, 原田英幸, 鎌田 実, 西村哲夫, 川上公宏 (2006) 化学療法に先行した局所放射線療法を用いて良好な結果を得た限局期鼻NK/T細胞リンパ腫の4例. 癌と化学療法 33(5): 687-690
26. 原田英幸, 西村哲夫, 鎌田 実, 朝倉浩文, 全田貞幹, 高橋 満, 片桐浩久, 高木辰哉 (2006) がん骨転移の治療戦略/肝癌脾癌骨転移に対する放射線療法. 癌と化学療法 33(8): 1061-1064
27. 里井壯平, 高井惣一郎, 柳本泰明, 谷川 昇, 米虫 敦, 豊川秀吉, 荒木 浩, 松井陽一, 上山泰男 (2006) 【熟知すべき最近の画像診断: 消化器癌の立体画像】脾頭部癌の診断・治療におけるMDCTの役割. 消外 29: 1441-1448
28. 播磨洋子 (2006) 放射線科医の視点で医療経済・コスト抑制を考える 医療制度・医療経済における放射線科医としての問題点. 新医療 33: 71-73
29. 宮内元史, 狩谷秀治, 大原晋吾, 財前裕子, 石井秀一, 川中俊明, 唐内員正, 白石友邦 (2006) 透析内シャント不全に対するバルーン PTA における術者の被曝. 腎と透析 61: 128-131
30. 谷川 昇, 米虫 敦, 狩谷秀治, 庄村裕三, 澤田 敏, 小島博之 (2006) 【高齢者における胸腰椎圧迫骨折の対処法】椎体圧迫骨折に対するPMMAセメントを用いたvertebroplasty. 整・災外 49: 789-793
31. 森 薫, 西村俊博, 片上和敏, 亀田尚美, 西村茂樹, 谷川 昇, 狩谷秀治, 米虫 敦, 小島博之, 河 相吉, 澤田 敏 (2006) 経皮的椎体形成術における二酸化炭素 (CO₂) を用いた椎体静脈造影の基礎的検討. 日本放射線技術学会雑誌 62(1): 136-144
32. 黒川弘晶, 金 熙乾, 尾辻 剛, 畑埜浩子, 宮代美樹, 池田耕土, 大村直人, 澤田 敏, 緒方奈緒子 (2006) 視神経のMRI 視神経乳頭陥凹の程度とMR像における信号強度の比較検討. 臨床放射線 51(4): 515-519
33. 庄村裕三, 谷川 昇, 徳田貴則, 狩谷秀治, 米虫 敦, 小島博之, 澤田 敏 (2006) Interventional radiology のこつ 気管, 気管支ステント. 臨床放射線 51(11): 156-160
- 総 説
1. Harima Y, Shiga T, Kamata M, Kojima H, Ikeda S and Sawada S (2006) Thermoradiotherapy in Advanced Cervical Cancer: Clinical Experiments and Molecular Research. Jpn J Hyperthermic Oncol 22: 141-150
 2. Tanigawa N, Komemushi A, Kariya S, Kojima H, Shomura Y, Ikeda K, Omura N, Murakami T and Sawada S (2006) Percutaneous vertebroplasty: Relationship between vertebral body bone marrow edema pattern on MR images and initial clinical response. Radiology 239: 195-200
 3. 庄村裕三, 谷川 昇, 徳田貴則, 狩谷秀治, 米虫 敦, 小島博之, 澤田 敏 (2006) 【Interventional Radiologyのこつ】胸部 気管・気管支ステント. 臨放 51: 1414-1418
 4. 小野淑子, 斉藤淳子, 松尾 泉, 中嶋達也, 北田光美, 安田勝彦, 神崎秀陽, 播磨洋子 (2006) われわれの教室におけるchemoradiationの現状と問題点. 産婦の進歩 58: 15-17
 5. 今村文生, 庄村裕三, 上野清伸, 内田純二, 谷川 昇, 澤田 敏, 西山謹司 (2006) 新しい局所治療技術の蓄積—小線源治療とラジオ波治療—. 日胸臨 65: S258-262
 6. 庄村裕三, 谷川 昇, 澤田 敏 (2006) 【呼吸器疾患のIVR】気道狭窄に対するIVR 病変に応じたステント選択. 日胸臨 65: 819-826
- 症例報告
1. Maehara M, Ikeda K, Ohmura N, Kurokawa H, Sakaida N and Sawada S (2006) Leiomyoma of the trachea: CT and MRI findings. Radiat Med 24: 643-645
 2. Miyazaki Y, Ikeda K, Uemura Y, Maehara M, Ohmura N and Sawada S (2006) Non-necrotic invasive squamous cell carcinoma associated with an inverted papilloma: MRI features. Radiat Med 24: 143-146

3. 藤井弘史, 中尾佳永, 徳田貴則, 岡田隆之, 北澤康秀 (2006) 直腸との瘻孔形成が疑われた孤立性感染性内腸骨動脈瘤の1手術治験例. 日血管外会誌 15: 39-42

学会発表

1. Harima Y, Shiga T, Kamata M and Sawada S (2006) Prediction of Metastasis of Advanced Cervical Cancers after Radiotherapy according to Expression Profiles of 69 genes selected by cDNA Microarray Analysis. American Society for Therapeutic Radiology and Oncology 48th Annual Meeting, Philadelphia, USA
2. Harima Y, Kamata M, Shiga T and Sawada S (2006) Prediction of Advanced Cervical Cancers after Thermoradiotherapy according to Expression Profiles Selected by Microarray Analysis. Scientific Assembly and Annual Meeting Program 2006, Chicago, USA
3. Kariya S, Tanigawa N, Kojima H, Komemushi A, Shomura Y, Shiraishi T, Kawanaka T and Sawada S (2006) Stent Placement for hemodialysis access stenosis of resistance to balloon angioplasty; comparison balloon angioplasty. Scientific Assembly and Annual Meeting Program 2007, Chicago, USA
4. Sawada S (2006) Symposium Vertebroplasty part1. 7th Asia-Pacific Congress of Cardiovascular and Interventional Radiology, Thailand.
5. Sawada S, Tanigawa N, Komemushi A, Kariya S, Kojima H, Shomura Y (2006) Percutaneous vertebroplasty. APCCVIR 7th Asia-Pacific congress of cardiovascular and interventional radiology Dusit resort, Pattaya, Thailand
6. Komemushi A, Tanigawa N, Kariya S, Kojima H, Shomura Y, Sawada S (2006) Percutaneous vertebroplasty for compression fracture: Multivariate study of predictors of new fracture of vertebral body. APCCVIR 7th Asia-Pacific congress of cardiovascular and interventional radiology, Dusit resort, Pattaya, Thailand
7. Shomura Y, Tanigawa N, Tokuda T, Kariya S, Kojima H, Komemushi A, Sawada S (2006) Radiological-pathological evaluation for temporary arterial occlusion. CIRSE 2006, Rome, Italy
8. Shomura Y, Tanigawa N, Tokuda T, Kariya S, Kojima H, Komemushi A, Sawada S, Shibutani M and Wakimoto S (2006) Water-soluble polyvinyl alcohol in the renal artery of pigs. CIRSE 2006, Rome, Italy
9. Kariya S., Tanigawa N., Kojima H., Komemushi A., Shomura U., Ueno Y., Shiraishi T., Kawanaka T., Sawada S. (2006) Percutaneous transluminal angioplasty of hemodialysis-related inflow arterial stenosis: results of patency rates in 32 patients. CIRSE 2006, Rome
10. Harima Y (2006) A randomized clinical trial and molecular research in patients with advanced cervical carcinoma treated with thermoradiotherapy. The 4th Asian Congress of Hyperthermic Oncology (ACHO) & The 23rd Japanese Congress of Hyperthermic Oncology (JCHO), Nara
11. Harima Y, Shiga T, Kamata M and Sawada S (2006) The combination therapy of radiotherapy, chemotherapy, and hyperthermia in advanced and recurrent cervical carcinoma. The 4th Asian Congress of Hyperthermic Oncology (ACHO) & The 23rd Japanese Congress of Hyperthermic Oncology (JCHO), Nara
12. Saito Y, Nobuhara K, Okugawa G, Takase K, Sugimoto T, Kurokawa H, Ikeda K, Sawada S and Kinoshita T (2006) White Matter Abnormalities in Obsessive Compulsive Disorder: A diffusion tensor imaging study. 14th European Congress of Psychiatry, Nice, France
13. Kojima H, Tanigawa N, Kariya S, Komemushi A, Shomura Y, Sawada S (2006) Clinical Assessment of Percutaneous Radiofrequency Ablation for Painful Metastatic Bone Tumors. RSNA 2006, Chicago, USA
14. Tanigawa N, Komemushi A, Kariya S, Kojima H, Shomura Y, Sawada S (2006) Percutaneous Vertebroplasty: Relationship between cement distribution pattern and new compression fracture following PVP. RSNA 2006: Radiological Society of North America (Chicago, USA), 2006
15. Shomura Y, Tanigawa N, Tokuda T, Kariya S,

- Komemushi A, Kojima H, Sawada S, Marui R, Nakai A, Hamada H (2006) Structural characteristics of a composite material stent knitted with a metallic wire and a non-metallic fiber: comparison with a metallic stent. RSNA 2006: Radiological Society of North America (Chicago, USA), 2006
16. Kariya S, Tanigawa N, Kojima H, Komemushi A, Shomura Y, Ueno Y, Shiraishi T, Kawanaka T, Sawada S (2006) Percutaneous transluminal angioplasty of hemodialysis-related inflow arterial stenosis: results of patency rates in 32 patients. RSNA 2006: Radiological Society of North America (Chicago, USA), 2006
17. Kariya S, Tanigawa N, Kojima H, Komemushi A, Shomura Y, Ueno Y, Shiraishi T, Kawanaka T, Sawada S (2006) Percutaneous transluminal angioplasty of hemodialysis-related central venous stenosis: results of patency rates. RSNA 2006: Radiological Society of North America (Chicago, USA), 2006
18. Iguchi T, Kanazawa S, Takaki H, Yamakado K, Matsuoka T, Tanigawa N (2006) Radiofrequency Ablation of Pulmonary Metastases from Renal Cell Carcinoma: A Multicenter Analysis. SIR The Society of International Radiology (SIR) (Toronto, Ontario, Canada, 2006)
19. Takaki H, Yamakado K, Nakatsuka A, Iguchi T, Matsuoka T, Tanigawa N, et al (2006) RF Ablation for the treatment of lung metastasis from hepatocellular carcinoma: A Multicenter Study. SIR The Society of International Radiology (SIR) (Toronto, Ontario, Canada, 2006)
20. 小島博之, 谷川 昇, 狩谷秀治, 米虫 敦, 庄村裕三, 澤田 敏 (2006) 有痛性転移性骨腫瘍に対する経皮的ラジオ波凝固療法. 第7回RFA談話会, 北海道
21. 播磨洋子 (2006) がん関連遺伝子による放射線治療効果予測. OPTAセミナー, 大阪
22. 河 相吉, 是枝ちづ, 澤田 敏 (2006) GSA, スズコロイドシンチにてアルコール性肝障害の改善を見た1例. 第104回核医学症例検討会, 大阪
23. 河 相吉 (2006) FDG-PETのピットフォール: Hondaサインとの対比. 第105回核医学症例検討会, 大阪
24. 播磨洋子 (2006) シンポジウム「癌の特性の把握」治療抵抗性進行子宮頸癌の特性—遺伝子発現と血中腫瘍細胞—. 第8回癌治療増感研究シンポジウム, 奈良
25. 播磨洋子 (2006) 転移性骨腫瘍に対する疼痛緩和—放射線科における治療—. 第13回近畿ペインクリニック症例検討会, 大阪
26. 米虫 敦, 谷川 昇, 狩谷秀治, 小島博之, 庄村裕三, 澤田 敏 (2006) 経皮的椎体形成術における術者被曝. 第2回椎体形成術研究会, 京都市
27. 矢西正明, 川喜多繁誠, 福井勝也, 島田 治, 杉 素彦, 室田卓之, 志賀淑子, 播磨洋子, 松田公志 (2006) I-125 シードを用いた前立腺癌密閉小線源永久挿入治. 第197回日本泌尿器科学会関西地方会, 大阪
28. 村田紘未, 米田祥子, 吉田桃子, 笠松 敦, 中嶋達也, 齊藤淳子, 神崎秀陽, 播磨洋子 (2006) 脳転移から診断された子宮頸癌IV期の1症例. 第115回近畿産科婦人科学会学術集会, 大阪
29. 上埜泰寛, 河 相吉, 池田耕士, 大村直人, 黒川弘晶, 前原 稔, 澤田 敏 (2006) 化学療法後の¹⁸F-FDG集積に炎症反応の関与が示唆された縦隔胚細胞腫瘍の一例. 第284回日本医学放射線学会関西地方会, 大阪
30. 上埜泰寛, 河 相吉, 池田耕士, 大村直人, 黒川弘晶, 前原 稔, 澤田 敏, 植村芳子 (2006) 化学療法後の¹⁸F-FDG集積に炎症反応の関与が示唆された縦隔胚細胞腫瘍の一例. 第284回日本医学放射線学会関西地方会, 大阪
31. 森本 聡, 青田泰子, 居原田善司, 山原英樹, 所 敏子, 正木浩哉, 高橋延行, 大村直人, 池田耕士, 澤田 敏, 岩坂壽二 (2006) クロニジンが著効を示した慢性腎不全を伴う難治性高血圧の一例. 第49回日本腎臓学会, 東京
32. 宇田光伸, 清水 洋, 北野大作, 渡海 絢, 瀧本秀一, 奥土仁孝, 砂川豊彰, 岡 知彦, 澤田 敏 (2006) Pulse Trigger (PT) 法を併用した肝ADC値の測定—肝左葉におけるノイズ低減の試み. 第42回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 福岡
33. 清水 洋, 宇田光伸, 北野大作, 奥田康登, 森

- 本康裕, 梶川博司, 大村直人, 澤田 敏 (2006) MRIによる前立腺癌スクリーニング検査T2協調画像単独のスクリーニングとT2協調画像に拡散協調画像を加味したスクリーニングの比較. 第42回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 福岡
34. 池田耕士, 前原 稔, 大村直人, 黒川弘晶, 澤田 敏 (2006) 口腔内圧上昇の自己誘導による耳下腺気腫症の画像診断. 第42回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 福岡
35. 播磨洋子, 鎌田 実, 志賀淑子, 澤田 敏 (2006) 転移性子宮頸癌の血中腫瘍細胞の同定. 第44回日本癌治療学会総会, 東京
36. 前原 稔, 谷川 昇, 池田耕士, 大村直人, 狩谷秀治, 小島博之, 米虫 敦, 黒川弘晶, 澤田 敏 (2006) 経皮的椎体形成術後の造影MRIは新たな隣接椎体圧迫骨折の早期診断に有用か? 第34回日本磁気共鳴医学会大会, 茨城
37. 池田耕士, 大村直人, 前原 稔, 黒川弘晶, 片上和敏, 澤田 敏, 森本 聡, 岩坂壽二 (2006) 難治性高血圧患者に対する頭側延髄腹外側野(RVLM)への血管圧迫の検討. 第34回日本磁気共鳴医学会大会, 茨城
38. 清水 洋, 宇田光伸, 北野大作, 加藤哲也, 白井健郎, 高津 徹, 澤田 敏 (2006) MRI造影剤によるアナフィラキシーショックを呈した1例. 第34回日本磁気共鳴医学会大会, 茨城
39. 北野大作, 清水 洋, 宇田光伸, 渡海 絢, 瀧本秀一, 奥土仁孝, 砂川豊彰, 岡 知彦, 澤田 敏 (2006) Pulse Trigger法併用による肝左葉ADC値測定時のノイズ低減の試み. 第34回日本磁気共鳴医学会大会, 茨城
40. 海堀昌樹, 河 相吉, 内田洋一郎, 石崎守彦, 肱川 健, 斎藤隆道, 廣原淳子, 上山泰男 (2006) 肝アシアロシンチによる生体肝移植後再発C型肝炎の検討. 第42回日本移植学会総会, 千葉
41. 播磨洋子, 澤田 敏 (2006) Real-time PCR法を用いた進行性子宮頸癌の放射線治療予後予測因子. 第65回日本癌学会, 横浜
42. 武田聖子, 是枝ちづ, 村田美樹, 井上肇一, 梅原秀人, 池田耕造, 関 壽人, 岡崎和一, 河相吉 (2006) 造影エコーおよび核医学的検討によるNASHの経時的変化. 日本調音波医学会第32回関西地方会学術集会, 大阪
43. 播磨洋子 (2006) 進行期子宮頸癌の遠隔転移に関与するゲノム解析. 第36回放射線による制癌シンポジウム・第45回日本放射線学会生物部会, 青森
44. 徳田貴則, 庄村裕三, 谷川 昇, 狩谷秀治, 米虫 敦, 小島博之, 澤田 敏 (2006) ハイブリッドステントの構造特性の検討. 日本Interventional Radiology学会第20回関西地方会, 大阪
45. 播磨洋子 (2006) 遠隔転移を認めた子宮頸癌と小細胞肺癌における血液中腫瘍細胞発現. 第10回がん分子標的治療研究会, 東京
46. 仲野俊成, 渡辺 淳, 大村直人, 澤田 敏, 高橋伯夫, 福泉利彦, 廣川陽介 (2006) 病院情報システムの通信パターンを考慮したネットワークの構築. 第10回日本医療情報学会春季学術大会, 神戸
47. 藤田あすか, 前原 稔, 大村直人, 黒川弘晶, 池田耕士, 澤田 敏 (2006) MR所見が特徴的と考えられた若年型顆粒膜細胞腫の1例. 第283回日本医学放射線学会関西地方会, 大阪
48. 南野雅之, 辻 裕之, 井上俊哉, 永田基樹, 湯川尚哉, 岩井 大, 小椋 学, 山下敏夫, 永田憲司 (2006) 当科における進行舌癌に対する術前化学放射線療法の検討. 第30回日本頭頸部癌学会, 大阪
49. 吉村 健, 寺口正之, 竹花一哉, 池田耕士, 澤田 敏, 金子一成 (2006) 川崎病冠動脈病変に対するマルチスライスCTの有用性. 第42回日本小児放射線学会, 東京
50. 森本 聡, 青田泰子, 居原田善司, 山原英樹, 所 敏子, 正木浩哉, 高橋延行, 大村直人, 池田耕士, 澤田 敏, 岩坂壽二 (2006) クロニジンが著効を示した慢性腎不全を伴う難治性高血圧の一例. 第49回日本腎臓学会学術総会, 東京
51. 前原 稔, 稲見則仁, 野村昌作, 池田耕士, 大村直人, 黒川弘晶, 岩坂壽二, 澤田 敏 (2006) 非イオン性ヨード造影剤(イオメプロール)による生体内での血小板活性化及び内皮機能障害についての検討. 第68回日本血液学会・第48回日本臨床血液学会合同総会, 福岡
52. 武田聖子, 是枝ちづ, 関 壽人, 河 相吉, 岡

- 崎和一 (2006) NASH 診断における Kupffer 細胞機能評価の有用性. JSUM2006日本超音波医学会第79回学術集会, 大阪
53. 播磨洋子 (2006) 子宮頸癌の放射線および温熱治療における分子診断の意義. 第12回癌治療増感研究会, 富山
54. 河 相吉, 澤田 敏, 海堀昌樹, 上山泰男 (2006) 99mTc-GSA アシアロシンチによるグラフト肝機能評価. 第14回肝病態生理研究会, 京都
55. 狩谷秀治, 谷川 昇, 小島博之, 米虫 敦, 庄村裕三, 上埜泰寛, 白石友邦, 川中俊明, 澤田 敏 (2006) バルーン拡張術に抵抗性の透析シャント狭窄に対するステント留置術の成績. 第35回日本IVR学会総会, 大阪
56. 小島博之, 谷川 昇, 狩谷秀治, 米虫 敦, 庄村裕三, 澤田 敏 (2006) 有痛性転移性骨腫瘍に対する経皮的ラジオ波凝固療法. 第35回日本IVR学会総会, 大阪
57. 庄村裕三, 谷川 昇, 狩谷秀治, 米虫 敦, 小島博之, 澤田 敏 (2006) Knitted stent のステント複合材料化による構造特性変化の検討. 第35回日本IVR学会総会, 大阪
58. 谷川 昇, 米虫 敦, 狩谷秀治, 小島博之, 庄村裕三, 澤田 敏 (2006) 経皮的椎体形成術による呼吸機能の改善. 第35回日本IVR学会総会, 大阪
59. 米虫 敦, 谷川 昇, 狩谷秀治, 小島博之, 庄村裕三, 上埜泰寛, 澤田 敏, 宮田美好, 宮内清秀 (2006) 経皮的椎体形成術の医療経済学的検討. 第35回日本IVR学会総会, 大阪
60. 狩谷秀治, 谷川 昇, 小島博之, 米虫 敦, 庄村裕三, 澤田 敏, 白石友邦, 渡邊美博, 江崎和芳, 山越恭雄, 川中俊明, 坂口典子 (2006) 中心静脈狭窄によるシャント不全に対する経皮的血管形成術の成績. 第66回大阪透析研究会, 大阪
61. 野村恵巳子, 豊田長興, 藤川美絵, 城ひろみ, 城 聡一, 片瀬香織, 井上 恵, 長谷川隆正, 小崎篤志, 谷川 昇, 米虫 敦, 金森千春, 神崎秀陽, 岩坂壽二, 西川光重 (2006) 妊娠経過中に血漿レニン活性高値を示した原発性アルドステロン症の1症例. 第79回日本内分泌学会学術総会, 神戸市
62. 狩谷秀治, 谷川 昇, 小島博之, 米虫 敦, 庄村裕三, 澤田 敏, 白石友邦, 山越恭雄, 渡邊美博, 江崎和芳, 川中俊明 (2006) 流入動脈狭窄による透析シャント不全に対するPTAの成績. 日本IVR学会第20回中部・第19回関西合同地方会, 愛知
63. 上埜泰寛, 谷川 昇, 狩谷秀治, 米虫 敦, 小島博之, 庄村裕三, 澤田 敏 (2006) 肺動静脈瘤に対する塞栓術中に生じた冠動脈空気塞栓の1例. 日本IVR学会第20回中部・第19回関西合同地方会, 愛知
64. 山門亨一郎, 高木治行, 中塚豊真, 竹田 寛, 松岡利幸, 井上祐一, 谷川 昇, 澤田 敏, 長谷総一郎, 金沢 右 (2006) 大腸癌肺転移に対するRFA: 多施設共同研究 日本IVR学会第20回中部・第19回関西合同地方会, 名古屋
65. 狩谷秀治, 谷川 昇, 小島博之, 米虫 敦, 庄村裕三, 澤田 敏, 白石友邦, 山越恭雄, 渡邊美博, 江崎和芳, 川中俊明, 坂口典子 (2006) 側副流出静脈の経皮的コイル塞栓術による透析内シャントに起因するスチール症候群の治療. 第51回日本透析医学会学術集会/総会, 横浜
66. 狩谷秀治, 谷川 昇, 小島博之, 米虫 敦, 庄村裕三, 澤田 敏, 白石友邦, 山越恭雄, 渡邊美博, 江崎和芳, 川中俊明, 坂口典子 (2006) 流入動脈狭窄によるシャント不全に対する経皮的血管形成術の成績. 第51回日本透析医学会学術集会/総会, 横浜
67. 河 相吉, 澤田 敏, 海堀昌樹, 上山泰男 (2006) 移植グラフト肝の機能評価 99mTc-GSA graft Rmax の有用性. 第65回日本医学放射線学会, 横浜
68. 前原 稔, 稲見則仁, 野村昌作, 池田耕士, 大村直人, 黒川弘晶, 木村稜, 岩坂壽二, 澤田 敏 (2006) 非イオン性ヨード造影剤(イオメブロール)による生体内での抗血栓性及び内皮障害についての検討. 第65回日本医学放射線学会, 横浜
69. 池田耕士, 岩井 大, 大村直人, 前原 稔, 澤田 敏 (2006) 再発耳下腺多形腺腫の病理組織像とMRIとの対比. 第65回日本医学放射線学会, 横浜
70. 播磨洋子, 志賀淑子, 鎌田 実, 澤田 敏

- (2006) 遠隔転移を認めた子宮頸癌と小細胞肺癌における血液中腫瘍細胞発現. 第65回日本医学放射線学会, 横浜
71. 米虫 敦, 谷川 昇, 狩谷秀治, 小島博之, 庄村裕三, 宮田三好, 宮内清秀, 澤田 敏 (2006) 経皮的椎体形成術の医療経済学的検討. 第65回日本医学放射線学会, 横浜
 72. 黒川弘晶, 池田耕士, 大村直人, 前原 稔, 澤田 敏, 今泉正仁, 緒方奈保子 (2006) 視神経のMRI 血管による視神経圧迫と正常眼圧緑内障の関わりについて. 第65回日本医学放射線学会学術集会, 横浜
 73. 清水 洋, 宇田光伸, 北野大作, 瀧本秀一, 高瀬 正, 前原 稔, 青木良純, 大村直人, 澤田 敏 (2006) 2D PACE法を用いた3D-MRCPの有用性 (Respiratory Trigger 法との比較検討). 第65回日本医学放射線学会学術集会, 横浜
 74. 米虫 敦 (2006) Radiologists Tomorrow 私たちは信じている 放射線科医の未来は明るい! IVRが大好きな若手放射線科医の立場から. 第65回日本医学放射線学会学術発表会, 横浜
 75. 狩谷秀治, 谷川 昇, 小島博之, 米虫 敦, 庄村裕三, 上埜泰寛, 白石友邦, 澤田 敏 (2006) 側副流出静脈のコイル塞栓術による透析内シャントに起因するスチール症候群の治療. 第65回日本医学放射線学会総会, 横浜
 76. 庄村裕三, 谷川 昇, 狩谷秀治, 米虫 敦, 小島博之, 澤田 敏 (2006) 水溶性polyvinyl alcohol (PVA) の一時的血管塞栓物質への応用に関する検討. 第65回日本医学放射線学会総会, 横浜
 77. 生口俊博, 高木治行, 松岡利幸, 谷川 昇, 郷原英夫, 向井 敬, 金沢 右, 山門亨一郎, 安井光太郎 (2006) 多施設共同による腎癌肺転移に対する経皮的ラジオ波凝固療法の検討. 第65回日本医学放射線学会・総会, 横浜
 78. 河 相吉, 澤田 敏, 海堀昌樹, 上山泰男 (2006) 移植グラフト肝の機能評価: 99mTc-GSA Rmaxの有用性. 第65回日本医学放射線学会総会, 横浜
 79. 狩谷秀治, 谷川 昇, 小島博之, 米虫 敦, 庄村裕三, 澤田 敏, 白石友邦, 山越恭雄, 渡邊美博, 江崎和芳, 川中俊明, 坂口典子 (2006) 流入動脈狭窄によるシャント不全に対するバルーンPTA. 第11回バスキュラーアクセスインターベンション治療研究会, 東京
 80. 狩谷秀治, 谷川 昇, 小島博之, 米虫 敦, 庄村裕三, 澤田 敏, 白石友邦, 山越恭雄, 渡邊美博, 江崎和芳, 川中俊明, 坂口典子 (2006) 透析内シャントに起因するスチール症候群に対する側副流出静脈の経カテーテル的コイル塞栓術. 第11回バスキュラーアクセスインターベンション治療研究会, 東京
 81. 狩谷秀治 (2006) 強固な病変への対応. 第6回シャントインターベンション講習会, 東京
 82. 黒川弘晶, 池田耕士, 澤田 敏 (2006) 視神経乳頭陥凹の程度とMR像における信号強度の比較検討. 第25回日本画像医学会, 東京
 83. 庄村裕三, 谷川 昇, 狩谷秀治, 小島博之, 米虫 敦, 澤田 敏 (2006) ステンレス (SUS304) - ポリ乳酸 (PLA) 複合編製ステントの開発. 第25回日本画像医学会, 東京
 84. 池田耕士, 黒川弘晶, 河 相吉, 澤田 敏 (2006) 再発耳下腺多形腺腫におけるT2強調像と病理像との対比. 第25回日本画像医学会, 東京
 85. 米虫 敦, 谷川 昇, 狩谷秀治, 小島博之, 庄村裕三, 上埜泰寛, 澤田 敏, 宮田美好, 宮内清秀 (2006) 経皮的椎体形成術の医療経済学的検討. 第25回日本画像医学会, 東京
 86. 池田耕士, 前原 稔, 大村直人, 黒川弘晶, 澤田 敏, 甲田賢治, 横山日出太郎 (2006) 自然破裂をきたした壊死を伴う肝血管肉腫の1例. 第282回日本医学放射線学会関西地方会, 大阪
 87. 池田耕士, 前原 稔, 大村直人, 黒川弘晶, 澤田 敏, 古跡孝和 (2006) ダンベル型を呈した口腔底頬皮嚢胞の1例. 第35回頭頸部放射線研究会東京部会, 東京

産科学・婦人科学講座

〈研究業績〉

原著

1. Nie G, Li Y, Hale K, Okada H, Manuelpillai U, Wallace EM and Salamonsen LA (2006) Serine peptidase HTRA3 is closely associated with human placental development and is elevated in pregnancy serum. *Biol Reprod* 74: 366–374
2. Ikuta A, Tanaka Y, Mizokami T, Tsutsumi A, Sato M, Tanaka M, Kajihara H and Kanzaki H (2006) Management of transvaginal ultrasound-guided absolute ethanol sclerotherapy for ovarian endometriotic cysts. *J Med Ultrasonic* 33: 99–103
3. Nakamoto T, Yasuda K, Yasuhara M, Nakajima T, Mizokami T, Okada H and Kanzaki H (2006) Cigarette smoke extract enhances oxytocin-induced rhythmic contractions of rat and human preterm myometrium. *Reproduction* 132: 343–353
4. Kanamori C, Kanamori T, Hayashi M, Yorioka H and Kanzaki H (2006) Three-cycle fentanyl patch system significantly improves pain control in gynecologic cancer. *J Obstet Gynaecol Res* 32: 605–609
5. 神崎秀陽 (2006) ホルモンQ&A 抗癌薬,放射線治療後の妊孕性を確保するための方法について教えてください. *HORM FRONT GYNECOL* 13: 197–198
6. 神崎秀陽 (2006) ホルモン Q&A 子宮内膜症に対して現在開発中の治療薬にはどのようなものがありますか. また,それぞれの治療薬の特徴についても教えてください. *HORM FRONT GYNECOL* 13: 196–197
7. 田中善章, 生田明子 (2006) 婦人科疾患の超音波診断. *J Med Ultrasonic* 33: 195–209
8. 中嶋達也, 中元 剛, 中元章恵, 中嶋真由美, 岡田英孝, 安田勝彦, 神崎秀陽 (2006) 卵巣子宮内膜症性嚢胞手術時の出血量,手術時間の予測. *エンドメトリオージス研究会誌* 27: 83–86
9. 岡田英孝, 神崎秀陽 (2006) 【配偶子形成から受精まで】着床のメカニズム 着床における

胚と子宮との相互作用のメカニズム,とくに,子宮内膜側の発現物質の変化を中心に. 産と婦 73: 765–771

10. 岡田英孝, 神崎秀陽 (2006) 【排卵誘発アップデート】不妊治療における controlled ovarian hyperstimulation の実際. *産婦の実際* 55: 891–895
11. 岡田英孝 (2006) 選択的単一胚移植について. *産婦の進歩* 58: 411
12. 西原卓志, 村田泰隆, 原馬尚子, 達石沙貴子, 福田博恵, 園田桃代, 奥裕嗣, 森本義晴, 神崎秀陽 (2006) 二段階胚移植法 (2 step embryo transfer) の有効性についての検討. *日受精着床会誌* 23: 183–187
13. 岡田英孝, 神崎秀陽 (2006) 【内分泌症候群 (第2版) その他の内分泌疾患を含めて】女性性機能 不妊・不育 習慣流産. *日臨 別冊 (内分泌症候群2)* : 422–425

総説

1. 神崎秀陽 (2006) 子宮内膜症薬物療法の現状と展望. *Prog Med* 26: 1839–1842
2. 小野淑子, 斉藤淳子, 松尾 泉, 中嶋達也, 北田光美, 安田勝彦, 神崎秀陽, 播磨洋子 (2006) われわれの教室における chemoradiation の現状と問題点. *産婦の進歩* 58: 15–17
3. 岡田英孝, 神崎秀陽 (2006) 【周産期医学必修知識】妊娠前 不妊症の治療. *周産期医* 36: 13–14

症例報告

1. Ikuta A, Saito J, Mizokami T, Asano M, Nakamoto T, Nakajima T, Matsunami M, Yasuda K, Adachi Y and Kanzaki H (2006) Primary relapse of acute lymphoblastic leukemia in a cervical smear: A case report. *Diagn Cytopathol* 34: 499–502
2. 辻 陽子, 弥山秀芳, 上村祐子, 北中直子, 米田篤司, 三箇山宏樹, 太田由子, 寺村重郎, 榎木 晋, 堀越順彦, 山田正法, 松浦 節, 北出浩章, 森 毅, 奥野雅史, 小倉徳裕, 高田秀穂 (2006) 癌の緩和ケアで使用した制吐

剤によって惹起された薬原性アカシジアの3例. 癌と化療 33: 267-269

3. 依岡寛和, 吉田桃子, 金森千春, 中元章恵, 梶本めぐみ, 小野淑子, 堤 明裕, 岡田英孝, 松尾 泉, 松岡 進, 北田光美, 安田勝彦, 神崎秀陽, 永田文江, 福田愛作, 森本義晴 (2006) IVF-ET(経筋層胚移植)にて妊娠成立したが, その周産期管理が困難であった2症例. 産婦の進歩 58: 78-80
4. 三宅 岳, 足立 靖, 金森千春, 保坂直樹, 新宅雅幸, 溝上友美, 神崎秀陽, 上山泰男, 池原 進 (2006) ヒトパルボウイルスB19による胎児水腫の1剖検例. 診断病理 23: 318-322
5. 中元 剛, 溝上友美, 生田明子, 斉藤淳子, 神崎秀陽 (2006) 大量腹水を伴った卵巣カルチノイドの1例. 日臨細胞会誌 45: 341-345

学会発表

1. Yorioka H, Okuno S, Yoshida M, Tsutsumi A, Sawaragi S, Kanzaki H and Kawataki M (2006) A case of transposition of the great arteries detected in antenatal period complicated intra-ventricular hemorrhage. the 4th Korea-Japan Ultrasound Symposium in OB/GYN, 香川県
2. Yoshida M, Murata H, Okuno S, Kasamatsu A, Ono T, Yorioka H, Sawaragi S, Kanzaki H and Yasuda K (2006) 5 cases of selective IUGR in monochorionic twin pregnancies. the 4th Korea-Japan Ultrasound Symposium in OB/GYN, 香川県
3. Yasuda K, Nakamoto T, Nakajima T, Okada H and Kanzaki H (2006) Cigarette smoke extract enhances contractile sensitivity to oxytocin pre-term myometrium. XVIII FIGO world congress of Gynecology and Obstetrics, Kuala Lumpur
4. Satio J, Ikuta A and Kanzaki H (2006) Correlation p53 expression and HPV with clinical outcome in cervical cancer. the 23rd International Papilloma-virus conference and clinical workshop, Pregue
5. 溝上友美, 比舍弘子, 岡崎 智, 加藤順子, 王曉麗, 宋 昌嘩, 李 清, 神崎秀陽, 池原進 (2006) 移植と免疫抑制 ヒト羊膜由来付着性細胞同時移植による臍帯血移植法の改良. 第36回日本免疫学会総会・学術集会, 大阪
6. 角玄一郎, 中元 剛, 安田勝彦, 堀越順彦, 神崎秀陽 (2006) 高悪性度子宮内膜間質肉腫の1症例. 第115回近畿産科婦人科学会学術集会, 大阪
7. 笠松 敦, 米田祥子, 村田紘未, 堤 明裕, 依岡和寛, 岡田英孝, 榎木 晋, 松岡 進, 安田勝彦, 神崎秀陽 (2006) 前置胎盤, 既往帝王切開にて帝王切開術後に単純子宮全摘術を施行した2症例. 第115回近畿産科婦人科学会学術集会, 大阪
8. 山口昌美, 斉藤淳子, 神崎秀陽, 生田明子, 中元 剛 (2006) 当科における若年者子宮頸癌の現況と HPV 感染. 第115回近畿産科婦人科学会学術集会, 大阪
9. 村田紘未, 米田祥子, 吉田桃子, 笠松 敦, 中嶋達也, 斉藤淳子, 神崎秀陽, 播磨洋子 (2006) 脳転移から診断された子宮頸癌IV期の1症例. 第115回近畿産科婦人科学会学術集会, 大阪
10. 米田祥子, 村田紘未, 吉田桃子, 笠松 敦, 中嶋達也, 斉藤淳子, 安田勝彦, 神崎秀陽, 吉岡和彦 (2006) 再発と手術を繰り返した子宮平滑筋肉腫の1症例. 第115回近畿産科婦人科学会学術集会, 大阪
11. 小野淑子, 宮城博恵, 岡田英孝, 神崎秀陽, (2006) AIHにおけるSMASの使用経験. 第51回日本生殖医学会学術講演会, 大阪
12. 岡田英孝, 宮城博恵, 馬場真有美, 川畑仁美, 小野淑子, 松岡 進, 安田勝彦, 日浦義仁, 六車光英, 松田公志, 神崎秀陽 (2006) 大学病院での産婦人科と泌尿器科による生殖医療センターの共同運用について. 第51回日本生殖医学会総会・学術講演会, 大阪
13. 藤原通恵, 小宮山豊, 宗像真智子, 吉賀正亨, 榊田 緑, 正木浩哉, 香川英生, 尼川龍一, 内田陽子, 安田勝彦, 嶋 緑倫, 高橋伯夫 (2006) 後天性血友病患者の帝王切開による出産と凝固検査. 第53回日本臨床検査医学会総会, 弘前
14. 神崎秀陽 (2006) 子宮内膜症の薬物療法一過去, 現在, 未来一. 平成18年度山口県産婦人科医会研修会, 山口
15. 依岡寛和 (2006) 関西医科大学附属枚方病院総合周産期母子医療センターを開設して (9ヶ月を振り返って). 第23回大阪産婦人科医会河北地区研修会ならびに同門会症例検討会, 守口

16. 奥野茜子 (2006) 出生前診断した胎児大血管転位の1症例. 第23回大阪産婦人科医会河北地区研修会ならびに同門会症例検討会, 守口
17. 角玄一郎 (2006) 子宮内膜間質肉腫の1症例. 第23回大阪産婦人科医会河北地区研修会ならびに同門会症例検討会, 守口
18. 笠松 敦 (2006) 子宮全摘を要した前置胎盤の2症例. 第23回大阪産婦人科医会河北地区研修会ならびに同門会症例検討会, 守口
19. 吉田桃子 (2006) 卵巣子宮内膜症性嚢胞術後の再発に影響する因子についての検討. 第23回大阪産婦人科医会河北地区研修会ならびに同門会症例検討会, 守口
20. 村田紘未 (2006) 脳転移から診断された子宮頸癌IV期の1症例. 第23回大阪産婦人科医会河北地区研修会ならびに同門会症例検討会, 守口
21. 米田祥子 (2006) 再発と手術を繰り返した子宮平滑筋肉腫の1症例. 第23回大阪産婦人科医会河北地区研修会ならびに同門会症例検討会, 守口
22. 近藤俊吾, 近藤昏一, 安田勝彦 (2006) 卵巣甲状腺腫を疑った甲状腺組織を内包した成熟奇形腫の1例. 日本産科婦人科学会京都地方部会, 京都
23. 吉田桃子, 奥野茜子, 笠松 敦, 山口昌美, 小野淑子, 内田陽子, 中元章恵, 中元 剛, 堤明裕, 中嶋達也, 依岡寛和, 岡田英孝, 安田勝彦, 神崎秀陽 (2006) 卵巣子宮内膜症性嚢胞術後の再発に影響する因子についての検討. 第17回近畿エンドメトリオーシス GnRH研究会, 大阪
24. 西原卓志, 村田泰隆, 岡村太郎, 達石沙貴子, 辻 陽子, 春木篤, 園田桃代, 奥 裕嗣, 森本義晴, 神崎秀陽 (2006) 移植胚数および胚グレードに基づく二段階胚移植 (2step ET) の治療成績. 第24回日本受精着床学会学術講演会, 長野
25. 三宅 岳, 足立 靖, 金森千春, 保坂直樹, 新宅雅幸, 神崎秀陽, 上山泰男, 池原 進 (2006) 胎児水腫の1剖検例. 第34回日本病理学会近畿支部学術集会, 神戸
26. 依岡寛和, 小野淑子, 奥野茜子, 吉田桃子, 堤明裕, 榎木 晋, 安田勝彦, 神崎秀陽, 池本裕実子, 木下 洋, 金子一成 (2006) 抗 SS-A 抗体陽性妊婦の胎児AVブロックに対しdexamethasoneによる胎児治療を行った1症例. 第42回日本周産期・新生児医学会学術集会, 宮崎
27. 榎木 晋, 岡田英孝 (2006) 不妊・不育の一般診療—ART 以前での診療ポイント— 検査・診断. 第89回大阪産婦人科医会生涯研修セミナー, 大阪
28. 宮崎浩彰, 並木みどり, 西本英充, 前田利治, 神崎秀陽 (2006) インシデント事例収集における電子報告システムの導入. 第8回日本医療マネジメント学会学術集会, 横浜
29. 野村恵巳子, 豊田長興, 藤川美絵, 城ひろみ, 城 聡一, 片瀬香織, 井上 恵, 長谷川隆正, 小崎篤志, 谷川 昇, 米虫 敦, 金森千春, 神崎秀陽, 岩坂壽二, 西川光重 (2006) 妊娠経過中に血漿レニン活性高値を示した原発性アルドステロン症の1症例. 第79回日本内分泌学会学術総会, 神戸
30. 神崎秀陽 (2006) 子宮内膜症薬物療法の問題点. 浜松マイルドケア講演会, 浜松
31. 吉賀正亨, 小宮山豊, 安田勝彦, 尼川龍一, 高橋伯夫 (2006) 迅速に診断が求められた異常フィブリノゲン (Fbg) 症の2例. 第103回日本内科学総会講演会, 東京
32. 神崎秀陽 (2006) 子宮内膜症薬物療法の現状と展望. 第58回日本産科婦人科学会ランチョンセミナー, 横浜
33. 安田勝彦, 中元 剛, 依岡寛和, 中嶋達也, 岡田英孝, 神崎秀陽 (2006) 46,XYの核型ホモ接合子による全胎状奇胎の一症例. 第58回日本産科婦人科学会学術講演会, 横浜
34. 岡田英孝, 中元 剛, 中嶋達也, 安田勝彦, 神崎秀陽 (2006) ヒト子宮内膜脱落膜化で制御されるproprotein convertase 6の検討. 第58回日本産科婦人科学会学術講演会, 横浜
35. 小野淑子, 梶本めぐみ, 中元 剛, 浅野雅美, 依岡寛和, 中嶋達也, 岡田英孝, 安田勝彦, 神崎秀陽 (2006) 治療に難渋した絨毛癌の1例. 第58回日本産科婦人科学会学術講演会, 横浜
36. 斉藤淳子, 小野淑子, 松尾 泉, 中嶋達也, 北田光美, 安田勝彦, 神崎秀陽 (2006) 子宮頸癌に対する concurrent chemoradiation の検討. 第58回日本産科婦人科学会学術講演会, 横浜

37. 中元 剛, 岡田英孝, 安田勝彦, 神崎秀陽 (2006) 子宮内膜間質細胞におけるケモカイン受容体の発現の検討. 第58回日本産科婦人科学会学術講演会, 横浜
38. 溝上友美, 比舍弘子, 岡崎 智, 王 曉麗, 宋昌曄, 季 清, 神崎秀陽, 池原 進 (2006) ヒト子宮内膜細胞からの間葉系幹細胞の分離とその性状の検討 (II). 第95回日本病理学会総会, 東京
39. 中嶋達也, 中元 剛, 中元章恵, 中嶋真由美, 岡田英孝, 安田勝彦, 神崎秀陽 (2006) 卵巣子宮内膜症性嚢胞手術時の出血量, 手術時間の予測. 第27回エンドメトリオーシス研究会学術講演会, 東京
40. Mizokami T, Hisha H, Okazaki S, Xiaoli W, Song Chang-ye, Qing L, Kanzaki H and Ikehara S (2006) Establishment and characterization of human amnion-derived adherent cells that facilitate engraftment of umbilical cord blood-derived hematopoietic stem cells into SCID mice. 第36回日本免疫学会学術集会, 大阪
41. 近藤俊吾, 近藤昏一, 安田勝彦 (2006) 妊娠末期, variable decelerationの出現にて臍帯辺縁付着を出生前診断しえた1症例. 日本産科婦人

科学会京都地方部会, 京都

著 書

1. 神崎秀陽, 中嶋達也, 依岡寛和 (2006) 無月経の診断と治療. 完璧! 産婦人科ローテート・マニュアル (朝倉啓文他編) 61-68頁, 金原出版, 東京
2. 田中文平, 堀越順彦, 光田信明, 山越統雄 (2006) 産婦人科社会保険診療要覧 (近畿産科婦人科学会編), 近畿産科婦人科学会, 京都市
3. 岡田英孝, 神崎秀陽 (2006) 着床促進法. 図説ARTマニュアル改訂第2版 (森 崇英, 久保春海, 岡村均編) 186-190頁, 永井書店, 大阪
4. 依岡寛和, 神崎秀陽 (2006) 胎盤. 臨床エビデンス産科学 (第2版) (佐藤和雄, 藤本征一郎編) 24-30頁, メジカルビュー社, 東京
5. 斉藤淳子, 神崎秀陽 (2006) 流産・胎状奇胎・子宮外妊娠. 臨床エビデンス産科学 (第2版) (佐藤和雄, 藤本征一郎編) 268-272頁, メジカルビュー社, 東京
6. 中元 剛, 神崎秀陽 (2006) 脱落膜. 臨床エビデンス産科学 (第2版) (佐藤和雄, 藤本征一郎編) 38-41頁, メジカルビュー社, 東京

麻酔科学講座

〈研究業績〉

原 著

1. Yamada M, Nakao S, Sakamoto S, Takamori Y, Tamura Y, Mochizuki-Oda N, Kataoka Y, Yamada H and Shingu K (2006) Propofol acts at the sigma-1 receptor and inhibits pentazocine-induced c-Fos expression in the mouse posterior cingulate and retrosplenial cortices. *Acta Anaesthesiol Scand* 50: 875-881
2. Oda T, Hirota K, Nishi K, Takabuchi S, Oda S, Yamada H, Arai T, Fukuda K, Kita T, Adachi T, Semenza GL and Nohara R (2006) Activation of hypoxia-inducible factor 1 during macrophage differentiation. *Am J Physiol Cell Physiol* 291: C104-C113
3. Asai T (2006) Intubating laryngeal mask airway

after failed insertion of a Classic laryngeal mask. *Anaesthesia* 61: 303

4. Asai T (2006) Unexpected subglottic stenosis in an infant. *Anaesthesia* 61: 302-303
5. Sakamoto S, Nakao S, Masuzawa M, Inada T, Maze M, Franks NP and Shingu K (2006) The differential effects of nitrous oxide and xenon on extracellular dopamine levels in the rat nucleus accumbens: A microdialysis study. *Anesth Analg* 103: 1459-1463
6. Asai T (2006) Dental damage caused by the intubating laryngeal mask airway. *Anesth Analg* 103: 785
7. Matsumoto S, Asai T and Shingu K (2006) True-view video laryngoscope in patients with difficult airways. *Anesth Analg* 103: 492-493

8. Asai T, Sakai T, Murao K, Kojima K and Shingu K (2006) More difficulty in removing an arrow epidural catheter. *Anesth Analg* 102: 1595
9. Asai T (2006) Difficulties in advancing an endotracheal tube over a fiberoptic bronchoscope. *Anesthesiology* 104: 377-378
10. Inada T, Hamano N, Yamada M, Shirane A and Shingu K (2006) Inducible nitric oxide synthase and tumor necrosis factor- α in delayed gastric emptying and gastrointestinal transit induced by lipopolysaccharide in mice. *Braz J Med Biol Res* 39: 1425-1434
11. Taguchi H, Oishi K, Sakamoto S and Shingu K (2006) Intrathecal betamethasone for cancer pain in the lower half of the body: a study of its analgesic efficacy and safety. *Br J Anaesth* 98: 385-389
12. Maniwa T, Saito Y, Kaneda H, Imamura H, Murao K and Shingu K (2006) Pneumothorax after pneumonectomy: Surgery with successful double lobe ventilation. *Jpn J Thorac Cardiovasc Surg* 54: 359-361
13. Asai T (2006) Pressure on the neck during laryngoscopy. *Paediatr Anaesth* 16: 807-808
14. 中尾慎一 (2006) セボフルランのプレコンディショニング及びポストコンディショニングによる心筋保護におけるミトコンドリア ATP 感受性カリウムチャンネルのラット in vivo での影響. *A net* 10: 32-37
15. 廣瀬卓治, 新宮 興 (2006) 【区域麻酔で困ったとき】胃切除術 穿刺部位, 穿刺法を再検討. *LiSA* 13: 354-355
16. 村尾浩平 (2006) クイズで覚える手術室の略語⑧: 輸血に関する略語②. *オペナーシング* 21: 882
17. 村尾浩平 (2006) クイズで覚える手術室の略語①: 楽しく略語を覚えよう! *オペナーシング* 21: 88
18. 村尾浩平 (2006) クイズで覚える手術室の略語⑦: 輸血に関する略語①. *オペナーシング* 21: 766
19. 村尾浩平 (2006) クイズで覚える手術室の略語⑥: 産婦人科の略語. *オペナーシング* 21: 658
20. 村尾浩平 (2006) クイズで覚える手術室の略語⑤: 内視鏡に関する略語. *オペナーシング* 21: 554
21. 村尾浩平 (2006) クイズで覚える手術室の略語④: へんな略語. *オペナーシング* 21: 436
22. 村尾浩平 (2006) クイズで覚える手術室の略語③: 麻酔に関する略語. *オペナーシング* 21: 330
23. 村尾浩平 (2006) クイズで覚える手術室の略語②: 緊急手術の略語. *オペナーシング* 21: 2000
24. 村尾浩平 (2006) クイズで覚える手術室の略語⑫: 風船に関する略語. *オペナーシング* 21: 1344
25. 村尾浩平 (2006) クイズで覚える手術室の略語⑪: 麻酔に関連する怖い病気. *オペナーシング* 21: 1232
26. 村尾浩平 (2006) クイズで覚える手術室の略語⑩: 心臓関連機器の略語. *オペナーシング* 21: 1118
27. 村尾浩平 (2006) クイズで覚える手術室の略語⑨: 術前診察に関する略語. *オペナーシング* 21: 1004
28. 西憲一郎, 新宮 興 (2006) 【外科救急処置アトラス】脊椎・四肢の術技 硬膜外穿刺. *外科治療* 94 (増刊): 573-577
29. 村尾浩平, 青木 愛 (2006) 【あなたの? にズバッと答える! 整形外科の看護Q & A】周術期看護のハテナ 術後看護のハテナ 疼痛対策. *整外看* (2006秋季増刊): 66-67
30. 村尾浩平, 青木 愛 (2006) 【あなたの? にズバッと答える! 整形外科の看護Q & A】周術期看護のハテナ 術後看護のハテナ 麻酔. *整外看* (2006秋季増刊): 59-62
31. 村尾浩平 (2006) 【あなたの? にズバッと答える! 整形外科の看護Q & A】周術期看護のハテナ 術前看護のハテナ 麻酔. *整外看* (2006秋季増刊): 42-47
32. 新宮 興, 西憲一郎 (2006) 【臨床医学の展望 2006 診断および治療上の進歩】麻酔科学. *医事新報* (4269): 12-22
33. 新宮 興, 増澤宗洋, 表 圭一, 並木昭義, 菊地博達, 川真田美和子, 佐藤重仁, 木村智政, 畑埜義雄, 中塚秀輝, 森田 潔, 原 哲也, 上

- 村裕一, 武田純三 (2006) Org 9426 (臭化ロクロニウム) の筋弛緩作用 臭化ベクロニウムとの比較. 麻酔 55: 1140-1148
34. 木本倫代, 村尾浩平, 里井明子, 稲田武文, 新宮 興 (2006) 片肺患者の気胸に対し気管支ブロッカーを用い右上葉分離肺換気を行った1症例. 麻酔 55: 611-613
 35. 里井明子, 村尾浩平, 久保古寿江, 竹安晶子, 大橋 敦, 中尾慎一, 新宮 興 (2006) Balloon Wedge Pressure Catheter を用いて一側肺換気を行った低体重児の1症例. 麻酔 55: 475-477
 36. 梅垣岳志, 村尾浩平, 浅井 隆, 新宮 興 (2006) 頸椎前方固定術における経鼻挿管チューブ抜管前のラリンジアルマスク挿入. 麻酔 55: 451-453
 37. 串田温子, 村尾浩平, 木本倫代, 中尾慎一, 新宮 興 (2006) 帝王切開における脊髄くも膜下麻酔においてフェンタニルの投与経路がBIS値に与える影響. 麻酔 55: 1393-1397
 38. 浅井 隆 (2006) 【安全な気道管理】挿管困難症およびCICVに対するアプローチ 成人編. 麻酔 55: 13-23
 39. 名和照晃, 永田 厚, 村尾浩平, 新宮 興 (2006) セボフルラン麻酔の術中覚醒の1症例. 臨麻 30: 1171-1172
 40. 新宮 興, 中尾慎一 (2006) 初期臨床研修を考える 麻酔科の取り組みと課題. 臨麻 30: 1591-1594
- 総 説
1. 中尾慎一, 宮本悦子, 山田麻起子, 阪本幸世, 高橋麻由, 新宮 興 (2006) 低二酸化炭素血症による脳白質病変の増悪. 日集中医誌 13: 125-130
- 学会発表
1. Sakamoto S, Inada T, Shirane A, Taguchi H and Shingu K (2006) A possible mechanism of intrathecal pain relief using intrathecal steroid in patients with cancer. Annual Meeting of American Society of Anesthesiologists, USA
 2. Shirane A, Inada T and Shingu K (2006) Effect of propofol and midazolam on antitumor immunity in mice. Annual Meeting of American Society of Anesthesiologists, USA
 3. 下藺崇宏, 溝田敏幸, 東別府直紀, 岡崎 俊, 宮脇郁子, 中尾慎一 (2006) 周術期の大量出血に対し遺伝子組換え活性型血液凝固第VII因子製剤を投与し, 止血・救命しえた症例. 日本麻酔科学会第53回学術集会, 兵庫
 4. Asai T (2006) New Option for Difficult Airways: The Laryngeal Tube. The Difficult Airway Course, Singapore
 5. Asai T (2006) Extraglottic airway device: LMA & LT: Role in difficult airways. The Difficult Airway Course, Singapore
 6. Asai T, Moriyama S, Nishita Y and Shingu K (2006) Use of the laryngeal tube during cardiopulmonary resuscitation of 300 patients. Difficult Airway Society Smmial meeting, Ireland
 7. 中尾慎一, 宮本悦子, 阪本幸代, 新宮 興 (2006) 脳蘇生の過去, 現在, 未来 脳虚血における白質病変の重要性. 日本蘇生学会第25回大会, 静岡
 8. 奥田平治 (2006) 骨粗鬆症による腰椎圧迫骨折の症例. 第12回近畿ペインクリニック症例検討会, 大阪
 9. 奥田平治 (2006) 環軸椎亜脱臼による疼痛に麻薬を使用した1例. 第13回近畿ペインクリニック症例検討会, 大阪
 10. 橘和哉 (2006) 頸部硬膜外チュービングのトラブル1例. 第13回近畿ペインクリニック症例検討会, 大阪
 11. 大石敬子, 田口仁士, 松本英夫, 中尾みどり, 永田 厚 (2006) メッシュプラグ法による鼠径部ヘルニア術後疼痛の検討. 第13回近畿ペインクリニック症例検討会, 大阪
 12. 大石敬子, 田口仁士, 松本英夫, 中尾みどり, 永田 厚 (2006) 乳腺切除術・広背筋皮弁再建術後の難治性疼痛の1症例. 第5回難治性疼痛研究会, 大阪
 13. 松本早苗, 浅井 隆, 呉本善聡, 新宮 興 (2006) TruViewEVO2喉頭鏡が有用であった気道確保困難症例の気管挿管の経験. 日本臨床麻酔学会第26回大会, 北海道
 14. 中本麻衣子, 村尾浩平, 上嶋浩順, 坂井貴子, 中尾慎一, 新宮 興 (2006) 挿管用ラリンジアルマスクの喉頭蓋持ち上げ弁の切離をし挿

管可能となった慢性関節リウマチ患者の一症例. 日本臨床麻酔学会第26回大会, 北海道

15. 吉川尚孝, 松本早苗, 浅井 隆, 呉本善聡, 新宮 興 (2006) TruViewEVO2喉頭鏡を用いた頸椎疾患を有する患者に対する気管挿管の経験. 第52回日本麻酔科学会関西支部学術集会, 大阪
16. 浅井 隆 (2006) ラリンジアルマスクは無用の長物か?—有用と言われながらなぜ使われないか—. 第52回日本麻酔科学会関西支部学術集会, 大阪
17. 田口仁士 (2006) ステロイドのくも膜下投与による鎮痛効果. 第52回日本麻酔科学会関西支部学術集会, 大阪
18. 濱野宣行 (2006) 急性肺障害に対してシベレスタットナトリウムが著効を示したと思われるウェゲナー肉芽腫症患者の一症例. 河内地区急性肺障害フォーラム, 大阪
19. 坂田和房 (2006) 坐骨神経痛治療後に前立腺癌骨転移が判明した1例. 第12回近畿ペインクリニック症例検討会, 大阪
20. 大石敬子, 田口仁士, 松本英夫, 中尾みどり, 新宮 興 (2006) メッシュプラグ法による鼠径ヘルニア術後疼痛の検討. 日本ペインクリニック学会第40回大会, 兵庫
21. 田口仁士 (2006) 痛みに対する認識を高めるためには? 痛みの教育 痛みの臨床と医学生, 研修医の教育. 日本ペインクリニック学会第40回大会, 兵庫
22. 住吉直秀 (2006) ワークショップ 医師の立場から. 第106回中材業務及び滅菌技法研究会, 大阪
23. 小島研太郎, 濱野宣行, 山崎悦子, 神原達也, 西憲一郎, 中尾慎一, 新宮 興 (2006) 食道腫瘍の気管浸潤による気管狭窄例に対してステント留置により救命し得た一例. 第51回日本集中治療医学会近畿地方会, 大阪
24. 東別府直紀, 下園崇宏, 溝田敏幸, 岡崎 俊, 宮脇郁子, 榎泰二郎, 中尾慎一 (2006) 誤嚥性肺炎からAcute respiratory distress syndromeを生じた高サイトカイン血症患者に対するシベレスタットの有効性. 第51回日本集中治療医学会近畿地方会, 大阪
25. 叶多知子, 亀井 錐, 太城良子, 藤田淳子, 新宮 興, 畔 据 (2006) 術前アスピリン療法継続は, オフポンプ冠動脈バイパス術術後合併症を改善する. 日本麻酔科学会第53回学術集会, 兵庫
26. 松本早苗, 浅井 隆, 新宮 興 (2006) 星状神経節ブロックが有効と思われたアトピー性皮膚炎の1症例. 日本麻酔科学会第53回学術集会, 兵庫
27. 浅井 隆, 新宮 興 (2006) 心肺停止時のラリンジアルチューブの使用100例. 日本麻酔科学会第53回学術集会, 兵庫
28. 大石敬子, 田口仁士, 山崎悦子, 木本倫代, 増澤宗洋, 新宮 興 (2006) 帯状疱疹痛と同じ脊椎レベルにみられた, 脊椎圧迫骨折の3症例. 日本麻酔科学会第53回学術集会, 兵庫
29. 大石醒悟, 榎泰二郎, 岡崎 俊, 本田 葉, 中尾慎一 (2006) 気管内腫瘍レーザー焼灼時に気管チューブが発火した一症例. 日本麻酔科学会第53回学術集会, 神戸市
30. 中本麻衣子, 木本倫代, 村尾浩平, 坂井貴子, 新宮 興 (2006) フェンタニル添加脊椎くも膜下麻酔においてブピバカインの比重がBIS値に与える影響. 日本麻酔科学会第53回学術集会, 兵庫
31. 東別府直紀, 下園崇宏, 溝田敏幸, 岡崎 俊, 榎泰二郎, 中尾慎一 (2006) 一般病院における生体肝移植術施行について. 日本麻酔科学会第53回学術集会, 兵庫
32. 白根温子, 稲田武文, 濱野宣行, 新宮 興 (2006) マウスにおけるプロポフォール及びミダゾラムの抗腫瘍免疫に及ぼす影響. 日本麻酔科学会第53回学術集会, 兵庫
33. 濱野宣行, 浅井 隆, 稲田武文, 新宮 興 (2006) マウスエンドトキシシモデルにおける・遮断薬の胃・腸管運動に及ぼす影響. 日本麻酔科学会第53回学術集会, 兵庫
34. 岡崎裕二, 河端恭代, 白川 努, 西前博司, 益子進也 (2006) 周術期に呼吸管理に難渋した気管支難化症の一症例. 日本臨床麻酔学会第26回大会, 北海道
35. 大石敬子, 中尾みどり, 松本英夫, 田口仁士 (2006) 帯状疱疹痛と同じ脊椎レベルにみられた, 脊椎圧迫骨折の3症例. 第12回近畿ペインクリニック症例検討会, 大阪

36. 田口仁士, 大石敬子, 松本英夫, 中尾みどり (2006) 関西西大付属滝井病院におけるペインクリニック研修プログラム. 第12回近畿ペインクリニック症例検討会, 大阪
37. 久保古寿江, 河端恭代, 西前博司, 益子進也, 里井明子, 梅垣岳志, 新宮 興 (2006) 気管狭窄と経鼻胃管が喘息発作の治療抵抗性を助長したと考えられる一症例. 第33回日本集中治療医学会学術集会, 大阪
38. 木本倫代, 村尾浩平, 里井明子, 濱野宣行, 梅垣岳志, 新宮 興 (2006) 片肺患者の気胸に対し気管支ブロッカーを用い右上葉分離肺換気を行った一例. 第33回日本集中治療医学会学術集会, 大阪
39. 濱野宣行, 新宮 興 (2006) マウスエンドトキシシン血症における $\alpha 2$ 受容体遮断薬の胃・腸管運動に及ぼす影響. 第33回日本集中治療医学会学術集会, 大阪
40. 趙 晃濟, 佐藤慎一, 山川 勝, 中尾慎一 (2006) 神戸市立中央市民病院における小児集中治療管理の現状. 第33回日本集中治療医学会学術集会, 大阪
41. 梅垣岳志, 増澤宗洋, 村尾浩平, 中尾慎一, 新宮 興 (2006) 悪性高熱素因患者でプロポフォールの投与により体温上昇をきたした症例. 第33回日本集中治療医学会学術集会, 大阪
42. 木本倫代, 村尾浩平, 里井明子, 濱野宣行, 梅垣岳志, 新宮 興 (2006) 片肺患者の気胸に対し気管支ブロッカーを用い右上葉分離肺換気を行った一例. 日本集中治療医学会学術集会, 大阪
43. 西憲一郎 (2006) 枚方新病院ICUについて. 呼吸管理研究会, 枚方
44. 上山精二, 森山尚治, 浅井 隆 (2006) ラリゲルチューブの有用性とカフ空気量について. 第14回全国救急隊員シンポジウム, 新潟
45. 宮脇郁子, 下園崇宏, 東別府直紀, 岡崎 俊, 榎泰二郎, 中尾慎一 (2006) von Willebrand病(II型)を合併した感染性心内膜炎に対する口腔内感染巣と僧帽弁逸脱症への二期的手術の麻酔経験. 日本麻酔科学会第53回学術集会, 兵庫

臨床検査医学講座

〈研究業績〉

原 著

1. Kanazawa S, Yamaguchi K, Kinoshita Y, Muramatsu M, Komiyama Y and Nomura S (2006) Aspirin reduces adverse effects of gefitinib. *Anti-cancer Drugs* 17: 423-427
2. Masuda M, Miyoshi H, Kobatake S, Nishimura N, Dong XH, Komiyama Y and Takahashi H (2006) Increased soluble Fc γ RIIIaM ϕ in plasma from patients with coronary artery diseases. *Atherosclerosis* 188: 377-383
3. Kaibori M, Ha-Kawa SK, Uchida Y, Ishizaki M, Hijikawa T, Saito T, Imamura A, Hirohara J, Uemura Y, Tanaka K and Kamiyama Y (2006) Recurrent Hepatitis C After Living Donor liver Transplantation Detected by Tc-99m GSA Liver Scintigraphy. *Dig Dis Sci* 51: 2013-2017
4. Miki K, Yoshizawa K, Shikata N, Yuri T, Matsuoka Y and Tsubura A (2006) Effects of gender and gonad status on N-methyl-N-nitrosourea-induced cataractogenesis and retinopathy in Lewis rats. *In Vivo* 20: 5-10
5. Kanazawa S, Yamaguchi K, Kinoshita Y, Komiyama Y, Muramatsu M and Nomura S (2006) Elevation of soluble interleukin-2 receptor in patients with non-small cell lung cancer treated with gefitinib. *J Cancer Res Clin Oncol* 132: 719-725
6. Nakamura T and Takahashi H (2006) Epidemiological study of Candida infections in blood: Susceptibilities of Candida spp. to antifungal agents, and clinical features associated with the candidemia. *J Infect Chemother* 12: 132-138
7. Nishimura M, Murase M, Hashimoto T, Kobayashi H, Yamazaki S, Imai R, Okino K, Fujita H, Inoue N, Takahashi H and Ono T (2006) Influence of diabetes mellitus on diagnostic potential of iodine-123-BMIPP imaging for coronary artery

- stenosis in hemodialysis patients. J Nephrol 19: 481-491
8. Nishimura M, Murase M, Hashimoto T, Kobayashi H, Yamazaki S, Imai R, Okino K, Fujita H, Inoue N, Takahashi H and Ono T (2006) Insulin resistance and impaired myocardial fatty acid metabolism in dialysis patients with normal coronary arteries. Kidney Int 69: 553-559
 9. Nishimura M, Hashimoto T, Kobayashi H, Yamazaki S, Okino K, Fujita H, Inoue N, Takahashi H and Ono T (2006) Association of the circulating adiponectin concentration with coronary in-stent restenosis in haemodialysis patients. Nephrol Dial Transplant 21: 1640-1647
 10. Terakawa N, Satoi S, Takai S, Yanagimoto H, Takahashi K, Komiyama Y, Kwon AH, Kamiyama Y and Takahashi H (2006) Clinical monitoring of innate cellular immunity of monocytes/macrophages by tumor necrosis factor alpha productivity in whole blood stimulated by lipopolysaccharide in patients with pancreatic cancer. Pancreas 33: 31-37
 11. 清水千裕, 中村竜也, 田中敬一郎, 佐野みゆき, 中田千代, 平城 均, 宗像眞智子, 高橋伯夫 (2006) Streptococcus pyogenes のマクロライド系薬剤耐性と Telithromycin 耐性株の機序についての考察. 医学検査 55: 992-997
 12. 伊藤浩一, 日高典子, 宗像眞智子, 正木浩哉 (2006) パスファーストを用いたBNPの基礎的検討, 特にBNPの保存安定性について. 医療と検機器・試薬 29: 583-588
 13. 渡辺 淳, 仲野俊成, 松本掲典, 新貝欣久, 平林江理夫, 高橋伯夫 (2006) 病院間診療情報リアルタイム相互参照基盤の構築. 医療情報学 26: 718-720
 14. 仲野俊成, 渡辺 淳, 大村直人, 澤田 敏, 高橋伯夫, 福泉利彦, 廣川陽介 (2006) 病院情報システムの通信パターンを考慮したネットワークの構築. 医療情報学 26: 105-112
 15. 中村竜也, 清水千裕, 笠原麻友美, 田中敬一郎, 中田千代, 高橋伯夫 (2006) 血液培養由来 Pseudomonas aeruginosa に対するカルバペネム系, フルオロキノロン系およびアミノグリコシド系抗菌薬の抗菌力. 新薬と臨 55: 140-147
 16. 蓮尾麻里, 南野雅之, 八木正夫, 岩井大, 辻裕之, 小西将矢, 島野卓史, 坂井田紀子, 山下敏夫 (2006) HER-2蛋白を発現したSalivary Duct Carcinomaにおけるトラスツズマブ使用の検討. 頭頸部癌 32: 68-71
 17. 小宮山豊, 小森敏彦, 寺岡安津子, 寺内里恵, 宗像眞智子, 吉賀正亨, 高橋伯夫 (2006) 2社の血漿 FDP 測定試薬の比較検討と問題点 人為的採血不良検体と凝固・線溶亢進症例および異常フィブリノゲン症例. 日検血会誌 7: 278-286
- ### 総 説
1. 高橋伯夫 (2006) 【臨床検査の達人になる!】臨床検査の読み方・すすめ方 炎症反応マーカー, CRPの活用の仕方. JIM 16: 818-821
 2. 高橋伯夫 (2006) 動脈硬化と CRP. クリニカルプラクティス 25: 296-299
 3. 高橋伯夫, 小宮山豊 (2006) 【体液調節とホルモン】 体液調節の基礎 Na 利尿ホルモン内因性ジギタリス, ホルモンと臨 54: 417-423
 4. 高橋伯夫 (2006) 【降圧薬療法と糖尿病】 中枢性交感神経抑制薬治療と糖尿病 メタボリックシンドロームを中心に. 血圧 13: 639-646
 5. 高橋伯夫 (2006) 【高血圧 最新の研究動向】 基礎編 血圧調節因子 交感神経系. 日臨 64 (増刊5): 94-100
 6. 高橋伯夫, 小宮山豊 (2006) 【高血圧 最新の研究動向】 基礎編 血圧調節因子 循環生理活性物質 ジギタリス様物質. 日臨 64 (増刊5): 177-181
- ### 症例報告
1. Maehara M, Ikeda K, Ohmura N, Kurokawa H, Sakaida N and Sawada S (2006) Leionyoma of the trachea: CT and MRI findings. Radiat Med 24: 643-645
 2. Miyazaki Y, Ikeda K, Uemura Y, Maehara M, Ohmura N and Sawada S (2006) Non-necrotic invasive squamous cell carcinoma associated with an inverted papilloma: MRI features. Radiat

Med 24: 143-146

3. 我妻敬一, 稲垣隆介, 龍 堯志, 大重英行, 山原崇弘, 李 強, 山内康雄, 河本圭司, 植村芳子, 坂井田紀子 (2006) 乳児脊髄腫瘍の一例. *Neuro-Oncol* 15: 56-57
4. 南野桂三, 足立 靖, 植村芳子, 坂井田紀子, 草深公秀, 長岡三穂, 鈴木康弘, 岩崎真佳, 松村美代, 池原 進 (2006) 食道粘膜下腺腫の1症例. *診断病理* 23: 46-48

学会発表

1. Masuda M and Takahashi H (2006) The distribution of FcγRIIB genotype in uremic patients. 日本免疫学会, 大阪
2. Komiyama Y, Yoshika M, Amakawa R, Shima M, Masaki H and Takahashi H (2006) Acquired Hemophilia A without Specified Underlying Diseases. Asian Society of Clinical Pathology and Laboratory Medicine, 神戸
3. Masuda M, Miyashima S, Hong S-Y, Nishibu T, Nishimura N, Yoshika M, Komiyama Y, Tanaka T, Kobatake S, Iida H and Takahashi H (2006) Measurement of soluble Fcγreceptor type IIIa in plasma from patients with rheumatoid arthritis. International Congress of the Asian Society of Clinical Pathology and Laboratory Medicine, 神戸
4. Yoshika M, Komiyama Y, Nishimura N, Konishi M, Akizawa T, Kobayashi T, Date M, Kobatake S, Masuda M, Masaki H and Takahashi H (2006) Hypertensive effect of the novel endogenous digitalis, marinobufotoxin. The 12th International Symposium on SHR, 京都
5. Yoshika M, Komiyama Y, Nishimura N, Konishi M, Akizawa T, Kobayashi T, Date M, Kobatake S, Masuda M, Masaki H and Takahashi H (2006) The novel endogenous digitalis, marinobufotoxin, in mammals and its physiological role. The 21st Scientific Meeting of the International Society of Hypertension, 福岡
6. Yoshika M, Komiyama Y, Nishimura N, Konishi M, Akizawa T, Kobayashi T, Date M, Kobatake S, Masuda M, Masaki H and Takahashi H (2006) Hypertensive activity of the novel endogenous digitalis, marinobufotoxin and its renal pathophysiological role. The 9th International Congress of the Asian Society of Clinical Pathology and Laboratory Medicine, 神戸
7. 原 克子, 朴 幸男, 正木浩哉, 高橋伯夫 (2006) シスタチンCの臨床の有用性. 第17回日本臨床化学会近畿支部総会, 大阪
8. 朴 幸男, 原 克子, 森田 寛, 高橋伯夫 (2006) 下肢閉塞性動脈硬化症における塩酸サルボグレラートの臨床効果血漿, 全血セロトニンとレムナントリポ蛋白コレステロールの推移. 第10回日本心血管内分泌代謝学会, 福井
9. 上埜泰寛, 河相 吉, 池田耕士, 大村直人, 黒川弘晶, 前原 稔, 澤田 敏, 植村芳子 (2006) 化学療法後の18F-FDG 集積に炎症反応の関与が示唆された縦隔胚細胞腫瘍の一例. 第284回日本医学放射線学会関西地方会, 大阪
10. 森本 聡, 青田泰子, 居原田善司, 山原英樹, 所 敏子, 正木浩哉, 高橋延行, 大村直人, 池田耕士, 澤田 敏, 岩坂壽二 (2006) クロニジンが著効を示した慢性腎不全を伴う難治性高血圧の一例. 第49回日本腎臓学会, 東京
11. 角坂芳彦, 正木浩哉, 日高典子, 西山弥生, 宗像真智子, 大倉ひろ枝, 高橋伯夫 (2006) 血清シスタチンCと尿中アルブミン/クレアチニン比との関連性の検討. 第53回日本臨床検査医学会学術集会, 弘前
12. 原 克子, 朴 幸男, 森田 寛, 正木浩哉, 高橋伯夫 (2006) 虚血性心疾患におけるレムナントリポ蛋白コレステロール測定と有用性. 第53回日本臨床検査医学会学術集会, 弘前
13. 原 克子, 朴 幸男, 森田 寛, 正木浩哉, 高橋伯夫 (2006) 急性冠症候群 (ACS) におけるsmall dense LDL (sdLDL) の臨床的有用性. 第53回日本臨床検査医学会学術集会, 弘前
14. 高橋伯夫 (2006) 生活習慣病と臨床検査 メタボリックシンドロームを特徴づける臨床検査指標. 第53回日本臨床検査医学会学術集会, 弘前
15. 正木浩哉, 今田崇裕, 菊池早苗, 徳野桂子, 宗像真智子, 高橋伯夫 (2006) 「骨髓細胞移植による血管新生療法」の効果判定における経皮組織酸素分圧の有用性の検討. 第53回日本臨床検査医学会学術集会, 弘前

16. 大倉ひろ枝, 角坂芳彦, 中村竜也, 吉岡秀樹, 徳永秀理, 高田厚照, 鈴木玲子, 尾崎貴恵, 田中敬一郎, 五十嵐裕子, 宗像真知子, 正木浩哉, 高橋伯夫 (2006) リアルタイム検査に対応した検査部の構築と附属2病院連携の試み, 第53回日本臨床検査医学会学術集会, 弘前
17. 榊田緑, 正木浩哉, 高橋伯夫 (2006) 腎不全患者のFcγR II B多型, 第53回日本臨床検査医学会学術集会, 弘前
18. 吉賀正亨, 小宮山豊, 四方伸明, 西村典子, 榊田緑, 正木浩哉, 高橋伯夫 (2006) ラット腎組織における新規内因性ジグタリス様物質の免疫組織化学的検討, 第53回日本臨床検査医学会総会, 弘前
19. 小宮山豊, 吉賀正亨, 平川昭彦, 村尾佳則, 北澤康秀, 中谷壽男, 榊田緑, 正木浩哉, 高橋伯夫 (2006) TTP, HITさらにDICの鑑別診断が困難であった一症例, 第53回日本臨床検査医学会総会, 弘前
20. 藤原通恵, 小宮山豊, 宗像真智子, 吉賀正亨, 榊田緑, 正木浩哉, 香川英生, 尼川龍一, 内田陽子, 安田勝彦, 嶋緑倫, 高橋伯夫 (2006) 後天性血友病患者の帝王切開による出産と凝固検査, 第53回日本臨床検査医学会総会, 弘前
21. 山道啓吾, 小松優治, 坂井田紀子, 道浦拓, 中井宏治, 浅井晃, 中根恭司 (2006) 長期間にわたる慢性炎症により発生した多発食道癌を伴った食道アカラシアの1例, 第56回食道色素研究会, 札幌
22. 櫻本和人, 山道啓吾, 道浦拓, 三木博和, 中井宏治, 浅井晃, 井上健太郎, 植村芳子, 中根恭司 (2006) 食道原発メラニン欠乏性悪性黒色腫の1例, 第68回日本臨床外科学会総会, 広島
23. 波柴尉充, 梶本心太郎, 前田裕二, 平川昭彦, 村尾佳則, 中谷壽男, 小宮山豊 (2006) CHDF施行時DICにHITを合併し診断に苦慮した2例, 第17回日本急性血液浄化学会, 広島
24. 夏目聖子, 鈴木玲子, 上農寛子, 吉岡秀樹, 大倉ひろ枝, 高橋伯夫 (2006) 尿中アルブミン測定試薬「オートワコー マイクロアルブミン」の基礎的検討, 第38回日本臨床検査自動化学会, 神戸
25. 角坂芳彦, 乾佐知子, 大倉ひろ枝, 高橋伯夫 (2006) MNI LINK SYSTEMを活用した血液ガス分析の使用経験, 第38回日本臨床検査自動化学会, 神戸
26. 笠原麻友美, 中村竜也, 清水千裕, 奥田和之, 中田千代, 藤本弘子, 大倉ひろ枝, 高橋伯夫 (2006) Streptococcus pneumoniaeにおけるBDフェニックスの性能評価, 第38回日本臨床検査自動化学会, 神戸
27. 高橋伯夫 (2006) CRPをめぐる最近の話題, 第38回日本臨床検査自動化学会, 神戸
28. 大倉ひろ枝, 鈴木玲子, 夏目聖子, 上農寛子, 吉岡秀樹, 高橋伯夫 (2006) CRP-ラテックスX2「生研」NXの基礎的検討と有用性 メタボリックシンドローム診断基準項目とCRPとの関係, 第38回日本臨床検査自動化学会, 神戸
29. 吉岡秀樹, 鈴木玲子, 夏目聖子, 高橋敦子, 大倉ひろ枝, 高橋伯夫 (2006) 24時間体制および迅速検査対応を考慮したIDS-880搬送システムの改良の試み, 第38回日本臨床検査自動化学会, 神戸
30. 島田治, 福井勝也, 矢西正明, 川喜多繁誠, 杉素彦, 芦田眞, 室田卓之, 四方伸明, 松田公志 (2006) FMD(Fibromuscular dysplasia)による腎動脈瘤破裂の一例, 第56回日本泌尿器科学会中部総会, 名古屋
31. 榊田緑, 高橋伯夫 (2006) 腎不全におけるFcγRIIB多型の偏り, 日本血液学会, 福岡
32. 夏目聖子, 鈴木玲子, 上農寛子, 吉岡秀樹, 大倉ひろ枝, 高橋伯夫 (2006) 尿中アルブミン測定試薬「オートワコー マイクロアルブミン」の基礎的検討, 日本臨床検査自動化学会大会, 神戸
33. 角坂芳彦, 乾佐知子, 田中文代, 井辻泰子, 小森敏彦, 西山弥生, 大倉ひろ枝, 高橋伯夫 (2006) OMNILINK SYSTEMを活用した血液ガス分析の使用経験, 日本臨床検査自動化学会大会, 神戸
34. 原 克子, 広渡祐史, 朴 幸夫, 高橋伯夫 (2006) メタボリックシンドロームにおけるアディポネクチンとレムナントリポ蛋白コレステロールの有用性, 第46回日本臨床化学年会, 東京
35. 武尾真宏, 松本隆之, 森 茂生, 田橋賢也, 島谷昌明, 高橋悠, 鈴木 亮, 住本貴美, 高岡

- 亮, 岡崎和一, 井上健太郎, 中根恭司, 坂井田紀子, 植村芳子 (2006) 急速に進展発育し通過障害を来した十二指腸神経内分泌腫瘍の一例. 第85回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪
36. 小宮山豊 (2006) 臨床検査学—その基礎と応用—. 平成18年度運動療法機能訓練技能講習会, 尼崎
37. 小宮山豊 (2006) 凝固は楽しい! 26 年間臨床検査部で…臨床検査技師は… YMT 5 周年記念研究会, 大阪
38. 川村梨那子, 古川富紀子, 関 寿人, 梅原秀人, 池田耕造, 是枝ちづ, 岡崎和一, 上山泰男, 海堀昌樹, 谷川 昇, 坂井田紀子 (2006) FNHにより Budd-Chiari 症候群様の血流異常を認めた一例. 第42回日本肝癌研究会, 東京
39. 吉賀正亨, 小宮山豊, 寺岡安津子, 宗像眞智子, 爲政大幾, 正木浩哉, 堀尾 武, 高橋伯夫 (2006) D-ダイマーの異常高値を認めた悪性黒色腫の1例. 第7回日本検査血液学会学術集会, 東京
40. 寺岡安津子, 小宮山豊, 寺内里恵, 宗像眞智子, 尼川龍一, 嶋 緑倫, 松本智子, 吉賀正亨, 正木浩哉, 高橋伯夫 (2006) 基礎疾患不明の後天性血友病 A による出血を認めた30代男性. 第7回日本検査血液学会学術集会, 東京
41. 河本圭司, 山原崇弘, 我妻敬一, 大重英行, 龍堯志, 笠井治文, 沼 義博, 山内康雄, 坂井田紀子, 植村芳子 (2006) Glioblastoma における術中迅速病理診断による腫瘍細胞浸潤の検討. 第24回日本脳腫瘍病理学会, 沖縄
42. 高田晃平, 棚野晃秀, 徳原克治, 浜田吉則, 奥田和之, 高橋伯夫 (2006) Hirschsprung 病の兄妹発生例. 第42回日本小児外科学会近畿地方会, 兵庫
43. 杉本博是, 森眞一郎, 横井 崇, 尾崎吉郎, 伊藤量基, 植村芳子, 尼川龍一, 福原資郎 (2006) 唾液腺 MALT リンパ腫における樹状細胞の動態解析. 第46回日本リンパ網内系学会, 名古屋
44. 中矢桂子, 大西修司, 鈴木 敏, 森眞一郎 (2006) 抗 C および抗 e 抗体が原因と思われる遅延性溶血性輸血副作用 (DHTR) の1症例. 第54回日本輸血学会総会, 大阪
45. 小宮山豊 (2006) FDP, DD のデータ不一致・一致例とその周辺～臨床検査技師は… 第2回神戸CFM研究会, 神戸
46. 吉賀正亨, 小宮山豊, 梶田 緑, 正木浩哉, 高橋伯夫 (2006) 新規内因性ジギタリス様物質の発見とその分泌増強因子. 第78回日本内分泌学会学術総会, 神戸
47. 中村竜也, 高橋伯夫 (2006) Monte Carlo Simulation を用いた血液由来緑膿菌に対するカルバペネム系薬の有効率について. 日本化学療法学会総会, 京都
48. 吉賀正亨, 小宮山豊, 安田勝彦, 尼川龍一, 高橋伯夫 (2006) 迅速に診断が求められた異常フィブリノゲン (Fbg) 症の2例. 第103回日本内科学総会講演会, 東京
49. 垓 貴司, 塚本麗子, 三木克朗, 上原範久, 清塚康彦, 松岡洋一郎, 四方伸明, 螺良愛郎 (2006) 妊娠期を模倣したエストロゲンおよびプロゲステロン投与期間のMNU誘発ラット乳腺発癌への影響. 第95回日本病理学会, 東京
50. 原 克子, 朴 幸男, 小宮山豊, 高橋伯夫 (2006) 急性冠症候群 (ACS) における血中total PAI-1の動態. 第46回日本臨床検査医学会近畿支部総会, 和歌山
51. 清水千裕, 中村竜也, 中田千代, 平城 均, 宗像眞智子, 高橋伯夫 (2006) Haemophilus influenzae に対する各種薬剤感受性試験用プレートの評価について. 日本臨床微生物学会総会, 横浜
52. 原 克子, 小宮山豊, 宗像眞智子, 中谷壽男, 高橋伯夫 (2006) ピリダフェンチオン有機リン系農薬 (殺虫剤) 中毒症例の GC/MS 分析ピリダフェンチオン (殺虫剤) 中毒症例の GC/MS 分析. 第28回日本中毒学会, 松山

救急医学科

〈研究業績〉

原著

1. Kyo S, Otani H, Hamano A, Matsuhisa S, Akita Y, Fujiwara H, Hattori R, Imamura H, Kamihata H and Iwasaka T (2006) Dystrophin is a possible end-target of ischemic preconditioning against cardiomyocyte oncosis during the early phase of reperfusion. *Cardiovasc Res* 70: 354-363
2. Fujii H, Kaneda H and Fujiwara HI (2006) Administration of sivelestat after acute aortic dissection surgery. *Chirurgia* 19: 337-340
3. Fujii H, Hirakawa A, Kitazawa Y, Yamamoto T and Nakatani T (2006) A study of axillary artery cannulation in Stanford type A acute aortic dissection compared with femoral artery cannulation. *Chirurgia* 19: 333-336
4. Fujii H, Tanaka T, Yamamoto T, Takeyama N, Hirakawa A and Kajimoto S (2006) Thoracic aortic emergencies in octogenarians. *Chirurgia* 19: 161-163
5. Otani H, Matsuhisa S, Akita Y, Kyo S, Enoki C, Tatsumi K, Fujiwara H, Hattori R, Imamura H and Iwasaka T. (2006) Role of mechanical stress in the form of cardiomyocyte death during the early phase of reperfusion. *Circ J* 70: 1344-1355
6. Fujii H, Kitazawa Y, Saito F, Tsuda M, Yabuki T and Kajimoto S (2006) Return to home early days after acute aortic dissection surgery. *Minerva Chir* 61: 509-514
7. Iwami T, Hiraide A, Nakanishi N, Hayashi Y, Nishiuchi T, Uejima T, Morita H, Shigemoto T, Ikeuchi H, Matsusaka M, Shinya H, Yukioka H and Sugimoto H (2006) Outcome and characteristics of out-of-hospital cardiac arrest according to location of arrest: A report from a large-scale, population-based study in Osaka, Japan. *Resuscitation* 69: 221-228
8. 北澤康秀 (2006) 【すぐ対応! 救急患者のアラームサイン バイタル 急変 ME機器】身体編 体温. *EMERGENCY CARE* (2006 新春増刊): 32-40
9. 沖井 裕, 河本圭司, 赤根 敦, 岩瀬正顕, 吉岡正太郎, 大石哲也, 中谷壽男 (2006) 32 例の平坦脳波の自動解析. *Neurosurg Emerg* 11: 70-74
10. 中村誠也, 飯田寛和, 中谷健治, 中谷壽男 (2006) 本院救命センターにおける circular 型創外固定器を用いた開放骨折治療について. *骨折* 28: 707-710
11. 藤井弘史, 北澤康秀, 金田浩由紀, 山本 透, 富野敦稔, 岸本真房, 鈴木聡史, 梅井菜央, 安藤有子, 村山里香 (2006) 救命センターに搬送された下肢閉塞性動脈硬化症急性増悪例の治療成績 下肢動脈塞栓症との比較. *日臨救急医会誌* 9: 438-443

総説

1. 村尾佳則 (2006) 【すぐ対応! 救急患者のアラームサイン バイタル 急変 ME機器】症状編 ショック. *EMERGENCY CARE* (2006 新春増刊): 244-256
2. 中谷壽男 (2006) 【カテーテル管理の最新トレンド】スワングアンツカテーテル. *看技* 52: 26-27
3. 中谷 壽男 (2006) 【多発外傷 preventable trauma deathの回避をめざして】総論 多発外傷治療の優先順位. *救急医* 30: 517-521
4. 中谷壽男 (2006) 【正しい救急処置 その根拠と合理性を考える】心肺蘇生法 総論: 2005 年版ガイドラインで何が変わったか. *救急医* 30: 1134-1140
5. 北澤康秀 (2006) 【NST活動の標準化とその評価】救急医療とNST. *静脈経腸栄養* 21: 3-9
6. 中谷 壽男, 鈴木義久, 井出千束, 福島雅典 (2006) スポーツドクターに必要な救急医学の知識 脊髄損傷の再生医療. *臨スポーツ医* 23: 1081-1085

症例報告

1. 藤井弘史, 中尾佳永, 徳田貴則, 岡田隆之, 北澤康秀 (2006) 直腸との瘻孔形成が疑われた孤立性感染性内腸骨動脈瘤の1手術治験例. *日血管外会誌* 15: 39-42
2. 三木重樹, 田中孝也, 山本 透, 藤井弘史, 北澤康秀, 中谷壽男 (2006) 急速に出現・拡大

した感染性嚢状腹部大動脈瘤の1例. 日臨救急
医学会誌 9: 33-37

学会発表

1. Fujii S, Sugimoto K, Yano K, Urabe D, Ninomia N, Ukai T, Kajimoto S, Maeda Y, Hirakawa A, Murao Y and Nakatani T (2006) The effectiveness of medical and logistic partnership in disaster relief. The 8th Asia Pacific Conference on Disaster Medicine, Tokyo
2. Nakatani T, Iwase M, Saito F, Maeda Y, Fujiwara H, Kajimoto S, Hashiba M, Hirakawa A, Murao Y, Onodera R, Suzuki Y and Fukushima M, Ide C (2006) Report of the first clinical trial of spinal cord regeneration with bone marrow stromal cell transplanation by lumbar puncture. The 8th Asia Pacific Conference on Disaster Medicine, Tokyo
3. Murao Y, Kitazawa Y, Saito F, Hirakawa A and Nakatani T (2006) Hypertonic saline resuscitation reduces damage of the liver in the mouse model of hemorrhagic shock: Histological assessment. 29th Annual Conference on Shock, Colorado
4. 久徳茂雄, 井上唯史, 浅井 悌, 田中博之 (2006) 高齢者の熱傷3例. 第14回日本熱傷学会近畿地方会, 岸和田
5. 浅井 悌, 小西陽子, 井上唯史, 久徳茂雄 (2006) 両側下腿の凍傷を契機にコンパートメント症候群を呈した1例. 第14回日本熱傷学会近畿地方会, 岸和田
6. 岩瀬正顕, 齊藤福樹, 前田裕二, 平川昭彦, 村尾佳則, 中谷壽男 (2006) 当科における頸髄損傷の治療成績. 第16回近畿外傷フォーラム, 橿原
7. 齊藤福樹, 岩瀬正顕, 中谷壽男 (2006) 脊髄損傷に対する自家骨髄間質細胞移植による再生治療の試み—6ヶ月の長期経過. 第16回近畿外傷フォーラム, 橿原
8. 富野敦稔, 藤井弘史, 岸本真房, 鈴木聡史, 山本 透, 大久保遊平, 中野誠人, 北澤康秀 (2006) 外傷性大動脈損傷の3救命例. 第16回近畿外傷診療フォーラム, 橿原
9. 杉本達哉, 三井 浩, 織田裕行, 吉田常孝, 藤原弘佳, 磯谷利明, 中谷壽男, 木下利彦 (2006) 間歇型一酸化炭素中毒に対する高圧酸素療法の有効性についての検討. 第19回日本総合病院精神医学会, 宇都宮
10. 中谷壽男 (2006) 小児の中毒事故への対応. 平成18年度小児救急医療従事者のための研修会, 大阪
11. 北澤康秀 (2006) ダナパロイドナトリウムによるDIC治療実際と臨床病態からみた今後の展開. 第29回日本血栓止血学会学術集会, 栃木
12. 藤井弘史, 北澤康秀, 山本 透, 富野敦稔, 岸本真房, 鈴木聡史, 藤原弘佳, 梶本心太郎, 平川昭彦, 村尾佳則, 中谷壽男 (2006) 急性大動脈解離術後のシベレスタットナトリウム投与の有効性. 第34回日本救急医学会, 福岡
13. 富野敦稔, 岸本真房, 鈴木聡史, 藤井弘史, 山本 透, 北澤康秀 (2006) 当院における集中治療での経動脈的熱希釈法 (PiCCO) を用いた症例の検討. 第34回日本救急医学会, 福岡
14. 平川昭彦, 梶本心太郎, 岩瀬正顕, 藤井弘史, 山本 透, 北澤康秀, 村尾佳則, 中谷壽男 (2006) 大学併存型救命救急センターにおける救急医の役割. 第34回日本救急医学会, 福岡
15. 小宮山豊, 吉賀正亨, 平川昭彦, 村尾佳則, 北澤康秀, 中谷壽男, 榊田緑, 正木浩哉, 高橋伯夫 (2006) TTP,HIT さらに DIC の鑑別診断が困難であった一症例. 第53回日本臨床検査医学会総会, 弘前
16. 前田裕仁, 高橋 晃, 石井 昇 (2006) カルチノイドを合併し急性虫垂炎症状を呈した子宮内膜症の一例. 第68回日本臨床外科学会, 広島
17. 藤井弘史, 北澤康秀, 山本 透, 富野敦稔, 岸本真房, 鈴木聡史 (2006) 急性大動脈解離の術後早期退院の試み. 第14回河内救急医療懇話会, 東大阪
18. 波柴尉充, 梶本心太郎, 前田裕二, 平川昭彦, 村尾佳則, 中谷壽男, 小宮山豊 (2006) CHDF施行時DICにHITを合併し診断に苦慮した2例. 第17回日本急性血液浄化学会, 広島
19. 村尾佳則, 齊藤福樹, 諫山憲司, 平川昭彦, 北澤康秀, 中谷壽男 (2006) 出血性ショックにおける臓器障害と分子生物学的研究. 第34回日本救急医学会, 福岡
20. 藤原弘佳, 杉本達哉, 梶本心太郎, 武田俊彦,

- 藤井弘史, 前田裕仁, 中谷健治, 岩瀬正顕, 村尾佳則, 北澤康秀, 中谷壽男 (2006) 当施設における一酸化炭素中毒に対する検討. 第34回日本救急医学会, 福岡
21. 矢吹 輝, 武山直志, 田中孝也, 熊谷常康, 梶田裕加, 高木省治, 井上保介, 中川 隆, 中谷壽男, 野口 宏 (2006) CpGDNA による熱傷モデルimmunoparalysisの改善効果. 第34回日本救急医学会, 福岡
22. 鈴木聡史, 岸本真房, 富野敦稔, 藤井弘史, 山本 透, 北澤康秀, 松浪勝俊 (2006) 当施設における播種性血管内凝固に対するダナパロイドナトリウムの使用の現状と治療効果についての検討. 第34回日本救急医学会, 福岡
23. 齊藤福樹, 中谷壽男, 岩瀬正顕, 平川昭彦, 村尾佳則 (2006) 自家骨髄間質細胞移植による脊髄再生治療の開始. 第34回日本救急医学会, 福岡
24. 岩瀬正顕, 藤井弘史, 前田裕仁, 吉岡正太郎, 平川昭彦, 中谷壽男, 河本圭司 (2006) 急性大動脈解離にともなう脳血管障害. 第34日本救急医学会, 福岡
25. 岩瀬正顕, 前田裕仁, 吉岡正太郎, 中谷壽男, 河本圭司 (2006) 軸椎間接突起骨折の治療. 第65回日本脳神経外科学会総会, 京都
26. 北澤康秀 (2006) 救急医療と病診連携. 平成18年度救急医療週間行事「記念講演会」, 枚方
27. 富野敦稔 (2006) 関西医科大学救命センターにおける SIRS-SLI 症例の検討—約2年間にわたるシベレスタットナトリウム使用例の解析結果を踏まえて—. 河内地区急性肺障害フォーラム, 大阪
28. 川嶋隆久, 石 昇, 高橋 晃, 岡田直巳, 陸城成浩, 吉田 剛, 安藤維洋, 李 俊容, 中尾博之, 遠山一成, 中谷壽男 (2006) 一酸化炭素(CO)中毒間欠型発症予測に早期頭部MRIは有用か? 第28回日本中毒学会, 松山
29. 岸本真房, 田上修二, 岡本真由美, 鈴木聡史, 富野敦稔, 藤井弘史, 山本 透, 北澤康秀 (2006) 呼吸困難を主訴に救急搬送された睡眠時無呼吸症候群の一症例. 第94回近畿救急医学研究会, 高槻
30. 杉本達哉, 織田裕行, 吉田常孝, 波柴尉充, 三宅建作, 平川昭彦, 村尾佳則, 磯谷俊明, 木下利彦, 中谷壽男 (2006) 精神科救急ネットワーク構築の試み. 第94回近畿救急医学研究会, 高槻
31. 中谷壽男 (2006) 急性中毒にまつわる最近の話題. 平成18年度南河内・堺・泉州ブロック合同救急医療研修会, 大阪
32. 平川昭彦, 梶本心太郎, 岩瀬正顕, 山本 透, 北澤康秀, 村尾佳則, 中谷壽男 (2006) 当センターにおける腹部刺創例の検討. 第15回近畿外傷フォーラム, 枚方
33. 齊藤福樹, 中谷壽男, 岩瀬正顕 (2006) 脊髄損傷に対する自家骨髄間質細胞移植による再生治療の試み: 第1症例について. 第15回近畿外傷フォーラム, 枚方
34. 矢吹 輝, 武山直志, 田中孝也, 中川 隆, 井上保介, 三木靖雄, 高木省治, 野口裕記, 中谷壽男, 野口 広 (2006) マウス熱傷モデルにおけるimmunoparalysisの検討. 第32回日本熱傷学会, 仙台
35. 藤井弘史 (2006) 救命センターに搬送されたASO緊急症例. 第5回東京ASOフォーラム, 東京
36. 中谷壽男 (2006) 心肺蘇生法の新しいガイドライン: AHA2005. 平成18年度北河内・中河内ブロック合同救急医療研修会, 大阪
37. 安藤有子, 榎本良枝, 藤井弘史, 北澤康秀 (2006) 急性胸部大動脈解離術後, 急性肺障害に苦慮した患者の看護. 第9回日本臨床救急医学会, 盛岡
38. 梶本心太郎, 平川昭彦, 藤井弘史, 中村誠也, 村尾佳則, 中谷壽男 (2006) 肩関節脱臼整復にて発生した腋窩動脈断裂の1例. 第9回日本臨床救急医学会, 盛岡
39. 三宅建作, 杉本達哉, 波柴尉充, 藤原弘佳, 梶本心太郎, 齋藤福樹, 宮崎秀行, 平川昭彦, 北澤康秀, 中谷壽男 (2006) ベンゼン環を有する化学物質の長時間曝露により熱傷様の皮膚症状を呈した1例. 第9回日本臨床救急医学会, 盛岡
40. 杉本達哉, 織田裕行, 加藤正樹, 吉田常孝, 南智久, 磯谷俊明, 北澤康秀, 南 良武, 木下利彦, 中谷壽男 (2006) 精神科救急の取り組み 常駐精神科医を中心とした精神科救急ネットワーク構築の試み. 第9回日本臨床救急医学会, 盛岡

41. 中谷健治, 中村誠也, 宮崎秀行, 齊藤福樹, 中谷壽男 (2006) 長時間の正座肢位により生じた筋挫減症候群で両下肢を温存し得た1例. 第9回日本臨床救急医学会, 盛岡
42. 藤井弘史, 北澤康秀, 三宅建作, 梶本心太郎, 平川昭彦, 村尾佳則, 山本 透, 齊藤福樹, 中谷壽男 (2006) 大動脈一上腸間膜動脈バイパス術により腸管切除を回避し得た急性上腸間膜動脈閉塞症の1例. 第9回日本臨床救急医学会, 盛岡
43. 藤原弘佳, 岡本三貴, 津田雅庸, 三宅建作, 中谷健治, 平川昭彦, 村尾佳則, 北澤康秀, 中谷壽男, 中村誠也 (2006) 右大腿部膿瘍を初発症状とした上行結腸癌後腹膜穿孔の一治験例. 第9回日本臨床救急医学会, 盛岡
44. 平川昭彦, 波柴尉充, 梶本心太郎, 三宅健作, 藤原弘佳, 村尾佳則, 中谷壽男 (2006) 上肢からの圧搾空気注入により縦隔気腫を生じた1例. 第9回日本臨床救急医学会, 盛岡
45. 齊藤福樹, 岩瀬正顕, 中谷健治, 中村誠也, 北澤康秀, 山本 透, 中谷壽男 (2006) 軸椎関節突起骨折に髄液漏・外傷性椎間板ヘルニアを合併した一例. 第9回日本臨床救急医学会, 盛岡
46. 波柴尉充, 梶本心太郎, 杉本達哉, 平川昭彦, 山本 透, 北澤康秀, 村尾佳則, 中谷壽男 (2006) ドライアイスによる二酸化炭素中毒の1例. 第9回日本臨床救急医学会, 盛岡
47. 杉本達哉 (2006) 緊急アンケート調査の結果から. 第2回北河内救急研究会, 守口
48. 岩瀬正顕, 藤井弘史, 平川昭彦, 中谷壽男, 河本圭司 (2006) 急性大動脈疾患にともなう脳血管障害. 第31回日本脳卒中学会総会, 横浜
49. 北澤康秀 (2006) 救急センターの現場から…北河内医療圏の特徴. 第33回日本集中治療医学会, 大阪
50. 齊藤福樹, 矢吹 輝, 久間洋子, 鉄穴洋子, 田嶋佐和子, 菅 俊光, 北澤康秀 (2006) 集中治療チーム全体で考えよう『集中治療での栄養サポートチーム』救命救急センターにおける合理的なNSTの活動を目指して. 第33回日本集中治療医学会, 大阪
51. 村尾佳則, 畑 倫明, 関 匡彦, 奥地一夫, 西尾福英之, 吉川公彦, 北澤康秀, 中谷壽男 (2006) 臍持続動注療法を中心とした重症急性肺炎治療と今後の課題. 第33回日本集中治療医学会, 大阪
52. 中野真生, 田中登紀子, 東香余子, 安藤有子, 竹之内春美, 齊藤ひろみ, 榎本良枝, 北澤康秀 (2006) 胸腔内水分分布に着目した重症呼吸不全患者に対する体位交換の効果. 第33回日本集中治療医学会, 大阪
53. 木下恵梨, 松川久美子, 徳永 薫, 札野富夕, 安藤有子, 竹之内春美, 齊藤ひろみ, 榎本良枝, 矢吹輝, 北澤康秀 (2006) 頸髄損傷患者に対する嚥下サポートの検討. 第33回日本集中治療医学会, 大阪
54. 岸本真房, 佐藤正人, 小松優治, 二階堂任, 畑埜武彦 (2006) 腹腔鏡下癒着剥離術の適応と限界. 第42回日本腹部救急医学会, 東京
55. 波柴尉充, 村尾佳則, 梶本心太郎, 杉本達哉, 平川昭彦, 山本 透, 中谷壽男 (2006) 乳糜腹水を呈した胃切除後内ヘルニアによる絞扼性イレウスの1例. 第42回日本腹部救急医学会, 東京
56. 平川昭彦, 波柴尉充, 梶本心太郎, 三宅建作, 山本 透, 村尾佳則, 中谷壽男 (2006) 精神疾患を有する腹部救急診療の問題点 精神疾患を有する腹部刺創例の検討. 第42回日本腹部救急医学会, 東京
57. 中谷壽男 (2006) 救急救命士の薬剤投与開始に向けて. 第47回北河内救急研究会, 枚方
58. 梶本心太郎, 波柴尉充, 齊藤福樹, 津田雅庸, 三宅建作, 藤原弘佳, 平川昭彦, 岩瀬正顕, 村尾佳則, 中谷壽男 (2006) 当院における災害医療活動・教育への取り組み パキスタン地震など国際緊急援助隊(JMTR) 参加経験から. 第93回近畿救急医学研究会, 大津
59. 沖井 裕, 河本圭司, 赤根 敦, 岩瀬正顕, 大石哲也 (2006) 脳死・臓器移植における現実脳死判定における脳波解析用ソフトウェア(ATAMAP II for Windows)の簡便な実用化. 第11回日本脳神経外科救急学会, 大阪
60. 岩瀬正顕, 吉岡正太郎, 平川昭彦, 中谷壽男, 河本圭司 (2006) 重症頭部外傷患者に対する集学的治療と栄養管理. 第11回日本脳神経外科救急学会, 大阪
61. 井口有子, 辻田美樹, 安井浩司, 小川 豊, 大

- 窪 博, 徳永裕彦, 北澤康秀 (2006) 熱傷後に異所性骨化を生じた1例. 第14回日本熱傷学会近畿地方会, 岸和田
62. 井上唯史, 久徳茂雄, 浅井 悌, 田中博之 (2006) 高齢者の熱傷3例. 第14回日本熱傷学会近畿地方会, 岸和田
63. 三宅ヨシカズ, 安井浩司, 松島貴志, 小川豊, 宮崎秀行, 中村誠也, 北澤康秀, 中谷壽男 (2006) 皮下深部まで達した電撃傷の1例. 第14回日本熱傷学会近畿地方会, 岸和田
64. 原 克子, 小宮山豊, 宗像真知子, 中谷壽男, 高橋伯夫 (2006) ビリダフェンチオン有機リン系農薬(殺虫剤)中毒症例のGC/MS分析ビリダフェンチオン(殺虫剤)中毒症例のGC/MS分析. 第28回日本中毒学会, 松山

著 書

1. 北澤康秀 (2006) 重症患者の管理: ICUにおける栄養管理. ナースのための救急・集中治療

- (坂田育弘編) 216-220頁, メディカ出版, 吹田
2. 中谷壽男 (2006) 中毒性疾患の治療の動向. 今日の治療指針 48 (山口 徹, 北原光夫, 福井次矢編) 107頁, 医学書院, 東京
3. 中谷壽男, 山本保博 (2006) 急性中毒. 今日の治療指針 48 (山口 徹, 北原光夫, 福井次矢編) 1179-1208頁, 医学書院, 東京
4. 中谷壽男 (2006) シアン中毒. 今日の治療指針 48 (山口 徹, 北原光夫, 福井次矢編) 120頁, 医学書院, 東京
5. 山本 透 (2006) セングスターケン・ブレイクモアチューブ留置法. 今日の治療指針 48 (山口 徹, 北原光夫, 福井次矢編) 89-90頁, 医学書院, 東京
6. 中谷壽男 (2006) 我が国の新しい救急蘇生ガイドラインの配布に当たって. 大阪救急74 (中谷壽男編) 17-21頁, 大阪府救急医療機関連絡協議会, 大阪

輸血部

〈研究業績〉

原 著

1. Nomura S, Shouzu A, Omoto S, Matsuzaki T, Yamaoka M, Abe M, Hosokawa M, Nishikawa M, Iwasaka T and Fukuhara S (2006) Genetic analysis of HLA, NA and HPA typing in type 2 diabetes and ASO. Int J Immunogenet 33: 117-122

学会発表

1. 山岡 学, 阿部 操, 大谷哲司, 大西修司, 森眞一郎 (2006) 当院における時間外緊急輸血症例の解析. 第46回近畿医学検査学会, 福井市
2. 大谷哲司, 岸本裕司, 寺嶋由香利, 有元美代子, 細川美香, 阿部 操, 岡前文子, 山岡

学, 大西修司, 寺西節子, 福原資郎 (2006) 細胞療法のアーダリング化と管理システムの導入. 第54回日本輸血学会総会, 大阪市

3. 中矢桂子, 大西修司, 鈴木 敏, 森眞一郎 (2006) 抗Cおよび抗e抗体が原因と思われる遅延性溶血性輸血副作用 (DHTR) の1症例. 第54回日本輸血学会総会, 大阪
4. 岸本裕司, 寺嶋由香利, 有元美代子, 細川美香, 阿部 操, 岡前文子, 山岡 学, 大谷哲司, 寺西節子, 福原資郎 (2006) 輸血関連急性肺障害 (TRALI) を契機にALIにて死亡した骨髓異形性症候群. 第54回日本輸血学会総会号, 大阪市

医療情報部

〈研究業績〉

原 著

1. 仲野俊成, 渡辺 淳, 西野典宏, 北村 臣, 西

村泰典, 今村洋二, 北口 宏, 濱田 彰, 福泉利彦, 廣川陽介, 堀井俊洋, 平良武之 (2006) 病院間電子カルテ・オーダエントリー情報の

リアルタイム相互参照. 医療情報学 26: 711-713

学会発表

1. 仲野俊成, 渡辺淳, 西野典宏, 北村 臣, 西村泰典, 今村洋二, 北口 宏, 濱田 彰, 福泉利彦, 廣川陽介, 堀井俊洋, 平良武之 (2006)
2. 北村 臣, 北口 宏, 宮崎浩彰 (2006) 患者用クリニカルパスの中央版数管理の試み. 第32回日本診療録管理学会学術大会, 福井

大学情報センター医療情報部

〈研究業績〉

原 著

1. 西野典宏, 仲野俊成, 西村泰典, 今村洋二, 平良武之 (2006) 電子カルテにおけるカルテ記述のマルチ (包括的) 利用. 医療情報学 26: 999-1002
2. 種村直美, 谷田由紀子, 廣田美喜子, 安田照美, 今村洋二, 仲野俊成 (2006) 電子カルテシステムにおける看護業務支援システム連携. 医療情報学 26: 971-974
3. 渡辺 淳, 仲野俊成, 松本掲典, 新貝欣久, 平林江理夫, 高橋伯夫 (2006) 病院間診療情報リアルタイム相互参照基盤の構築. 医療情報学 26: 718-720
4. 仲野俊成, 渡辺 淳, 西野典宏, 北村 臣, 西村泰典, 今村洋二, 北口 宏, 濱田 彰, 福泉利彦, 廣川陽介, 堀井俊洋, 平良武之 (2006) 病院間電子カルテ・オーダエントリー情報のリアルタイム相互参照. 医療情報学 26: 711-713
5. 福岡志野, 谷田由紀子, 種村直美, 廣田美紀子, 安田照美, 新宮 興, 渡辺 淳, 仲野俊成, 今村洋二 (2006) 手術部門システムにおける電子カルテ・医事・物流連携. 医療情報学 26: 691-692
6. 仲野俊成, 渡辺 淳, 西野典宏, 山本和彦, 西村泰典, 今村洋二, 宮田康央, 福井理栄, 山城美智子, 堀井俊洋, 平良武之 (2006) 電子カルテ化に伴う病院情報システムインテグレーションの問題点. 医療情報学 26: 341-344
7. 北村 臣, 西野典宏, 西村泰典, 仲野俊成, 今村洋二, 宮崎浩彰, 山口 力 (2006) 病院開院に伴う電子クリニカルパスシステム導入の試みとその運用医療情報学 26: 1228-1231
8. 仲野俊成 (2006) シンポジウム 11 “画像に関わるシステムの現状と課題” 本院における画像管理の現状と課題—内視鏡部門を中心に—. 医療情報学 26: 111-114
9. 仲野俊成, 渡辺 淳, 大村直人, 澤田 敏, 高橋伯夫, 福泉利彦, 廣川陽介 (2006) 病院情報システムの通信パターンを考慮したネットワークの構築. 医療情報学 26: 105-112
10. 川上洋一, 笹井浩介, 安永 晋, 松村泰志, 稲田 紘, 木内貴弘, 黒田知宏, 竹村匡正, 坂本憲広, 田中 博, 玉川裕夫, 仲野俊成, 朴勤植, 平松治彦, 宮本正喜 (2006) レポーティングシステムにおける RDF の応用. 医療情報学 25: 421-429

学会発表

1. 種村直美, 谷田由紀子, 廣田美喜子, 安田照美, 今村洋二, 仲野俊成 (2006) 電子カルテシステムにおける看護業務支援システム連携. 第26回医療情報学連合大会 (第7回日本医療情報学会学術大会), 札幌
2. 西野典宏, 仲野俊成, 西村泰典, 今村洋二, 平良武之 (2006) 電子カルテにおけるカルテ記述のマルチ (包括的) 利用. 第26回医療情報学連合大会 (第7回日本医療情報学会学術大会), 札幌
3. 仲野俊成, 渡辺 淳, 西野典宏, 山本和彦, 西村泰典, 今村洋二, 宮田康央, 福井理栄, 山城美智子, 堀井俊洋, 平良武之 (2006) 電子カルテ化に伴う病院情報システムインテグレーションの問題点. 第26回医療情報学連合

- 大会(第7回日本医療情報学会学術大会), 札幌
4. 仲野俊成, 渡辺 淳, 西野典宏, 北村 臣, 西村泰典, 今村洋二, 北口 宏, 濱田 彰, 福泉利彦, 廣川陽介, 堀井俊洋, 平良武之(2006) 病院間電子カルテ・オーダエントリー情報のリアルタイム相互参照. 第26回医療情報学連合大会(第7回日本医療情報学会学術大会), 札幌
 5. 渡辺 淳, 仲野俊成, 松本掲典, 新貝欣久, 平林江理夫, 高橋伯夫(2006) 病院間診療情報リアルタイム相互参照基盤の構築. 第26回医療情報学連合大会(第7回日本医療情報学会学術大会), 札幌
 6. 福岡志野, 谷田由紀子, 種村直美, 廣田美紀子, 安田照美, 新宮 興, 渡辺 淳, 仲野俊成, 今村洋二(2006) 手術部門システムにおける電子カルテ・医事・物流連携. 第26回医療情報学連合大会(第7回日本医療情報学会学術大会), 札幌
 7. 北村 臣, 西野典宏, 西村泰典, 仲野俊成, 今村洋二, 宮崎浩彰, 山口 力(2006) 病院開院に伴う電子クリニカルパスシステム導入の試みとその運用. 第26回医療情報学連合大会(第7回日本医療情報学会学術大会), 札幌
 8. 仲野俊成(2006) シンポジウム 11 “画像に関わるシステムの現状と課題” 本院における画像管理の現状と課題—内視鏡部門を中心に—. 第26回医療情報学連合大会(第7回日本医療情報学会学術大会), 札幌
 9. 北村 臣, 勝谷茂樹, 西野典宏, 西村泰典, 仲野俊成, 埴本 慎, 宮崎浩彰(2006) データ

ウェアハウス(DWH)からパスデータ抽出の試み—PDCAへの資料提示—. 第7回日本クリニカルパス学会学術集会, 熊本

10. 廣原淳子, 仲野俊成, 大西三朗(2006) ワークショップ 15 他臓器疾患と肝臓 原発性胆汁性肝硬変(PBC)の全国調査からみた他臓器疾患との関連. 2006年日本消化器関連学会週間(DDW-Japan 2006) 第10回日本肝臓学会大会, 札幌
11. 北村 臣, 北口 宏, 宮崎浩彰(2006) 患者用クリニカルパスの中央版数管理の試み. 第32回日本診療録管理学会学術大会, 福井
12. 仲野俊成(2006) 医療情報システム1 医療情報の特性, 医療情報システムの現状, 病院情報システムの概要と機能. 2006年度医療情報技師知識整理講習会, 大阪, 東京, 金沢
13. 仲野俊成, 渡辺 淳, 大村直人, 澤田 敏, 高橋伯夫, 福泉利彦, 廣川陽介(2006) 病院情報システムの通信パターンを考慮したネットワークの構築. 第10回日本医療情報学会春季学術大会, 神戸

著 書

1. 廣原淳子, 仲野俊成, 関 寿人, 岡崎和一(2006) 原発性胆汁性肝硬変全国調査(第26報). 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業) 難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究平成17年度総括・分担研究報告書(大西三朗編) 31-34頁, 難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究班, 東京

大学情報センター業務部

〈研究業績〉

原 著

1. 渡辺 淳, 仲野俊成, 松本掲典, 新貝欣久, 平林江理夫, 高橋伯夫(2006) 病院間診療情報リアルタイム相互参照基盤の構築. 医療情報学 26: 718-720
2. 仲野俊成, 渡辺 淳, 西野典宏, 山本和彦, 西村泰典, 今村洋二, 宮田康央, 福井理栄, 山城美智子, 堀井俊洋, 平良武之(2006) 電子

カルテ化に伴う病院情報システムインテグレーションの問題点. 医療情報学 26: 341-344

学会発表

1. 仲野俊成, 渡辺 淳, 西野典宏, 山本和彦, 西村泰典, 今村洋二, 宮田康央, 福井理栄, 山城美智子, 堀井俊洋, 平良武之(2006) 電子カルテ化に伴う病院情報システムインテグ

レーションの問題点, 第26回医療情報学連合大会(第7回日本医療情報学会学術大会), 札幌

2. 渡辺 淳, 仲野俊成, 松本掲典, 新貝欣久, 平林江理夫, 高橋伯夫(2006) 病院間診療情報

リアルタイム相互参照基盤の構築, 第26回医療情報学連合大会(第7回日本医療情報学会学術大会), 札幌

大学情報センター学術部

〈研究業績〉

原 著

1. 渡辺 淳, 仲野俊成, 松本掲典, 新貝欣久, 平林江理夫, 高橋伯夫(2006) 病院間診療情報リアルタイム相互参照基盤の構築, 医療情報学 26: 718-720
2. 仲野俊成, 渡辺 淳, 西野典宏, 北村 臣, 西村泰典, 今村洋二, 北口 宏, 濱田 彰, 福泉利彦, 廣川陽介, 堀井俊洋, 平良武之(2006) 病院間電子カルテ・オーダエントリー情報のリアルタイム相互参照, 医療情報学 26: 711-713
3. 福岡志野, 谷田由紀子, 種村直美, 廣田美紀子, 安田照美, 新宮 興, 渡辺 淳, 仲野俊成, 今村洋二(2006) 手術部門システムにおける電子カルテ・医事・物流連携, 医療情報学 26: 691-692
4. 仲野俊成, 渡辺 淳, 西野典宏, 山本和彦, 西村泰典, 今村洋二, 宮田康央, 福井理栄, 山城美智子, 堀井俊洋, 平良武之(2006) 電子カルテ化に伴う病院情報システムインテグレーションの問題点, 医療情報学 26: 341-344
5. 仲野俊成, 渡辺 淳, 大村直人, 澤田 敏, 高橋伯夫, 福泉利彦, 廣川陽介(2006) 病院情報システムの通信パターンを考慮したネットワークの構築, 医療情報学 26: 105-112

学会発表

1. 仲野俊成, 渡辺 淳, 西野典宏, 山本和彦, 西村泰典, 今村洋二, 宮田康央, 福井理栄, 山城美智子, 堀井俊洋, 平良武之(2006) 電子カルテ化に伴う病院情報システムインテグレーションの問題点, 第26回医療情報学連合大会(第7回日本医療情報学会学術大会), 札幌
2. 仲野俊成, 渡辺 淳, 西野典宏, 北村 臣, 西

- 村泰典, 今村洋二, 北口 宏, 濱田 彰, 福泉利彦, 廣川陽介, 堀井俊洋, 平良武之(2006) 病院間電子カルテ・オーダエントリー情報のリアルタイム相互参照, 第26回医療情報学連合大会(第7回日本医療情報学会学術大会), 札幌
3. 渡辺 淳, 仲野俊成, 松本掲典, 新貝欣久, 平林江理夫, 高橋伯夫(2006) 病院間診療情報リアルタイム相互参照基盤の構築, 第26回医療情報学連合大会(第7回日本医療情報学会学術大会), 札幌
4. 福岡志野, 谷田由紀子, 種村直美, 廣田美紀子, 安田照美, 新宮 興, 渡辺 淳, 仲野俊成, 今村洋二(2006) 手術部門システムにおける電子カルテ・医事・物流連携, 第26回医療情報学連合大会(第7回日本医療情報学会学術大会), 札幌
5. 仲野俊成, 渡辺 淳, 大村直人, 澤田 敏, 高橋伯夫, 福泉利彦, 廣川陽介(2006) 病院情報システムの通信パターンを考慮したネットワークの構築, 第10回日本医療情報学会春季学術大会, 神戸
6. 棚野晃秀, 浜田吉則, 片岡洋祐, 渡辺 淳, 山田久夫(2006) 筋層間神経叢における神経ネットワークの構築—ラット胎児腸管における検討, 第43回日本小児外科学会総会, 秋田
7. 棚野晃秀, 濱田吉則, 片岡洋祐, 渡辺 淳, 山田久夫, 上山泰男(2006) ラット胎児期腸管における筋層間神経叢の共焦点蛍光顕微鏡を用いた免疫組織学的検討, 第106回日本外科学会定期学術集会, 東京
8. 棚野晃秀, 浜田吉則, 片岡洋祐, 渡辺 淳, 山田久夫(2006) 筋層間神経叢における神経ネットワークの構築—ラット胎児腸管における検討—, 第36回日本小児消化管機能研究会, 新潟

医療安全管理センター

〈研究業績〉

原 著

1. 北村 臣, 西野典宏, 西村泰典, 仲野俊成, 今村洋二, 宮崎浩彰, 山口 力 (2006) 病院開院に伴う電子クリニカルパスシステム導入の試みとその運用. 医療情報学 26: 1228-1231

学会発表

1. 北村 臣, 西野典宏, 西村泰典, 仲野俊成, 今村洋二, 宮崎浩彰, 山口 力 (2006) 病院開院に伴う電子クリニカルパスシステム導入の試みとその運用. 第26回医療情報学連合大会 (第7回日本医療情報学会学術大会), 札幌
2. 光山俊行, 鈴木 亮, 武尾真宏, 松本隆之, 池

田広記, 宮崎浩彰, 中橋佳嗣, 廣原淳子, 関寿人, 岡崎和一, 植村芳子 (2006) 急性重症肝障害で発症したステロイドパルス療法が奏功した自己免疫性肝炎の1例. 第85回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪

3. 北村 臣, 北口 宏, 宮崎浩彰 (2006) 患者用クリニカルパスの中央版数管理の試み. 第32回日本診療録管理学会学術大会, 福井
4. 宮崎浩彰, 並木みどり, 西本英充, 前田利治, 神崎秀陽 (2006) インシデント事例収集における電子報告システムの導入. 第8回日本医療マネジメント学会学術集会, 横浜
5. 宮崎浩彰 (2006) 当院における電子クリニカルパスの導入. 日本医療マネジメント学会, 東京

枚方総合診療科

〈研究業績〉

原 著

1. 松尾信昭 (2006) 【注意すべき感染症と対策】MRSA感染症. 救急医 30: 146-150

2. 西上尚志 (2006) 【日本のプライマリ・ケアよくある健康問題100】症状編 頻度順 主要徴候トップ30 患者さんはこのような症状で診療所に来る! 動悸. 総合臨 55: 774-778

枚方輸血部

〈研究業績〉

学会発表

1. 寺西節子, 岸本裕司, 山本茉美, 寺嶋由香利, 有元美代子, 細川美香, 市邊明美, 岡前文子, 福原資郎 (2006) 院内LANを利用した血液製剤保冷庫温度管理システム. 第50回日本輸血学会近畿支部総会, 大阪
2. 大谷哲司, 岸本裕司, 寺嶋由香利, 有元美代子, 細川美香, 阿部 操, 岡前文子, 山岡

学, 大西修司, 寺西節子, 福原資郎 (2006) 細胞療法のオーダリング化と管理システムの導入. 第54回日本輸血学会総会, 大阪

3. 岸本裕司, 寺嶋由香利, 有元美代子, 細川美香, 阿部 操, 岡前文子, 山岡 学, 大谷哲司, 大西修司, 寺西節子, 福原資郎 (2006) 輸血関連急性肺障害 (TRALI) を契機にALIにて死亡した骨髓異形性症候群. 第54回日本輸血学会総会号, 大阪

枚方医療情報部

〈研究業績〉

原 著

1. 西野典宏, 仲野俊成, 西村泰典, 今村洋二, 平

良武之 (2006) 電子カルテにおけるカルテ記述のマルチ (包括的) 利用. 医療情報学 26: 999-1002

2. 種村直美, 谷田由紀子, 廣田美喜子, 安田照美, 今村洋二, 仲野俊成 (2006) 電子カルテシステムにおける看護業務支援システム連携. 医療情報学 26: 971-974
 3. 仲野俊成, 渡辺 淳, 西野典宏, 北村 臣, 西村泰典, 今村洋二, 北口 宏, 濱田 彰, 福泉利彦, 廣川陽介, 堀井俊洋, 平良武之 (2006) 病院間電子カルテ・オーダエントリー情報のリアルタイム相互参照. 医療情報学 26: 711-713
 4. 福岡志野, 谷田由紀子, 種村直美, 廣田美紀子, 安田照美, 新宮 興, 渡辺 淳, 仲野俊成, 今村洋二 (2006) 手術部門システムにおける電子カルテ・医事・物流連携. 医療情報学 26: 691-692
 5. 仲野俊成, 渡辺 淳, 西野典宏, 山本和彦, 西村泰典, 今村洋二, 宮田康央, 福井理栄, 山城美智子, 堀井俊洋, 平良武之 (2006) 電子カルテ化に伴う病院情報システムインテグレーションの問題点. 医療情報学 26: 341-344
 6. 北村 臣, 西野典宏, 西村泰典, 仲野俊成, 今村洋二, 宮崎浩彰, 山口 力 (2006) 病院開院に伴う電子クリニカルパスシステム導入の試みとその運用. 医療情報学 26: 1228-1231
- 学会発表
1. 種村直美, 谷田由紀子, 廣田美喜子, 安田照美, 今村洋二, 仲野俊成 (2006) 電子カルテシステムにおける看護業務支援システム連携. 第26回医療情報学連合大会 (第7回日本医療情報学会学術大会), 札幌
 2. 西野典宏, 仲野俊成, 西村泰典, 今村洋二, 平良武之 (2006) 電子カルテにおけるカルテ記述のマルチ (包括的) 利用. 第26回医療情報学連合大会 (第7回日本医療情報学会学術大会), 札幌
 3. 仲野俊成, 渡辺 淳, 西野典宏, 山本和彦, 西村泰典, 今村洋二, 宮田康央, 福井理栄, 山城美智子, 堀井俊洋, 平良武之 (2006) 電子カルテ化に伴う病院情報システムインテグレーションの問題点. 第26回医療情報学連合大会 (第7回日本医療情報学会学術大会), 札幌
 4. 仲野俊成, 渡辺 淳, 西野典宏, 北村 臣, 西村泰典, 今村洋二, 北口 宏, 濱田 彰, 福泉利彦, 廣川陽介, 堀井俊洋, 平良武之 (2006) 病院間電子カルテ・オーダエントリー情報のリアルタイム相互参照. 第26回医療情報学連合大会 (第7回日本医療情報学会学術大会), 札幌
 5. 福岡志野, 谷田由紀子, 種村直美, 廣田美紀子, 安田照美, 新宮 興, 渡辺 淳, 仲野俊成, 今村洋二 (2006) 手術部門システムにおける電子カルテ・医事・物流連携. 第26回医療情報学連合大会 (第7回日本医療情報学会学術大会), 札幌
 6. 北村 臣, 西野典宏, 西村泰典, 仲野俊成, 今村洋二, 宮崎浩彰, 山口 力 (2006) 病院開院に伴う電子クリニカルパスシステム導入の試みとその運用. 第26回医療情報学連合大会 (第7回日本医療情報学会学術大会), 札幌
 7. 宮崎浩彰, 松下光伸, 大宮美香, 内田一茂, 松本隆之, 森 茂生, 島谷昌明, 段原直行, 北村 臣, 岡崎和一 (2006) 大腸ポリペクトミーパスの変更. 第7回日本クリニカルパス学会学術集会, 熊本
 8. 北村 臣, 勝谷茂樹, 西野典宏, 西村泰典, 仲野俊成, 埜本慎, 宮崎浩彰 (2006) データウェアハウス (DWH) からパスデータ抽出の試み—PDCAへの資料提示—. 第7回日本クリニカルパス学会学術集会, 熊本
 9. 北村 臣, 北口 宏, 宮崎浩彰 (2006) 患者用クリニカルパスの中央版数管理の試み. 第32回日本診療録管理学会学術大会, 福井

男山内科

〈研究業績〉

学会発表

1. 小糸仁史, 森島景子, 森田 哲, 豊 紘, 岩

坂壽二 (2006) 持続性・永続性心房細動における睡眠時無呼吸の有病率とその急性期治療効果. 54th Annual Scientific Session of the Japa-

nese College of Cardiology, 鹿児島

2. 小糸仁史, 森島景子, 森田 哲, 豊 紘, 岩坂壽二 (2006) 安定うっ血性心不全における3

年間在宅Bilevel NPPVの治療効果および予後.
54th Annual Scientific Session of the Japanese
College of Cardiology, 鹿児島

男山小児科

〈研究業績〉

学会発表

1. 端里 香, 杉本健郎, 中村彰利 (2006) 乳児

期発症の若年性歯状核赤核蒼球ルイ体萎縮症 (DRPLA) 姉妹例の脳波の経時的変化. 第48回日本小児神経学会総会, 浦安

男山外科

〈研究業績〉

原 著

1. 辻 陽子, 弥山秀芳, 上村祐子, 北中直子, 米田篤司, 三箇山宏樹, 太田由子, 寺村重郎, 榎木 晋, 堀越順彦, 山田正法, 松浦 節, 北出浩章, 森 毅, 奥野雅史, 小倉徳裕, 高田秀穂 (2006) 癌の緩和ケアで使用した制吐剤によって惹起された薬原性アカシジアの3例. 癌と化療 33: 267-269

学会発表

1. Sato M, Hamada Y, Tanano A, Takada K and

Hatano T (2006) The role of laparoscopy in the treatment of childhood intussusception. 39th Annual Meeting of the Pacific Association of Pediatric Surgeons, Taipei

2. 小松優治, 二階堂任, 小路徹二, 是枝 敬, 畑埜武彦 (2006) Trastuzumab, weekly Paclitaxel 併用療法が奏効した乳癌肝転移症例の一例. 第14回日本乳癌学会総会, 金沢
3. 岸本真房, 佐藤正人, 小松優治, 二階堂任, 畑埜武彦 (2006) イレウスに対する鏡視下手術の適応と限界 腹腔鏡下癒着剥離術の適応と限界. 第42回日本腹部救急医学会総会, 東京

男山整形外科

〈研究業績〉

学会発表

1. 齋藤貴徳, 市岡直也, 小川浩司, 藤沢礼子, 松矢浩暉, 足立 崇 (2006) 整形外科疾患 (脊髄・末梢神経疾患など) への応用はどこまで進んだか 頸椎・胸椎部手術における脊髄上行路・下行路のモニター. 第36回日本臨床神経生理学会・学術大会, 横浜
2. 齋藤貴徳, 市岡直也, 藤沢礼子, 松矢浩暉, 足立 崇 (2006) 梨状筋症候群の診断と治療. 第79回日本整形外科学会学術総会, 横浜
3. 齋藤貴徳, 市岡直也, 藤沢礼子, 松矢浩暉, 足立 崇 (2006) 脊髄症を呈した胸椎椎間板ヘルニアの手術療法 後方アプローチによる顕

微鏡下椎間板摘出術. 第79回日本整形外科学会学術総会, 横浜

4. 齋藤貴徳, 市岡直也, 松矢浩暉, 足立 崇, 笹井邦彦, 飯田寛和 (2006) 頸椎手術後C5麻痺に対する椎間孔部除圧術による予防 術前の電気生理学的検査による適応選択効果. 第35回日本脊椎脊髄病学会, 東京
5. 齋藤貴徳, 市岡直也, 足立 崇, 松矢浩暉, 飯田寛和, 笹井邦彦 (2006) 体性感覚誘発電位と経頭蓋電気刺激筋誘発電位を用いた術中脊髄機能モニタリングの有用性の検討. 第35回日本脊椎脊髄病学会, 東京
6. 谷川暢之, 齋藤貴徳, 飯田寛和 (2006) Martin-Gruber 吻合 type 3 と知覚神経破格を伴う手根

管症候群の3例. 第49回日本手の外科学会, 浜松

7. 齋藤貴徳, 市岡直也, 松矢浩暉, 足立 崇 (2006) 体性感覚誘発電位を用いた胸郭出口症候群の診断と術後成績. 第49回日本手の外科

学会, 浜松

8. 齋藤貴徳, 市岡直也, 松矢浩暉, 足立 崇, 飯田寛和 (2006) 腕神経叢損傷に対する横隔神経移行による肘屈曲再建術後の肺機能の検討. 第49回日本手の外科学会, 浜松

男山眼科

〈研究業績〉

原 著

1. 小林香陽, 藤関義人, 高橋寛二, 松村美代

(2006) B 群溶連菌による心内膜炎が原因であった内因性転移性眼内炎. 日眼会誌 110: 199-204

男山耳鼻科

〈研究業績〉

原 著

1. 久保伸夫 (2006) 【アレルギーの病気で気にな

ること】新しい抗ヒスタミン薬とは? アレルギー疾患 2: 562-564

男山麻酔科

〈研究業績〉

原 著

1. Matsumoto S, Asai T and Shingu K (2006) Tru-view video laryngoscope in patients with difficult airways. Anesth Analg 103: 492-493

学会発表

1. 松本早苗, 浅井 隆, 呉本善聡, 新宮 興 (2006) TruViewEVO2喉頭鏡が有用であった気道確保困難症例の気管挿管の経験. 日本臨床

麻酔学会第26回大会, 北海道

2. 吉川尚孝, 松本早苗, 浅井 隆, 呉本善聡, 新宮 興 (2006) TruViewEVO2喉頭鏡を用いた頸椎疾患を有する患者に対する気管挿管の経験. 第52回日本麻酔科学会関西支部学術集会, 大阪
3. 松本早苗, 浅井 隆, 新宮 興 (2006) 星状神経節ブロックが有効と思われたアトピー性皮膚炎の1症例. 日本麻酔科学会第53回学術集会, 兵庫

関西医科大学雑誌業績目録集記載要領

1. 最初に研究概要（4000 字以内）、続いて、原著・総説・学会発表・著書に分け、これらを英文、邦文の順に記載する。
2. 学会発表は全国規模の学会、または国際学会に限る。
3. 雑誌名の省略は、欧文誌は Index Medicus に、和文誌は医学中央雑誌による。その他、下記の例に従う。
4. 用紙は A4 を使用し、見やすいように行間をあける。

例

原 著

1. Nakagawa H, Kiyozuka Y, Uemura Y, Senzaki H, Shikata N, Hioki K and Tsubura A (2001) Resveratrol inhibits human breast cancer cell growth and may mitigate the effect of linoleic acid, a potent breast cancer cell stimulator. J Cancer Res Clin Oncol 127: 258–264
2. 楊 継紅, 義澤克彦, 中川宏之, 四方伸明, 螺良愛郎 (2001) 周生期 genistein 暴露による ICR マウス乳腺病変への影響. 乳癌基礎研 10: 7–11

総 説

1. 螺良愛郎, 四方伸明, 仙崎英人, 植村芳子 (2001) 乳腺脂質分泌癌. 病理と臨 19: 496–499

学会発表

1. Nambu H, Yamada H, Kiuchi K, Matsumura M, Yoshizawa K and Tsubura A (2001) Light inhibition reduces MNU—induced photoreceptor apoptosis. ARVO, Fort Lauderdale, Florida
2. 仙崎英人, 四方伸明, 植村芳子, 清塚康彦, 上田 恵, 螺良愛郎 (2001) 悪性抹消神経鞘腫を多発した神経線維腫症 1 型の一例. 第 90 回日本病理学会, 東京

著 書

1. Mori K, Shingu K, Nakao S (2000) Brain Death. In Anesthesia 5th ed (Miller, RD ed) Chapter 76: pp 2560–2573, Churchill Livingstone, Philadelphia
2. 安田勝彦, 神崎秀陽 (2001) 子宮内膜の組織学と生理的变化. 新女性医学大系 第 1 巻 (藤井信吾編) 103–121 頁, 中山書店, 東京

平成 18 年 (2006) 年 1 月 1 日より、同年 12 月 31 日迄の間に印刷に附せられた業績とするが、それ以前のもので先に刊行された業績目録集 (関西医科大学雑誌第 58 巻第 1 号) に記載もれのものも含む。

投 稿 規 定

1. 投稿者は原則として会員に限る。ただし原稿の採否および会員以外の投稿については編集委員に委任する。
2. 原稿の内容は綜説・原著・臨床・症例・経験・速報・業績抄録・寄稿・その他とし特に紙数を制限しない。
3. 原稿は他の雑誌などに未掲載のものに限る。
4. 投稿論文の採否・掲載順位・印刷方法・体裁は編集委員会において決定する。
5. 原著・臨床・症例・経験については必ず欧文抄録を添付する。その他の原稿についても編集委員が必要と認めた場合は欧文抄録の提出を依頼することがある。
6. 原稿の執筆はつぎの要領に従う。
 - a. 原稿は青または黒で楷書、横書きとし、常用漢字、新かなづかいを用いる。欧語はすべて活字体とし、日本語で書く場合にはかたかなを用いる。
 - b. ワードプロセッサを使用する場合は、B5またはA4の大きさの用紙に字間および行間をあけて20字×20行で記すこと。
 - c. 論文の記載順序は①表題②著者名③所属④内容要旨(600字以内)⑤Key Words(5語以内)⑥本文(原著の場合は原則として緒言・材料と方法・成績・考察・結論の順)⑦文献⑧図表およびその説明⑨英文抄録とする。
 - d. 学術用語、諸単位は各学会所定のものに従い、数字は算用数字、数量の単位は下記による。
m, cm, mm, l, ml, kg, g, °C, %など。
 - e. 表・図・写真などは鮮明なものでなければならない。その種類別の一連番号を記入する。
表・図・写真は別紙に記入もしくは貼付し、説明をつけて本文原稿の最後にまとめる。アート紙希望のものはその旨記入する。本文の欄外にそれらの挿入箇所を指定する。
 - f. 引用文献は最後に一括し、下の順序に従って書く。
雑誌については、
著者名(共著者の場合は全名を記載する)：

表題、雑誌名(正規の略名)巻数：初頁—終頁、西暦年次、とする。

例 藤田達士：細胞外液をめぐる諸問題。麻酔, 17: 1108-1119, 1968.

例 Magoun, H. W.: The ascending reticular activating system. Res Ass Nerv ment Dis, 30: 480-492, 1951.

単行本については、

著者名：表題、書名(編者名)、版数、巻数、発行社名、発行地名、初頁—終頁、西暦年次、とする。

例 木村 淳：神経刺激法と誘発電位。誘発電位と筋電図—理論と応用、医学書院、東京、pp 115-219, 1990.

例 Marty, A. and Neher, E.: Tight-seal whole—cell recording. Single—Channel Recording (Sakmann, B. and Neher, E. eds.), Plenum Press, New York, pp 107-122, 1983.

g. 英文抄録の記載順序は、表題、氏名、所属、内容要旨(500語以内)とする。英文は専門的知識のある人の校正を経たものでなければならない。

7. 原稿の提出は編集委員宛とし、受付順に掲載するのを原則とする。

8. 原稿は原著3部、その他の論文は2部を提出する。

9. 著者による校正は原則として2回とする。校正に際して組版面積に影響を与える改変や極端な組替えは許されない。

10. 原稿の届け先は下記とする。

〒570-8506 大阪府守口市文園町10番15号

関西医科大学内

関西医科大学医学会編集委員会宛

電話(06)6992-1001(大代表)

掲載料について

原著及び症例報告等の投稿については、投稿料が必要であるが、その他のものについては原則として無料とする。

1. 和文普通組、欧文、文献組、組表、トレース、凸版、写真版(カラーを含む)等はすべて時価(実費負担)とする。

2. 別刷は30部まで贈呈、それ以上は実費負担。

3. 学内会員については、各頁につき、和文500円、欧文800円の割引を行う。

編 集 委 員 (ABC 順)

片岡 洋祐, 木村 富紀, 木下 利彦, 木下 洋,
岸本 裕司, 中井 吉英, 緒方奈保子, 岡崎 和一,
大谷ひとみ, 齊藤 幸人, 藺田 精昭, 螺良 愛郎,
山田 久夫

会費 年間 3,000 円

関 西 医 科 大 学 雑 誌

第 59 卷 第 1 号

平成 19 年 3 月 15 日印刷

平成 19 年 3 月 20 日発行

編 集 発 行 所

〒570-8506 大阪府守口市文園町 10 番 15 号

関西医科大学医学会

TEL 06-6992-1001 内 2216

FAX 06-6992-1409

igakkai@takii.kmu.ac.jp

<http://www3.kmu.ac.jp/igakukai/>

印刷：中西印刷株式会社

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入

TEL 075-441-3155 (代)

FAX 075-417-2050

<http://www.nacos.com>